

たくましく生きる力をはぐくむ

はばたく群馬の 指導プランⅡ



令和元年8月

群馬県教育委員会
群馬県市町村教育委員会連絡協議会
群馬県小学校長会・中学校長会

たくましく生きる力をはぐくむ

はばたく群馬の 指導プランⅡ

はじめに

学校教育は、社会と切り離された存在ではなく社会とともにあります。これからの時代においては、グローバル化や急速な情報化、技術革新などが進み、Society5.0と言われる社会を見据えて、子どもたちが予測困難な未来社会で主体的に活躍できるために必要な資質や能力を育てていくことが大切です。

県教育委員会では、平成21年に策定した第1期群馬県教育振興基本計画から、「たくましく生きる力をはぐくむ」という基本目標の下、子どもたちの「確かな学力」「豊かな心」「健康な体」の育成に取り組んで参りました。その取組の一つとして、平成24年に群馬の子どもたちの「生きる力」の育成につながる伸ばしたい資質や能力を確実に身に付けてもらうための指導資料「はばたく群馬の指導プラン」、続いて、平成26年に「はばたく群馬の指導プランー実践の手引きー」を作成・配布し、子どもたちの「なぜ」「わかった」「面白そう」といった疑問や気づきを基に、学習意欲を高め、自ら課題を発見し、他者と協働しながら課題の解決を図るといった学習を推進して参りました。

このような中、平成29年3月に改訂された学習指導要領では、学校で学んだことが明日や将来につながるように、「何を学ぶか」だけでなく「どのように学ぶか」を重視し、「知識及び技能の習得」「思考力、判断力、表現力等の育成」「学びに向かう力、人間性等の涵養」を偏りなく実現できるようにするため、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を行うことが示されました。県教育委員会としては、これは新しいことではなく、今まで各学校で取り組んできた「はばたく群馬の指導プラン」を基にした授業づくりをさらに進化させていくことと考えています。また、今回の改訂にあたっては、これまでの学校教育の蓄積を生かし、子どもたちの学習の質を一層高める授業改善を進めていくことが重要とされています。そこで、従来の「はばたく群馬の指導プラン」を加筆・改訂し、「はばたく群馬の指導プランⅡ」を作成・配布することといたしました。

子どもたちが学校で過ごす時間の多くを占めるのは学習の時間です。県内全ての子どもたちが学習を通して、自己の成長の喜びを感じられるようにしていくことが、楽しく充実した学校生活を送ることにつながります。先生方には、この「はばたく群馬の指導プランⅡ」を参考に、主体的・対話的で深い学びを実現できるよう授業力を高めていただければと考えております。学校教育を通して、全ての子どもたちが、「たくましく生きる力」を育み、未来に向けて大きく羽ばたいてくれることを願っています。

結びに、本冊子を作成するに当たり、御尽力いただいた各市町村教育委員会及び関係各学校の皆様に深く感謝申し上げます。

令和元年8月

群馬県教育委員会
教育長 笠原 寛

冊子の見方

本冊子は、次の2つの章から構成されています。

第Ⅰ章 「主体的・対話的で深い学び」にするための授業づくりの基本

第Ⅱ章 各教科等の授業づくりの基本

第Ⅰ章 「主体的・対話的で深い学び」にするための授業づくりの基本

ここでは、各教科等の学習における目標の達成に向け、「主体的・対話的で深い学び」にするための授業づくりに必要な内容を次の項目で示し、その解説をしました。

1 児童生徒にとっての単元及び題材の課題を設定する。

2 単元及び題材の課題の解決（目標への到達）に向け、各単位時間をつなげる。

3 多様な考え方に触れ、自分の学びを広げたり深めたりできるような対話的な場面をつくる。

4 主体的に学び、学んだことを次の学習に活用できるように、各単位時間での「めあて」の設定と「振り返り」の場面をつくる。

第Ⅱ章 各教科等の授業づくりの基本

ここでは、第Ⅰ章の内容に基づき、各教科等の1 単元及び題材のつくり方、2 単位時間のつくり方、また、カリキュラム・マネジメントの一つとして、教科横断的な視点からの学習指導の充実について、3～6の内容を共通事項として示しました。

〈表紙〉

○各教科等における学習の概要、特有の用語を解説しました。

〈1 単元及び題材のつくり方〉

○各教科等の一般的な問題解決の過程や各過程における児童生徒の学習活動を順序立てて示しました。

○吹き出しには、単元や題材をつくる際の「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善のポイントを各教科等の特質を考慮して示しました。

〈2 単位時間のつくり方〉

○問題解決の「つかむ」、「追究(追求)する」、「まとめる」過程ごとの授業づくりを示しました。

※過程の表記は、各教科等で異なります。

○授業の基本的な流れの中における教師の手立てを「●青文字」として順序立てて示しました。

○「指導のポイント」には、教師の手立ての詳細を解説しました。

〈3 学習過程と教科書との関連〉

「教科書を教える」のではなく「教科書で教える」ということ、また、教科書は教育活動の中心的な教材として重要な役割を担うということから、各教科における教科書の構成の特徴、及び、各教科等の特質を踏まえた教科書の効果的な活用場面や使用方法を例示しました。

※総合的な学習の時間、学級活動には、この記載はありません。

〈4 学習活動を行う場合に生じる困難さに応じた指導の工夫〉

学習指導要領では、各教科等共通して、学習活動を行う場合に生じる困難さに応じた指導内容や指導方法の工夫を計画的、組織的に行うと明記してあることから、学習に対しての「困難さ」の程度や種類に応じた「指導の工夫」を例示しました。個に応じた様々な手立てを検討し、指導に生かすことは、学習状況を評価するにあたり一人一人をきめ細かに見取ることにもつながります。

〈5 情報活用能力の育成〉

情報活用能力が学習の基盤となる資質・能力として明確に位置付けられ、教科横断的な視点から教育課程の編成を図ることが求められることから、各教科等の特質に応じて扱われる情報と何かを明示し、それが各学習過程の中でどのように活用されるかということについて、「問題解決における情報活用」を中心に「情報の基本的操作」、「情報モラル・セキュリティ」などの内容を例示しました。

〈6 地域の人材や物的資源の活用〉

「社会に開かれた教育課程」の一つとして、教育課程を介して学校と地域がつながり、学校における教育活動の質の向上を図ること、また、「キャリア教育」の充実を図る視点として、児童生徒が実社会で活躍する人たちと関わることを重視するということから、各教科等で活用できる県内の関係機関等や団体を紹介し、教育課程の編成に生かせるようにしました。

目 次

冊子の見方

目 次

第Ⅰ章 「主体的・対話的で深い学び」にするための授業づくりの基本

第Ⅱ章 各教科等の授業づくりの基本

- ・ 国 語
- ・ 社 会
- ・ 算数・数学
- ・ 理 科
- ・ 生 活
- ・ 音 楽
- ・ 図画工作・美術
- ・ 体育・保健体育
- ・ 家庭・家庭分野
- ・ 技術分野
- ・ 外国語活動・外国語
- ・ 特別の教科 道徳
- ・ 総合的な学習の時間
- ・ 学級活動

関係者名簿

The background image shows a classroom scene. In the upper half, two young girls are standing at a whiteboard, writing the letters 'A B C' and 'a b c'. The girl on the left is wearing a pink shirt and holding a red marker. The girl on the right is wearing a white shirt. In the lower half, a desk is visible with an open book lying on it. The overall scene is brightly lit and represents a learning environment.

第I章

「主体的・対話的で深い学び」に するための授業づくりの基本

第 I 章 「主体的・対話的で深い学び」にするための授業づくりの基本

学習指導要領総則の第 3 節では、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善として、「児童生徒が各教科等の特質に応じた見方・考え方を働かせながら、知識を相互に関連付けてより深く理解したり、情報を精査して考えを形成したり、問題を見いだして解決策を考えたり、思いや考えを基に創造したりすることに向かう過程を重視した学習の充実を図ること。」と示している。さらに、解説では、「主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を考えると単元や題材などのまとまりをどのように構成するかというデザインを考えることにほかならない。」と説明しています。

このことは、本県が従来より「はばたく群馬の指導プラン」等で推奨してきた各教科等の問題解決的な学習において、「つかむ」「追究（追求）する」「まとめる」過程の授業を一層充実させたり、各過程の関係をより意識したりする必要があると捉え、各教科等共通して、次のような授業づくりをすることが大切であると考えました。

1 児童生徒にとっての単元及び題材の課題を設定する。

主体的に授業に取り組むには、児童生徒が見通しをもてる必要があります。新しい単元や題材の「つかむ」過程では、単元及び題材の課題を設定し、「これからこの課題を追究（追求）していくんだ。」や「この学習をしていくと、こんなことができるようになるんだ。」など、単元や題材で解決することや学習の方向、児童生徒が目標を到達した姿をイメージできるようにします。そして、単元及び題材の「まとめる」過程においては、単元及び題材の課題とそれまでの学びを結び付けて振り返りをしていくこととなります。

本冊子の中では、単元及び題材の課題という用語を各教科等共通して使用しており、各教科等の特質に応じて示されることを、次のようにしています。

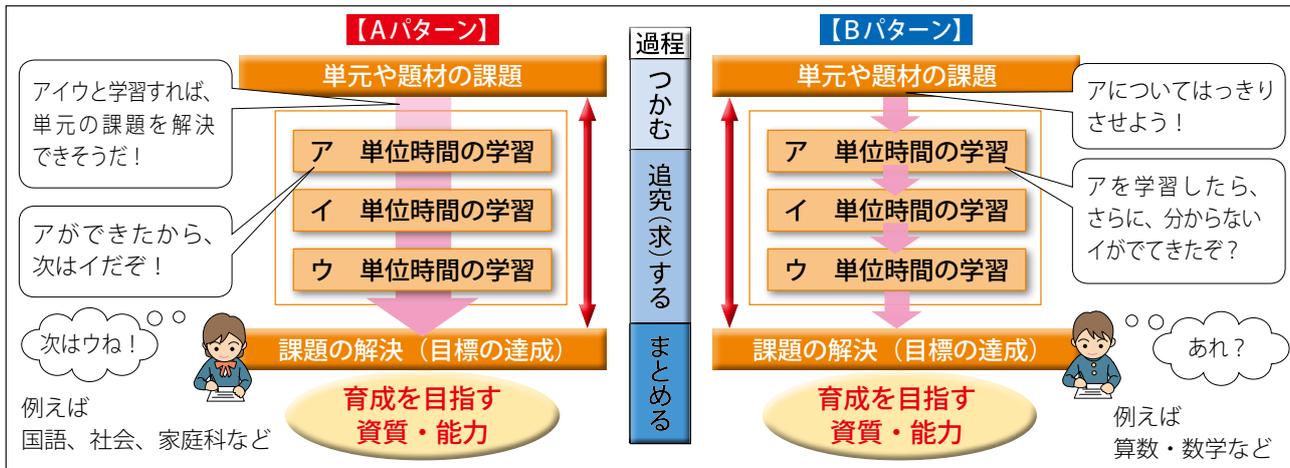
教科・領域	単元及び題材の課題として示されること	例
国語	必要感のある言語活動	「図表やグラフを効果的に用いて、中学校生活の楽しさを新入生に伝えるリーフレットを作ろう。」(中1)
社会科	単元の目標に到達するための大きな問い	「わたしたちが毎日使う水は、どこでどのようにしてつくられ送られてくるのだろうか。」(小4)
算数・数学	単元の学習で追究していく問い	「2乗してその数になるもとの数はどんな数なのか。」(中3)
理科	単元全体で解決する大まかな内容	「流れる水には、どのようなはたらきがあるのだろうか。」(小5)
生活	単元を通して実現したい思いや願い	「年長さんが入学式を楽しみにできるように、楽しくあそんだり学校のよさを伝えたりしよう。」(小1)
音楽	題材で取り組む大まかな音楽表現	「日本の伝統音楽の特徴を聴き取り、長唄を実際に歌ってみよう。」(中2)
図画工作 美術	題材全体で学習する大まかな内容	「分かりやすさと美しさとの調和を考え、郷土の魅力を伝える菓子のパッケージデザインを表現しよう。」(中1)
体育 保健体育	単元の目標を達成するための学習内容	「パスやシュートなどのボール操作とボールを持たないときの動きを身に付け、簡易化されたハンドボールのゲームを楽しもう。」(小5)
家庭 家庭分野	題材の目標に到達するための大きな問い	「涼しく過ごすために環境に配りよしながら、住まい方や着方を工夫するには、どうしたらよいか。」(小学校)
技術分野	題材の目標に到達するための大きな問い	「材料と加工の技術を、どのように選択していけばよいのだろう。」(中1)
外国語活動 外国語	必要感をもって思いや考えを伝え合う活動	「ロボットと生活することについて、是非かディベートしよう。」(中2)
総合的な 学習の時間	探究課題（学習対象）とその出会いから導き出された単元を通して探究する内容	「地域のためにできること ～これからの自分と地域に必要なこと～」(中2)

※単元及び題材の課題については、各地域や学校の実態や慣習、校種の実情に合わせた用語を使用するなど対応してください。

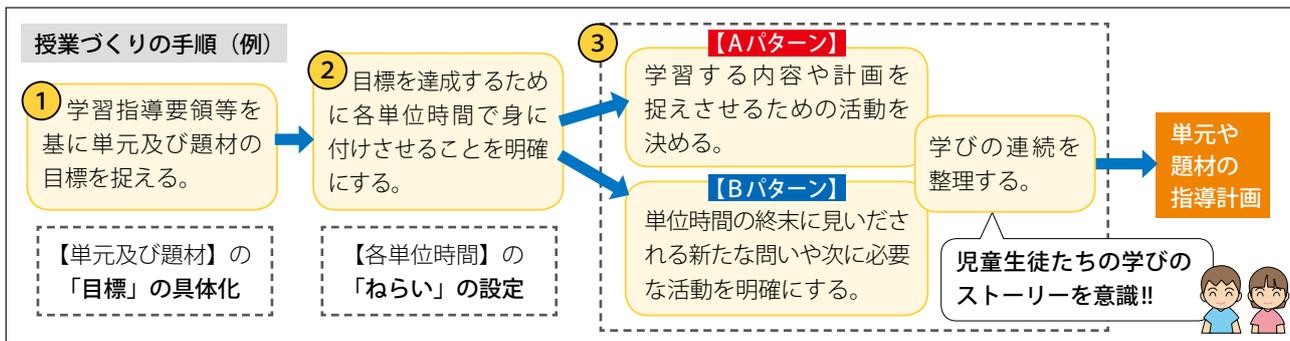
※「特別の教科 道徳」「学級活動」については、1時間扱いとなることが多いので、単元及び題材の課題は示していません。

2 単元及び題材の課題の解決（目標への到達）に向け、各単位時間をつなげる。

各教科等の特質や扱う内容により「つかむ」過程で設定する単元及び題材の課題と、「追究（追求）する」過程における各単位時間との関係は、大きく分けると次のような2つのパターンが考えられます。



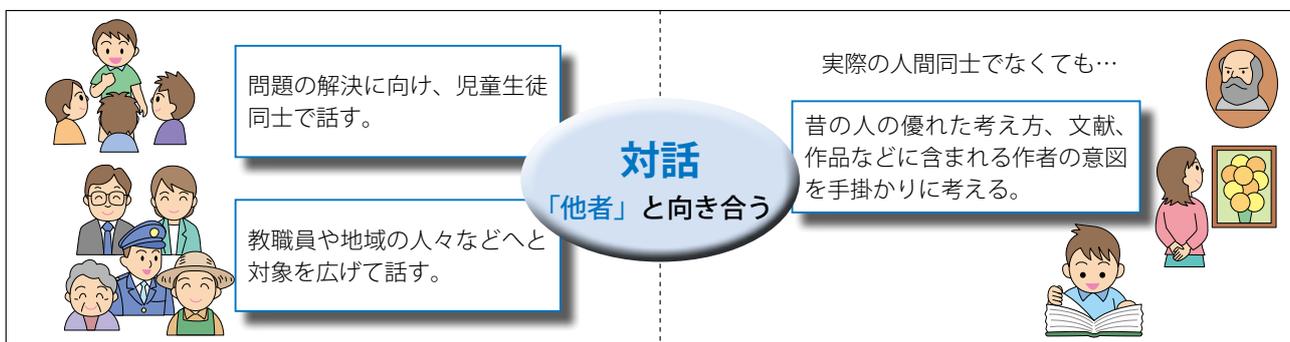
どちらも単元及び題材の課題の解決（目標への到達）に向け、児童生徒の追究意欲や学習内容をつなげて授業をつくります。



3 多様な考え方に触れ、自分の学びを広げたり深めたりできるような対話的な場面をつくる。

対話的な学びには、他者の様々な見方や考え方に触れ「一人では気付かなかったことに着目することができる。」「同じような意見を聞き、自分の考えに自信が持てる。」また、「相手に説明することで、自分の考えをより明確化できる。」などのよさがあります。

対話的な場面は、各教科等の特質や扱う内容に応じて、次のような視点を基に設定します。



また、対話的な学びをつくり出すには、次のことを各教科等の特質や扱う内容に応じて、取り入れる必要があります。

- 適度な難易度や、一人では解決することが困難な単元及び題材の課題や単位時間のめあての設定
- 他者の思いや考えを知る必要感を高める場面の設定
- 他者と自然に関わり合うことができる環境の構成
- 一人一人が思いや願いをもち表現する方法の工夫や機会の保証
- 対話をつなげたり、広げたりすることを意識した問いかけ（→1往復半+aのやりとりを発生させる）

4 主体的に学び、学んだことを次の学習に活用できるように、各単位時間での「めあて」の設定と「振り返り」の場面をつくる。

単位時間では、児童生徒に「何を学ぶのか」「どのように学ぶのか」などを捉えさせる「めあて」を設定します。このことは、児童生徒が、単元及び題材における本学習の位置付けや目的の把握、主体性や思考力、判断力、表現力等の発揮、新たな知識等を創造することにつながります。

【「めあて」とは】

単位時間の学習における目標や内容など、学習の見通しが明確に意識できる児童生徒向けに示された言葉。

	めあてに含まれる内容	文末例
解決すること	「ねらい」到達に結び付く解決すべき中心的な問い。	「なぜ、～か（だろう）」 「どのように～か」 など
解決の方法	調べる、(言葉、図、表等) 話し合う・表現する・整理するなどの具体的なこと。	「～をして」「～を通して」 「～を用いて」 など
活動・テーマ	学習において解決すること・方法以外の行動的、形式的な目標となるもの。	「～しよう」など

※各教科等の特質や扱う内容、児童生徒の発達の段階、単位時間の「ねらい」を考慮し、**解決すること**や**解決の方法**、**活動・テーマ**を単独で示したり、組み合わせたりします。

「めあて」を考える手順 (例)

① 「ねらい」を明確にする。

「ねらい」が曖昧であると解決することや解決の方法が見えてきません。

② 「ねらい」を達成した「振り返り」に見られる児童生徒の姿の具体化を図る。

児童生徒が何を表出できればよいのか、児童生徒の意識を具体的に言語化してみる。

③ 「めあて」を言葉にする。

児童生徒の学習意欲を喚起し、主体的な学びを促す言葉を考案する。

授業では児童生徒と一緒に
つくります。また、
板書等で可視化します。



学習の終末では、「何を学んだか」「どのように学んだか」など、自分の学びについての理解度や状態、解決方法を捉えさせるために、めあてに沿った「振り返り」をする場面を設定します。このことは、さまざまな学習場面で活用できる資質・能力の育成につながります。また、「振り返り」により、自分の学びに対しての充実感や達成度などを自覚させることは、次の学びに向かう意欲等を高めます。

【「振り返り」とは】

児童生徒が、「何を学んだか」「どのように学んだか」などを表出して、自分の学びを自覚すること。

	振り返りの内容	提示する視点の例
何を学んだか	主に学習内容に関わることで、学習を通して見いだす原理や法則、事象や現象についての具体的な知識や概念、「人、もの、こと」との関わり方 など	「わかったこと」 「気付いたこと」 「できるようになったこと」 「まだ、わからないこと」 など
どのように学んだか	主に学習方法に関わることで、解決の仕方、順序を含む手続き など	「どのように解決したか」 「どうしたらできたのか」 など

※めあてに沿った「振り返り」が基本となりますが、「視点」を工夫して提示する場合があります。

※学びをどのように生かすかといった態度・情意面に関わる「振り返り」もあります。

単位時間における「めあて」と「振り返り」の概要図

めあて

児童生徒にとっての
単位時間の見通し

解決すること

「ねらい」到達に結び付く
解決すべき中心的な問い

解決の方法

調べる、話し合う、表現する、
整理するなどの具体的なこと

活動・テーマ

学習において解決すること・方法以外の
行動的・形式的な目標となるもの

ねらいに

中心的な 学習活動

向かう

各教科等の特質により、
「まとめ」の位置付けや
内容、「振り返り」との関係
は異なってきます。

まとめ

特に活動・テーマの場合には、
「振り返りの視点」を工夫して
示しましょう。

振り返り

何を学んだか

原理、法則、事象や現象についての
具体的な知識や概念、
「人、もの、こと」との関わり方 等

どのように学んだか

解決の仕方、順序を含む手続き 等

学びをどのように生かすか（態度・情意面）

※各教科等で学んだことが基になります。



第Ⅱ章

各教科等の授業づくりの基本

国語

Japanese Language

国語科は、児童生徒の生活において必要な国語の特質について理解し、互いの立場や考えを大切にしながら適切に表現する力、言葉を手掛かりとしながら論理的に思考する力や豊かに想像する力を身に付け、言葉がもつよさを認識し、言語感覚を豊かにしていく教科です。

そのためには、様々な場面や状況において課題を見だし、その解決に向けて、意識的に言葉のもつ意味やつながりに着目させ、言葉の特徴や使い方等を理解させるとともに、多様な言葉を使って自分の思いや考えを広げ深める学習を、指導事項の系統を重視し、繰り返しながら進めることが大切です。なお、国語科で身に付けた力は、各教科等における言語活動を充実させることにもつながります。

【国語科のページで使用されている用語解説】

言語活動	単元を通して、資質・能力を身に付けさせるために設定する学習活動のこと。児童生徒の「知りたい」「やってみたい」という思いを高め、明確な相手意識や目的意識をもって取り組める、必要感のある活動であることが重要である。
言語感覚	相手や目的、状況などに応じて、どのような言葉で表現するのが適切であるかを直感的に判断したり、話や文章を理解する際、そこで使われている言葉が醸し出す味わいを感覚的に捉えたりすること。
考えの形成	各領域の学習を通して、既存の知識や様々な経験と結び付けながら、自分の考えをまとめたり、広げ深めたりすること。
共有	互いの意見や考え、表現のよいところを認め合ったり、比較して共通点や相違点に気付いたりすることを通して、自分の考えを広げ深めていくこと。
一般化	単元を通して学んだことを単元内でとどめずに、他の学習や日常の場面で活用できるものにする。

1 単元のつくり方

国語科では、第1章の2で示すAパターン単元の構想が基本となります。「つかむ」過程では、児童生徒の実態や既習事項等を踏まえ、必要感のある言語活動を単元の課題として設定し、「追究する」過程では、単位時間ごとに、「知識及び技能」と「思考力、判断力、表現力等」を相互に働かせながら、課題解決に向けて学習を積み重ねます。そして、「まとめる」過程では、単元を通して何をどのように学んだのかを再確認し、一般化させることで、言語感覚を養わせます。

主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善のポイント

○「話したい・聞きたい・書きたい・読みたい」といった気持ちが高まるよう、必要感のある言語活動を単元の課題として設定する。

○「身に付けさせたい資質・能力」を明確にした上で、単元全体の学習の見通しをもたせる。

○単元の課題と単位時間のつながりを考え、本時が何のための時間であるかを明確にした上で、単位時間ごとのめあてを設定する。

○個で考える時間を確保し、児童生徒がめあてに対する考えをもった上で、目的を明確にした交流活動を行い、学びに広がりや深まりをもたせる。

○交流活動を通して学んだことを、学級全体で共有する時間を設定する。

○単位時間の児童生徒の学習状況や振り返りを見取りながら次時の学習につなげていく。単位時間の学習を積み重ねることでゴールの姿に近付いていることに気付かせる。

○単元全体を通して、「何ができるようになったか」「どうしたらできるようになったか」「何をどのように学んだのか」等を考えさせる。

○今後の学習や日常生活で生かせそうな場面を考えさせるとともに、言葉のもつ力やよさを再認識させる。

○身に付けた資質・能力については、新たな学習の課題を把握する場面等で、既習事項として活用させる。

過程と基本的な学習活動

1 単元の課題を把握する。

◇教材文やモデル文等と出会い、単元の学習に興味や関心をもつ。

【単元の課題】
〈必要感のある言語活動〉

◇既習事項や実生活の体験等を想起しながらゴールの姿に向かうための大体の流れをつかむ。

つかむ

2 単元の課題の解決に向け、単位時間ごとに追究する。

単位時間

【めあてをつかむ】

◇各単位時間のめあてに対して、個で考える。
◇ペアや少人数での交流活動を行い、互いの考えを伝え合う。

◇学級全体で、各グループの交流活動で出された意見や考えについて確認し合い、新たな気付きをもつ。

【まとめ・振り返りをする】

単位時間

単位時間

単位時間

追究する

3 単元の学習を振り返る。

◇単元の課題について、学ぶ前と後との変容を自覚するとともに、今までの学習のポイントを学級全体で共有する。

◇学んだことを、他の学習や日常生活でどのように活用できるかを考える（一般化）。

単元全体の振り返り

まとめる

小学校 第4学年【読むこと】 『一つの花』（全8時間計画）



【目標】

叙述を基に想像したことを伝え合う活動を通して、場面の移り変わりと結び付けながら、登場人物の気持ちを具体的に想像することができるようにする。

1 単元の課題を把握する。

- ◇題名の意味を考えながら、教師の範読を聞く。
- ◇初発の感想をまとめ、疑問を出し合う。

【単元の課題】 場面の移り変わりに着目して、父の気持ちについて想像したことを、友人と伝え合おう。

- ◇今まで学習した物語文を思い出し、登場人物の気持ちの変化や場面の移り変わりに着目して読み進めていくための見通しをもつ。

2 単元の課題の解決に向け、追究する。

①戦中や戦後の場面の移り変わりを捉える。

戦争中は、おやつどころではなく、みんなが貧しくいつもお腹を空かせていることが分かった。最後、一輪のコスモスが、いっぱいのコスモスに変わったところが心に残った。

②父のゆみ子に対する思いを捉える。

父が「めちゃくちゃに高い高い」したのは、戦争中で食べ物をあげたくてもあげられない辛い気持ちがあったからだと思う。

③第3場面から、父の存在を表す言葉を探して、父が残した思いを想像する。

いっぱいのコスモスになったのは、ゆみ子の幸せをお父さんが喜んでいいのかもかもしれない。

④父はなぜ一つの花をゆみ子に渡したのかについて、自分の考えを伝える。

自分はいなくなってしまうけど、ゆみ子の成長を見届けたいという思いが込められているのだと思う。

3 単元の学習を振り返る。

- ◇互いの考えのよい点を伝え合い、全体で確認し合う。
- ◇物語文を読む時のポイントを発表し合い、全体で共有する。
- ◇本学習がどんな場面で活用できるかを考え、単元全体の振り返りをする。



場面の移り変わりと結び付けて登場人物の気持ちを想像したことで、作者の作品に込めた思いがより伝わったような気がした。他の本を読む時も、場面の移り変わりに気を付けて読んでみたい。

中学校 第3学年【書くこと】 『投書文を書く』（全6時間計画）



【目標】

投書文を書く活動を通して、記事を適切に分析・選択したり、構成や論理の展開を工夫したりして、自分の思いを説得力のある文章で書けるようにする。

1 単元の課題を把握する。

- ◇東京オリンピック招致のWebの文章、リオデジャネイロオリンピック開催中の新聞記事から、オリンピックに込められた人々の思いについて触れる。

【単元の課題】 客観性や信頼性のある情報を例に挙げて、東京オリンピックへの自分の思いを「15歳の声」として、新聞に投書しよう。

- ◇意見文の学習を思い出しながら、投書文の特徴を確認するとともに、説得力のある文章を書くための見通しをもつ。

2 単元の課題の解決に向け、追究する。

①観点を設定し、複数の記事から二つを選択する。

投書文を書く目的を考えると、共感できたり驚いたりする記事を選択した方がいいと思う。

②二つの記事の関連性を考える。

共通する言葉や内容を結び付けることで、伝えたいことが絞れたと思う。

③記事の内容に対する自分の考えが、読み手に伝わるように投書文を書く。

記事の内容と自分の思いや経験等を結び付けて書くことで、自分の考えが明確になり、説得力のある文章になった。

④構成や論理の展開に着目して推敲する。

説明的な文章で学習した例示の順番を思い出して推敲した。何度も読み返して、紹介する記事の順番を変えることにした。投書文でも提示する順序が大切だと分かった。

3 単元の学習を振り返る。

- ◇観点を基に、完成した投書文を読み合い、互いのよさを認め合う。
- ◇自分の表現に生かせるポイントを見つけ、今後の生活で活用できる場面を考え、単元全体の振り返りをする。



伝える相手や目的、他の記事との関連を意識することで、一つの記事でも引用する部分が異なることが分かった。二つの記事を関連付けたことで説得力がより高まったので、今後文章を書く際に役立てたい。

2 単位時間の作り方（「つかむ」過程）【例】

「つかむ」過程では、児童生徒にとって必要感のある言語活動を通して、単元の課題をどのように解決していくかについて見通しをもたせるとともに、単元の課題解決に対する意欲を高めさせます。

【指導のポイント】

【必要感のある言語活動】

※単元の課題の立て方

○どのような資質・能力を、どのような言語活動を通して身に付けさせるかを明確にする。

- 【 A 】をして（～ができるように）、
【 B 】をする。
- A → (1) 指導事項から身に付けさせたい資質・能力を明確にする。
- B → (2) 言語活動例を参考に児童生徒の実態に合った言語活動を設定する。

※学習指導要領解説国語編 付録4「系統表」を参照

〈例〉

- ◆「事例を挙げて相手に分かりやすく伝えるように、学校生活の楽しさをスピーチしよう。」
- ◆「図表やグラフを効果的に使って、自分の考えを伝える環境ポスターを作ろう。」
- ◆「登場人物の設定や物語の展開の仕方に着目して、『故郷』の魅力を伝え合おう。」

○児童生徒によっては、活動することを目的と捉えてしまう場合がある。教師は、活動を通してどのような資質・能力を身に付けさせるのかを改めて確認する必要がある。

【単位時間をつなげる見通し】

○単元構想を基に、単元の課題解決のために必要なことを児童生徒に発問し、出された言葉をつなげて見通しをもたせる。

〈児童生徒から言葉を引き出す発問の例〉

- T:「この説明文にはどんな特徴がありますか？」
S:「図表や写真が多く載っていると思います。」
T:「図表や写真を載せる意味はあるのでしょうか？」
.....
T:「インタビューをする時に注意することは何ですか？」
S:「相手に聞き取りやすい声の大きさと速さです。」
T:「今回は、来月に行われる運動会の紹介をします。」
S:「だれにどんなふうに紹介するかな？」…

【「つかむ」過程のまとめ・振り返り】

○単元の課題と学習の見通しから、「…することが楽しみだ」「…ができるかどうか不安だけど、頑張ってみよう」といった、課題解決に向けての記述や発言をさせることで、「追究する」過程の学習への意欲付けを図る。

基本的な流れ

1 教材文やモデル等と出会い、単元の課題を把握する。

- 既習事項や実生活での体験等を想起させたり、映像や写真など視覚教材を利用したりして、本単元の学習への興味・関心を高めさせる。
- 教科書等の教材文や表現活動を提示する。
- 単元の課題を把握させる。

【単元の課題】

〈必要感のある言語活動〉

- 単元を通して、表現物を作成したり、発表会をしたりする場合は、ゴールの姿をモデルとして示し、イメージさせる。

2 本時のめあてをつかむ。

- 本時は、単元の課題を理解し、どのような学習をしていくか見通しをもつことがめあてであることを伝える。

【めあて】

3 単元全体の学習の見通しをもつ。



- 児童生徒とやりとりしながら、既習事項を想起させ、単元の課題を解決するために必要なことを考えさせる。
- 学習の大体の流れをつかませ、見通しをもたせる。（学習内容によっては、学習計画表等を提示する場合もある。）

4 本時のまとめ・振り返りをする。

- 単元の課題と学習の見通しについて、全体で確認させる。
- 課題に対する思いや意気込み等を、記述や発言するように促す。

単位時間の振り返り

※単元の課題を把握した後、既習事項を想起したり、教材文を読んで各自の疑問や感想をまとめたりする時間を多くとる場合は、「つかむ過程」の学習を複数の時間で行うこともあります。

小学校 第3学年【話すこと・聞くこと】 『つたえよう、楽しい学校生活』



【ねらい】

学校生活の楽しさを伝えるDVDを作成する計画を立てる活動を通して、学習の見通しをもつことができるようにする。

- 1 教材文と出会い、単元の課題を把握する。
 - 教科書を読み、本単元は、学校生活の様子を紹介する学習であることを伝える。
 - 他校の学校紹介動画やパンフレットを提示して、学習のイメージをもたせる。

みなさんだったら、どのような学校生活の様子を伝えたいですか？だれに紹介しましょうか。紹介する方法もいろいろありますね。



【単元の課題】

役割を決めて話し合い、互いの意見をまとめて、楽しい学校生活を紹介するDVDを作ろう。

2 本時のめあてをつかむ。

【めあて】

学校生活の楽しさを伝えるDVDを作るために必要なことを話し合い、学習計画を立てよう。

- もう一度、他校の学校紹介動画を見せながら、計画を立てる際のポイントになる部分を確認させる。

3 単元全体の学習の見通しをもつ。

- 既習事項を想起させたり、教科書を参考にさせたりしながら、DVDが完成するまでの見通しを各自に考えさせる。
- 教師の司会により、学級全体で話し合いをして、学習計画を大まかにつかませる。



DVDを完成させるまでに必要なことを発表してください。



グループで作るのだから、だれが何を話すのかを決めないといけないと思います。

撮影する前に練習をしないとね。アドバイスもほしいな。



〈活動の大まかな流れ〉 ①話題（テーマ）を決める→②材料を集めて選ぶ→③話の構成と役割を考える→④練習してアドバイスをもらう→⑤撮影する→完成

どの活動も話し合いが必要になりますね。みんなの考えを出し合って、DVDを完成させていきましょう。

- 地域の人にどんなことを伝えたいか、グループごとに話し合いをさせ、学級全体で共有させる。

4 本時のまとめ・振り返りをする。

- グループごとにどんな内容を伝えたいのかを確認させる。
- 本単元の言語活動と学習の見通しについて確認して、本時の振り返りをさせる。

私たちのグループは、団競技で盛り上がる運動会を紹介しようと思う。地域の人に学校の楽しさが伝わるように、みんなで話し合っていきたい。DVDを見た人が運動会に来てくれるといいな。



中学校 第1学年【読むこと：説明的な文章】 『食感のオノマトペ』



【ねらい】

身近にあるオノマトペを出し合う活動を通して、課題解決の見通しをもつとともに、オノマトペに対する関心を高められるようにする。

- 1 教材文と出会い、単元の課題を把握する。
 - 教科書（教材文）を読み、初発の感想をもたせる。
 - 本単元は、教材文に書かれた内容を実感し、自分の考えを説明する学習であることを伝える。

【単元の課題】

必要な情報に着目しながら筆者の考えを捉えて、オノマトペの効果を自分の言葉で説明しよう。

- オノマトペの効果を説明するために、「オノマトペ・テロップ」(右)を作成することを伝える。
- 教師が「オノマトペ・テロップ」を実際を使って発表し、ゴールの姿のイメージをもたせる。



2 本時のめあてをつかむ。

【めあて】

教材文を読み、身近にあるオノマトペを出し合って、学習の見通しをもとう。

- 教材文を読み、「オノマトペ」の意味や筆者の考えを捉えさせる。
- 身近なところに、どのようなオノマトペがあるかを考えさせる。

オノマトペは、私たちが普段から使っている言葉だと分かりますね。会話だけでなく、CM等にもたくさん出てきますね。



オノマトペの例
・サクサク・もちもち
・バリバリ・パリパリ
・グニャッ・ベチヨッ
など

3 単元全体の学習の見通しをもつ。

- 筆者の考えを踏まえた上で、「オノマトペ・テロップ」を作成することを伝える。
- 既習事項を想起させ、「オノマトペ・テロップ」を作成するためにどのような学習が必要であるのかを考えさせる。
- 活動の大まかな流れを提示し、単元全体の学習のイメージをもたせる。

〈活動の大まかな流れ〉

- ①身近なオノマトペを出し合う
- ②図表と文章の関係を理解し、要旨を捉える(教材文)
- ③紹介するオノマトペを選び、テロップを作成する
- ④発表する
- ⑤自分の考えをまとめる

4 本時のまとめ・振り返りをする。

- オノマトペの意味と教材文の筆者の考えについて、自分の言葉で確認させる。
- 本単元の言語活動と学習の見通しについて確認して、本時の振り返りをさせる。

私たちの身近には、オノマトペがたくさんあることがあらためて分かった。でも、今までオノマトペにどのような効果があるのかを考えたこともなかった。教科書にある食べ物以外のオノマトペについても調べてみるとよいかもかもしれない。



2 単位時間の作り方(「追究する」過程)【例】

「追究する」過程では、単元の課題の解決に向けて、「知識及び技能」と「思考力、判断力、表現力等」を相互に働かせます。指導事項を螺旋的・反復的に繰り返しながら学習することで、資質・能力を定着させるとともに、課題を解決する力を蓄えていることを実感させながら、ゴールの姿に近付けるようにします。

【指導のポイント】

【めあての設定】

- 単元の課題の解決に向かうステップとして、単位時間のつながりを意識させながら、本時で解決すべきことや本時の大まかな学習の流れを明確にさせる。

〈例〉【単元の課題】

説得力のある根拠を使って、自分の意見を伝えよう！

- ①: モデル文を読み、説得力のある文章を書くポイントを考える。
- ②: 集めた情報から説得力のある根拠を探す。
- ③: 自分の考えと根拠のつながりを検討する。
- ④: テーマに沿って意見文を書く。
- ⑤: 互いの意見文を読み合う。 (○数字は単位時間)

【効果的な交流活動】

- 交流活動の目的と観点を明確にさせる。

〔目的〕(何のための交流活動か?)

- 例
- ・自分の考えを確認する
 - ・互いの考えを認め合う
 - ・考えを広げたり深めたりする
 - ・考えを一つにまとめる
 - ・よりよい考えを生み出す

〔観点〕(どんな視点で交流するのか?)

- ・身に付けさせたい資質・能力を基にする。
- ・児童生徒の言葉を使って提示する。

- 発表の順番を決めたり、役割を分担したりするなど、方法を具体的に示すことで、多くの児童生徒に発表等の機会を与える。
- 目的に応じて、色ペンや付箋紙、ミニボードなどを活用する。
- 発表の際、「他の班との共通点(相違点)は何ですか。」「どの班の考えと似ていますか。」「全ての班の主張をまとめるとどうなりますか。」等、発問を焦点化する。

【「追究する」過程のまとめ・振り返り】

- 振り返りの内容は、指導事項に沿った観点を提示する。児童生徒の実態に応じて、記述・発言させる。

〈振り返りの観点の例〉

- a 何を学んだのか(何ができるようになったか)
- b どのように学んだのか(どうしたらできたのか)
- c 新たな疑問やさらに学習したいこと

※観点ごとにまとめさせても、自由にまとめさせてもよい。

基本的な流れ

1 本時のめあてをつかむ。

- ノートやワークシートの記述等から、前時までに学んだことを想起させる。
- 学習計画表等を活用するなど、現段階の学習状況と単元における本時の位置付けを確認させる。

【めあて】

2 課題を追究するために個で考える。

- 本時のねらいを明確にした上で、思考を促す発問を行い、児童生徒から多様な考えを引き出す。
- 個で考える時間を確保し、自分の考えをもたせる。

【多様な考えを引き出すポイント】

3 グループや全体で、課題を追究するための考えを確認し合い、新たな気づきをもつ。

- 必要に応じて、ペアや少人数での交流活動を設定し、交流活動の目的や方法、交流の観点等を確認させる。
- 観点を基に、互いの意見を交流させ、考えに広がりや深まりをもたせる。
- 各グループで出された話題や考えの共通点や相違点を全体で確認し、課題の解決に迫らせる。



4 本時のまとめ・振り返りをする。

- 板書やノート、ワークシートを基に本時の学習を振り返らせ、本時のめあてと照らし合わせて、自分の言葉でまとめさせる。
- ペアやグループ、全体で、発表するように促す。
- 今までに学んだこととつなげさせたり、新たに学んだことを自覚させたりしながら、単元の課題の解決に近付いていることに気付かせ、称賛する。

単位時間の振り返り

【多様な考えを引き出すポイント】

教師の発問は、授業において、児童生徒の思考のきっかけを作ったり思考を深めたりするために、重要な役割を果たします。既習事項や教材文に書かれていることを確認する発問だけでは、一問一答のような授業になってしまいます。一方、思考を促す発問で答えを出し合っただけでは、何を学んでいるのかが曖昧になってしまいます。考えを広げ深めていくためには、児童生徒の学習状況、授業の場面を踏まえて、いくつかの発問を効果的に組み合わせることが大切です。

(例)



『大造じいさんとがん』の主人公はだれだと思いますか？

…思考を促す発問



「大造じいさんだと思います。この物語の最初から最後まで登場していて、大造じいさんの気持ちがたくさん書かれているからです。」



「ぼくは、大造じいさんと残雪の両方だと思います。なぜかという、ふたりの戦いと友情の物語だから、どちらがいなくても物語は成り立たないからです。」



？(どちらも理由を述べているわ…？どちらも正解…？どうしよう…？)



「ところで、主人公とはどのような人物のことをいうのでしょうか？」

…確認する発問



「題名に書かれている人」「その人の視点で書かれている」「物語の中心で行動していた人」



「心情が一番変化した人」「人じゃないこともあるよ」…



※主人公の定義を既習事項を踏まえながら学級全体で共有させる。

「今、みなさんで確認したことを踏まえて、もう一度読み直してみましょう。」

※読む観点を与えて再度読む機会を設けることで、考えに深まりをもたせる。

○各領域における指導のポイントを踏まえて授業を構想するとともに、各領域同士の学習の関連（単元と単元のつながり）も意識して構想していくことで、資質・能力の確実な定着を図らせる。

「A 話すこと・聞くこと」

- モデルを示し、話す側、聞く側等の立場に立って、ねらいに沿った観点到気付け、共通理解させる。
- 一度体験（発表、話し合い等）して終わるのではなく、振り返りを生かして、改善できたことが実感できるような場面を作るなど、単元構成を工夫する。

【発問例】

- ・だれにどのようなことを伝えたいですか。
- ・どのような順序で話すのが効果的ですか。
- ・提示する資料をどのように活用しますか。
- ・「○○」という言葉は聞き手は理解できるでしょうか。
- ・話し手はどのようなことに気を付けて話しているのでしょうか。
- ・話し合いで出された意見の共通点は何でしたか。



「B 書くこと」

- モデル文から意見文や批評文、案内文、紀行文等の特徴に気付かせたり、既習事項から活用できることを確認させたりする。
- 推敲は、観点を基に修正の方法を確認するなどして、誤字脱字等の確認のみにならないようにする。

【発問例】

- ・読み手はテーマについてどの程度知っているのでしょうか。
- ・事実と意見の違いを分かりやすく説明してみましょう。
- ・どちらの根拠を示した方がよいでしょうか。
- ・問い掛けの文を最初に書いたのはなぜですか。
- ・文末を変えることによって印象はどのように変わりますか。
- ・「○」を「△」の表現に変えたのはなぜでしょうか。

「説明的な文章」

- はじめから順番に読んで展開を確認したり、結論を捉えてから必要な情報を見付け全体の構成を考えたり、図表や写真と叙述を結び付けたりするなど、様々な読み方を指導する。

【発問例】

- ・第○段落はあった方がいいですか。それはなぜですか？
- ・筆者は、なぜ、○○の実験をしたのでしょうか。
- ・○○を表す言葉を使って、写真の様子から分かることを説明してみましょう。
- ・本文の「○○のようなもの」は他にどのようなものがありますか。
- ・第○段落の要旨を○○という言葉を使って60字以内で書いてみましょう。
- ・この文章を読んで、どの部分に共感したり納得したりしたか、自分の意見を書いてみましょう。

「C 読むこと」

- 登場人物の言動、心情、色、音、においなどの叙述や表現技法を手掛かりにして、具体的に想像させる。
- 複数の場面や人物を取り上げて、共通していることや違うこと、変化したことやその理由等を考えさせる。

【発問例】

- ・○○はどうして笑ったのか、これまでの○○の行動から想像して考えてみましょう。
- ・○○の言葉「□□…」の「…」にはどのような言葉が入るか、○○の行動や様子から考えてみましょう。
- ・○○の気持ちが一番変わったのはどこですか。
- ・この物語の特色（面白さや特徴）はどのように印象が違いますか。
- ・最後の一文があるとないでは、どのような違いがありますか。
- ・○○の行動や考え方について、自分の体験と比べて考えてみましょう。



中学校 第1学年【話すこと・聞くこと】 『質問力を磨こう』



【単元の課題】

目的に応じた効果的な質問を考え、友達のことを深く知るインタビューをしよう。

【ねらい】

質問の種類を考えながら質問し合う活動を通して、必要な情報を的確に聞き出す質問を考えられるようにする。

1 本時のめあてをつかむ。

- 前時のワークシートや教科書から、質問には目的によっていくつかの種類があったことを想起させる。
- いくつかの質問を組み合わせたインタビューを例示し、質問の答えを考えさせる。

【めあて】

同じテーマで質問し合って、効果的な質問の種類と使い方を考えよう。

2 課題を追究するために個で考える。

- テーマに沿って、友達に質問したいことを考えさせる。教科書を参考にしながら、質問の種類や順番を工夫するよう指示する。

テーマは「友達の楽しい時間や好きな時間」です。

友達がどのように答えるかを思い浮かべて、どの種類の質問をどんなふうにつなげていくか考えてみましょう！

「はい・いいえ」の質問ばかりになってしまうな。



「ない」って答えられたら、その後が続かなくなってしまうよ。

3 友達との交流で、課題を追究するための考えを確認し合い、新たな気づきをもつ。

- グループで【役割分担】にしたがって、質問をし合わせる。
- 【チェック表】を基に、質問者が考えた質問が効果的であったかをグループで評価させる。

予想外の答えが返ってきて困ったよ！

最初の質問だけど、何て答えたらいかが悩んだわ。

2つ目の質問で、興味があると答えたのだから、もっと引き出せたとと思うよ。

【役割分担】

- ① 質問者 1名
- ② 回答者 1名
- ③ 観察者 1～2名
- ※ 質問 3分、アドバイス 2分を目安に役割をローテーションする。

【チェック表】

- (回答者)
- ・ 分かりにくい質問や答えにくい質問はなかったか。
- (観察者)
- ・ 回答者の考えを引き出す質問をしていたか。

4 本時のまとめ・振り返りをする。

- 交流活動を通して、質問の仕方について分かったことをワークシートにまとめさせ、ポイントを板書して共有させる。
- 次時、実際に友達にインタビューをすることを踏まえ、本時の振り返りをする。

質問の種類だけでなく、順番や内容も考えることが大切だと分かった (a)。インタビューをした友達の感想を聞いたので、予想外の答えが返ってきた理由が分かったし、どのような質問だったら答えやすかったのかも分かった (b)。次回は考えを引き出す質問を上手に取り入れていきたい (c)。



中学校 第2学年【書くこと】 『意見文を書く』



【単元の課題】

説得力のある根拠を示して、みんなが過ごしやすい学校生活を提案しよう。

【ねらい】

適切な根拠にするためのアドバイスをし合う活動を通して、より説得力のある意見文を書くことができるようにする。

1 本時のめあてをつかむ。

- ノートの記述や教科書から、前時は自分の意見を支える情報を収集し、適切な根拠の観点について学んだことを想起させる。
- 学習計画表を基に、本時の学習を確認させる。

【めあて】

適切な根拠にするためのアドバイスをし合い、より説得力のある意見文にしよう。

2 課題を追究するために個で考える。

- 前時に収集した複数の情報の中から、観点を基に、自分の意見を支える根拠となる情報を取捨選択させる。
- 選んだ根拠を取り入れて意見文の構成を考えさせる。

読み手が納得できる根拠とは、どのようなものだったでしょうか。



【適切な根拠の観点】

- 信頼性 (出典)
- 実体験、見聞
- 具体的な数値、声



新聞記事を引用するのなら、信頼性があるし、数値が入っている情報も説得力がありそうだ。

※前時に確認した観点

3 友達との交流で、課題を追究するための考えを確認し合い、新たな気づきをもつ。

- ペアで互いの意見文を読み合い、2の【適切な根拠の観点】を基に、読み手が受けるイメージを伝え合わせる。
(※この交流を違うペアで数回繰り返して行わせる。)
- 自分の意見文に取り入れられそうなポイントを考えさせる。

読み手が興味をもちそうな複数の情報を選んでいるから、広く共感を得られそうだね。



思いは強く伝わってきたけど、個人の感想になってしまっているから、相手を納得させるのは難しいよ。



具体的にどのように直せばよいかを伝え合うと、推敲するのに参考になりますね。



アンケートを根拠にしたのはいいけれど、都合のいい部分だけを使っているから、反対意見についても触れて、反論を考えておくと、より説得力が増すと思うよ。



4 本時のまとめ・振り返りをする。

- 意見文を読み合ったことで、根拠について分かったことをノートにまとめさせ、ポイントを板書して共有させる。
- 次時、本時に確認したポイントを取り入れて意見文を推敲することを踏まえ、本時の振り返りをする。

交流を通して、具体的にどのように修正すればよいか自分では気付かない考えを聞くことができてよかった (b)。信頼性がある情報でも、読み手にとってどの情報が分かりやすいかを考える必要があることが分かった (a)。清書では反論を意識して書きたい (c)。



※(振り返りの観点) (a) 何を学んだのか (b) どのように学んだのか (c) 新たな疑問や学習したいこと

小学校 第6学年【読むこと：文学的な文章】 『やまなし』



【単元の課題】

作品の場面を具体的に想像して、作品から伝わるメッセージについて討論をしよう。

【ねらい】

「五月」と「十二月」の場面で想像したり解釈したりしたことを対比し、共通点や相違点を話し合う活動を通して、自分なりの考えを広げられるようにする。

1 本時のめあてをつかむ。

- ノートの記述から、前時は、「五月」と「十二月」の場面がもつイメージについて、叙述から想像したことを想起させる。
- 本時の学習のめあてを提示し、教材文を一読させる。

【めあて】

「五月」と「十二月」のイメージをつなげて、『やまなし』から伝わるイメージについて考えよう。



こわい場面とうれしい場面の二つのイメージが、どのようにつながるのか、みんなはどう思っているのだろうか？

2 課題を追究するために個で考える。

五月と十二月には、どのような関係があるのでしょうか？



- 個で考える時間を確保するとともに、児童の様子を見ながら、個別（もしくは全体）にアドバイスをする。



五月は「光の黄金のあみ」、十二月は「青白いほのお」というように、どちらも水と光の美しさが表現されている。小さなカニから見た、水の世界の様子や様々な気持ちが伝わってくる気がする。

外から来る「かわせみ」や「やまなし」にカニの兄弟がおどろいているのに、どうして「やまなし」の方だけが題名になっているのかな。



3 友達との交流で、課題を追究するための考えを確認し合い、新たな気付きをもつ。

- ペアで互いの考えを伝え合い、各グループで出た考えの共通点や疑問点等を確認し、全体で課題に迫らせる。
※共有した後、主題に迫る児童の疑問を取り上げる。

○班の発表にあった、「なぜ、十二月にしか登場しない『やまなし』が題名なのか」という疑問をみなさんと考えましょう。



五月は恐怖、十二月は喜び。十二月の方が大切だから、『やまなし』という題名なのかな。

じゃあ、五月の場面はなくてもいいということ？

そうじゃなくて、五月の恐怖があったからこそ、十二月の喜びをより強く感じられるのではないかな。

- 発表された考えを整理し、それらを踏まえて自分の考えをノートにまとめさせる。

4 本時のまとめ・振り返りをする。

- 本時の授業で分かったことや新たな疑問等について、板書して共有させる。

『やまなし』が伝えたいことは、平和なくらしのありがたさだと思います。理由は、五月の恐怖があったからこそ、やまなしを追いかけているときの何気ない会話が幸せに感じると思うからです（a）。二つの場面を比較したり、カニの目線になったりして考えたら分かりました（b）。討論会でみんなの考えを聞くのが楽しみです（c）。



小学校 第4学年【読むこと：説明的な文章】 『アップとルーズで伝える』



【単元の課題】

説明の仕方の工夫について考え、クラブ活動のよさを3年生に伝えよう。

【ねらい】

段落相互の関係に着目しながら、考えとその事例の関係をとらえる活動を通して、事例を使って説明することのよさを理解できるようにする。

1 本時のめあてをつかむ。

- ノートの記述から、前時は、教材文を読んで、写真と文章を結び付け、全体から問いの文を見つけたことを想起させる。
- 本時の学習のめあてを提示し、教材文を一読させる。

【めあて】

筆者の考えに着目して、説明の仕方の工夫を見付けよう。

2 課題を追究するために個で考える。

⑥段落の役割は何か、考えてみましょう。



⑥段落のはじめに、「このように」ってまとめの言葉があるから、筆者の考えをまとめている段落だと思う。



③段落の問いの答えになっているんだね。でも、最後ではなくて、途中にあってもいいのかな。

⑥段落の内容をもう一度みなさんと読んでみましょう。



「このように」の後の、「伝えられることと伝えられないこと」という意味がちよっと分からないな。⑥段落は③段落をまとめているというのは正しいと思うんだけど…。

③と⑥段落の間の段落にヒントがあるかもしれませんね。



3 友達との交流で、課題を追究するための考えを確認し合い、新たな気付きをもつ。

- ④段落と⑤段落を再度読み直し、各自の考えをもたせる。
- それぞれが気付いたことを伝え合い、グループの考えを整理させる。



④段落も⑤段落も、それぞれ写真があって分かりやすい。説明の仕方も同じような…。



確かにそうだね。最初に写真の説明をして、「伝えられること」を書いて、そのあと、「しかし」「でも」を使って、「伝えられないこと」が書いてあるよ。



- それぞれのグループで出された考えを板書でまとめ、「説明の仕方の工夫」について学級全体で共有させる。

たくさんのことに気付きましたね。2つのものを比べて違いをはっきりさせることを「対比」と言います。



4 本時のまとめ・振り返りをする。

- 説明の仕方の工夫について分かったことなどを、自分の言葉でノートにまとめさせ、板書して共有させる。

説明の仕方の工夫として、写真を見せること、対比を使って説明することがあるのが分かった（a）。④段落と⑤段落で写真と文章を比べて見ることで、筆者の伝えたいことがはっきりしてきた（b）。卓球クラブの活動を伝えるときは、写真や対比を使ってみたいと思う（c）。



2 単位時間のつくり方（「まとめる」過程）【例】

「まとめる」過程では、単元を通して課題解決してきたことを振り返らせ、「何ができるようになったか」「どうしたらできるようになったか」等を自覚させ、他教科や日常生活のどのような場面で活用できるかを考えさせることが大切です。

【指導のポイント】

【学びの自覚】

- 単元を通して身に付けさせたい資質・能力を基に、具体的な観点を提示して、振り返らせることが大切である。特に、成果物を作成した場合、見た目の善し悪しで自己・相互評価をしないように注意する。
- ②では、「自分は何ができていて、何ができていないのか」に気付かせ、言葉に対して意識的に着目できるようにする。
- ③では、各単位時間の振り返りの記述等を参考に、児童生徒の言葉で記述させ、全体で「何をどのように学んだのか」を確認させる。

【学んだことの一般化】

- 単元を通して学んだことが、他の場面でも活用できることを自覚させる。

〈一般化の例〉

- ・今度、理科の自由研究のレポートをまとめるときは、複数の事例を挙げてみよう。
- ・宮沢賢治の他の作品も「たとえ」が使われているのかな。図書館で探して、読んでみたいな。
- ・これから面接があるけれど、自分の思いがしっかり伝わっているかどうか、相手の反応を見ながら受け答えをしないといけないな。

- 児童生徒の発言に対して、「もう少し具体的な場面をイメージしてみましょう。」「どうしてその場面で見えると思ったのですか。」等の問い掛けを行い、さらに考えを引き出すことで一般化につなげさせる。
- 同じような考えの児童生徒に聞いたり、全体に投げ掛けたり、分かりやすい言葉に置き換えさせたりする。

【単元全体の振り返り】

- 単位時間の積み重ねによって単元の課題が解決できたという視点をもって、自分の学びや成長を自覚させるようにする。
- 自分の考えを形成したり、友達と伝え合ったり、新しい考えを生み出したりする言葉のよさを意識させ、児童生徒の言語感覚を磨いていくようにする。

基本的な流れ

1 本時のめあてをつかむ。

- 本時は、単元全体を振り返ることがめあてであることを伝える。
- 単元の課題を解決するために、今まで取り組んできた学習について振り返らせる。

【めあて】

2 単元で学んだことを確認する。

- 今まで学習してきたことを基に、
 - ①自分のノートや成果物、各単位時間の振り返りの記述等を確認させることで、学ぶ前と後との変容を自覚させる。
 - ②互いのノートや成果物等について、それぞれのよさを伝え合う交流活動を行うことで、自分のよい点や課題点を再認識させる。
 - ③今までの学習を振り返らせ、「どのように学び、何ができるようになったか」について発表させ、ポイントを板書し、全体で共有させる。



3 学んだことを一般化して理解する。

- 学んだことが日常生活や他教科でどのように活用できるのか、具体的にイメージさせる。
- イメージした場面を全体で確認し合い、学びの広がりを実感させるとともに、新たな学びへの意欲につなげさせる。

4 単元全体の振り返りをする。

- 単元全体を通して、学んだこと（成果と課題）や感じたことを自分の言葉でまとめさせる。（全体で共有させる場があってもよい。）

単元全体の振り返り

小学校 第3学年【書くこと】

『気になる記号』



【単元の課題】

文章の構成の特徴に着目して、身の周りの気になる記号を報告する文章を書こう。

【ねらい】

単元全体を振り返る活動を通して、報告文を書くときに気を付けることが理解できるようにする。

1 本時のめあてをつかむ。

- 本時のめあては単元全体を振り返ることだと確認する。
- 本単元では、身の周りにおける気になる記号について調べ、家の人に報告する文章を書いてきたことを振り返らせる。

報告する文章を書くとき、どのようなことに気を付けましたか？



【めあて】

単元全体を振り返って、報告する文章を書くときに気を付けることをまとめよう。

2 単元で学んだことを確認する。

- 互いの文章を読み合い、自分の書き方と比較しながら、「工夫が分かる点」「参考にしたい点」を付箋紙に書かせ、3～4人のグループで交流させる。
- ノートや振り返りの記述、完成した報告書をもとに、報告する文章を書くときに気を付けたことを思い出させる。

○報告文の組立て

- ① 調べたきっかけや理由
- ② 調べ方
- ③ 調べて分かったこと
- ④ 感想



3 学んだことを一般化して理解する。

- これから報告する文章を書くとき、今回学んだことがどのように生かせるか、意見を共有させる。



報告する文章を書くときには、調べて分かったことだけでなく、調べた理由や調べ方も書く。

調べたことをカードに記録して、比べたり種類分けをしたりして、伝えたいことをはっきりさせる。



- 他のどのような場面で、今回の学習が活用できるか考えさせ、共有させる。



社会科でスーパーマーケット見学がある。見学したことをまとめるとき、報告文の形が使えると思う。

「野菜作り」の記録も、報告文にまとめると分かりやすいよね。夏休みの自由研究のまとめにも使えそう。



4 単元全体の振り返りをする。

- 一般化したことを踏まえながら、単元を通して学んだことや感じたことを自分の言葉でノートにまとめさせる。

- 報告する文章の組立てが分かったので、これからも報告文を書くときは組立てに気を付けて書きたい。
- 山田さんの報告文は、おばあさんのことを考えて記号の説明が書いてあって、おばあさんが喜ぶと思った。
- 夏休みの自由研究のまとめを、報告文の形で書いてみようと思った。



中学校 第2学年【読むこと：文学的な文章】

『走れメロス』



【単元の課題】

作品の「視点」に着目しながら登場人物の言動の意味を考えて、『走れメロス』をリライトしよう。

【ねらい】

単元全体を振り返る活動を通して、「視点」に着目して作品を解釈するよさを理解できるようにする。

1 本時のめあてをつかむ。

- 本時のめあては単元全体を振り返ることだと確認する。
- 前時は、ディオニスかセリヌンティウスの視点で『走れメロス』を書き直した（リライト）ことを振り返らせる。

【めあて】

単元全体を振り返って、作品と「視点」の関係について、学んだことや今後に生かすことをまとめよう。

2 単元で学んだことを確認する。

- リライトをした作品を互いに読み合い、「視点」について気付いたことをワークシートにまとめさせる。

どのようなことに気を付けて、「視点」を取り入れましたか？「視点」の学習をリライトにどう生かしましたか？



三人称で書かれた作品より、一人称で書いた方が面白いと思ったので取り入れた。



一人称を使って、人物の存在感を強調させて、三人称を使って、時間の経過や状況を補足してみた。

それぞれの特徴が生かされると、物語の奥深さが分かるのかもしれない。



3 学んだことを一般化して理解する。

- 「視点」について学んだことが、どのように生かせるか、意見を共有させる。



物語を書くときや読むときに生かせる！

これから作品を読むときに、視点を意識したら今までよりも楽しくなりそう。



もう少し具体的な場面をイメージしてみましょう。



一人称で書かれているところを見付ければ、登場人物の気持ちを深く理解できるよね。



視点に着目して読めば、作者が読者に何を伝えたいのか、その意図を理解することができるかもしれない。



いろいろな視点で作品を読むことで、今までとは違った作品の面白さを感じることにになりそうですね。

- 出された意見を板書でまとめ、学級全体で共有させる。

4 単元全体の振り返りをする。

- 一般化したことを踏まえながら、単元を通して学んだことや感じたことを自分の言葉でワークシートにまとめさせる。

- 視点が切り替わっているのを意識して読むと、登場人物の気持ちや物語のテーマが理解しやすくなるのが分かった。
- 物語を読む側から、書く側を体験したことで、これから本を読むときに別の楽しみ方ができると思った。



3 学習過程と教科書との関連

国語の教科書は、各領域の指導事項を押さえて題材が配列されているので、一年で学ぶべき内容が網羅されることになります。その際、以下の各領域の留意点にしたがって指導を進めていきましょう。

「話すこと・聞くこと」「書くこと」

- ◎「学習（活動）の流れ」に、ゴールの姿に向けての活動が段階的に示されている。それらを参考に、児童生徒の実態や学校行事等を踏まえながら何を表現させるのか（テーマ）を設定する。その際、学習過程のどこに焦点を当てて指導するのかを明確にする。
- ・児童生徒の作品（発表）例を参考に、活動や作成していくもののモデルとして示す。
 - ・単元末に示される「表現の仕方のポイント」等を参考に、実際の学習の過程を振り返らせ、再度児童生徒の言葉を使ってポイントをまとめさせる。



「読むこと」

- ◎単元冒頭の「目標」に、単元を通して身に付けさせたい資質・能力と言語活動が示されている。また、最後の「学習活動」等に、読みを深めていく設問や言語活動の手順等が示されている。それらを参考に、児童生徒の実態を踏まえて、単元全体を構想する。
- ・挿絵や図表等を活用して、場面や対象をイメージさせたり、叙述と結び付けさせたり、表現の効果を考えさせたりする。
 - ・教材文の出典や本の紹介から、著者や様々なジャンルの本に興味をもたせ、幅広い読書を勧める。



言葉の特徴や使い方に関する事項 ～言葉に対して自覚的になるような指導をしましょう～

脚注や漢字、コラム等、言葉に関する事項については、「話す・聞く、書く、読む」の学習活動を通して、自分の思いや考えをどのように言葉で表現するか、改めて言葉に着目し吟味させるようにする。（特定の事項を取り上げたりまとめたりして指導することもある。）

P14 参照



4 学習活動を行う場合に生じる困難さに応じた指導の工夫【例】

困難さ	指導の工夫
文章を目で追いながら音読することが困難な場合 	<ul style="list-style-type: none"> ・どこを読むのかが分かるように教材文を指等で押さえながら読むように促す。 ・行間を空けた拡大コピーや語のまとめりや区切りが分かるような分かち書きされたもの、読む部分だけが見える自助具（スリット）等を用意する。
自分の立場以外の視点で考えたり、他者の感情を理解したりするのが困難な場合	<ul style="list-style-type: none"> ・日常生活体験に関する例文や気持ちの移り変わりが分かる文章中のキーワードを示す。 ・気持ちの変化を図や矢印で視覚的に分かるように示す。
一定量の文字を書くことが困難な場合	<ul style="list-style-type: none"> ・手書きだけではなく、ICT機器を使って文章を書くことができるようにしたり、段階的なワークシートを用意したりする。
声を出して発表することに困難がある場合や人前で話すことへの不安を抱いている場合	<ul style="list-style-type: none"> ・紙やホワイトボードに書いたものを提示したり、ICT機器を活用したりして発表させるなど、多様な表現方法が選択できるようにする。
漢字の組み立てを理解するのが困難な場合	<ul style="list-style-type: none"> ・漢字の一部分を空欄にしたり、組み合わせで完成するようなカードを用意したりする。



〈スリット〉



〈ホワイトボードの活用〉



〈漢字のワークシート例〉

5 情報活用能力の育成

国語科の学習における情報とは…話や文章に含まれている内容（言葉）

〈例〉教材文（文学的な文章、説明的な文章等）、新聞や雑誌、書籍から引用した文章、自らが作成した原稿、他者との会話、話し合い等にある言葉



情報の収集



- 話題（題材）の設定
 - ・目的や意図に応じて、日常（社会）生活の中から話題や題材を決める。
- 情報の収集
 - ・情報の収集の仕方の手掛かりを知る。
 - （例）「キーワードをつかむ」「見出しに着目する」「題名・目次・索引を利用する」
- 内容の検討
 - ・複数の情報から、自分の伝えたいことを絞り込む。
 - ・分からない言葉や内容に出ったら、辞書や事典で調べる。

P14 参照

問題解決における情報活用

情報の整理・比較



- 共通・相違、事柄の順序
 - ・相手と自分の考え、複数の情報から共通点や相違点を見付ける。
 - ・目的を意識して必要な語句を判断し、書き留める。
 - ・相手や目的、意図に応じて、提示する順序を考える。
- 比較・分類、関係付けの仕方
 - ・複数の情報を比べたり、共通点や類似点に基づいて類別したりする。
 - ・複雑な事柄を分解して捉えたり、類似する点を基にして他のことを類推したりする。
 - ・複数の語句を○や□で囲んだり、語句と語句を線でつないだりする。
- 原因と結果、意見と根拠、具体と抽象
 - ・様々な情報の中から原因と結果の関係を結び付けて捉えるようにする。
 - ・意見と根拠の整合性に気を付けながら、収集した情報から相手に応じた適切な根拠を考える。
 - ・具体と抽象の概念を理解し、状況や必要に応じて使い分ける。



〈相手に伝わるように自分の考えをまとめる〉

・「情報の整理・比較」に挙げた事項は、自分の考えをまとめる際にも活用できる。各領域と〔知識及び技能〕の指導事項とを関連させた授業を系統的・反復的に行うことが大切である。

〈例〉「根拠を明確にしなが、自分の考えが伝わるように工夫すること〔書くこと〕」を指導する際、「意見と根拠の関係についての理解〔知識及び技能〕」との関連を図る。



基本的な操作〈例〉



- ローマ字の学習（小3 必修）
 - ⇒キーボードでローマ字を用いた入力
- 適切な本や文章を選ぶ学習
 - ⇒情報通信ネットワークを使ったインターネットの閲覧
- 辞書の学習
 - ⇒電子辞書等の操作
- 話すことの学習
 - ⇒プレゼンテーションソフトウェアでの資料作成
 - ⇒適切なファイル名やフォルダ名を付け、電子ファイルで保存
 - ⇒プロジェクターの操作

情報の発信・伝達



〈相手に分かりやすく自分の考えを伝える〉

※「話すこと」の指導事項「表現」

- ・声の大きさや速さ
- ・言葉の抑揚や強弱、間の取り方
- ・相手の反応
- ・提示資料の工夫
- ・資料や機器の効果的な活用
- ・場に応じた言葉の選択



〈例〉

発表の練習を小グループでする際、タブレット等を使って、自分の姿を振り返ったり評価し合ったりする。その際、話す側、聞く側、様子を見る側の立場になって評価し合うのも効果的である。



情報モラル・セキュリティ

- （例）・引用の仕方 ・出典の示し方
- ・情報の信頼性の確かめ方

6 地域の人材や物的資源の活用

多くの学校で、保護者や地域のボランティア団体の支援を受け、「読み聞かせ」や「ブックトーク」等の読書活動の推進を図っていると思います。その他にも、各地域には、「民話」「かるた」「方言」等に精通している方や戦争や昔の遊びなど、自身の経験を語ってください方もいます。また、アナウンサーや新聞記者、図書館職員、作家、書籍販売員、コピーライターなど、国語に関わる職業の方々もいます。



代表的な支援事業	事業内容と連絡先等
学習支援図書セット貸出 朝の読書セット貸出 等	児童生徒のさらなる読書活動推進を目的とし、各学校における教科学習や総合的な学習の時間等の教育活動を支援するため、図書セットの貸出を行います。 ※群馬県立図書館Webページアドレス： http://www.library.pref.gunma.jp/ ※地域の公立図書館等との連携も可能
書写指導支援事業	小中学校の書写指導の支援を目的とし、入門期の毛筆指導（書写道具の扱い方等）書き初めの指導等を行います。 ※群馬県書道協会Webページアドレス： http://www.gunmaken-shodoukyoukai.com/
新聞講座 出前講座 等	新聞記者がゲストティーチャーとして学校に出向き、主に、「新聞の基礎知識」「新聞の読み方」「新聞編集」「メディア・リテラシー」などについてレクチャーをしています。 ※群馬県NIE推進協議会事務局（上毛新聞社 027-254-9933） ※各新聞社個別の対応も可能
手紙の書き方体験授業	手紙のやりとりを通じて、伝える力やコミュニケーション能力を育むことを目的とし、「手紙の書き方」（児童生徒用・指導用テキスト）、はがきや便せん、封筒等を提供しています。 ※日本郵便株式会社 手紙授業支援事務局Webページアドレス： http://www.schoolpost.jp/
短歌の副読本提供、 「歌人が学校に！」 等	短歌についての副読本（県立文学館作成）の提供や、全国的に活躍する歌人を招いての児童生徒が作った短歌の講評が聞ける授業等を行います。 ※群馬県立土屋文明記念文学館Webページアドレス： http://www.library.pref.gunma.jp/

【参考】

語彙を豊かにして、自分の表現として使うために

学校生活や日常生活の中で触れる言葉を、意識的に捉え、考えていけるように、辞書的な意味の確認だけでなく、話や文章の中でも活用できるような「語彙指導」を継続的に行い、児童生徒の語彙の量を増やすとともに質を高めていきましょう。

「言葉ノート」といった言葉を書き留めるノートを用意して、いつでも記録できるような環境、分からない言葉に出合った時に自然に辞典が使えるような環境、新聞を読み比べられる環境等を意図的に作ることが大切です。

今日の**全校集会**で、校長先生が人と人との出会いのすばらしさについて話してくださった。話の中に出てきた「一期一会」という言葉がとても印象に残った。**ノートに書いておこう。**
ぼくも**使えたらいいな!**



朝読書で読んだ本の中で、男の子がおじいさんの大切なものを持ち出した時、「大目玉をくらった」ってあったけれど、意味がちょっと分からなかった。メモをしておいて、あとで**国語辞典**を引こう!



読書活動推進に向けて ～学校図書館の3つの機能～

学校図書館は、読書活動における利活用に加え、様々な学習における利活用を通じて、児童生徒の言語能力、情報活用能力等の育成を支え、主体的・対話的で深い学びを効果的に進める基盤として、「**読書センター**」（児童生徒の読書活動や読書指導の場）、「**学習センター**」（児童生徒の学習活動を支援したり、授業の内容を豊かにしてその理解を深めたりする場）、「**情報センター**」（児童生徒・教職員の情報ニーズへの対応や、児童生徒の情報収集・選択・活用能力を育む場）の機能を有しています。



◎学習指導要領では、〔知識及び技能〕の指導項目に「読書」が位置付けられています。国語科の学習が読書活動に結びつくよう、学校図書館を利用する目的を明確にして、系統的に指導することが大切です。

〈指導例〉

- ・「必要な本や資料などを選ぶ力を付けたい」
→調べ学習を通して、本の種類や配置、探し方について理解する。
- ・「様々なジャンルの本に触れさせたい」
→ブックトークを通して、テーマに関連する様々なジャンルの本を紹介する。



社会

Social Studies

社会科は、社会的事象の働きや役割、それらと自分たちとの関わりについて理解することを通して、「よりよい社会の形成者及び個人として生きるために必要な資質・能力の基礎」を身に付ける教科です。

そのためには、社会的事象から主体的に課題を見だし、知識及び技能を活用して諸資料を調べたり調査活動を行ったりし、事象の特色や意味等を考え概念に関する知識を獲得したり、学習したことを生かして、望ましい社会の在り方や自分たちの関わり方を考えたりするなど、課題を追究・解決する活動の充実を図ることが大切です。

【社会科のページで使用されている用語解説】

社会的事象	事実として具体的に知ることができる社会的な事柄や出来事
多面的・多角的	多面的：様々な側面（地理的、歴史的、政治的、経済的、文化的など）から社会的事象を捉えること。 多角的：複数の立場（例：生産者と消費者など）や意見を踏まえて社会的事象を捉えること。
構想（選択・判断）	よりよい社会を築くために解決すべき課題（例：伝統や文化の保存や継承、環境、資源とエネルギー、人口増加と食糧、居住や都市に関わる問題、民族や宗教をめぐる対立、民主政治の推進と政治参加等）に対して、自分にできることを選んだり、意見や考えを決めたり、望ましい社会の在り方について立案（内容や実現方法）したりすること。
具体的な事実に 関する知識	特定の地域、歴史、現代社会で見られる事柄や出来事を説明する知識。
概念等に関する知識	習得した個別の具体的な事実に関する知識を総合的に捉えた社会的事象の特色や意味等、他の事象や社会において活用・応用することができる知識。

1 単元のつくり方

社会科は、第1章の2で示すAパターンの単元の構想が多くなります。「つかむ」過程では、児童生徒の課題意識から単元の課題を立てるとともに、追究内容や方法、学習計画を明確にさせます。そして、「追究する」過程では、明確な見通しのもと、各単位時間の追究活動を進め社会的事象についての「具体的な事実に関する知識」を習得させます。最後の「まとめる」過程では、各単位時間で習得してきたことを比較・関連させ、単元の課題の結論としての「概念等に関する知識」を総合的に導き出させます。

主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善のポイント

○「なぜ?」「どのように?」などの課題意識を高められるよう、資料などを活用し、社会的事象との意外性のある出会いをさせる。

○単元の課題を見いだせるよう、児童生徒の課題意識を基に、解決することの焦点化に向けて話し合わせる。

○解決の見通しをもてるよう、予想を基に、追究内容や方法、学習計画を話し合わせる。

○一人一人が情報の収集・選択、読み取りができるよう、発達の段階に応じた資料等を準備、提示する。

○社会的事象について整理した情報の補完、修正ができるよう、調べたことを他者と伝え合わせる。

○単位時間の考察ができるよう、線や色、思考ツール等を用いて社会的事象に関する情報を分類・整理させる。

○社会的事象を多面的・多角的に考察できるよう、他者と話し合わせる。

○結論を整理できるよう、学習してきたことを基に、一人一人が考えた結論やその根拠などを話し合わせる。

○多面的・多角的に構想（選択・判断）できるよう、妥当性や効果、実現可能性等を話し合わせる。

重要：単元・単位時間のすべてに関わること

○自身の学びや変容を自覚したり、次の学びにつなげたりできるよう、学習の振り返りをさせる。

過程と基本的な学習活動

1 単元の課題を把握する。

- ◇社会的事象と出会い、疑問や調べたいことをもつ。
- ◇単元の課題を立てる。

【単元の課題】

〈単元の目標に到達するための大きな問い〉

- ◇単元の課題について予想し、整理する。
- ◇追究内容や方法、学習計画を明確にする。

2 単元の課題の解決に向け、 単位時間ごとに追究する。

単位時間

【めあて】

- ◇追究内容、方法を確認する。
- ◇必要な情報を集め、読み取る。
- ◇情報を基に考察する。

※社会的事象の (学級全体)
具体的な事実に関する知識の習得

【振り返り】(個人)

単位時間

単位時間

単位時間

3 単元の課題についてまとめる。

- ◇単位時間ごとに学習したことを基に結論について話し合う。

◇学習してきたことを基に、構想（選択・判断）する
※学習内容に応じて設定

〈単元のまとめ〉 (学級全体)

※社会的事象に関する概念に関する知識の習得

- ◇単元全体の振り返りをする。

◇単元全体の振り返り (個人)

小学校 第5学年 「自動車をつくる工業」(全8時間計画)

【目標】

我が国の自動車生産に従事する人々の工夫や努力について追究・解決する活動を通して、その働きや役割により自動車工業が支えられていることを考え、理解するとともに、我が国の工業の発展を願う態度を養うことができるようにする。

1 単元の課題を把握する。

◇1965年頃と現在の自動車の写真、日本の乗用車普及率や生産台数の変化、自動車1台に使う部品や組み立て時間、シート組立ての資料を基に、疑問や調べたいことをもつ。

◇単元の課題を立てる。



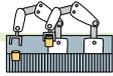
【単元の課題】自動車づくりに関わる人々は、よりよい自動車をたくさんつくり届けるために、どのような工夫や努力をしているのだろうか。

◇単元の課題について予想し、整理する。
◇追究内容や方法、学習計画を明確にする。

2 単元の課題の解決に向け、追究する。

①自動車ができるまで

流れ作業をしたり、危険な作業はロボットが活躍したりしているから速くて安全なんだね。



②自動車づくりの工夫

人々は指示書を見て正確に効率よく作業しているね。ロボットと分担もしているんだね。



③関連工場との関わり

必要な部品を必要な時に届けて、無駄なく効率よく作業をしているんだね。

④外国との関わり

原料を輸入して自動車をつくり輸出したり、現地生産もしたりして、お金がかからないようにしているんだね。

⑤安全や環境に対する工夫

人々のニーズや環境に与える影響を調査して、人や自然のことも考えた優れた自動車に仕上げていたんだね。



3 単元の課題についてまとめる。

◇自動車づくりについて学習したことを基に、**結論**について話し合う。

自動車をつくる人々は、今の車に求められていることを研究し続けたり、組み立て工場と関連工場とが連携し、ロボットと人が役割を分担して効率よく速く、安全に生産したりするなど、よりよい自動車をつくり届ける工夫や努力をしていた。(学級全体)

◇単元全体の振り返りをする。

自動車づくりに関わっている人々のおかげで私たちの生活がどんどん快適になっていくことに感謝したい。世界の人に日本の自動車のよさや技術力をもっと知ってもらいたいと思った。(個人)

中学校 歴史的分野 「第二次世界大戦と日本」(全6時間計画)

【目標】

世界の動きと関わらせて、軍部の台頭から戦争の経過とその影響について追究・解決する活動を通して、大戦が人類全体に惨禍を及ぼしたことを考え、理解するとともに、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うことができるようにする。

1 単元の課題を把握する。

◇第二次世界大戦中のヨーロッパにおける占領地や日独伊三国同盟の様子を伝える資料等を基に、疑問や調べたいことをもつ。

◇単元の課題を立てる。



【単元の課題】第二次世界大戦とは、どのような戦争だったのだろうか。

◇単元の課題について予想し、整理する。
◇追究内容や方法、学習計画を明確にする。

2 単元の課題の解決に向け、追究する。

①第二次世界大戦の始まりと経過

ドイツのポーランド侵攻により戦争が始まり、ファシズムの枢軸国と反ファシズムの連合国の戦いに発展していったんだね。

②太平洋戦争と各国の動き

米英中蘭が日本の南進政策に対抗し、経済封鎖の包囲網を敷いたことをきっかけに、日本はアメリカに宣戦布告をしたんだね。

③国民や植民地、占領地への人々の影響

日本は総力戦を強いられ国民生活にも大きな影響が及んだね。また、植民地や占領地でも弾圧や強制労働等が行われ、多大な被害を与えたんだね。



④戦争の終結

独伊が降伏し、日本も激しい空襲や沖縄戦、原爆投下により、ポツダム宣言を受け入れ戦争は終わったけれど、多大な被害が出たんだね。

3 単元の課題についてまとめる。

◇「第二次世界大戦と日本」について学習したことを基に、**結論**について話し合う

第二次世界大戦は、欧州から始まり世界へと戦場を広げ、日本も軍国主義のもと国民総力の太平洋戦争へと突入し、社会や国民生活に大きな変化を与えた。初めて原爆が投下されるなど、世界で多くの犠牲を払うことになった戦争であった。(学級全体)

◇単元全体の振り返りをする。

この大戦は日本はもちろん、世界各地で多くの犠牲を生んだ悲惨な出来事だ。私たちは、二度とこのようなことを繰り返さないよう、国際協調と平和の実現に向けた努力をしなければいけないと思った。(個人)

2 単位時間の作り方（「つかむ」過程）【例】

「つかむ」過程では、本単元の社会的事象に関わる児童生徒の課題意識を基に、単元の課題を設定し、社会的事象を追究する必要感をもたせましょう。

【指導のポイント】

【「めあて」の設定】

○単元の最初は解決内容は見えないため、「活動・テーマ」の要素に係るめあてとなる。

<例>

◆「○○についての資料等を基に、単元の課題を立てよう。」など。

【課題意識が高まる資料】

○資料に、以下の要素が必要となる。

<例>

- ◆資料と資料、既存の知識と資料の間にずれがある。
- ◆大きさ、重さ、数字等の大小に驚きがある。
- ◆同じものや場所の変化や継続性が見える。
- ◆学習者によって考え方の違いが出やすい。

【解決することを焦点化する工夫】

○線や矢印等を活用し、内容を関連付け補足を付け加えたり、分類・整理したりして可視化していく。

【社会科における単元の課題の型】

○習得させたい「概念等に関する知識」を基に、単元の課題は設定される。

<例>

- ◆「どのように・どのような」型
事実や手順、方法、特色を追究するとき
- ◆「なぜ・どうして」型
社会的事象の意味や理由を追究するとき
- ◆「どうすれば・どちら」型
構想（選択・判断）するとき

【予想と追究内容や方法、学習計画を明確にする手順】

○課題について予想をする。

- ①精選した資料を複数提示する。
- ②予想の根拠となる事実を問いかけたりする。
- ③予想内容を整理して板書する。



○追究内容や方法を明確にする。

- ④整理した内容を基に、明らかにしたいこと等を問いかけ、追究内容を決定させる。
- ⑤これまでの追究方法を例示したり、方法の妥当性を問いかけたりする。
- ⑥追究内容や方法を学習計画としてまとめる。

基本的な流れ

1 本時のめあてをつかむ。

- 社会科の学習における本時の位置付けが、単元の課題の設定であることを確認させる。
- 本単元の社会的事象に関わる資料（写真・地図、統計や実物等）を提示し、生活経験や既存の知識を問いかける。経験や知識が少ない場合には、事前、または本時の中で体験活動等を設定する。

【めあて】

2 一人一人が、本単元の社会的事象に関わる資料を基に、疑問や調べたいことを考える。

- 教科書等にある資料や教師が集め精選した資料を効果的に見せる順序やタイミングを工夫し提示する。
- 資料と既存の知識、複数の資料を比較・関連付けさせる。（発達段階によっては、学級全体で読み取る）
- 資料から考えたことを記述、発言させる。

3 学級全体で、社会的事象についての疑問や調べたいことの共有や焦点化を図る。

- 資料を基に考えた疑問や調べたいことについて発言させる。
- 発言し合った内容の共通点や相違点を確認させたり、その理由を問いかけたりする。
- 板書内容を基に、キーワードを共有させる。

4 本時のまとめとして単元の課題を立て、一人一人が学習の振り返りをする。

- 社会的事象について、共通して解決すべきことを問いかける。
- キーワードを基に、単元の課題を言葉としてまとめ、板書する。

【単元の課題】

（学級全体）

〈単元の目標に到達するための大きな問い〉

- 本時の振り返りとして、「本単元で何をしていくか」や「特に興味・関心をもったことは何か」、習得した社会的事象に関する知識や参考になった友達の意見等を記述・発言させる。

単位時間の振り返り

（個人）

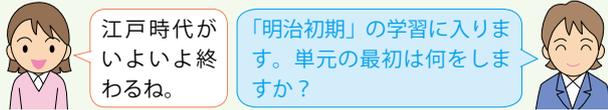
※発達の段階に応じて単元の課題の設定後に、「予想をし、追究内容や方法、学習計画を明確にする活動」までを行う場合もあります。

単元	単元の課題「○○○○○○○○○○」	方法
1	追究内容Ⅰ	教科書等
2	追究内容Ⅱ	関心図り等
3	追究内容Ⅲ	博物館等
4	まとめ	レポート等

小学校 第6学年 「明治の国づくりを進めた人たち」 【ねらい】

江戸と明治の日本橋付近の資料を基に疑問や調べたいことを考え、単元の課題を立てる活動を通して、明治初期に活躍した人々の働きや社会的変化の要因を追究する意欲をもてるようにする。

1 本時のめあてをつかむ。



- 江戸時代と明治時代の日本橋付近の絵図等を提示し、変化した内容について問いかける。

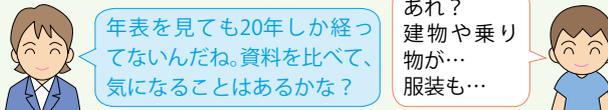
【めあて】

写真や絵図を比べ、江戸から明治へどのように変わったのかについて話し合い、単元の課題を立てよう。

2 一人一人が、江戸時代と明治時代の日本橋付近の絵図等を基に、疑問や調べたいことを考える。



- 明治初期の社会の様子や庶民生活について気付いたこと、考えたことをノートに記述させる。



3 学級全体で、明治初期の変化に対する疑問や調べたいことの共有や焦点化を図る。



- 発言内容のキーワードを確認させ、矢印や線でつなぐ。

- なにか国の仕組みが……………。
- 社会をどのように変えようと……………。
- 明治維新？という言葉は聞いたことがあるけど……………。
- どのような願いや思いから…誰が……………。
- どのような人々が……………。

4 本時のまとめとして単元の課題を立て、一人一人が学習の振り返りをする。

- 江戸末から明治初期の出来事や社会の動きについて、共通して解決することを問いかける。
- 児童の発言を基に単元の課題をまとめ、板書する。

【単元の課題】

(学級全体)

明治維新を進めた人々は、どのような思いや願いで国の仕組みや社会を変えていったのだろう。

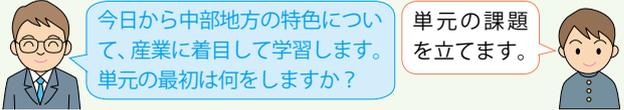
- 本時の振り返りとして、習得した社会的事象に関する知識や参考になった友達の意見等を記述・発言させる。

20年でまったく様子が違うことには驚いた。現在の生活に近付いているけど、A君の言った明治維新の内容や、活躍した人々について早く調べてみたいな。(個人)

中学校 地理的分野 「日本の諸地域『中部地方』」 【ねらい】

中部地方の自然環境や東海、中央高地、北陸の産業に関する資料を基に疑問や調べたいことを考え、単元の課題を立てる活動を通して、3つの地域の産業の特色や違いを追究する意欲をもてるようにする。

1 本時のめあてをつかむ。



- 中部地方の地図を提示し、地形や中部地方を3つに区分した地域の気候について問いかける。

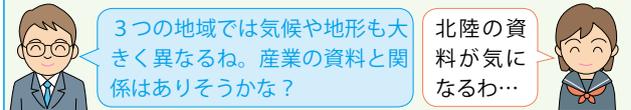
【めあて】

中部地方の産業の特色に関わる資料を基にして、単元の課題を立てよう。

2 一人一人が、中部地方の産業に関する資料を基に、疑問や調べたいことを考える。(教科書の資料を使用)



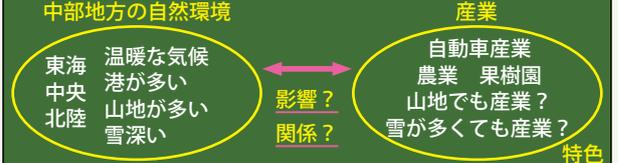
- 東海、中央高地、北陸の自然環境に関する資料や産業に関する資料等から、疑問や調べてみたいことをノートに記述させる。



3 学級全体で、社会的事象についての疑問や調べたいことの共有や焦点化を図る。



- 発表内容のキーワードを確認させる。



4 本時のまとめとして単元の課題を立て、一人一人が学習の振り返りをする。

- 3つの地域の産業について、共通して解決することを問いかける。
- 生徒の発言を基に、単元の課題をまとめ、板書する。

【単元の課題】

(学級全体)

中部地方の産業は、どのような特色があるのだろう。

- 本時の振り返りとして、習得した社会的事象に関する知識や参考になった友達の意見等を記述・発言させる。

中部地方は、地形や気候から3つの地域に区分できるけど、それぞれ産業にどのような違いや特色があるのか、早く調べてみたいな。(個人)

2 単位時間の作り方（「追究する」過程）【例】

「追究する」過程では、単位時間ごとに単元の課題を確認させ、何のための追究活動であるかを常に意識させましょう。

【指導のポイント】

【「めあて」の設定】

○「解決すること・解決の方法（学年・校種で省略）」が含まれることが重要となる。

<例>

- ◆「〇〇に関する資料等を調べ、～は怎么样了のか、明らかにしよう。」
- ◆「調べたことの共通点を話し合い、～社会的事象～の特色をはっきりさせよう。」 等

【追究における資料】

○**社会科は資料が命**とも言われる。解決につながる資料を精選して提示するとともに、その読み取り方の指導も同時に行う。

【情報の整理】

○資料の丸写しを避けるため、事実をキーワードで示させたり、考えを対応させたりする。

○ワークシートを活用する場合は、枠組み等を明確にしたものを提示する。

【考えたことを話し合う】

○児童生徒の発言について問い返したり、新たな側面や立場等から考えられる視点を提示したりする。

【「まとめ」の内容】

○社会的事象の特色や意味について整理した「**具体的な事実に関する知識**」を学級全体で共有する。

【「振り返り」について】

○各単位時間に捉えた「**具体的な事実に関する知識**」や、解決に有効であったことを自分の言葉で表現させ、多様な解決方法を身に付けられるようにする。

○視点は、学習内容により下記の例を組み合わせるなどして示す。

<例>

- ◆「分かったことは何か」
- ◆「どのように解決したか」
- ◆「次に調べてみたいこと」 等

基本的な流れ

1 本時のめあてをつかむ。

- 単元の課題や学習計画、前時までの学習内容を確認させる。
- 単元の課題について、予想したことを確認させる。
- 解決の方法（使用する資料や学習活動等）を問いかける。

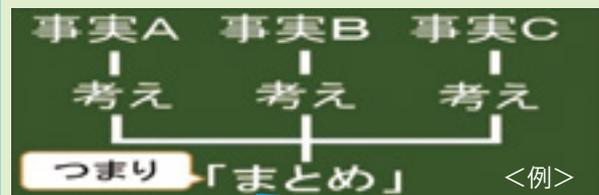
【めあて】

2 一人一人が、解決に必要な情報を集め、読み取る。

- 追究する社会的事象に関わる資料等（教科書、資料集等）から、解決に必要な情報を集めさせる。
- 集めた情報から、解決に必要な事実を読み取らせたり、その意味や役割を考えさせたりしたことをノート等に整理させる。
- 一人一人が集め、読み取った情報をペアやグループで補充・修正させる。

3 学級全体で、整理した情報を基に考察する。

- 情報を共有させるとともに、社会的事象の特色や意味について、「**情報＝事実（根拠）**」と「**社会的事象の特色や意味＝考え**」を区別して交流させる。
- 出し合った意見について、本時の解決とのつながりを小集団や学級全体で話し合わせる。
- 話し合いの内容を線や矢印を活用して構造的に板書する。



4 本時のまとめをし、一人一人が学習の振り返りをする。

- 考察した内容について、「**つまり**」や「**～を合わせると**」等の言葉かけをし、児童生徒の発言を基に、まとめの言葉を板書する。

〈まとめ〉

（学級全体）

- 一人一人に、本時のめあてを意識した学習の振り返りをさせる。その際、視点等を示していく。

単位時間の振り返り

（個人）

小学校 第6学年 「明治の国づくりを進めた人たち」 【ねらい】

大久保利通らが進めた明治の諸改革を調べ、その意味を話し合う活動を通して、富国強兵のために様々な政策が行われたことを理解できるようにする。

1 本時のめあてをつかむ。

- 前時までのペリー来航や討幕運動の内容を振り返るとともに、岩倉使節団の資料を提示し、明治維新で活躍した人々の思いや願いを調べることを確認させる。

大久保らは何のために外国に行ったのかな？



1871年
日本の使節団が欧米に出発する様子を示した資料
(教科書の資料を使用)

【めあて】

欧米に学んだ大久保利通らは、どのような国づくりをめざしていったのだろう。

2 一人一人が大久保らの政策について教科書や資料集を活用し、調べる。(教科書の資料を使用)

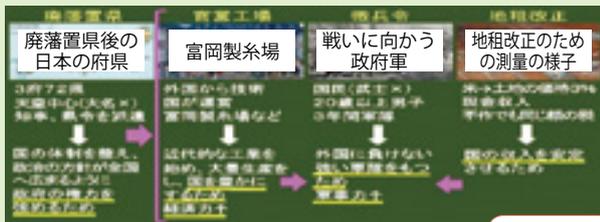
- 廃藩置県・殖産興業・地租改正・徴兵令について、その内容や意味をワークシートにまとめるよう促す。

廃藩置県後の日本の府県	富岡製糸場	戦いに向かう政府軍	地租改正のための測量の様子
内容	内容	内容	内容
目的	目的	目的	目的

- 座席が近い児童同士で情報の補完・修正をさせる。

3 学級全体で、整理した情報を基に考察する。

- 調べた事実を発表させるとともに、各政策が何のために行われたのか話し合わせる。



廃藩置県でなぜ政府の権力が強まるの？

県令が各地に派遣されたよね。



政府の方針を反映させやすくなるよね！

4 本時のまとめをし、一人一人が学習の振り返りをする。

- 「豊かな国」「強い軍隊」「外国に負けない」等のキーワードを基に、児童に本時のまとめを記述させるとともに、板書をして共有をさせる。

<まとめ>

つまり？

(学級全体)

大久保らは、天皇中心の政府をつくり、財政面でも豊かな国にするとともに、外国に負けない強い軍隊をもつ、近代国家にしようとした。

- 政府への不満があった人々も存在したことを伝えるとともに、本時のめあてを意識した振り返りをするよう促す。

大久保たちの政策は豊かで強い軍隊のある国を目指したけど、天皇中心の国づくりって、前に学習した聖徳太子の時代と共通点があることに驚いた。どのような人々が改革に不満をもち、何をしたのかも知りたい。(個人)

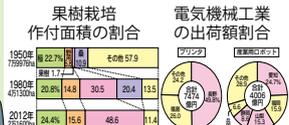
中学校 第2学年 日本の諸地域「中部地方」 【ねらい】

自然環境と産業やその変化の関連を話し合う活動を通して、現在の中央高地に見られる産業が成立した理由を理解できるようにする。

1 本時のめあてをつかむ。

- 資料を基に、中央高地が他と比べ、電気機械工業、果樹栽培の割合が高いことを確認させる。

単元の課題や前時の内容、今日の追究内容について確認しましょう。

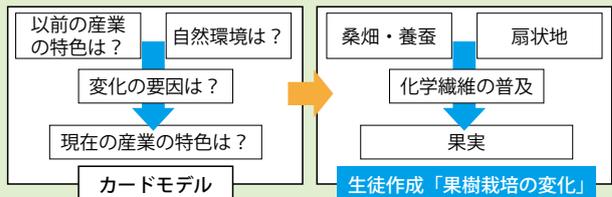


【めあて】

中央高地の産業は、なぜ、電気機械工業や野菜・果樹栽培が盛んになってきたのだろう。

2 一人一人が、諏訪湖周辺の工業地域や、甲府盆地の果樹栽培の変化、気候等に関わる資料から解決に必要な情報を集め、読み取る。

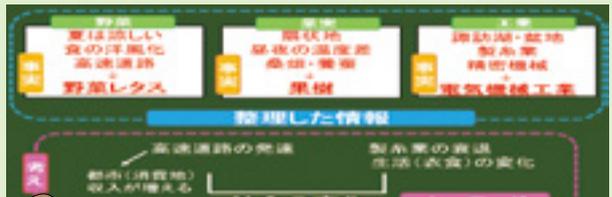
- 変化した産業や自然環境、その要因についてカードを活用し、整理するよう促す。



- 変化した産業、自然環境、要因について収集・整理した情報をペアで補完・修正させる。

3 学級全体で、整理した情報を基に、中央高地における産業が成立した理由を考察する。

- 産業、自然環境、要因について学級全体で共有させる。



何か共通点はあるかな？

どれも自然環境を生かしているよね。



4 本時のまとめをし、一人一人が学習の振り返りをする。

- キーワードや発言し合ったことを基に、生徒に本時のまとめを記述させるとともに、板書をして共有をさせる。

<まとめ>

つまり？

(学級全体)

人々の生活や社会が移り変わっても、変わらない自然環境を生かしたり、今までの技術を活用したりして、中央高地の産業が発展するように努めてきた。

- 本時のめあてを意識した振り返りをするよう促す。

社会が変化しても自然環境を生かし、今まで盛んだった養蚕の技術を活用できる新たな産業を見つけ、発展するように努めてきたのには感心したな。北陸の産業はどうなのかな？(個人)

2 単位時間のつくり方（「まとめる」過程）【例】

「まとめる」過程では、単元の課題に立ち返らせ、「追究する」過程の各単位時間の学習で習得してきた具体的な事実に関する知識を基に、自分の結論を導き表現させましょう。

【指導のポイント】

【「めあて」の設定】

- まとめ方など結論の整理の仕方を問いかける。
- <例>
- ◆「○○をして(使って)調べてきたことを結び付け、単元の課題の結論(答え)をまとめよう。」

【社会的事象を多面的・多角的に捉えるための図等での整理】

- 児童生徒の実態、学習内容や活動に適した枠組みや表し方等のモデルを提示する。
- <例>
- ◆ベン図
- ◆関係図（ピラミッド・クラゲチャート）
- ◆くま手・フィッシュボーン図 等
- ※「まとめる」過程のみの使用とは限らない。
- ※総合的な学習の時間「考えるための技法」を参照。

P162

【話し合う際】

- ホワイトボードやプレゼンテーション（ICTの活用）、ワークシート等、児童生徒の実態や学習内容に適した方法で可視化し伝えさせる。
- 【話す側の視点】

【単元全体の振り返り】

- 「概念等に関する知識」だけでなく、視点を示して、社会的事象のよさや価値を判断したり、自分との関わりとして考えさせたりする。
- <例>
- ◆「社会的事象について何を学んだか」
- ◆「どのように学んだか」
- ◆「社会生活でどのように生かすか（社会に参画する態度）」 等

基本的な流れ

1 本時のめあてをつかむ。

- 単元の課題や学習計画等を確認させる。
- 社会科の学習における本時の位置付けが、単元の結論を導く時間であることを確認させる。
- 各単位時間で解決してきたことを問いかける。

【めあて】

2 一人一人が、学習してきたことを基に単元の課題に対する結論を考える。

- 習得してきた「具体的な事実に関する知識」等の共通点や関係性を整理させる。
- 整理したことを基に、単元の課題に対する結論を表現させる。その際、文型や前時までの学習で共有したキーワード等も提示する。
- 一人一人が表現した単元の課題に対する結論の根拠を机間指導しながら問いかける。

3 学級全体で、単元の課題に対する結論を話し合う。

- 根拠を明確にししながら、一人一人が考えた結論を伝え合わせる。
- 伝え合った結論や根拠の妥当性、共通点や相違点を考えさせる。【聞く側の視点】

4 本時のまとめをし、一人一人が学習の振り返りをする。

（単元全体のまとめ・振り返りをする。）

- 単元の課題の結論について話し合ったことを基に、「分かったこと」「気付いたこと」を問いかける。
- 児童生徒の発言（結論や根拠等）を板書等で整理し、単元全体のまとめ（概念等に関する知識）を導く。

<単元のまとめ>

社会的事象に関する**概念等に関する知識**の習得

- 単元全体の学習を通しての振り返りをさせる。

単元全体の振り返り

(個人)

- 一人一人が振り返りをした内容を共有させる。
- 単元の課題を協働的に解決できたことや、多面的・多角的に考えられたこと、また、自分と社会との関わりについて考えられたこと等を称賛する。(学びの価値付け)

小学校 第6学年 「明治の国づくりを進めた人々」 【ねらい】

一人一人が作成した人物関係図の共通点を話し合う活動を通して、明治維新を進めた人物たちは、欧米から国を守るという思いをもち、日本の近代化を図る諸改革を行っていたことを理解できるようにする。

1 本時のめあてをつかむ。

- 「明治維新を進めた人々は、どのような思いや願いで国のしくみや社会を変えていったのだろう。」という単元の課題を確認させる。

今まで、どのようなことを学習してきましたか？



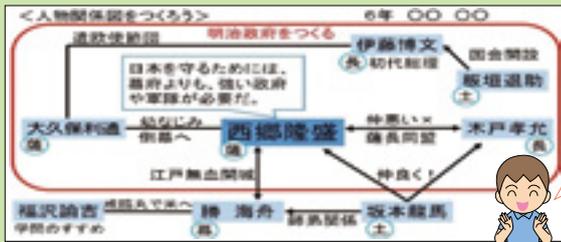
今日は単元の最後です。何をしますか？

【めあて】

学習してきたことを基に人物の関係を図に整理し、明治維新に関わった人々の思いや願いをまとめよう。

2 一人一人が中心となる人物を選び、人物関係図を作るとともに、単元の課題の結論を考える。

- 関係図の人物の枠に吹き出しを付け、選択した人物の思いや願いを表現させる。



西郷を中心にしたよ

3 学級全体で単元の課題に対する結論を話し合う。

- 各人物を中心として作成した人物関係図を黒板上に並べ、彼らの「思いや願い」の共通点を考えさせる。

木戸は新政府による豊かで強い国にしたいと願っていたよ。



西郷も幕府より強い政府と軍隊が必要と考えていたね。



勝海舟も幕府のこと以上に、日本の未来を考えていたしね。



活躍した人々は権力者でない若い人が多かったよね。

幕府の体制への不満は共通しているよね。



4 本時のまとめをし、一人一人が学習の振り返りをする。

- 児童の発言を基に単元の課題の結論を整理してまとめる。

結論を整理してみましょう。



<単元のまとめ>

(学級全体)

日本の未来を心配した若い武士たちが、日本を外国に支配されない豊かで強い国にしたいという思いや願いのもと、新政府をつくり、様々な改革に取り組んでいた。

- 「明治の国づくりを進めた人々」の単元の課題を意識した振り返りをするよう促す。

みんなの関係図の共通点を見つけたら、権力者でない若い武士が日本の未来を思い諸改革を進めたことが分かった。すごいエネルギーだし、明治維新があったからこそ、今の日本があるのではないかと感じた。(個人)

中学校 第2学年 日本の諸地域「中部地方」 【ねらい】

追究し整理した3つの地域の産業の特色の共通点を話し合う活動を通して、中部地方の産業は自然環境や昔からの技術の活用によって成り立っていることを理解できるようにする。

1 本時のめあてをつかむ。

- 「中部地方の産業は、どのような特色があるのだろう。」という単元の課題を確認させる。



単元の最後です。今日は何をしますか？

「単元の課題」の結論を考える時間です。



【めあて】

3つの地域の産業の共通点を話し合い、中部地方の産業の特色をまとめよう。

2 一人一人が学習してきたことを基に単元の課題の結論を考える。

- 各単位時間で捉えてきた具体的な事実に関する知識の共通点を問いかける。
- 導き出した共通点を基に単元の課題に対する結論を一人一人に表現させる。

【一人一人の結論】
私は、中部地方の産業の特色としては、どの地域も…

下線の共通点から考えてみたら…



【第1時のまとめ】
中部地方は、地形や気候から東海・中央高地・北陸という3つの地域に区分できる。

【第2時のまとめ】
東海の産業は、昔からの技術の応用や交通網の発達によって、自動車産業を中心に発展してきた。

【第3時のまとめ】
生活や社会が移り変わっても、変わらない自然環境を生かしたり、今までの技術を応用したりして産業が発展するように努めてきた。

【第4時のまとめ】
北陸の産業は、自然環境を生かした農業や加工産業、昔ながらの工芸品を生かした地場産業が盛んである。

関係図

3 学級全体で、単元の課題に対する結論を話し合う。

- 発表し合った一人一人の結論の共通点を多面的・多角的に比較させる。

中部地方の産業は、自然環境を生かしていると思うよ。

技術を応用するなど人々が努力して産業を発展させているよね。

そういえば、私の家には輪島塗りの茶碗があるよ。昔から伝わる技術を生かしているんだね。



4 本時のまとめをし、一人一人が学習の振り返りをする。

- 生徒の発言を基に単元の課題の結論を整理してまとめる。

<単元のまとめ>

(学級全体)

中部地方の産業は、自然環境を生かしたり、昔からの技術を活用したりする努力や工夫をして、農業や工業を行っているという特色がある。



- 「中部地方」の単元の課題を意識した振り返りをするよう促す。

3つの地域の産業の共通点を見つけたら、雪が多いなどの自然環境に対して、人々は工夫しながら産業を成り立たせていることが分かった。他の地域でも同じことが見られるのではないかと調べてみたいと思った。(個人)

2 単位時間の作り方（「まとめる」過程） 構想（選択・判断）が位置付く場合【例】

「社会的事象への理解を基に、社会とのよりよい関わり方や改善策について合理的に価値判断・意思決定することで、社会参画への意識や事象への関心を高めることができます。以下は1つの例です。

【指導のポイント】

【「めあて」の設定】

○対象や目的を意識して、めあてを設定する。
<例>

◆【自分と社会との関わり方】

「〜〜のために、〇〇を考えよう。」

◆【社会に対する改善策】

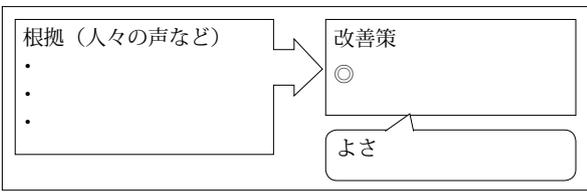
「〜〜に向けて、〇〇を提案しよう。」

※複数時間で実施する場合は、「単元の課題2」として設定する場合もある。

【根拠を明確にさせる際】

○学習してきた内容を想起できる資料やキーワード、問題に直面している人々の声や根拠を記述する学習プリントを提示する。

<例>



【話し合う際】

○ネームマグネットを用いたり、付箋紙を操作させたりするなどして、意見や立場を可視化して伝え合わせる。

○視点には次のようなものがある。

<例>

- | | |
|--------------|--------------|
| ◆様々な立場 | ◆妥当性 (実現可能性) |
| ◆順位性 | ◆貢献度 |
| ◆効率と公正 (中学校) | 等 |

【改善策について】

○提案する場合、可能であれば実際に関わりのある人々から、実現の可能性や妥当性等の評価を受けられるようにする。

【本時のまとめ】

○社会との関わり方や改善策について話し合ったことを通して、大切だと思ったことや気付いたことを学級全体で共有する。

基本的な流れ

1 本時のめあてをつかむ。

- 本単元で解決してきた単元の課題の結論を問いかける。
- 学習してきた社会的事象が抱える問題に関わる資料等を提示し、それが続いた際の社会について予測させる。
- 「自分にできること」「これから大切なこと」「優先すべきこと」等を問いかける。

【めあて】

2 一人一人が、社会との関わり方や改善策を考える。

【自分と社会との関わり方】

- これまでの自分の生活の在り方や習慣を問いかける。
- 社会との関わり方とその根拠をセットにして考えさせる。
※個人

【社会に対する改善策】

- 改善策のみでなく、提案する相手を明確に設定させる。
- 社会に対する改善策とその根拠をセットにして考えさせる。
※グループや学級全体

3 学級全体で、社会との関わり方や改善策を話し合う。

- 根拠を明確にしなが、社会との関わり方や改善策を伝え合わせる。
- 伝え合った社会との関わり方や改善策と根拠について、様々な視点で考えさせる。

4 本時のまとめをし、一人一人が学習の振り返りをする。

《学級やグループの意見や立場を決めたり、提案としてまとめたりする際は、ここで決める!》

- 社会との関わり方や改善策について話し合ったことを問いかける。

〈まとめ〉

(学級全体)

- 最終的な自分の意見や立場を再決定させるとともに、その理由を表現させる。
- 「社会的事象について何を学んだか」「どのように学んだか」「社会生活で学びをどのように生かすか(社会参画する態度)」等の視点に基づいて、学級全体の振り返りをさせる。

単位時間の振り返り

(個人)

小学校 第3学年 「火災から守る」 【ねらい】

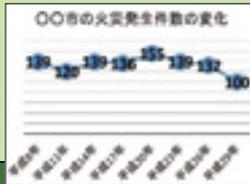
既習の公助や共助と自助の取組を基に、火災から生活を守る取組とその有効性を話し合う活動を通して、地域社会の一員として、防火に取り組む大切さについての理解を深め、その意欲を高められるようにする。

1 本時のめあてをつかむ。

- 公助や共助の取組内容や、自助の必要性を振り返らせるとともに、火災件数の資料を提示し、火災から自らの生活を守る取組を話し合うことを確認させる。



今よりも、火災の数を減らしたり、被害を減らしたりするために、自分にできることは何かな？



【めあて】

火災被害を減らすために自分にできる取組を考えよう。

2 一人一人が火災被害を減らすことにつながる取組と、その理由を考える。

- 複数考えた自分なりの取組の中から、有効性の高いものを1つ選択・判断し、その理由を学習プリントに記述するよう促す。

自分の考えを表現しよう。

次の3つをつかむ。

- ・ストーリー的に物を書かない。
- ・ひたひたにみんなに参加する。
- ・みんなが分かるように書く。
- ・ひたひたにみんなが分かるように書く。
- ・いっしょにみんなが分かるように書く。

「ひたひたにみんなが分かるように書く。」

「みんなが分かるように書く。」

「いっしょにみんなが分かるように書く。」

3 学級全体で、互いの取組のよさを話し合う。

- 発表された取組をカードに記述し、分類させる。
- 視点「効果が高い」「みんなができる」を提示し、生活経験を基に取組のよさを伝え合わせる。

みんな できる	こうか 高い	おこさないようにする
お火災も守る	お火災も守る	お火災も守る
大事なものを持っていく	大事なものを持っていく	大事なものを持っていく
水をためておく	水をためておく	水をためておく
おきた後 ぴがいを少なく	おきた後 ぴがいを少なく	おきた後 ぴがいを少なく
おきた前 にそなえる	おきた前 にそなえる	おきた前 にそなえる



火災が起こる前と後では、どちらの取組を大切にしたいの？

火災の原因をなくすことが大切だから、前だな。



あらかじめ備えたり、確認したりすることが必要だよ。

4 本時のまとめをし、一人一人が学習の振り返りをする。

- 話し合いを通して見いだした防火を行う上で大切なことを児童と一緒にまとめ、板書する。

<まとめ>

(学級全体)

つまり？

火災の被害を減らすために、〇〇市民として一人一人が責任をもって自分にできる事前の防火の取組を行う。

- 視点「学んだこと」「生かすこと」を提示し、よりよい社会に向け、自分にできる防火の取組を再決定させるとともに、単元の学習を通じた振り返りをするよう促す。

身の回りの人の公助や共助で自分たちの安全が守られていて、それがもっと効果的になるように自助が大切だと分かった。普段は防災のことは考えていなかったから、火の元の確認をしっかりしたい。(個人)

中学校 第3学年 「地方自治と私たち」 【ねらい】

地方自治への参画を想定したパブリックコメントを考える活動を通して、地方自治における意思決定が、「効率と公正」「実現の可能性」等の視点を基に、民意を反映させながら行われていることへの理解を深め、地方自治に関わってこうとする意欲を高められるようにする。

1 本時のめあてをつかむ。

- 地方自治や財政の仕組みと課題について振り返るとともに、地方自治に参画するパブリックコメントを提案するシミュレーションを確認させる。

あなたの声を市政に！

子どもが育つ街に…人が集まる街にしたい…

パブリックコメント制度による意見募集を行います

【めあて】

- 市を活性化するために、パブリックコメントを提案しよう。

2 一人一人が●●市の課題を確認し、市を活性化するためのパブリックコメントを考える。

- 市の主な条例・財政の状況・地域の課題について調べ、ワークシートにまとめるよう促す。
- 市の活性化のために有益だと思われることを考え、まとめさせる。

パブリックコメント①

パブリックコメント②

パブリックコメント③

パブリックコメント④

あなたの声を市政に！

パブリックコメント募集

より有益なコメントはどれだろう？

3 学級全体で意見を共有し、より有益なパブリックコメントを考察する。

- 根拠を基にパブリックコメントを発表させ、「効率と公正」「実現の可能性」の視点で有益さを評価させる。

魅力ある返礼品を開発して、ふるさと納税を増やして財政を健全化させよう

- 財源確保○
- 市のPR○
- 効率公正○



老若男女が集まる大きな公園を整備しよう

財源の確保は？
効率▲

公共交通機関の運賃を半額にして、お年寄りが市街地に来てもらえるようにしよう

若年層への配慮がない
公正▲

効率さは？
公正さは？
本当に有益？



4 本時のまとめをし、一人一人が学習の振り返りをする。

- 「効率と公正」「実現の可能性」を踏まえて、より●●市を活性化させるパブリックコメントを再決定させる。

<まとめ (再決定コメント例) >

(学級全体)

特産物を使用した返礼品を多く開発し、ふるさと納税を多く集めることで、市の財政を街の開発に充てる。

- 地方自治へ関わろうとする姿勢 (社会に参画する態度) について、単元の学習を通じた振り返りをするよう促す。

自分なりに意見を考え、主張していくことが地方自治を進める上で大切なことであることに気付くことができた。もっと地方自治のことを知りたいと思った。(個人)

3 学習過程と教科書との関連

社会科の教科書は、課題を解決する過程に沿って構成され、「追究する」過程で扱うページは単位時間ごとに見開きで示される傾向が見られます。これらのことを踏まえ、単位時間のねらいや学習活動に応じて、効果的に教科書の資料や記述内容などを活用しましょう。

過程	活用例について
つかむ	<ul style="list-style-type: none"> 教科書の単元の課題（学習の問題など）を確認するとともに、例示されている問いかけの順序等を参考にして課題を立てるまでの展開を考える。 【資料】・・・児童生徒が、社会的事象に対して生活経験を想起したり、社会的事象を比較して疑問点や調べたいことを考えたりできるように提示の仕方を工夫する。
追究する	<ul style="list-style-type: none"> 単位時間ごとに習得させたい具体的な事実に関する知識を明確にし、単位時間ごとのめあてや学習活動を考える。 聞き取り調査を設定する際、調査の方法や視点、留意事項についての記述内容を参考にさせる。 【資料】・・・教師が説明すること、児童生徒に読み取らせたいことや考えさせたいことを明確にする。（複数の資料を比較・関連させることも大切）また、資料が複数ある場合は、その並びや順序の意図を考え、展開に反映する。
まとめる	<ul style="list-style-type: none"> 単元の課題をまとめる際の表現方法や活動が例示されていることが多い。（例：白地図、年表、新聞での表現、討論等）単元の学習に入る前に参考にし、「まとめる」過程での学習活動をイメージする。



4 学習活動を行う場合に生じる困難さに応じた指導の工夫【例】

困難さ	指導の工夫
社会的事象等への興味・関心をもつことが難しい場合	<ul style="list-style-type: none"> 社会の営み（動き）と身近な生活がつながっていることを実感できるように、特別活動等との関連付けを図った体験活動を取り入れる。その際、見通しをもって安心して活動できるように順序等を説明する。
社会的事象等への興味・関心をもつことが難しい場合	<ul style="list-style-type: none"> 疑問をもったり、予想の手がかりを得られったりするよう、社会的事象の様子が分かる資料を焦点化して示すなど工夫をする。また、手がかりになる事象に関する事実をカード等に整理したり、順序を工夫したりして提示する。
社会的事象に関わる事実気付くことが難しい場合	<ul style="list-style-type: none"> 社会的事象等に関わる事実を読み取りやすくするために、地図等の情報を拡大したり、範囲を限定したりして、掲載されている情報を精選し、視点を明確にして提示する。
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>田 家や店</p> <p>畑 工場</p> <p>くわ畑 公共施設</p> </div> <div style="border: 1px solid blue; border-radius: 15px; padding: 5px; margin-top: 10px; color: blue;"> <p>色を付け、土地利用の変化に視点を向けられるよう工夫しています。</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> 色を付け、土地利用の変化に視点を向けられるよう工夫しています。
情報を基に考察したり、まとめたりすることが難しい場合	<ul style="list-style-type: none"> 着目すべき視点からまとめられるよう、見本（記述例、使用例）や手がかりが記入されているワークシートを作成し、活用させる。

5 情報活用能力の育成

社会科の学習における情報とは・・・社会的事象に関する事実等

〈例〉人々の工夫や努力、自然環境や位置関係、歴史上の時期や出来事、政治の仕組み、人々の思いや願い、考え方など

情報の収集

手段を考えさせる

◆各種資料から

- ・地図帳、地球儀 ・統計 ・年表
- ・新聞 ・図書、文書 ・動静画
- ・HP 等

◆施設から

- ・博物館
- ・図書館
- ・郷土資料館 等

◆調査活動から

- ・現地や実物の観察・遺跡や文化財
- ・聞き取りやアンケート

※収集は時間がかかる。教師が資料を精選したり、情報を収集する活動を段階を踏んで取り入れたりする。

基本的な操作〈例〉

○情報を収集する学習
⇒調査活動等の内容を記録するためのタブレット端末やデジタルカメラ、ICレコーダーなどの操作
⇒事象について調べる際、情報通信ネットワークを使ったインターネットの閲覧

○情報を整理・比較する学習
⇒プレゼンテーションソフトウェアでの資料作成
⇒雨温図などに整理する際、表計算ソフトを用いて数値情報をグラフに転換

情報の発信・伝達

自分と社会とのつながりを意識させる

- ・新しく知ったり、捉え直したりした社会的事象に関する事実
- ・事象についての思いや願い、考え方

◆構想（選択・判断）をする単元の場合
対象：各関係機関や従事する人々、市役所 等

問題解決における情報活用

情報の整理・比較

社会的な見方・考え方に沿って読み取らせる

◆位置や空間的な広がり
位置、分布、地形、環境、気候、範囲、社会的条件 等

◆時期や時間の経過、推移の視点
時代、起源、由来、背景、変化、発展、継承、向上、計画、持続可能性 等

◆事象や人々の相互の関係、政治、法、経済の視点
工夫、努力、願い、つながり、協力、連携、対策、役割、多様性と共生 等

※実態に応じて、統計の単位や比率等、作成目的や時期、作成者、出典の読み取りを指導する。

※社会的な見方・考え方は、「課題を見いだす」「考察する」等、様々な場面で働かせる。

読み取った情報を課題解決に向けてまとめさせる

◆基礎資料として
・雨温図、交通図、土地利用図、人口分布図などに整理する。

◆分類・整理して
・ノート等・・・事実を項目や内容ごと ・年表等・・・順序や因果関係
・白地図等・・・位置や方位、範囲等 ・図等(思考ツール)・相互関係等

◆情報の受け手を考えて
・効果的な形式やレイアウトの工夫をする。

※情報をまとめた後、課題を解決するために思考、判断したことを表現させる。

情報モラル・セキュリティ

◆関連する主な学習内容

小学校 第5学年 : 我が国の産業と情報の関わり

中学校 地理的分野: C 日本の様々な地域 (2) 日本の地域的特色と地域区分
④ 交通・通信

公民的分野: A 私たちと現代社会 (1) 私たちが生きる現代社会と文化の特色

6 地域の人材や物的資源の活用

各学校では、学習内容及び学校や地域の実態に合わせた調査活動、現場学習等が計画的に実施されていると思いますが、以下に例として示す地域の人材や物的資源も積極的に活用していきましょう。

学習指導要領の内容	関係施設や団体等	実施可能内容
<ul style="list-style-type: none"> ・飲料水を供給する事業〔小4〕 ・自然災害や防災教育〔小4・5〕 ・地理的分野（中学）等 	利根川ダム統合管理事務所 027-251-2021（代表）	防災拠点・利根川ダム資料室の見学 学習用パンフレットのダウンロード http://www.ktr.mlit.go.jp/tonedamu
<ul style="list-style-type: none"> ・市の移り変わり （生活の中で使用する道具）〔小3〕 ・我が国の歴史上の主な事象〔小6〕 ・歴史的分野〔中学〕等 	群馬県生活文化スポーツ部 文化振興課 東国文化推進室東国文化係 027-226-2525	学識経験者である「東国文化ハカセ」による 出張授業 「東国文化副読本」を中学1年生に提供 等
	群馬県立歴史博物館 027-346-5522	展示見学 体験学習（火おこし・浮世絵） 展示学習プログラムの提供 等
	群馬県埋蔵文化財調査事業団 （発掘情報館） 0279-52-2513	資料展示見学 資料貸出（出土資料・レプリカ等） 体験学習（火おこし、勾玉、土器）等
	群馬県教育委員会 文書館 027-221-2346	施設見学や史料解説 歴史学習・地域調査学習における歴史資料に ついての相談、史料提供 等
<ul style="list-style-type: none"> ・我が国の政治の働き〔小6〕 ・公民的分野〔中学〕等  <div style="border: 1px solid blue; padding: 5px; width: fit-content; margin-top: 10px;"> 社会科は主権者教育の重要な役割を担う教科です。 </div> 	「群馬県法教育推進協議会」のホームページに、多くの関係機関・団体の「法教育の取組一覧」を掲載（☆は一例）	
	☆前橋地方裁判所 027-231-4275（代表）	「出前授業」模擬裁判の実施 裁判官等の派遣 法廷見学、裁判傍聴 等
	☆前橋地方検察庁 027-235-7800(代表)	「出前授業」補助教材を使用 検察官、検察事務官の派遣 等
	☆群馬弁護士会 027-233-4804	「出前授業」刑事手続きの流れの説明、模擬 裁判の実施 等
	☆群馬県選挙管理委員会 027-226-2218	「出前授業」模擬選挙や選挙講座の実施 等
	群馬県租税教育推進協議会 前橋税務署 税務広報広聴官 027-224-4371(代表)	「出前授業」租税教室の実施 ※租税教育用副教材は県ホームページから 「租税教育」で検索
財務省関東財務局 前橋財務事務所総務課企画係 027-896-2907	日本の財政の現状と課題、金融の仕組み（金 融知識、金融犯罪等）などについて講義形式 の出前授業	
<ul style="list-style-type: none"> ・全般的に関わること 	群馬県NIE推進協議会 事務局：上毛新聞社編集局 027-254-9933（代表）	新聞の活用や新聞づくりについて、さまざま な視点から専門家が児童生徒にアドバイス 各新聞社との調整可

上記の他にも、次の学習において活用することができます。

- ・食料生産 …… 地域の農家やJA（農業協同組合）の方 → 仕事をする際の工夫や努力を調査。
- ・産業と情報 …… 放送や新聞づくりに携わる方 → 情報産業と国民生活との関連について調査。
- ・工業生産 …… 自動車企業 → 最先端の電気自動車やハイブリッドカー、福祉車両等の実物体験。
- ・歴史（室町） …… 伝統文化の継承者 → 茶の湯や生け花、能や狂言などの体験。
（昭和） …… 戦争を体験された方 → 戦争時の様子や思いについての話を聞く。 等

算数・数学

Arithmetic・Mathematics

算数・数学科は、数量や図形などについての基礎的・基本的な知識及び技能を確実に習得し、これらを活用して事象を論理的、統合的・発展的に考える力、簡潔・明瞭・的確に表現する力を育む中で、数学的活動の楽しさや数学のよさに気づき、学んだことを日常生活や学習に生かそうとする態度を一体的に養う教科です。

そのためには、児童生徒が、系統的に構成されている内容を関連付け、新しい知識及び技能や考え方を生み出せるよう、既習の知識及び技能とのつながりを意識した単元や単位時間の授業を構想することが大切です。

【算数・数学科のページで使用されている用語解説】

問 い	問題や問題場面から見いだされる児童生徒の素朴な疑問や気づきのこと。児童生徒からのいくつかの問いを組み合わせながら学習内容を明確にし、「めあて」につなげていく。
数学的な表現	言葉や図、数、式、表、グラフなどを用いた表現のこと。目的に応じて適切な表現を選択したり、複数の表現を関連付けたりして示すこと。
数学的活動	事象を数理的に捉え、算数・数学の問題を見だし、問題を自立的、協働的に解決する過程を遂行すること。
統合的・発展的に考える	統合的に考える：異なる複数の事柄をある観点から捉え、共通点を見いだして一つのものとして捉え直すこと。 発展的に考える：考察の範囲を広げていくことで新しい知識や理解を得ようとする事。

1 単元のつくり方

算数、数学科は、第1章の2で示すBパターンの単元の構想が多くなります。「であう」過程では、日常生活や社会の事象、数学の事象から問題を見だし、単元の課題を立て、「追究する」過程では、必要性を感じながら本時の問いを解決し、新たな知識及び技能を習得していきます。「つかう」過程では、各単位時間で習得した知識及び技能を活用して問題を解決するとともに、日常生活と数学のつながりを意識できるようにします。

主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善のポイント

○であった問題を数学的に表現されたものとして捉えることができるよう、日常生活や社会の事象を理想化・単純化する。

○単元の課題を立てられるよう、新たな学習内容について話し合ったことを整理・分析する。

○本時の問いを見いだせるよう、前時の学習内容や適用問題などと本時の学習で扱う内容とを比較させる。

○本時の問いを基に、既習内容を意識しためあてを設定する。

○「何をどのように学んだのか」を確認できるよう、解決方法の根拠とそのよさを話し合う場を設定する。

○単位時間ごとに習得する知識及び技能をまとめる。

○学びの連続性を意識できるように、次時の学習へつながる問いかけをする。

○「何ができるようになったのか」を確認できるよう、単元の学習内容が総合的に含まれる問題を提示する。

○「何をどのように学んだのか」について理解を深められるよう、簡潔・明瞭・的確に説明し合う場面を設定する。

○単元全体の振り返りでは、「分かったこと」などが、日常生活や社会の中で生かされている場面に気付かせる。

重要：単元・単位時間のすべてに関わること

○算数、数学の問題の解決では、単に解答を出すだけでなく、自分が解決した過程を振り返り確認することが大切です。

過程と基本的な学習活動

1 新たな学習内容にふれ、単元の課題を立てる。

◇日常生活や社会の事象、数学の事象から算数・数学の問題にであうとともに、既習の知識及び技能、経験を基に解決する。

◇新たな学習内容と関連する既習の知識及び技能との共通点や相違点を見だし、もっと知りたいことや考えてみたいことなどを話し合う。

【単元の課題】
〈単元の学習で追究していく問い〉

であう

2 単位時間の基本的な学習過程を通して「本時の問い」を解決する。

単位時間の基本的な流れ

本時の問い

①学習を把握し、めあてを設定する。

②めあてを追究する。

(1)個別に追究し、考えを全体で共有する。

(2)考えを深める。

③学習をまとめる。

知識及び技能の習得

④学習の振り返りとして、適用問題に取り組む。

追究する

単位時間の基本的な流れ

①学習を把握し、めあてを設定する。

⋮

③学習をまとめる。

知識及び技能の習得

④学習の振り返りとして、適用問題に取り組む。

3 単元で学んだことを活用する。

◇習得してきた知識及び技能を活用し、総合的な問題を解決する。

◇解決方法やその根拠、よさなどを数学的な表現を用いて説明し合う。

◇単元全体の学習を振り返り、日常生活と数学とのつながりを考える。

単元全体の振り返り

つかう

小学校 第4学年 「面積」(全7時間計画)

【目標】

正方形や長方形、複合図形の面積の求め方を考える活動を通して、面積の単位を知り、正方形や長方形の計算による求め方を理解するとともに、それらを身の回りの生活や学習に活用できるようにする。

1 新たな学習内容にふれ、単元の課題を立てる。

◇陣取りゲームを通して、広さの比べ方を考える。 **第1時**

これまでの学習で似たようなことはありませんでしたか？

長さを数ブロックの幾つ分で比べました。

同じように、正方形や長方形の数で比べられるかな。

今度の学習には、形や単位の学習内容やそのときの学び方が使えそうですね。

◇広さについて考えていくという単元の課題を立てる。

基になる正方形の大きさが違えば比べられないよ... もっと分かりやすい比べ方はないのかな？

長さやかさのときは、cmやdLなどにそろえて比べたな。

同じように、広さも足したり引いたりできるのかな？

広さにも基にする単位があるのかな？

【単元の課題】

・広さも長さやかさと同じように、比べたり計算したりできるのだろうか？

2 単位時間の基本的な学習過程を通して「本時の問い」を解決する。

◇単位時間ごとに本時の問いを見だし、解決する。

第2時 広さの表し方は？

第3時 長方形、正方形の面積の簡単な求め方は？

第4時 L字型の面積の求め方は？

第5時 広い面積の表し方は？

第6時 もっと広い面積の表し方は？

3 単元で学んだことを活用する。

◇長方形、正方形の面積の求め方を基に、直角三角形の面積を求める。

L字型の面積を求めたときのように、面積が計算できる形に直せばいいと思うよ。

正方形+長方形、正方形、長方形、大きな長方形

$3 \times 4 = 12$
 $2 \times 2 = 4$
 $12 + 4 = 16$

$4 \times 4 = 16$

$2 \times 6 = 12$

$4 \times 6 = 24$
 $32 + 2 = 36$

◇本単元の学習を振り返る。

L字型の面積も、直角三角形の面積も正方形や長方形に直せば計算で求められることが分かったよ。直角ではない三角形や平行四辺形の面積も同じように求められる形に直して計算すれば求められると思う。

中学校 第1学年 「文字と式」(全15時間計画)

【目標】

文字式と具体的な場面を関連付けて考える活動を通して、文字を用いて数量の関係や法則などを式に表現したり、式の意味を読み取ったりするとともに、文字を用いた式の計算ができるようにする。

1 新たな学習内容にふれ、単元の課題を立てる。

◇正方形の数から全体のマッチ棒の数を考える。 **第1時**

正方形の数が1、2、3個のとき、マッチ棒の数が4、7、10本になります。

規則性がありそうです。表にしてみよう。

正方形の数	1	2	3	4	5	...
マッチ棒の数	4	7	10	13	16	...

これまでの学習で似たようなことはありませんでしたか？

小学校でも□やxを使って表しました。

3本ずつ増えているから□番目のマッチ棒の数は $4+3 \times (\square-1)$ となります。

今度の学習は、図形や規則性の学習の時の学び方を使い、文字を使った計算の仕組みを学習していくのですね。

文字も計算できるのかな？

文字を使うと他に何ができるのかな？どんなよさがあるのだろうか？

【単元の課題】

・文字を含んだ式も数と同じように、計算できるだろうか？

2 単位時間の基本的な学習過程を通して「本時の問い」を解決する。

◇単位時間ごとに本時の問いを見だし、解決する。

第2時 文字を使った式とは何を表しているのだろうか？

第3時 いろいろな数量を文字式で表せるのだろうか？

第4時 文字式はどのように計算するのだろうか？

3 単元で学んだことを活用する。

◇文字式を利用して、いろいろな事柄を説明する。

第12時

全体の個数を表す式は

① $4(n-1)$
② $2n+2(n-2)$
③ $4n-4$

式の形からどのように数えたかが分かります。

◇文字を使った二つの数量の大小関係(等式を含む)を表す式について考える。

第14時

次の式は、どのような関係を表している？

① $2(x+y) = 26$
② $xy \leq 40$

文字を使って表すと二つの数量の関係もすっきり表現できます。

◇章末問題に取り組み、本単元の学習を振り返る。

文字や文字式を使うと、数量やその関係を簡単に表すことができます。計算ができるというのも便利です。公式として考えることもできました。

2 単位時間のつくり方（「であう」過程）【例】

「であう」過程では、日常生活や社会の事象、数学の事象を数理的に捉え、算数・数学の問題を見いだすことが大切です。既習の知識及び技能では解決できない内容を提示したり、そこから問題を発見する場面を設定したりして新たな学習内容にふれ、課題を追究する必要性を感じ取らせましょう。内容によっては、「であう」過程を短時間で終え、「追究する」過程に進むことも考えられます。

【指導のポイント】

【「であう」過程でのめあて】

- 教科書にある単元名等を利用し、めあてとしてもよい。
<例>
- ◆小学校「広さの比べ方について調べよう。」
- ◆中学校「ともなって変化する数量について、数量の求め方を調べよう。」等

【既習の知識及び技能、経験の確認】

- 複雑であっても時間をかけて挑戦させる。
- 既習の知識及び技能で解決することが困難なことを学級全体で共有できるように、児童生徒のつづやきを取り上げる。
- 児童生徒の感性を大切にできるように、経験から、感覚的に解決できたことでも取り上げる。
- 本単元の学習のポイントとなる考え方に着目できるように、児童生徒の発表に対して問い返す。

【新たな学習内容の必要性を感じる工夫】

- 新しい学習内容に取り組む必要性に気付けるよう、既習の知識及び技能で解決することの大変さや困り感を再確認させる。
- <例>
- ・小数では単位量を基にして考えたな。
- ・広さも長さと同じように基にする量があれば比べられそう。
- ・比例ではグラフが原点を通ったけど、今回は通らなそうだ。

【単元の課題について】

- 既習の同じ領域等の内容を基に、「同じようにできないか。」「簡単にできないか。」などを視点に考え、単元に関わる問いを見いだす。

基本的な流れ

1 新たな学習内容に触れ、めあてを設定する。

- 新たな学習に関する場面や問題などを提示する。
- 本時のめあてを確認させる。

【めあて】

2 既習の知識及び技能、経験を基に解決する。

- 教科書の扉絵等、本単元の学習に関する問題に取り組ませる。
- 関連した既習の知識及び技能、経験を基に、自分なりに問題を表現し、解決させる。
- ※なお、既習の知識及び技能については、どこまで身に付いているのかについて確認する時間を設定してもよい。
- 解決方法や考え方を説明し合わせる。
- 本単元の学習のポイントとなる考え方を確認させる。

3 新たな学習内容と関連する既習内容との共通点や相違点を見いだす。

- 既習の知識及び技能を振り返らせたり、ポイントとなる考え方を再確認させたりする。
- これまでの学習と「似ているところは？」「違うところは？」などと問いかける。

4 本時を振り返り、単元の課題を立てる。

- 新たな疑問やさらに知りたいことなどを、ノートやワークシートに書くよう促す。
- 新たな疑問やさらに知りたいことなどを整理・分類させる。
- 整理・分類したことと単元の学習内容との関連を考えるよう促し、単元の課題としてまとめる。

【単元の課題】

<単元の学習で追究していく問い>

※小学校の低学年などでは、初めてその領域の学習をすることが考えられます。そのような場合についても、幼児期の遊びや生活の中で数量や図形などに親しんだ体験を共有することによって、数や形の捉え方などの学び方を確認することができます。

小学校 第4学年 「面積」

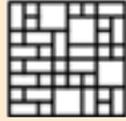
【ねらい】

陣取りゲームを通して、長さやかさの学習と関連付けて広さの比べ方を考え、本単元の学習で追究していく問いを見いだすことができるようにする。

1 新たな学習内容に触れ、めあてを設定する。

【問題場面】

陣取りゲームで広さ比べをします。



じゃんけんに勝った人が、4つのかどから隣り合ったマスを取れば、広さを比べます。

大きいマスを取れば広くなりそう！

実際にゲームをする



4人の取ったマスは、このような広さになったそうです。



㊦が一番広そうだな。

㊩は狭いかな。

㊨はでっぱっているところが大きいから広いと思う。

【めあて】

陣取りゲームで広さ比べをすることを通して、広さの比べ方について考えよう。

2 既習の知識及び技能、経験を基に解決する。



広さを比べる方法や考え方を説明できるでしょうか。



4つを切り取り、重ねて、はみ出たところを比べる。



でこぼこが違うから重ねても分からないと思う。



小さい正方形や長方形、少し大きい正方形がそれぞれいくつあるか数えてみる。

線を付け足し、全部小さい正方形にすればいいと思うけど…



それぞれの方法で広さを比べてみる

なぜ、小さいマスにしたら、比べられたのでしょうか？

3 新たな学習内容と関連する既習の内容との共通点や相違点を見いだす。



これまでの学習で、「似ている考え方」はありましたか？

長さやかさのときに、1cmや1Lを決めました。

今度の学習には、単位の学習のときの学び方が使えそうですね。

4 本時を振り返り、単元の課題を立てる。

広さにも基にする単位はあるのかな？



長さのように計算もできるのかな？

【単元の課題】

・広さも長さやかさと同じように、比べたり計算したりできるのだろうか？

中学校 第1学年 「文字と式」

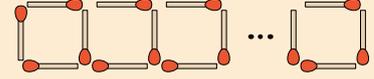
【ねらい】

正方形の数とマッチ棒の数の関係を式に表す方法を考える活動を通して、本単元の学習で追究していく問いを見いだすことができるようにする。

1 新たな学習内容に触れ、めあてを設定する。

【問題場面】

図のようにマッチ棒で正方形をつかっていきます。



正方形の数が1、2、3個のとき、マッチ棒の数はそれぞれいくつですか？

マッチ棒の数は4、7、10本になります。



正方形の数を増やし、10個作るとしたら、マッチ棒はいくつ必要でしょうか？

10個までかいてみればわかる。



かかなくても、3本ずつ増えているから、計算で求められそう。

正方形の4辺を基にすれば求められそう。

【めあて】

ともなって変化する数量について、数量の求め方を調べよう。

2 既習の知識及び技能、経験を基に解決する。



では、正方形が10個のとき、どのように求められるでしょうか？

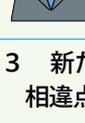


最初に左の1本を置いて、コの字に3本ずつ10個置くから3×10の30本を足せばいい。

正方形は4辺なので10×4の40本。となりと重なっているところが9本あるからそれを引けばいい。



上に10本、下にも10本、縦に並んでいるのが11本。それを足せばいい。



図にかかなくても求められたのはどうしてでしょうか？正方形の数が増えなくても求められますか？

3 新たな学習内容と関連する既習の内容との共通点や相違点を見いだす。



正方形の数が増えたり、減ったりして変わりますが、同じような考え方を使ったことはあったでしょうか？

□やxを使って式にしました。



今度の学習は、文字を使った式の仕組みの学習になりそうですね。

4 本時を振り返り、単元の課題を立てる。

いろいろな式ができてもいいのかな？



数と同じように1つの答えにできるのかな？

【単元の課題】

・文字を含んだ式も数と同じように、計算できるだろうか？

2 単位時間のつくり方（「追究する」過程）【例】

「追究する」過程では、単位時間ごとに問いを見いださせ、新たな計算のきまりや図形の性質等を導く、問題解決的な学習を行います。また、適用問題に取り組むことを通して、習得した知識及び技能のよさを実感できるようにしましょう。

【指導のポイント】

【問いを生み出すための発問の工夫】

○素朴な疑問や気付きを表出できるよう、どの児童生徒でも答えられる問いかけから始める。
 <例> 「どのような形が見えますか？」
 「すぐに計算できそうですか？」等

【個別に追究する場面】

○個別に追究する場面は、個々の児童生徒がどのように考えているのかを見とることに重点をおく。また、考えを深める場面での学習を充実させるために、短時間での活動とする。

【全体共有するための工夫】

○「区切る」「つなぐ」「他者の考えを説明させる」等の問いかけを効果的に扱う。

T：どのように面積を求めましたか。
 S： $5 \times 6 = 30$ $2 \times 3 = 6$
 T：続きがわかりますか？（**区切る**）
 S： $30 - 6 = 24$ です。
 S：そういうことか！
 T：どんな考えか、説明できますか？（**つなぐ**）
 S：まず、大きい長方形にして考えます。
 そのあと、欠けている部分を引きます。
 T：もう一度説明できますか？（**説明させる**）
 S：ここに大きい長方形があつて…（省略）

【比較・検討する際の発問（視点）】

<例>
 共通点は何でしょう？
 どんなよさ（特徴）がありますか？



【適用問題と練習問題】

○適用問題：児童生徒が本時の学習内容を再現しながら、解決できるような問題のこと。
 ○練習問題：まとめを利用して、知識及び技能の定着を図るような問題のこと。

基本的な流れ

1 学習を把握し、めあてを設定する。

- 児童生徒の視点から、問題や問題場面にかかわる問いを見いださせる。
- 活用できそうな既習の知識及び技能、考え方はないか問いかける。
- 本時の学習の方向を焦点化したものを「めあて」として設定する。

【めあて】

- 既習事項と関連付けさせながら解決方法や結果の見通しをもたせる。

2 めあてを追究する。

- (1) 個別に追究し、解決方法や結果を全体で共有する。
 （**個別の追究（時間：少）**）
- 問題の解決方法や結果を数学的な表現で示させる。
 - 個別に追究した解決方法や結果を発表させる。

(2) 考えを深める。【時間：多】

- 共有したことを比較・検討させる。

<比較・検討させる際の視点>

- 解決方法の根拠やよさ
- 解決方法の関連性や共通性
- 解決方法の一般性（他でも使える） など

- ねらい**につなげたり、**学び方**を確認したりできる数学的な表現を引き出す。

3 学習をまとめる。

- 全体共有したことを基に、新たに分かったことやできるようになったことについて整理し、まとめる。

【まとめ】

本時の学習を通して、習得すべき知識及び技能

4 学習の振り返りとして、適用問題に取り組む。

- 本時の学習で最も重要視した思考過程を生かした適用問題に取り組ませる。
- 学びの自覚をさせ、新たな疑問を引き出す問い返しをする。【**学びの実感**】
- 適用問題の後に練習問題に取り組ませる。

【学びの定着】

※1人1人の学びを言葉に表したり、本時の学習を通して見いだされた新たな問いを話し合ったりして次に解決すべきことを確認することもある。

小学校 第5学年 「図形の角の大きさ」

【ねらい】

四角形の内角の和を三角形に分けて考える活動を通して、四角形の内角の和の求め方を説明できるようにする。

1 学習を把握し、めあてを設定する。

【問題】

三角定規を組み合わせてできる四角形の内角の和を調べてみよう。

どのような四角形ができますか？

三角定規の組み合わせだから360°です。

左の四角形の4つの角度を全部足し合わせると何度になりますか？

直角がなくなったけど？

三角形の内容は使えそうだ。

【めあて】

三角形の内角の和と同じように四角形でも内角の和はいつでも決まった数(360°)になるのだろうか？

● 解決の見通しをもつ。

それぞれの角度を求める必要がありますか？

四角形を三角形にして考えると…

三角形の3つの角の和が180°だから

2 めあてを追究する。

(1) 個別に追究し、考えを全体で共有する。

(ア)と(イ)は対角線を1本引くと三角形が二つできるから $180^\circ \times 2 = 360^\circ$ です。

(ウ)は対角線を2本引くと三角形が四つできるから $180^\circ \times 4 = 720^\circ$ です。

(2) 考えを深める。

● 三つの考えを図や式の違いに着目して比較・検討する。

(ウ)は真ん中の余分な角を足していると思います。

どれも三角形を基にして考えているね。

四角形の形が変わっても大丈夫そうですか？

3 学習をまとめる。

【まとめ】

- どんな四角形でも、内角の和は360°になる。
- 三角形に分けて考えれば求められる。
- 余計な角は引く。

4 学習を振り返り、適用問題に取り組む。

【適用問題】

この図のように考えると四角形の内角の和は $180^\circ \times 3 - 180^\circ$ になる。その理由を図を使って説明しよう。

五角形の場合も同じように説明できるか1人で考えてみよう！

中学校 第1学年 「文字と式」

【ねらい】

同類項をまとめる方法が成り立つ理由を図に表して考える活動を通して、計算の仕方を説明できるようにする。

1 学習を把握し、めあてを設定する。

【問題】

$$3x + 4x$$

答えはいくつになると思いますか？

7x? 7x²?

整数の時はどう考えたのかな？

【めあて】

数の計算と同じようにxの入った計算ができないだろうか？

● 解決の見通しをもつ。

3xや4xを具体的に表すとどうなりますか？

x円のリンゴを3個買った代金が3xと表せたと思います。

縦がx、横が3の長方形の面積も3xと表せたと思います。

それぞれの場面で $3x + 4x$ は何を表すのでしょうか？計算できるのか考えてみましょう。

2 めあてを追究する。

(1) 個別に追究し、考えを全体で共有する。

$$3x + 4x = 7x$$

縦が同じなので、一つの長方形になって7xです！

$x + x + x + x + x + x + x = 7 \times x$

リンゴで考えても、x円のリンゴが7個になるので7xです！xがいくつあるかだから、2乗にはならないです。

(2) 考えを深める。

● $3x + 4x$ の解決方法を基に $3x + 5 + 4x + 2$ の解決方法を考え、それぞれを比較・検討する。

では、 $3x + 5 + 4x + 2$ はどうなると思いますか？

14x? 7x+7?

3x 5

そうか！値段のはっきりしないx円とはっきりしている5円も足せないと思います。

2つの長方形の縦の長さが違うので、きれいにつなげられないから1つにまとめることはできません。

まとめられるかどうかは、どこで判断すればよいでしょう？

3 学習をまとめる。

【まとめ】

- xの項同士でまとめることができる。
- xの項と数だけの項はまとめられない。
- 同じ項同士(同類項)でまとめられる。(適用問題の後に付け加え)

4 学習を振り返り、適用問題に取り組む。

【適用問題】 $3x + 5y + 2x$ を面積図に表してみよう。

【練習問題】 ① $7x - 5x$ ③ $\frac{1}{2}y - \frac{1}{3}y$
② $3a + 5 - a - 5$

同類項なら足せることが分かったけど、かけ算も係数同士をかければ求められるのかな？

2 単位時間のつくり方（「つかう」過程）【例】

「つかう」過程では、単元を通して習得した知識及び技能や、思考力、判断力、表現力等を活用して、単元の学習内容が総合的に含まれる問題や日常生活から見いだされる問題を解決したり、その解決の過程を説明し合ったりする学習を設定しましょう。

【指導のポイント】

【習得してきた知識及び技能の確認】

○児童生徒の発言を基に板書して可視化したり、今までの作成物などを活用したりする。

【「つかう」過程での問題】

○単元を通して習得した知識及び技能や、思考力、判断力、表現力等を活用している児童生徒の姿を具体的にイメージすることが重要。

【めあての追究】

○習得した知識及び技能を選択・活用するなど、児童生徒の総合力を試させる。
※習熟の程度に応じて、コース別に問題に取り組ませるなどの工夫を行う。
○児童生徒が「追究する」過程で身に付けてきたことを総合的に発揮できるよう、個別に追究する時間を十分確保する。

【考えを深める】

○児童生徒の実態や発達段階に応じて、自分と他者の考えを言葉や図、数、式、表、グラフなど数学的な表現を用いて比較することの習慣化を図る。

【「つかう」過程での振り返りの視点】

○問題解決をする際に大切な考え方に焦点を当てられるよう、今まで学習してきた単元と「共通していることはないか」「同じとみることはできないか」など問いかける。

基本的な流れ

1 学習を把握し、めあてを設定する。

- 単元の学習を通して、習得してきた知識及び技能を確認させる。
- 単元の学習内容が総合的に含まれる問題や日常場面から見いだされる問題を提示する。
- 児童生徒に単元のどの学習内容を活用すれば問題が解決できるかを判断させる。

【めあて】

2 めあてを追究する。

- (1)個別に追究し、解決方法や結果を全体で共有する。
- 問題の解決方法や結果を数学的な表現で示させる。
 - 個別に追究した解決方法や結果を発表させる。
-
- (2)考えを深める。
- 解決方法や結果について「問題のどこに目をつけて解決したのか」「どのような方法を使って考えたのか」などの視点で説明させる。
 - 「よりよい解決方法を追究する」「既習事項との関連を吟味する」「一般化を目指す」などの視点をもって考察するよう促す。

3 学習をまとめる。

- 本時の学習で新たに習得した知識及び技能や考え方についてのまとめを記述する。

【まとめ】

4 学習を振り返る。

- 単元を通して習得した知識及び技能や、思考力、判断力、表現力等を再確認させる。

単元全体の振り返り

※知識及び技能や、思考力、判断力、表現力等を定着させるためには、理由を説明しながら解いたり練習問題に取り組んだりする時間を確保することも大切です。

小学校 第6学年「割合の表し方を考えよう」

【ねらい】

3つの数の比の問題を考える活動を通して、比についての理解を深めさせる。

- 1 学習を把握し、めあてを設定する。
 - 単元でどのような学習をしてきたのかを確認する。
- 2 本時のめあてをつかむ。

【問題】

長さ36cmのひもで「なわ張り師」と同じように直角三角形をつくる時、3つの辺はそれぞれ何cmになりますか。



昔エジプトでは、3:4:5の比で分けた1本のなわを使って直角三角形を作っていました。

問いの表出

3つの数の比だけど…

2つの比と同じでいいの？

- 解決の見通しをもたせる。



3つの数の比を線分図で表してみればよさそう。



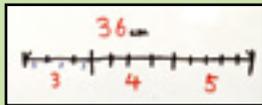
12等分すれば1つ分の長さが求められそう。

【めあて】

36cmのひもを3:4:5の比になるように分けるにはどのように考えればよいだろうか。

2 めあてを追究する。

- (1) 個別で追究し、考えを全体で共有する。

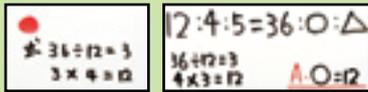


3つの数の比も数直線に表せるね。



- (2) 考えを深める。

- 共有した線分図を基に、3つの数の比の求め方を比較・検討する。



全体の長さを12等分して1つ分の長さを求めて、1つ分のいくつ分で求めています。

全体を1とみて、○は $36 \times \frac{4}{12}$ で求める方法もあります。



2つの数の比の学習で使ったようなことが3つの数の比の関係を考えるときに活用できますか？

比べるもの数が増えても、考える見通しをもつために、数の関係を線分図などの図として表すことができます。



3 学習をまとめる。

【まとめ】

3つの数の比の場合でも、等しい比の性質や割合の考えを使って辺の長さを求めることができる。

4 学習を振り返る。

- 問題解決の際に使った考え方をまとめ、思考の過程を整理する。

3つの数の比の場合でも、等しい比の性質が使えることが分かった。他の長さでもできないか、調べてみたい。

比の一方の量を求めるには、線分図をかいて単位量あたりの大きさを求めればよい。割合の考え方と同じだと気付いた。

中学校 第1学年「比例と反比例」

【ねらい】

各距離とタイムの関係を利用して比例とみて問題を解決することを通して、比例についての理解を深めさせる。

- 1 学習を把握し、めあてを設定する。
 - 単元でどのような学習をしてきたのかを確認する。

【問題】

A選手の30kmまでのラップタイムがあります。A選手は日本記録(2時間5分50秒)を更新することができるでしょうか。



距離(km)	5	10	15	20	25	30
タイム(分)	15	30	44	59	74	88

40kmのラップタイムは何分ですか？



20kmで59分だから、118分だと思います。

10kmのときに、30分だから、120分だと思います。



問いの表出

比例でいいのかな？

表？式？グラフ？何で考えよう？

- 解決の見通しをもたせる。

このままのペースで走るとすれば、比例で予測ができそう！



【めあて】

ゴールタイムを予測する方法を考え、表、式、グラフを使って、考えるにはどのようにしたらよいだろうか。

2 めあてを追究する。

- (1) 個別で追究し、考えを全体で共有する。



表を見ると、距離が2倍、3倍となっても、タイムはきれいに2倍、3倍にならない…



0kmだと0分だから、グラフは原点を通るはず。他の点を取ると、ほぼ直線に並んでる。

$\frac{y}{x}$ の値がほぼ一定だけど、少しずつずれている。いくつにしたらいいだろう？



- (2) 考えを深める。

- 表、式、グラフによる解決方法を比較し、それぞれの考えを関連付ける。



ラップタイムのどれかを基にしたり、 $\frac{y}{x}$ の平均を計算したりして、比例定数としたらどうだろう？



どこを基にするかで、比例定数も40kmの予測タイムが違うけど、ほとんど同じだ。予測できそう！

比例と考えるとよいですか？そのポイントはどこでしょう？

3 学習をまとめる。

【まとめ】

- 表、式、グラフを使えば変化の様子が分かる。
- 比例とみなして考えることで、ゴールタイムを予想することができる。

4 学習を振り返る。

- 問題解決の際に使った考え方をまとめ、思考の過程を整理する。

生活の中に関数関係になっているものがたくさんあることが分かりました。比例や反比例にならないものも、表、式、グラフを使って調べてみたい。

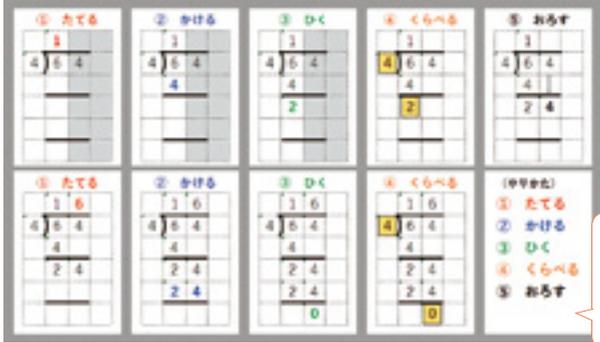
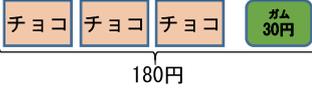
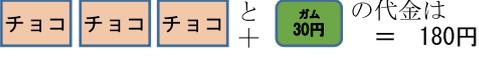
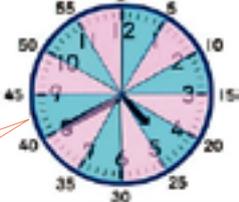
第19時 章末問題に取り組み、単元の学習を振り返る。

3 学習過程と教科書との関連

算数・数学科の教科書は、児童生徒の学びに沿って系統的に配列されています。新しい単元に入る前には、教材研究として、問題を事前に解き、学習内容のつながりを確認することが大切です。

過程	活用例について
である	教科書の扉絵や日常生活の場面などが、最初の問題を解決する手がかりとなっていることが多い。今までに学習した内容を復習したり、同じような学習をしたことがないかを考えたりするなどして、これまでの学習を想起させる。
追究する	例題→類題→練習問題の順に配列されていることが多く、児童生徒がどこでつまづいているのか自分で気付けるよう工夫されている。また、教科書で扱っている内容や数値は、しっかりとした単元構想の基に成り立っているため、安易に内容や数値を変えたりせず、内容や数値の意図を読み取ることが大切となる。
つかう	単元の終わりにあるチャレンジ問題や付録の問題を児童生徒の実態に応じて工夫して扱う。

4 学習活動を行う場合に生じる困難さに応じた指導の工夫【例】

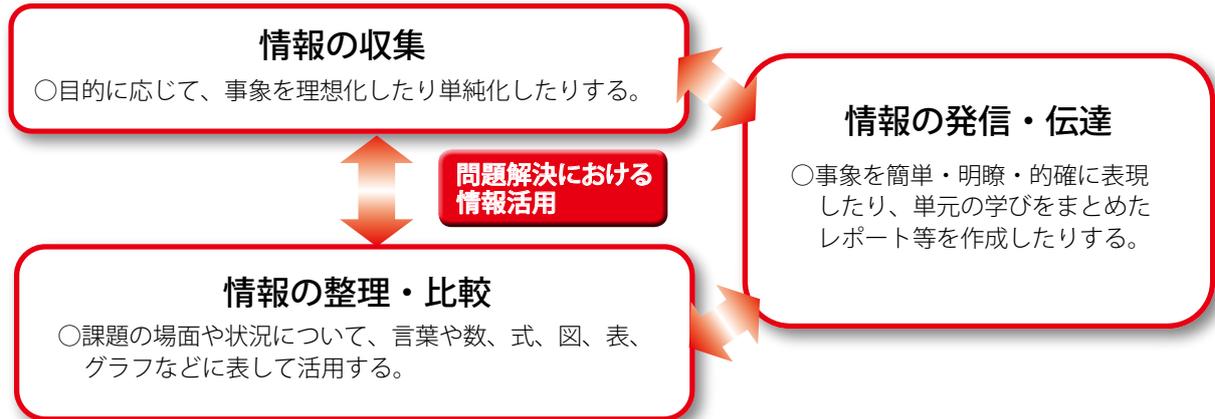
困難さ	手立て
手順を捉えにくい場合 (例：割り算の筆算)	★手順を示すことで解決への見通しをもちやすくします。  <p>「(やりかた)」のシートのみで手順を示す場合もあります。</p>
数量関係を捉えるのが難しい場合 (例：文章題) 問題 チョコ3個と30円のガムを買ったら代金は180円でした。チョコはいくらですか。	★つまづき方から、原因と支援を考えます。 ①数量の関係が捉えられていない。 →関係を図に示す。  ②数量の関係の捉えが正しくない。 →式に関係を示す言葉等を添える。 
目盛りの読み取りが難しい場合(例：時計) ①「〇時」の区切りが分かりにくい ②「〇〇分」が分かりにくい	★区切り等を視覚的に示します。 ①「〇時」の区切りごとに短針が動く部分を色分けすることで読み取りやすくします。 ②「0、5、10、…」のように数字を入れることで時刻を読み取りやすくします。  <p>12色で色分けするのではなく、2色で色分けすることでも分かりやすくなります。</p>
機能的な道具の扱いが難しい場合 ①定規を押さえて直線を引くのが難しい ②指先でコンパスを扱うのが難しい	★道具を工夫すると、片手だけでも扱いやすくなります。 ①マグネット付き定規 ②ぶんまわし 

5 情報活用能力の育成

算数・数学科の学習における情報とは…問題や問題場面から見いだされる、言葉や図、数、式、表、グラフなど数学的な表現を用いて表された数値やデータ

※情報を収集したり、整理・分析したりする際には、事象を数理的に捉え、算数・数学の問題を見いだすことを繰り返して経験することが大切です。また、多くのデータを処理する場合については、コンピュータなどICT機器を効果的に活用することが大切です。

※統計的探究プロセスについては、P40にて具体例を参照。 **P40**



基本的な操作〈例〉

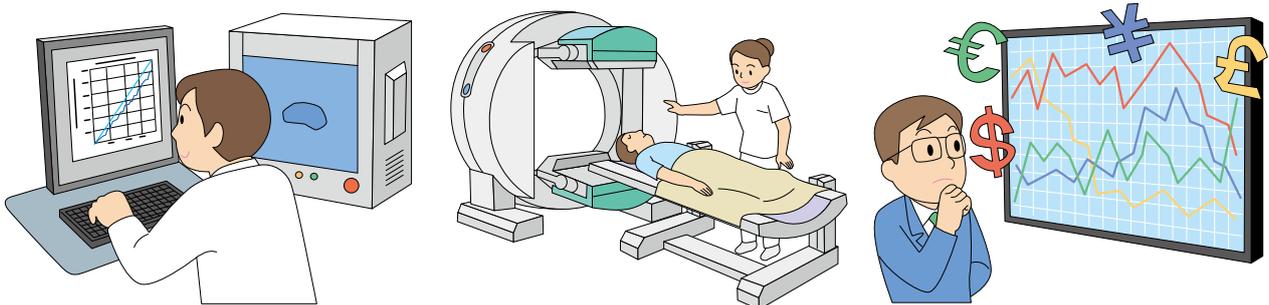
○PCや情報通信ネットワークについては、学習内容に応じた指導に応じて活用を図ることとされているが、特に各学年の「Dデータの活用」において、グラフに表すことなど学習内容との関連を踏まえ積極的に活用する。

プログラミング

○プログラミングについては具体例を参照。 **P40**

6 地域の人材や物的資源の活用

算数・数学の学習は、成分の含有量により年代測定する考古学、糖分量により癌を発見する核医学、為替レートで経済状況を予測する経済学など、様々な分野で生かされています。また、素数が活用された暗号技術がクレジットカードやインターネット通販など日常生活のみならずグローバル社会における情報セキュリティを確保するための基盤となっているなど重大な役割を果たしています。さらに、群馬の偉人として知られている関孝和が発展させた和算と現代の算数・数学を比較することで学びを豊かにすることにつながります。このように、日常生活や社会の事象とのつながりを意識する機会を意図的に設定することが重要であり、他教科の学習との関連の中で活用していくことで生きて働く知識として豊かになっていきます。

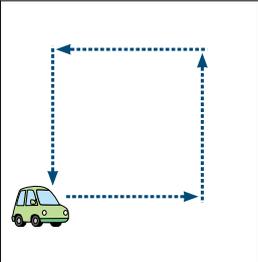


【参考】プログラミング

○プログラミングを体験しながら、論理的思考力を身に付けるための学習活動を行う場合は、第5学年の「B図形」の(1)における正多角形の作図を行う学習において、正確な繰り返し作業を行うことや他の正多角形を同様に考えることができる場面などで取り扱う。

正多角形について、「辺の長さが全て等しく、角の大きさが全て等しい」という正多角形の意味を用いて作図できることを、コンピュータ等を活用したプログラミングを通して確認させる授業を設定します。

〈授業例〉



を動かして、正方形をかくにはどのようにプログラミングすればよいのでしょうか？

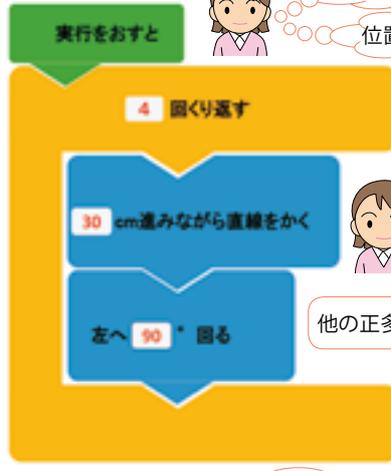
実行をおすと

- 30 cm進みながら直線をかく
- 左へ 90° 回る
- 30 cm進みながら直線をかく
- 左へ 90° 回る
- 30 cm進みながら直線をかく
- 左へ 90° 回る
- 30 cm進みながら直線をかく

同じ命令を4回繰り返せばかけた！

この命令を使うと？

命令が短くなりそう！



この命令で正方形がかけます

大きさを変えられるかな？

位置は変えられるかな？

4 回繰り返す

30 cm進みながら直線をかく

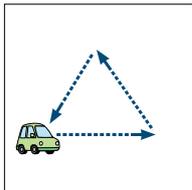
左へ 90° 回る

どんどんやってみよう！(失敗してもやり直せる！)

他の正多角形はかけませんか？

正方形ができたから

正三角形もできるのでは？



同じ長さ3つ三回繰り返し！角度は何度？

どんどんやってみよう！(失敗してもやり直せる！)

【参考】統計的探究プロセス

算数・数学科の学習においては、特に、目的に応じてデータを収集、分類整理し、結果を適切に表現するという統計的な問題解決活動を行うことが求められます。統計的探究プロセスを通して、問題に対する結論をまとめて表現したり、課題や活動全体の改善点を見いだしたりできるようにしていくことが大切です。データの種類によって分類整理の仕方や用いるグラフなどを適切に扱うことができるよう段階的に育成していきます。

○一連のプロセスは、「問題」から「結論」へ一方的に進むものではなく、計画を立てながら問題を見直して修正を加えたり、グラフを作り直して分析したり、相互に関連したりして、行き来できるようにすることが大切です。

問 題	・問題の把握	・問題設定
計 画	・データの想定	・収集計画
デ ー タ	・データの収集	・表への整理
分 析	・グラフの作成	・特徴や傾向の把握
結 論	・結論付け	・振り返り

理科

Science

理科は自然そのものを学習の対象として、自然の事物・現象(自然事象)についての問題を科学的に解決したり、探究したりするために必要な資質・能力を身に付けていく教科です。

上記の資質・能力は一挙に獲得できるものではなく、具体的な問題に取り組み、それを解決していく活動を繰り返す中で育まれます。そのため、理科の学習過程の特質を踏まえた指導を行うことが不可欠になります。児童生徒が進んで自然事象に関わり、見通しをもって観察、実験等を行い、結果を基に考察し、結論を導き出す等の問題解決の活動や科学的に探究する学習を充実させることが大切です。

【理科のページで使用されている用語解説】

問題（課題）	「追究する」過程において、自然事象への気付きや疑問から児童生徒が見いだす、解決すべき事柄。 ※中学校では自ら解決可能な「課題」に落とし込む ※「追究する」過程では「めあて」に代えて示す
問題解決の過程： 小学校 探究の過程： 中学校	児童生徒が問題（課題）を解決していくための手続きを示した学習過程。
考察	予想や仮説と結果を照らし合わせ、問題（課題）の答えを考えること。
結論	個での考察を、科学的な根拠に基づいた議論によって、より妥当なものとしたもの。
理科の見方	自然事象を捉えるための主な視点。 【量的・関係的な視点：主にエネルギー領域】 ・一方の量が変わったとき、もう一方の量が変化する等の関係で見る 【質的・実体的な視点：主に粒子領域】 ・目に見えないけれど存在するものを捉え、性質等の変化を見る 【共通性・多様性の視点：主に生命領域】 ・違う個体で、同じ特徴があてはまるか、同じ種類でも違いがあるか等を見る 【時間的・空間的な視点：主に地球領域】 ・時間的経過や空間的な移動に伴って変化するか等を見る 【その他の視点】 ・原因と結果、部分と全体、定性と定量 等
理科の考え方	問題解決や科学的な探究で用いる考え方。 「比較する」「関係付ける」 「条件を制御する」「多面的に考える」

1 単元のつくり方

理科では、「ふれる・つかむ」過程での疑問を順番に解決していく第1章の2で示すAパターンと、考察・結論で新たに生まれた疑問を次々に解決していくBパターンがあります。いずれのパターンにおいても、「ふれる・つかむ」過程では広く対象となる自然事象に触れ、単元の課題をつかみます。「追究する」過程では、視点や対象を絞って自然事象の観察や実験を繰り返し行い、規則性や原理等を見いだします。(構想の際にはシートを活用 **P54**)「まとめる」過程では、その規則性や原理等を実際の自然や日常生活にあてはめて考え、広げていきます。

主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善のポイント

- 本単元に関わる日常生活や社会の中で見られる自然事象を紹介し、児童生徒の自然に対する素朴な概念を引き出す。
- 自然事象に直接触れられる活動等を設定し、児童生徒の興味・関心を高める。
- Aパターンの場合には、ここで疑問を解決する順番の見通しをもたせる。

- 見通しをもって観察、実験が行えるよう、自ら考えた予想や仮説を基に解決の方法を考えさせる。
- 問題(課題)の設定や解決方法の立案、考察等の場面では、あらかじめ個人の考えをもたせた後、意見交換や議論をさせる。
- 「理科の見方・考え方」を働かせながら追究している児童生徒の姿を見取り賞賛する。
- 考察・結論が問題(課題)と正対しているか常に振り返らせる。
- Bパターンの場合には、考察・結論や新たに生じた疑問が、次の問題解決(探究)の過程につながるようにする。

- 科学的な概念が形成されたことを自覚したり、新たな問題を見いだしたりできるように、追究する過程全体を振り返らせる。
- 理科で学習する規則性や原理等が日常生活や社会で活用されていることに目を向けさせる。

過程と基本的な学習活動

ふれる・つかむ

1 自然事象に働きかけ、単元の課題をつかむ。

- ◇対象となる自然事象について知っていることを発表する。
- ◇自然事象に触れ、気づきや疑問を共有する。

【単元の課題】
〈単元全体で解決する大まかな内容〉

追究する

2 問題解決(探究)の過程に沿って観察実験を行い、問題(課題)を解決する。

問題解決の過程(探究の過程)

問題(課題)

予想・仮説

計画

観察・実験

結果

考察・結論

振り返り

見通し

次の問題解決(探究)の過程

次の問題解決(探究)の過程

まとめる

3 学習をまとめ、自然や生活にあてはめる。

単元のまとめ

- ◇単元の課題について振り返り、分かったことを図や言葉でまとめる。
- ◇学習内容を別の自然事象に適用したり、ものづくりをしたりする。

小学校 第5学年

「電流が生み出す力」(全10時間計画)

【目標】電磁石について、電流の大きさや向き、コイルの巻数等に着目し、条件を制御しながら調べる活動を通して、電流がつくる磁力の性質について理解できるようにする。

1 自然事象に働きかけ、単元の課題をつかむ。(2時間)

○磁石と電気について学習したことを発表する。

○電磁石に触れ、気づきや疑問をもつ。

○疑問に思ったことや調べたいと思ったことを話し合う。



【単元の課題】電磁石には磁石と同じ性質があるのだろうか。

2 問題解決の過程に沿って観察・実験を行い、問題を解決する。

①電磁石にはどのような性質があるだろうか。(3時間)

- 実験に使用する電磁石を自作する。
- 電磁石の性質について予想し、実験計画を立て結果の見通しをもつ。
- 永久磁石との性質を比較する実験をし、結果から考察して、結論をまとめる。

②電磁石を強くするためには、どうしたらよくなるだろうか。(2時間)

- 強い電磁石と自作の電磁石を比較する。
- どうすれば電磁石を強くできるのかを予想し条件を制御しながら実験計画を立て、結果の見通しをもつ。
- 変える条件「電流の大きさ」「コイルの巻数」それぞれについて実験を行い結果を記録する。
- 個人での考察のあと全体で議論し、結論をまとめる。

3 学習をまとめ、自然や生活にあてはめる。(3時間)

○単元の課題を振り返り、電磁石の性質について分かったことをまとめる。

☆電流の流れているコイルの鉄心は、磁石と同じ働きをする。電流の向きを変えると、電磁石の極も変わる。

☆電磁石の強さは、電流の大きさや導線の巻数によって変わる。

- 身の回りにある電磁石を利用したものにはどのようなものがあるか話し合う。
- 電磁石の性質を利用したものづくりをする。



中学校 第1学年

「物質のすがた 3章 物質の状態変化」(全9時間計画)

【目標】物質の状態変化について、質量や体積に着目し、粒子のモデルと関係付けながら調べる活動を通して、物質が状態変化する際の規則性を見いだして理解できるようにする。

1 自然事象に働きかけ、単元の課題をつかむ。(1時間)

○水の状態変化について既習の内容を確認する。

○教科書の扉絵を見て、鉄や窒素、食塩等いろいろな物質が状態変化することを知る。

○ろうを溶かしたり、水に垂らして固めたりする様子を観察する。



【単元の課題】物質が状態変化するときには、どのようなきまりがあるのだろうか。

2 探究の過程に沿って観察・実験を行い、課題を解決する。

①物質の状態が変化するとき、体積と質量はどうなるだろうか。(2時間)

○ろうが液体から固体へと状態変化するとき、エタノールが液体から気体へと状態変化するときに体積と質量はどうなるか調べる。

②物質の状態変化を、粒子を使ったモデルで表すとどうなるだろうか。(1時間)

○エタノールの状態変化を粒子のモデルで説明する。

③固体の物質を加熱したとき、水の場合と同じような温度変化になるだろうか。(2時間)

○エタノールや水を加熱したときの温度変化をグラフに表す。

○パルミチン酸を加熱した際の温度変化を調べる。

④加熱をすると、赤ワインをエタノールと水に分けられるだろうか。(2時間)

○沸点の違いを利用してエタノールを分離できることを見いだす。

3 学習をまとめ、自然や生活にあてはめる。(1時間)

○単元の課題を振り返り、物質の状態変化について分かったことをまとめる。

☆状態変化によって物質の体積は変化するが、質量は変化するしない。

☆物質は融点や沸点を境に状態変化する。

☆沸点の違いを利用することで混合物から物質を分離できる。

- 蒸留を利用している例として石油の精製について知る。
- 学んだことを活用して、アルミ缶のリサイクルについて、「温度」と「固体」という言葉を用いて説明する。

2 単位時間のつくり方（「ふれる・つかむ」過程）【例】

「ふれる・つかむ」過程では、学習対象となる自然事象についての知識やイメージを共有させたり、自然事象の一部に触れさせたりして児童生徒の気付きや疑問を引き出し、学習意欲を喚起することが大切です。ここでは、内容によって1時間かけずにそのまま「追究する」過程に進む場合や2時間以上に渡る場合があります。

【指導のポイント】

系統と小中学校の接続

○児童生徒が何を学んできているのか、学びがどのようにつながるのかを確認しておく。

気付きや疑問をもつための体験活動

<例>

- ・ 普段あまり意識しない自然事象をじっくりと観察する活動
- ・ 簡単な道具を用いて自由に試行する活動

予想や仮説、振り返りに生かす記録

○「追究する」過程における予想や仮説の根拠にしたがり、「まとめる」過程における振り返りに生かしたりするため、模造紙等に記録しておく。

用語や器具の操作方法の確認

<例>

- ・ 「回路」や「支点、力点、作用点」等の科学的な用語
- ・ 温度計やメスシリンダー等の器具の名前や使い方
- ・ 継続して飼育、栽培するものの世話の仕方

基本的な流れ

1 自然事象について知っていることを発表したり、既習の内容を確認したりする。

- 単元名から連想されることや教科書の扉絵を見て気付いたことを問いかけたり、事象を簡単な絵に表すよう促したりする。
- 関連する既習の内容を問いかける。

2 自然事象に触れ、気付きや疑問をもつ。

- 一人一人が本物に触れることができる教材を用意したり、体験活動を設定したりする。
- 大きさや形、手応え等、五感を働かせるための視点を提示する。



3 自然事象に対する気付きや疑問を共有し、単元の課題をつかむ。

- 児童生徒の気付きや疑問を板書で整理する。
- 本単元の中で自分たちで解決したいこと、解決できそうなことを問いかける。

【単元の課題】

※「追究する」過程で必要になる用語や器具の基本的な操作方法がある場合には確認する。

4 本時を振り返る。

- 活動への取組のよさを賞賛する。
- あらためて疑問に思ったことや自分が調べたいと思ったことを記述、発言するように促す。

※中学校で大項目が十数時間以上になる場合には、中項目（各章）ごとに「ふれる・つかむ」過程を設定します。

小学校 第5学年

「電流が生み出す力」(1、2/全10時間計画)

【ねらい】

電磁石の仕組みについて知り、電磁石を用いて自由に試す活動を通して、単元の見通しをもつことができるようにする。

1 電磁石について知っていることを発表したり、既習の内容を確認したりする。

- 教科書の扉絵を見て気付いたことを問いかけ、電磁石の構造について説明する。

3年生での「磁石」や4年生での「電気」についての学習で、どんなことを学習しましたか？



磁石には、N極とS極があって、鉄を引きつけ、自由に動ける状態だとN極が北を指します。電池には+極と-極があって、電流には流れる向きがあり、モーター等を動かします。

2 電磁石に触れ、気付きや疑問をもつ。

- 強力電磁石を体験する場を設定する。

- 「電磁石」「導線」「コイル」等、「追究する」過程で必要になる科学的な用語について確認させる。



- 個人の実験に向け、一人一人に電磁石を製作させて、自由に試させる。



- 気付いたことや疑問に思ったことをノートに記述、発言させる。



電磁石にも鉄の釘が付きます。でも、スイッチを切って電流が流れなくなると離れます。

3 電磁石に対する気付きや疑問を共有し、単元の課題をつかむ。

- 気付きや疑問を共有するために、児童の気付きや疑問を板書し、整理する。
- 既習の内容である永久磁石と電磁石とを比較して考えさせ、内容を整理する。

- ・電磁石は磁石と同じように鉄を引き付ける。
- ・電磁石にも極があるのか。離れていても働くのか。
- ・2人で引っ張っても離れないほど強い磁石もあった。

【単元の課題】

電磁石には磁石と同じ性質があるのだろうか。



4 本時を振り返る。

- 次時から意欲的に追究できるように、活動への取組のよさを賞賛する。
- 友達の考えを聞いて、あらためて疑問に思ったことや調べたいことを記述、発言させる。



極があるのかや離れていても働くのか、また、強さが違う理由等、電磁石の性質について自分の電磁石で調べたいです。

中学校 第1学年

「物質のすがた 3章 物質の状態変化」(1/全9時間計画)

【ねらい】

身近な物質の状態変化に触れる活動を通して、興味・関心を高めるとともに、単元の見通しをもつことができるようにする。

1 状態変化について知っていることを発表したり、既習の内容を確認したりする。

- 温度変化による水の状態変化とそのときの温度について問いかけ、小学校での学習内容を想起させる。

教科書の扉絵を見て、どう思いましたか？



鉄が液体になることや液体窒素については知っていましたが、食塩も加熱すると液体になることには驚きました。

2 身近な物質の状態変化に触れ、気付きや疑問をもつ。

- ろうそくに触らせたり、火をつけたろうが溶ける様子や溶けたろうを水を入れたビーカーに垂らしたときの様子を観察させたりする。



- 触れたり、観察したりして気付いたことを発表させる。



ろうそくが燃えると、ろうが溶けて液体になっていました。液体のろうは透明です。液体のろうを水に垂らすと冷やされて一瞬で白い固体に戻りました。

3 状態変化に対する気付きや疑問を共有し、単元の課題をつかむ。

- 気付きや疑問を共有するために、生徒の気付きや疑問を板書し、整理する。
- 既習の内容である水と比較して考えさせ、内容を整理する。

- ・水が状態変化するときの温度は決まっていたので、いろいろな物質が状態変化するときの温度を調べたい。
- ・水は固体になると体積が増えたが、いろいろな物質も同じように変化するのだろうか。

【単元の課題】

物質が状態変化するときには、どのようなきまりがあるのだろうか。

4 本時を振り返る。

- 次時から意欲的に追究できるように、活動への取組のよさを賞賛する。
- 友達の考えを聞いて、あらためて疑問に思ったことや調べたいことを記述、発言させる。



物質が状態変化するときの質量や体積、温度はどうなるのか調べたいです。

2 単位時間のつくり方（「追究する」過程）【例】

理科の「追究する」過程は、以下のような観察、実験を中心とした「問題解決の過程」（中学校「探究の過程」）が基本となります。ここでは、問題の見いだしから計画までを1時間、観察、実験から結論までを1時間で扱う等、内容や児童生徒の実態に合わせて、時間配分を工夫します。

【指導のポイント】

【比較】による問題の見いだし

- 複数の自然事象を対応させて比べさせる。
 - ・同時に複数の自然事象を比べさせる。
 - ・時間的な前後の変化を比べさせる。
- 「同じところは？違うところは？」

【関係付け】による予想や仮説の発想

- 自然事象を様々な視点から関係付けさせる。
 - ・自然事象とそれに関わる要因とを関係付けさせる。
 - ・自然事象と既習の内容や生活経験とを関係付けさせる。
- 「○○は、何と関係しているのかな？」

【条件を制御】した計画の立案

- 変化させる条件と変化させない条件を区別させる。
- 「変える条件は？変えない条件は？」

科学的な検証のための3つの要素

- ・自分でできる＝実証性
- ・何度もできる＝再現性
- ・誰でも分かる＝客観性

基本的な流れ

1 問題（課題）を見い出す。

- 児童生徒の「ふれる・つかむ」過程における気付きや疑問を焦点化し、自ら問題を見いだせるよう、写真や実物、現象、過去の経験、似た自然事象を提示する。
- 共通点や差異点を問いかけ、自然事象の規則性や原理等を見い出すための問題をつくらせる。

【問題（課題）】

2 問題（課題）に対する予想をしたり、仮説を立てたりする。

- 科学的な用語やモデル等を用いて「問題（課題）」に対する予想や仮説を表現させる。
 - 根拠を明確にできるよう、既習の内容や生活経験を想起させる写真や現象を提示する。
- ※中学校では、下の「3 観察、実験の計画を立てる」活動と行き来しながら実証可能な仮説が立てられるように助言する。

3 観察、実験の計画を立てる。

- どのような観察、実験を行えば、自分たちの予想や仮説が確かめられるか、解決の方法を問いかける。
- 観察、実験の手順や器具を文や図でかかせる。教科書を参考に方法や条件を選択させてもよい。
- 児童生徒が立案した解決方法が科学的なものとなっているかをチェックさせる。
- 予想や仮説と結果の関係について「自分や友達の予想や仮説が正しければ、結果は～になるはずだ。」のような結果の見通しをもたせる。

小学校	各学年で重点を置いて育成を目指す学年を通して育成を目指す問題解決の力
第3学年	差異点や共通点を基に、 問題を見い出す力
第4学年	既習の内容や生活経験を基に根拠ある 予想や仮説を発想する力
第5学年	予想や仮説を基に、 解決の方法を発想する力
第6学年	より 妥当な考えをつくり出す力

※授業前の予備実験の実施

【指導者が予備実験で確認、検討すべき内容】

- ・安全面
- ・観察、実験にかかる時間
- ・器具の操作や扱い方の把握
- ・扱いやすい道具、素材選定 等

正確なデータの記録の仕方

- ・主語を明確に（何がどのようになった）
- ・解釈を入れず、ありのままに
- ・具体的に
- ・数字で

予想や仮説の妥当性の検討

予想や仮説と結果の照らし合わせ

同じ

予想や仮説が正しいと判断

異なる

次の点から再検討する

- ・別の予想や仮説なのか？
- ・解決方法が正しくないのか？
- ・実験の精度や誤差なのか？

【多面的に考え】 妥当な考えを導く

- 自然現象を複数の側面から考えさせる。
- ・自分以外の予想や仮説も検討させる。
- ・高学年から中学校では、複数の観察、実験の結果からも考察させる。

「どの結果からも正しいと言えますか？」

4 観察、実験を行い、結果を表現する。

－観察、実験前－

- 机上の整理をさせる。
- 班で協力して観察、実験の道具を準備させる。
- 安全上の注意点を確認する。
- 必要に応じて保護めがねを着用させる。

－観察、実験中－

- 実験は基本、立って行わせる。
- 活動中は各班を巡り、机間指導を行う。

※机間指導を行うときの視点

- 安全に観察、実験が行えているか。
- 器具を正しく操作しているか。
- 全員が観察、実験に参加しているか。
- 結果を正確に記録しているか。

－観察、実験後－

- 班で協力して道具を片付けさせる。
- 結果を表やグラフなどに整理させる。

5 結果を基に考察を行い、結論を導く。

- 考察から結論までの流れ（振り返りの活動）
- 考察（個）→ [議論] → 結論（集団）→（個）

- 観察、実験の結果を基に、一人一人が予想や仮説の妥当性を検討し、考察する時間を確保する。
- 共有した結果を基にした、クラス全体の議論に向けて、観察、実験の結果を一覧表等に整理して掲示し、誤差に気付かせたり、変化の傾向を大まかに捉えさせたりする。
- 一人一人が観察、実験や結論に向けた話合いの中で見いだした規則性や原理等を、科学的な言葉やモデル等を用いて表現したり、新たな疑問や課題を発表したりするよう促す。

【結論】

中学校	科学的に探究する力を育成するために各学年ごとに重点をおく活動
第1学年	自然現象に進んで関わり、それらの中から 問題を見いだす 活動
第2学年	解決する方法を立案 し、その 結果を分析して解釈 する活動
第3学年	探究の過程を振り返る 活動 (予想や仮説と結果とを照らし合わせ、その妥当性を検討する活動)

小学校 第5学年「電流が生み出す力」(6、7/全10時間計画)

【ねらい】

電流がつくる磁力について、電流の大きさやコイルの巻数に着目して、それらの条件を制御しながら調べる活動を通して、電磁石の強さは、電流の大きさや導線の巻数によって変わること理解できるようにする。

1 問題を見いだす。

- 自然現象の比較から問題を見いださせるために、釘がたくさん引き付けられる演示実験を行い、自分の電磁石と強さを比べさせる。



みんなの電磁石と比べてどうですか。箱の中はどうなっているのでしょうか。



【問題】

電磁石を強くするためには、どうしたらよいのだろうか。

2 問題に対する予想をする。

- 予想の手がかりにするために、体験活動の写真を提示したり電磁石の仕組みを問いかけたりする。

電磁石はどのような仕組みでしたか。



コイルに電流が流れると、電流によって鉄心が磁石になります。

- 科学的な言葉(コイルの巻数、電流の強さ等)を使い、予想の根拠も合わせて表現させる。



電流が大きいほど、電磁石も強くなると思います。理由は、4年生のときに電流が強い方がモーターが速く回ったからです。



コイルの巻数が多いほど、電磁石も強くなると思います。理由は、コイルの巻数が多い方が、コイルの周りに電流がいっぱいあって、コイルが強くなりそうだからです。

3 電磁石を強くする条件を調べる実験の計画を立てる。

- 「自分でできる」「何でもできる」「誰でも分かる」という点に注意しながら、どうすれば自分の予想を調べられるか、実験の手順や器具を文や図でかかせる。また、変える条件と、変えない条件を必ず書くように指示する。
- 実験の計画が科学的なものかをチェックするために、各自の計画を発表させ、条件制御を中心に解決の方法を整理する。



電池の数を変えて調べます。変える条件は「電流の大きさ」、変えない条件は「コイルの巻数」と「導線の長さ」です。



コイルの巻数を変えて調べます。変える条件は「コイルの巻き数」、変えない条件は「電流の大きさ(電池の数)」と「導線の長さ」です。

- 結果の見通しをもたせる。



ぼくの予想が正しければ、電流が大きい方がたくさん釘が付くと思います。



わたしの予想が正しければ、コイルの巻数が多い方がたくさん釘が付くと思います。

4 実験を行い、結果を表現する。

- 実験を安全かつ正確に行わせるために、次のことをさせる。
 - ①机上の整理。
 - ②電流計は直列につなぐなどの、安全上の注意を聞く。
 - ③実験手順や装置、見通し等の実験計画の確認。



- 計画に基づいて実験をさせ、終わったら座って結果を記録させる。



- 実験中は机間指導をする。
- 実験が終わった班から実験道具の片付けをさせる。

- 班ごとの実験結果を整理して板書し、学級としての結果を共有させる。その際、班ごとの結果に大きな違いが生じた場合は、その理由について再実験をさせるなどして検討させる。

電流の大きさを変えた実験、コイルの巻数を変えた実験の順に結果を確認します。



電池1個のときは、電流の大きさ1.4Aで付いた釘は5本です。電池2個のときは、2.3Aで13本です。



100回巻きのコイルは1.3Aで6本、200回巻きのときは1.4Aで13本です。

5 結果を基に考察を行い、結論を導く。

- 実験結果を基に、予想と照らし合わせながら、一人一人に考察をさせる。



予想は、電流を大きくすると、電磁石も強くなるでした。結果は、電流が大きい方がたくさん釘を付けることができました。だから、予想どおり、電流を大きくすれば電磁石が強くなると思います。



予想はコイルの巻数を増やすと、電磁石が強くなるでした。結果は、コイルの巻数が多い方がたくさん釘を付けることができました。だから、予想どおり、コイルの巻数を多くすれば電磁石が強くなると思います。



電流の大きさもコイルの巻数も、両方とも電磁石を強くする条件と言えます。

- 考察の発表から結論を導き、振り返りをさせる。

【結論】

☆電磁石は、電流を大きくしたり、コイルの巻数を増やしたりすれば、強くすることができます。

中学校 第1学年 「物質のすがた 3章 物質の状態変化」(7、8/全9時間計画)

【ねらい】

赤ワインを加熱する実験を通して、沸点の違いによって物質の分離ができることを見いだして理解できるようにする。

1 問題を見だし、課題をつかむ。

- 既習の固体と液体の混合物を分ける方法を確認し、赤ワインを分ける方法について問いかける。



泥水は、ろ過すれば、泥と水に分けられます。食塩水は、水を蒸発させれば、食塩が残ります。

2つの液体の混合物である赤ワインも性質の違いを利用して、分けることができるでしょうか。



食塩水のとくと同じように加熱すれば、分けられるかもしれない。

【課題】

加熱をすると、赤ワインをエタノールと水に分けられるだろうか。

2 課題に対する仮説を立てる。

- 加熱して気体になったエタノールを液体として取り出すという視点をもてるよう助言する。



エタノールと水は沸点が違うから、加熱すれば分けられると思います。エタノールは沸点が78℃だから先に出てきて、後から水が出てくるはずですよ。



2つの液体が混ざっているから、一緒に気体になって出てきてしまって分けられないのではないかな。

3 エタノールと水を分けることができるかを調べる実験の計画を立てる。

- 仮説を確かめるための方法を問いかける。
- 蒸留実験装置を示し、使い方や安全上の注意点を確認する。
- 赤ワインを加熱し、集めた液体の性質の調べ方を班ごとに計画させる。
- 立案した計画が、安全かつ時間内に生徒の手によって追究可能な方法か検討させ、結果の見通しを含めて記述、発表させる。



初めに出てきた液体が、消毒液のおいがしたり、手につけてスースーしたり、燃えたりすれば、水より先にエタノールが出てきたことが確かめられます。



それぞれの温度で取り分けた3本の液体に違いがなければ、自分の仮説の通り、分けられないことが確かめられます。

4 実験を行い、結果を表現する。

- 実験を安全かつ正確に行わせるために、次のことを確認させる。

- ①火を使うので、机上を片付けて、立って実験する。保護めがねをかける。
- ②突沸を防ぐために、赤ワインに沸騰石を入れる。
- ③液体の逆流を防ぐために、ガラス管が液体の中に入らないように注意する。

- 実験の準備や片付け、操作や記録等の役割を分担させる。
- 机間指導を行い、やけどの危険性がないか、温度に注目して液体を取り分けているかなど、必要に応じて助言する。



各温度で集めた3本の試験管内の液体について結果を表現します。



1本目の液体はよく燃えました。2本目、3本目の液体は燃えませんでした。



1本目の液体は消毒液のおいがしました。2本目の液体は少しにおいがしました。95℃で集めた3本目の液体にはにおいがしませんでした。

5 結果を基に考察を行い、結論を導く。

- 実験結果を基に、仮説と照らし合わせながら、一人一人に考察をさせ、記述、説明させる。



においや燃え方の違いから、加熱するとエタノール、水の順に分けられることが分かりました。物質によって沸点が違うから、それを利用すれば、液体の混合物も分けられます。



エタノールと水と一緒に出てきてはいるけど、3本の液体に違いがありました。2本目は1本目よりずっとにおいが少なかったから、もう一度2本目を加熱すれば、さらに分けられると思います。

- 考察の発表から結論を導き、振り返りをさせる。

【結論】

☆沸点の違いを利用することで、赤ワインをエタノールと水に分けることができる。蒸留で集めたエタノールを多く含む液体を、もう一度蒸留すると、より純粋に近いエタノールが得られる。蒸留を利用すると、液体の混合物から、それぞれの物質を分けて取り出すことができる。

2 単位時間のつくり方（「まとめる」過程）【例】

「まとめる」過程では、児童生徒が「追究する」過程で見いだした自然事象の規則性や原理等を実際の自然や日常生活にあてはめて考えることで、理科を学ぶことの有用性を実感できるようにすることが大切です。

【指導のポイント】

児童生徒に学びを自覚させる

- 「ふれる・つかむ」過程で表出させておいた自然事象についてのイメージや素朴な概念を再度想起させる。
- 観察・実験の方法等の学び方や自らの解決の過程そのものについても振り返りをさせる。

自然や日常生活にあてはめさせる

- エネルギー・粒子の領域
 - ・日常生活にある道具や起こる現象の仕組みや原因について考えさせる。ただし、自然事象の規則性や原理等が複合されているものが多いため、条件を絞ったり、単純化したりして示す。
- 生命・地球の領域
 - ・観察する対象を広げたり、時間や場所が変化するとどのようなことが起こるかについて予測させたりする。

ものづくりのねらい

- 小学校
 - ・目的を設定し、計測して制御する活動によって学んだことの意義を実感する。

例) 規則正しく時間を刻むことを目的とした簡易メトロノーム（1秒振り子）



- 中学校
 - ・科学的な原理や法則の理解を深める。
 - 例) 簡単なカメラ、楽器、使い捨てカイロ

基本的な流れ

1 単元の課題を振り返り、学習をまとめる。

- これまでの学習を想起させ、本時の目的が単元のまとめであることを確認する。
- 学習してきた規則性や原理等を整理するための表やモデル図を例示する。
- 一人一人が表現したものを交流できる場を設定する。
- 「自然事象について何を学んだか」、「どのように学んだか」等の振り返りの視点を提示する。

単元のまとめ

2 日常生活との関わりの中で自然事象を捉え直し、自然事象が起こる仕組みや原因を説明する。

- 学習内容があてはまる自然事象を問いかけたり、新たな自然事象を提示したりする。
- 学習した科学的な用語を使っていることを賞賛する。
- 説明したことが実際に確かめられる場合には、簡単な実験を行ったり、野外に出掛けたりする活動を取り入れる。

【めあて】

※ものづくりやプログラミング等の活動を行う。

- ものづくりでは、どのような規則性や原理等を利用しているのかを問いかける。
- 繰り返し試行するための時間と場を確保する。

3 本時を振り返る。

- 活動への取組のよさなどを賞賛する。
- あらためて疑問に思ったことや自分が調べたいと思ったことを記述、発言するように促す。

【振り返り】

小学校 第5学年

「電流が生み出す力」(8~10/全10時間計画)

【ねらい】

目的に合った強さの電磁石になるように、条件を変化させて計測し、制御することを繰り返す活動を通して、電流がつくる磁力の性質や規則性を実感できるようにする。

1 単元の課題を振り返り、学習をまとめる。

電磁石には磁石と同じ性質がありましたか？



磁石も電磁石も鉄を引きつけるけど、電磁石は電流が流れているときだけ鉄を引き付けました。



電磁石は磁石の強さや極を変えることができます。

☆電流の流れているコイルの鉄心は、磁石と同じ働きをする。電流の向きを変えると、電磁石の極も変わる。

☆電磁石の強さは、電流の大きさや導線の巻数によって変わる。

2 日常生活との関わりの中で電磁石を捉え直し、電磁石の性質を利用したものづくりを行う。

- 身の回りにある電磁石の性質を利用したものには、どのようなものがあるか問いかける。



リフティングマグネットやモーターがあります。モーターが使われているものは、扇風機等たくさんあります。

- 目的を設定し、計測して制御する活動を行う。

【めあて】

鉄球を3個だけ移動させるクレーンを作ろう。

クレーンは電磁石のどんな性質を利用していますか？ また、鉄球を3個だけ引き付ける強さにするためには、何をえて調節しますか？



電流を流したときだけ鉄を引き付ける性質を利用して鉄を移動させます。電流の大きさとコイルの巻数を変えて強さを調節します。電流の大きさは電池の数で変えます。

- 簡単な設計図をかかせ、クレーンを製作させる。
- 電池の数とコイルの巻数を変えることで、鉄球を3個だけ引き付ける強さに調節させる。



3 本時を振り返る。

- 単元の学習のまとめができたことや条件に合った強さの電磁石のクレーンが作れたことを賞賛する。

【振り返り】

☆電流の強さとコイルの巻数で強さを変えることで、思い通りの強さの電磁石が作れた。

☆リアモーターカーが進む仕組みを調べてみたい。

中学校 第1学年

「物質のすがた 3章 物質の状態変化」(9/全9時間計画)

【ねらい】

物質の状態変化について、日常生活と関連した事象を説明する活動を通して、状態変化について学んだことを実感できるようにする。

1 単元の課題を振り返り、学習をまとめる。

物質が状態変化するときには、どんなきまりがありましたか？



加熱して調べた結果、物質は水と同じように温度が変わると固体や液体、気体になることを学びました。また、それぞれの物質を温度に着目して調べた結果、状態変化するときの融点や沸点が決まっています。



状態変化を粒子のモデルで考えると、体積の変化は粒子の運動の様子が変わることによって説明でき、質量が変わらないことは粒子の数が変わらないことと説明できました。

☆状態変化によって物質の体積は変化するが、質量は変化しない。

☆物質は融点や沸点を境に状態変化する。

☆沸点の違いを利用することで混合物から物質を分離できる。

2 日常生活との関わりの中で物質の状態変化を捉え直し、アルミ缶のリサイクルの仕組みを説明する。

- 石油の精製に関する資料を全体で読み、物質の状態変化が生活の中で生かされていることを生徒に実感させる。

【めあて】

アルミ缶のリサイクル方法を説明しよう。

「温度」と「固体」という言葉を使ってまとめ、お互いに説明し合ひましょう。



教科書で調べると、アルミニウムの融点は660℃でした。固体のアルミニウムを660℃の温度まで温めて液体にし、目的に合わせた型に入れてから冷やして固体にする方法で、リサイクルしていると思います。

〈問い〉

アルミ缶のリサイクルについて温度と固体という語を使って説明しよう

☆ヒント① 660℃
ヒント②

アルミニウムの温度を融点の660℃以上高くしアルミ缶をとかして液体にして変形させてから温度を下げて固体にする

3 本時を振り返る。

- 単元の学習のまとめができたことやアルミ缶のリサイクル方法を説明できたことを賞賛する。

【振り返り】

☆空き缶のリサイクルについて説明できた。

☆固体を加熱して液体にすることで、いろいろな物質をリサイクルすることができそうだ。

☆日常生活の中で、状態変化が利用されているものがないか、知りたい。

3 学習過程と教科書との関連

理科の教科書は問題解決（探究）の過程に沿って構成されています。単元や単位時間の授業づくりの参考にする際には観察・実験の方法だけでなく、そのプロセスを意識することが大切です。

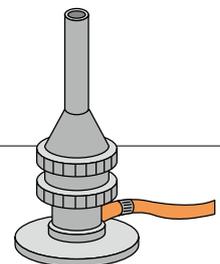
ふれる・つかむ	単元名や扉にある写真等から知っていることや学習経験を表出させる。	
追 究 す る	問題（課題）	問題（課題）は、『？』マークで示されていることが多い。前後の記述内容から児童生徒が問題を見いだす道筋を考える。
	予想・仮説	子どもの吹き出し等で示されている予想や仮説を参考に、児童生徒の発想をイメージする。
	計 画	<ul style="list-style-type: none"> 教科書にある観察や実験の方法は、あくまでも「例」であることを理解して道具等の準備をする。
	結 果	<ul style="list-style-type: none"> 赤い文字等で書かれた事故防止のための留意点を確認する。 表やグラフ等での結果の表現の仕方を参考にする。
	考察・結論	結果と考察を区別するために、教師自身が結果から問題（課題）の答えを考えてみる。
まとめる	学習した規則性や原理等が日常生活で生かされている自然事象や、ものづくりの例を紹介する。	



※児童生徒には教科書を問題解決のための参考資料として積極的に活用させます。そのため、必要に応じてすぐにご利用ができるようにしておきます。

4 学習活動を行う場合に生じる困難さに応じた指導の工夫【例】

困 難 さ	指導の工夫
実験の手順や方法を理解することが困難であったり、見通しがもてなかったりして、学習活動に参加することが難しい場合	学習の見通しがもてるよう、実験の目的を明示したり、実験の手順や方法を視覚的に表したプリント等を掲示したり、配付したりする
燃焼実験のように危険を伴う学習活動において、危険に気が付きにくい場合	教師が確実に様子を把握できる場所で活動できるようにする。
自然事象を観察する活動において、時間をかけて観察することが難しい場合	観察するポイントを示したり、ICT教材を活用したりする。



5 情報活用能力の育成

理科の学習における情報とは…科学的な資料やデータ

※情報を収集したり、整理・比較したりする際には、直接自然事象に働きかけることが基本となりますが、観察、実験の計測や記録、データの処理等においては、コンピュータやICT機器を効果的に活用することが大切です。



基本的な操作〈例〉

○観察、実験

- ⇒情報通信ネットワークを使った検索や調査
- ⇒各種センサを用いた計測
- ⇒タブレット端末に結果を録画

○実験データの処理

- ⇒表計算ソフトの有効活用

人の体のつくりと働き (小6)

身近な物理現象 (中1) ⇒音を波形で表示する

科学技術と人間 (中3) | 地球と宇宙 (中3)

6 地域の人材や物的資源の活用

地域の人材や物的な資源を有効に活用することで、児童生徒の自然への関心や問題解決への意欲がより高まります。

人的資源…農業関係者や医師等、本物の自然を知っている人
企業や大学等で普段から科学技術に関わっている人
物的資源…学校園、河川、地層等の児童生徒に身近な自然環境
 風力発電施設等の学習内容に関わる施設

また、科学技術の発展や地域に関する豊富な情報源をもつ、地域にある博物館や科学センター等の施設や設備を積極的に活用しましょう。利用の仕方としては、見学や体験の他に、標本や資料を借り受けたり、専門家や指導者を学校に招いたりすることなどが考えられます。

施設名	連絡先
ぐんま昆虫の森	Tel. 0277-74-6441 http://www.giw.pref.gunma.jp/
ぐんま天文台	Tel. 0279-70-5300 http://www.astron.pref.gunma.jp/
群馬県生涯学習センター ＜少年科学館＞	Tel. 027-220-1876 http://www.manabi.pref.gunma.jp/syonen/index.html
群馬県立自然史博物館	Tel. 0274-60-1200 http://www.gmnh.pref.gunma.jp/

※各施設では、様々な学習プログラムが用意されており、各学校のニーズに応えることができるようになっているので、まずは連絡をとって確かめることが大切です。【Web上の参考資料に各施設の学習プログラムがあります。】

【参考】 問題解決 構想シート

児童生徒が主体的・対話的で深い学びを実現するためには、教師自身が「理科の見方・考え方」を働かせ、児童生徒と同じ思考過程をたどりながら授業をつくるのが大切です。その際に役に立つのが以下のような構想シートです。

構想シートの使い方

- ・問題解決のゴールとなる「結論」から①～⑥の丸数字の順に児童生徒の意識で記述していく。
- ・P52の「3 学習過程と教科書との関連」と合わせて構想する。

問題解決 構想シート	
【教科書 P ~P】	
年 組 < >	
【学習過程】	児童生徒の意識
【問題・課題】	②問題を「問い」の形で考える。 ・問題を見いだせるような自然事象との関わり(体験)を考える。
【予想・仮説】	③「問い」に対して、何を根拠に、どのような予想・仮説を立てるか考える。 ・ ・
【計画立案】	④予想・仮説を確かめるための計画(解決方法)を考える。
【観察・実験】 【結果の表現】	⑤結果をどのように表現させるかを考える。(表、グラフなど)
【考察】	⑥予想・仮説と結果を照らし合わせて、問題(課題)と正対した答えを考える。「〇〇と予想したが、△△という結果から、「(問い)の答えは)～と考えられる」
【結論】	①結論で書かせたいことを児童生徒の言葉で考える。

○「考察・結論」で書かせたいことが答えになるような問題を「問い」の形で考えます。

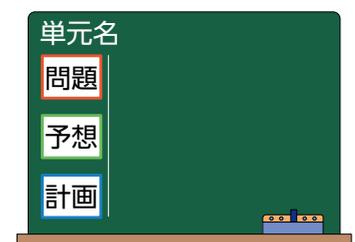
○誤概念や不十分な根拠によるものも含めて、児童生徒がどのような予想をするのかを、多様に考えておくことが大切です。

○計画を考える際のポイント
ア) 数値化できるか
イ) 対照実験はあるか
ウ) 反証が示される可能性はないか

○考察が結果の繰り返しにならないよう「〇〇と予想したが△△という結果から、「(問い)の答えは)～と考えられる」という話型にあてはめてみます。

- ・板書やノート指導も同様の形式で書くことで、児童生徒も常に問題解決の過程を意識しながら探究活動を行うことができます。

【Web上の参考資料にシートの基があります】



生活

Living Environment Studies

生活科は、身近な人々、社会及び自然などの対象を、自分自身や自分の生活と関わらせて考え、その中での気づきを実生活に生かし、よりよい生活を自ら創り出していくための資質・能力を身に付けていく教科です。

そのためには、対象に直接働きかけたり、その中で気付いたことなどを自分なりに表現したりする具体的な活動や体験を繰り返し、対象との関わりを深め、気づきの質を高められるような学習活動の充実を図ることが大切です。

【生活科のページで使用されている用語解説】

気づき	児童の主体的な活動や体験によって生まれる、対象に対する一人一人の認識。知的な側面だけではなく、愛着など情意的な側面も含まれる。
気づきの質が高まる	<p>活動や体験を繰り返したり、友達など他者と交流したりすることなどを通して、対象との関わりを深めることに伴って、次のような気づきに変容していくこと。</p> <p><u>・無自覚な気づきが自覚化された気づきになること</u></p> <p><例> アサガオのつるが伸びると、葉の数も増えるんだね。</p> <p><u>・一人一人に生まれた個別の気づきが関連付けられた気づきになること</u></p> <p><例> Aの気づき→土が乾いていると葉がしおれている。 A  B Bの気づき→土が湿っていると葉がしおれていない。 関連付けられた気づき→土が乾いていたなら、 水をあげるサインだね。</p> <p><u>・対象への気づきのみならず、自分自身についての気づきが生まれること</u></p> <p><例> アサガオの様子を見ながら、一生懸命お世話をしたので、大きい花が咲きました。</p>
思いや願い	学習対象に対しての憧れ。学習対象に関わる楽しさ。学習対象に対して実現したいこと。 など
学習対象	具体的な活動や体験を通して、児童が関わる対象。 ①学校の施設 ②学校で働く人 ③友達 ④通学路 ⑤家族 ⑥家庭 ⑦地域で生活したり働いたりしている人 ⑧公共物 ⑨公共施設 ⑩地域の行事・出来事 ⑪身近な自然 ⑫身近にある物 ⑬動物 ⑭植物 ⑮自分のこと

1 単元のつくり方

生活科は、第1章の2で示すBパターン単元の構想が多くなります。単元を構想するにあたっては、体験活動と表現活動を繰り返しながら、対象との関わりを深め、対象や自分自身についての気づきの質を高めていくことが大切です。気づきの質を高めることができるよう、活動や体験を充実させていきましょう。特に、第1学年の前半の単元を構想する際には、スタートカリキュラムを参考にしましょう。 **P66**

主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善のポイント

(単元に入る前)

- これまでの経験や学びをつなげられるよう、幼稚園等や家庭での体験に関する情報を収集しておく。
- 学習対象に興味・関心をもてるよう、学習対象に関連する作品や写真などを教室に掲示したり、話題に取り上げたりする。
- 一人一人が学習対象への思いや願いをもてるよう、学習対象に関わる資料等を見たり、触れ合ったりする機会を設定する。
- 単元の課題を見出せるよう、一人一人の思いや願いを基に、クラス全体の思いや願いに包括していく。
- 単元の課題の実現に向けて、次時の活動の見通しをもてるよう、活動に関わる写真や身近にある様々な材料を準備する。

○学習対象との関わりを深めたり、新たな気づきを基に考えたりできるよう、多様な学習活動を設定する。

○気づきを自覚したり、活動の発展や新たな気づきにつなげたりできるよう、多様な方法で表現する機会を設定する。

○自分と友達との気づきを比較・関連付けたり、新たな気づきをもったりできるよう、互いの活動を見合ったり、交流したりする機会を設定する。

○気づいたことや考えたことを自分なりに表現できるように、多様な表現方法を提示する。

○自分の成長やよさなどに気づけるよう、学習の過程や活動中の写真、学習で使ったものや作ったものなどを掲示する。

重要：単元・単位時間のすべてに関わること

○自身の学びや変容を自覚したり、次の学びにつなげたりできる学習の振り返りをさせる。

過程と基本的な学習活動

1 学習対象に対して思いや願いをもつ。

- ◇学習対象と出会う。
 - ◇学習対象について気付いたことや思ったことを伝えたり、話し合ったりする。
 - ◇単元の課題をつかむ。
- 【単元の課題】**
〈単元を通して実現したい思いや願い〉
- ◇単元の課題の実現に向けての学習対象との関わり方を考える。

2 具体的な活動や体験をする。

単位時間

【めあて】

- ◇学習対象と関わる。
- ◇自分で気付いたことや考えたことを表現する。
- ◇グループやクラス全体で気付いたことや考えたことを伝え合う。

【振り返り】

単位時間

【めあて】

- ◇新たな気づきを基に、再び学習対象と関わる。
- ◇自分で気付いたことや考えたことを表現する。
- ◇グループやクラス全体で気付いたことや考えたことを伝え合う。

【振り返り】

単位時間

単位時間

3 活動や気づき、考えについて振り返る。

- ◇単元を通して、気付いたことや考えたことをまとめたり、友達に伝えたりする。
- ◇思いや願いの実現に向けての活動を通して、自分の成長やよさを振り返る。

◇**単元全体の振り返り** (個人)

気づきの質の高まり

であう

はたらきかける

ふりかえる

小学校 第1学年

「つくろう あそぼう」(全17時間計画)

【目標】 身近にある自然物や材料を使って、おもちゃや遊びを工夫することを通して、遊びの面白さや自然の不思議さに気付き、安全に気を付けて、みんなで遊びを楽しむことができるようにする。

(単元に入る前)

- ◇休み時間等を利用して、幼稚園等の在園時に、秋の自然物を利用して作ったおもちゃやそれを使った遊びを聞き、情報を得ておく。
- ◇木の実など秋の自然物で作った飾りなどを教室に置いておく。

1 学習対象に対して思いや願いをもつ。

- ◇これまでの体験を出し合う。
- ◇身近にある自然物や材料を使って遊ぶ。
- ◇遊ぶ活動を通して、気付いたことや思ったことなどを伝えたり、話し合ったりする。
 - ・楽しいおもちゃを作りたい。
 - ・たくさんの友達やいろいろな人と遊びたい。
 - ・友達と一緒におもちゃのお店を開きたい。
- ◇単元の課題をつかむ。

【単元の課題】 年長さんを招待して、自分たちで作ったおもちゃを使って遊びの会を開こう。

- ◇どのようなおもちゃを作りたいか、どのようなお店にしたいかを考える。

2 具体的な活動や体験をする。

- ◇お店ごとに、作りたいおもちゃや必要な物について話し合おう。
- ◇みんなでおもちゃを作ろう。
- ◇みんなが楽しく遊べるルールを考えよう。
- ◇グループで試し遊びをしよう。
- ◇もっとおもちゃを工夫しよう。
- ◇年長さんを招待して一緒に遊ぼう。



小学校 第2学年

「つたわる 広がる わたしの生活」(全14時間計画)

【目標】 地域の人々と関わったことを家の人など身近な人々に伝え合う活動を通して、伝えたいことや伝え方を選び、地域の人々と関わることの楽しさが分かるとともに、進んで交流することができるようにする。

(単元に入る前)

- ◇児童から家族と出掛けたことのあるお店を聞き、情報を得ておく。
- ◇地域の人々と関わった学習内容をまとめた掲示物を教室に貼っておく。

1 学習対象に対して思いや願いをもつ。

- ◇地域で関わった人々の姿や話したことなどを思い出す。
- ◇地域で関わった人々のことについて、心に残っていることを伝え合う。
 - ・〇〇屋の□□さんは、朝早くから一生懸命おかしを作っていると聞いた。
 - ・警察の△△さんは、毎日地域の人が事故に遭わないように、交通当番しながら見守ってくれている。
- ◇単元の課題をつかむ。

【単元の課題】 地域で働いている人のすばらしさを、家の人など身近な人々に発表しよう。

- ◇家の人など身近な人々に、地域で関わった人々のことについて伝えたいことを考える。



2 具体的な活動や体験をする。

- ◇グループごとに、伝えたいことや伝え方について話し合おう。
- ◇伝えたいことを新聞やポスターにまとめよう。
- ◇お互いに新聞やポスターを見合せて、良い点や工夫する点について伝え合おう。
- ◇分かりやすい発表にするために、さらに情報を集めたり、伝え方を工夫しよう。
- ◇地域で働いている人について、家の人などに発表しよう。

3 活動や気付き、考えについて振り返る。

- ◇単元(おもちゃ作りや遊びの会)を通して、気付いたことや考えたことを絵本などにまとめたり、友達に伝えたりする。
- ◇活動を通して活用したワークシートや写真などを基に、自分の成長やよさなどを振り返る。

- ・ルールを簡単にしたら、年長さんが喜んでくれて、嬉しかった。
- ・他のグループの友達から、もっと楽しくするヒントを教えてもらって、もっと面白いおもちゃを作ることができた。
- ・友達と一緒に、力を合わせて準備して楽しかった。
- ・年長さんが1年生になったら、また仲良くしたいな。

3 活動や気付き、考えについて振り返る。

- ◇単元(地域の人々との関わり、グループでの活動、発表会など)を通して、気付いたことや考えたことをワークシートにまとめたり、友達に伝えたりする。
- ◇活動を通して活用したワークシートや写真などを基に、自分の成長やよさなどを振り返る。

- ・地域にはいろいろな人が働いていて、私たちの暮らしを楽しくしたり、守ってくれたりしていることが分かった。
- ・働いている人のすばらしさが伝わるように、絵や写真を使ったポスターを作って発表することができた。
- ・地域で働いている人ともっと話をして、仲良くなりたい。

2 単位時間の作り方（「であう」過程）【例】

「であう」過程では、学習対象との関わりを通して、興味や関心を高めるとともに、学習対象について気付いたことなどを伝え合う活動を設定し、単元を通して実現したい思いや願いをもたせ、「はたらきかける」過程への意欲につなげましょう。内容によっては、単位時間が複数時間にまたがる場合があります。

【指導のポイント】

【学習対象に関連する資料の準備】

○資料等については、低学年の発達の特徴を踏まえた写真や絵などを準備する。

【話題の取り上げ方】

○児童の日常的な会話や日記などを基に、具体的な言葉を問い掛ける。

<例>

◆「自分の住んでいる町にどんなお店があるのかな。」など。

【「めあて」の設定】

○基本的に単元のスタートにおいては、「活動・テーマ」の要素を含んだめあての設定が多くなる。

<例>

◆「〇〇をさがそう」

◆「〇〇をみつけよう」など。

【意欲を高める言葉掛け】

○児童の発見や気付きを共感的に受け止めたり、周囲の児童にも伝わるような言葉掛けをする。（リアクション、声の大きさ）

<例>

◆「すごいものを見つけたね。」

◆「〇〇ちゃんが△△に気付いたよ。」など。

【交流する場の設定】

○児童の実態や発達の特徴を踏まえ、学習対象に関連するものなどを用いながら、言葉や絵などで伝え合わせる。

【振り返りの工夫】

○次時への思いや願いをもてるような振り返りの視点を示す。

<例>

◆これからしてみたいこと

◆みんなで楽しみたいこと など。

○児童の発達の特徴を踏まえ、言葉だけでなく絵で表現させたり、意欲が増すような見出しにしたりするなどの振り返りカード等を準備する。

基本的な流れ

1 本時のめあてをつかむ。

- 児童のこれまでの生活経験や学び、日頃の児童の遊びや生活の様子を基に、学習対象に関連するものや写真などの資料を提示する。
- 学習対象について知っていることや体験していることを話題に取り上げる。
- 本時の学習のめあてを、児童の思いや願いを踏まえて設定する。

【めあて】

2 学習対象と関わる。

- 学習対象への興味や関心が高まるような出会わせ方を工夫し、学習対象とじっくり関わる機会を設定する。
- 学習対象への興味・関心を確認したり、活動や体験への意欲を高めたりする言葉を掛ける。

3 学習対象について見付けたことや気付いたことを伝え合い、課題をつかむ。

- 発見や考え、感想などを交流する場を設定する。
- 一人一人の思いや願いを把握し、気付いたことなどを全体で共有できるように、児童の気付きを板書し、可視化する。
- 児童の気付きをキーワードに、単元の課題を設定する。

【単元の課題】

〈単元を通して実現したい思いや願い〉

4 本時の学習の振り返りをする。

- 思いや願いの実現への意欲につなげられるような言葉を掛ける。
- 活動を基に、気付いたことや感想などを振り返りカードに書かせる。
- 気付いたことや感想などを発表するように促す。

単位時間の振り返り

小学校 第1学年 「つくろう あそぼう」

【ねらい】

秋の自然物や身の回りにある材料を使って遊ぶことを通して、おもちゃを作ることへの意欲やみんなで遊ぶことへの期待をもつことができるようにする。

1 本時のめあてをつかむ。

- 秋の自然物や身の回りにある材料を使って遊んだ経験や知っていることを話題に取り上げる。

どんぐりや松ぼっくりなどの秋の木の实を使って遊んだことがあるかな？

どんぐりごまを作ったよ。

どんぐりや松ぼっくりを使っているいろいろなおもちゃが作れるんだね。自分も作って遊んでみたい。

松ぼっくりで、的当てやボウリングをしたよ。

【めあて】

秋さがしをして見付けた物や身の回りにある材料を使って遊んでみよう。

2 秋の自然物や身の回りにある材料を使って遊ぶ。

- 秋の自然物や身の回りの材料を用意し、じっくり関われる機会を設定する。



<様々な秋の自然物の用意>



<おもちゃ作りの様子>

- おもちゃを工夫して作ることへの興味や関心を確認したり、意欲を高めたりする言葉を掛ける。

最初いっぱいどんぐり入れたら、あまりいい音じゃなかったけど、数を減らしたら、かわいい音に変わったよ。

音が変わるなんてすごいことに気付いたね。おもしろい遊びになりそうだね。

3 気付いたことや今後やってみたいことを伝え合い、課題をつかむ。

- 一人一人の思いや願いを把握し、共有できるようにする。

〇〇くんのどんぐりを的に入れる遊びがおもしろそうだよ。

〇〇くんやってみて、他にもおもしろい遊び方した人いるかな。

私は、ペットボトルを倒すボウリングを考えたいよ。

おもちゃでもっといろいろな人と遊んでみたいな。

おもちゃのお店を開きたいな。

- 児童の気づきを板書し、可視化する。

【単元の課題】

年長さんを招待して、自分たちで作ったおもちゃを使って遊びの会を開こう。

4 本時の学習の振り返りをする。

- 本時の活動を振り返り、気付いたことや感想などを発表させる。

次の時間は、どんなおもちゃを作りたいか、どんなお店にしたいか考えよう。

年長さんが楽しんでくれるおもちゃを作りたいな。

どんぐりで飾りを作って年長さんがわくわくするお店にしたいな。

小学校 第2学年 「つたわる 広がる わたしの生活」

【ねらい】

これまでの学習で関わった地域の人々について、心に残ったことを振り返ることを通して、他の人に伝えたいという思いをもつことができるようにする。

1 本時のめあてをつかむ。

- 地域で関わった人々のことをこれまでの学習で残してきた記録カードや作品などを見ながら想起させる。

これまでたくさんの地域の人々と関わってきましたね。地域で誰と関わってきましたか？

おかしやの〇〇さん。 けいさつしよの〇〇さん。

もっといろいろな地域の人に出会ってきたよ。

【めあて】

これまでに関わった地域の人々について話し合おう。

2 これまで関わった地域の人々について、心に残っていることを紹介し合う。

- これまでの学習で関わった地域の人々を思い出し、自分の心に残っていることをカードに書かせる。
- 心に残っている理由（わけ）も考えさせる。

〇〇さんが作るおかしはとてもおいしい。

〇〇さんは、八木節踊りがとても上手だったな。

地域には、素晴らしい人がたくさんいますね。

3 これまで関わった地域の人々について伝え合い、課題をつかむ。

- 少人数でグループを編成し、互いに心に残っている地域の人々について伝え合う場を設定する。

それは知らなかったな。

けいさつしよの〇〇さんは、一人暮らしのお年寄りの家の訪問もしているんだよ。

とうふやの〇〇さんは、朝4時に起きてとうふを作っているんだって。

- 伝え合いの様子を観察し、児童のつぶやきなどを捉え、振り返りの場面で全体で共有させる。

グループで伝え合っている時に、〇〇さんがこんなことを話していましたよ。

もっと地域の人を知りたいな。

地域の人のすごいところを誰かに伝えたいな。

- 児童の気づきを板書し、可視化する。

【単元の課題】

地域で働いている人のすばらしさを、家の人など身近な人々に発表しよう。

4 本時の学習の振り返りをする。

- 本時の活動を振り返り、気付いたことや感想などを発表させる。

次の時間は、どんなことを伝えたいか考えよう。

おかしがおいしい秘密を調べて伝えたいな。

けいさつしよの仕事についてみんなに伝えたいな。

2 単位時間の作り方（「はたらきかける」過程）【例】

「はたらきかける」過程では、前時の振り返りを基にめあてを設定し、活動の見通しをもたせるとともに、体験活動と表現活動を繰り返して、気づきの質を高めていきましょう。内容によっては、単位時間が複数時間にまたがる場合があります。

【指導のポイント】

【めあての設定】

○「はたらきかける」過程においては、児童の具体的な活動や体験、気づきを交流する活動についての設定が多くなる。

<例>

- ◆「〇〇をたんけんしよう」
- ◆「〇〇をつくらう」
- ◆「〇〇であそぼう」
- ◆「〇〇をつたえよう」など。

【多様な学習活動の設定】

○気づきの質を高められるように以下のことができる活動を設定する。

<例>

- ◆見付ける、比べる、たとえる、試す、見通す、工夫するなど。

【児童が工夫したくなるような材料等の準備】

○児童の発達の特徴を踏まえ、可塑性のある材料や様々な形や色の材料、いろいろな種類の道具を準備する。

<例>

- ◆粘土、ゴム、空き箱、画用紙、ひも、カッター、ガムテープ、接着材など。

【言葉掛けの援助】

<例>

- ◆「なんで？ どうしてそう思ったの？」
- ◆「どうしたらもっと〇〇になるかな。」
- ◆「自分の考えと比べてどうかな。」
- ◆「どうして〇〇になったのかな。」
- ◆「〇と△は関係があるかな。」
- ◆「何に似ているかな？」
- ◆「同じ(似ている、違う)ところはどこかな。」
など。

【振り返りの工夫】

○次時への思いや願いをもてる振り返りの視点を示す。

<例>

- ◆もっと楽しくなるために工夫すること
- ◆もっと調べたいこと など。

○児童の発達の特徴を踏まえ、言葉だけでなく絵で表現するなどの振り返りカード等を準備する。

基本的な流れ

1 本時のめあてをつかむ。

- 前時までの学習を想起できるよう、前時に使った具体物や掲示物、板書をまとめたもの等を提示する。
- 振り返りカード等を基に、本時の活動に対する児童の思いや願いを確認させる。
- 学習のめあてを、児童の思いや願いを踏まえて設定する。

【めあて】

2 具体的な活動や体験をする。

【学習対象と関わる】

- 対象にじっくり関わったり、繰り返し関わったりする時間を十分確保する。
- 動きやすく安全な空間を設定する。
- 児童が工夫したくなるような材料や道具を準備する。
- 児童の内面を押し量り、一人一人の思いや願いが実現できるような適切な援助をする。

3 気付いたことや考えたこと表現し、伝え合う。

- 気付いたことや考えたことを、児童に絵や文章、動作等で表現させる。
- 気付いたことを発表し合わせるとともに、学級全体で気づきを共有する場を設定する。
- 児童が気づきを自覚したり、新たなことに気付いたり、気づきを関連付けたりすることができる言葉掛けの援助をする。

【再び学習対象と関わる】

4 本時の学習の振り返りをする。

- 本時の活動を通して気付いたことや感想などを振り返りカードに書かせる。
- 児童の気づきを板書し、可視化する。
- 思いや願いをもち、次時への意欲につなげられる言葉を掛ける。

単位時間の振り返り

小学校 第1学年 「つくろう あそぼう」

【ねらい】

作ったおもちゃで実際に遊ぶことを通して、「年長児に楽しんでもらう」という観点で、より楽しいお店にするための工夫を考えることができるようにする。

1 本時のめあてをつかむ。

- 単元全体のめあてや、前時までに行ってきたことを想起させ、年長児が楽しめるように、「おもちゃ」「遊び方のルール」のよいところや工夫した方がよいところを見つけ、伝え合うことを確認させる。

【めあて】

年長さんが、もっとわくわくするお店にしよう。

- 活動の仕方を掲示し、活動の順序を確認するよう促す。

<おみせやさん>

- 1 あいさつ
- 2 あそびかたをせつめいする
- 3 おみせをひらく
- 4 あいさつ
- 5 「わくわくカード」をかく

<おきやくさん>

- 1 あいさつ
- 2 せつめいをきく
- 3 あそぶ
- 4 あいさつ
- 5 「わくわくカード」をかく

2 お店を開き、遊んでもらうことで、よいところや工夫するところを見つける。

- 困っていることについて、お店ごとに発表させてから、遊び始めるよう促す。

点数が見づらいかもしれない。どうすればいいかな？

- 年長児のことを考えているかを見て回り、必要に応じて具体的な言葉を掛ける。



年長さんが分かるようにするには、点数をどう直せばいいのかな。

3 気付いたことをカードに書いて伝え合う。

- 困っていることの解決策を発表させる。

年長さんが見やすいように点数を白い紙に書いて貼ったらいと思います。



- 他に気付いたことも伝え合わせる時間をとる。



輪投げで遊んだとき、輪の針金の先がとがっていて危ないな、と思いました。

- 活動中に児童がつぶやいたことなどを伝える。

遊んでいるときに、〇〇さんがいいことを言っていたの。〇〇さん、発表してくれますか。



- 発表を基にお店ごとに次の時間に改善するところを確認してカードに記入させる。



4 本時の学習の振り返りをする。

- めあてを基に、本時の活動の振り返りをさせる。
- 本時の感想を発表し、次時への意欲や見通しをもたせる。

白い紙に点数を書けば、見やすくなって、年長さんも楽しんでくれるかな。



年長さんが痛くないように、針金の先にテープを巻いた方がいいね。



小学校 第2学年 「つたわる 広がる わたしの生活」

【ねらい】

感想や意見を伝え合う活動を通して、地域で働いている人のすばらしさを伝えるための新聞の改善点を考えることができるようにする。

1 本時のめあてをつかむ。

- 単元全体のめあてや、前時までに行ってきたことを想起させ、地域で働いている人のすばらしさを伝えるための新聞の改善点を考えることを確認させる。

【めあて】

地域で働いている人のすごいところをもっと分かるようにするための方法を考えよう。

- 本時の見通しがもてる活動の流れや時間の目安を掲示する。

2 地域で働いている人について発表したり、発表を聞いたりする。

- 発表を聞く際には、ワークシートなどに気付いたことをメモするよう助言する。



3 気付いたことを伝え合い、それを基に、自分たちのグループの改善点を考える。

- 伝えたい内容について気付いたことを伝え合うよう促す。出された意見を整理して板書する。

新聞の内容で、もっと工夫できるところはありますか？



何の写真か、分るといいね。

地域で働いている人が、他にしていることも発表するのいいと思います。



地域で働いている人が知っていることを、もっと詳しく説明したらどうかな。



そのために、もう少し話を聞いてみよう。

- 話し合いの様子から、児童のつぶやきなどを把握し、振り返りの場面において全体で共有させる。

- 話し合ったことをグループのワークシートに書かせる。

4 本時の学習の振り返りをする。

- グループごとに改善点を発表し、次時への意欲や見通しをもたせる。
- めあてを基に、本時の活動の振り返りをさせる。

グループの話し合いの時に、〇〇さんはこんなことに気付いていましたよ。いいところに気が付きましたね。



〇〇さんが、みんなのために一生懸命働いていることが伝わるように、努力していることをもっと詳しく書こう。

もっと写真を入れると伝わりやすいことが分かったから、次の時間に直せるように頑張ろう。



2 単位時間の作り方（「ふりかえる」過程）【例】

「ふりかえる」過程では、今までの活動や気付きをしっかりと振り返らせ、自分なりにまとめる活動を通して、自分の成長やよさを自覚させ、更なる成長への期待や意欲につなげましょう。内容によっては、単位時間が複数時間にまたがる場合があります。

【指導のポイント】

【めあての設定】

○「ふりかえる」過程においては、今までの学習内容をまとめたり、調べてきたことを紹介したりする言葉が多くなる。

<例>

- ◆「〇〇についてパンフレットにまとめよう」
- ◆「〇〇について1年生にしようかいしよう」など。

【これまでの活動を想起する環境づくり】

○今までの活動を可視化して提示する。

<例>

- ◆活動中の写真や動画
- ◆関わってくれた人の印象的な言葉や様子
- ◆蓄積してきた振り返りカード
- ◆活動の中で使ったものや作ったもの など。

【まとめ方の工夫】

○児童の思いに沿って、様々な形でまとめ、表現することができるよう表現方法を選択させる。

<例>

- ◆絵本、新聞、巻物、劇 など。

【気付きを自覚させる言葉掛け】

○教師が児童の気付きを認め、自分の成長やよさなどについて気付かせる。

<例>

- ◆「〇〇ができるようになったね。」
- ◆「友達に教えることができたね。」
- ◆「友達と力を合わせてできたね。」など。

基本的な流れ

1 本時のめあてをつかむ。

- これまでの学習における一人一人の思いや願いなど、振り返りカードなどから把握しておく。
- 前時までの学習を想起できるよう、これまでの活動で使ったものや作ったもの、活動中の写真などを掲示する。(全体で)
- 学習のめあては、児童の思いや願いを踏まえて設定する。

【めあて】

2 一人一人が今までの活動や気付きについて振り返る。

- 活動してきたことを想起できる環境をつくる。
- これまでに使ったものや作ったものを見られるように提示する。(個別に)
- 今までの振り返りカード等を見返すよう促す。
- 頑張ったことやできるようになったことに気付かせるような言葉掛けをする。

3 表現方法を工夫し、まとめる。

- 自分の気付きを自覚したり、考えを深めたり、新たな考えを生み出したりできる表現活動を設定する。
- 互いの気付きや考えを共有したり、関連付けたりできる機会を設定する。
- 充実した活動となるように時間を十分確保する。

4 単元全体の振り返りをする。

- 自分の成長やよさなどについての気付きをもたせ発表させる。
- 全体で互いの頑張りを確認させ、更なる成長への期待や意欲につなげる。

単元全体の振り返り

小学校 第1学年 「つくろう あそぼう」 【ねらい】

これまでの学習を振り返り、感想を発表したり、ワークシートをまとめたりすることを通して、自分が頑張ったことに気付けるようにする。

1 本時のめあてをつかむ。

- これまでの活動の写真を提示し、活動時の思いや願いを想起させる。

遊びの会で年長さんを招待して、自分たちで作ったおもちゃと一緒に遊んだね。



【めあて】

楽しかった遊びの会。今までのワークシートをまとめて振り返ろう。

2 これまでの活動について振り返り、交流する。

- 活動時の写真をお店ごとに準備し、次の視点で交流させる。



「気を付けたこと」「うまくいったこと」「年長さんの様子」についてまとめて発表しよう。

年長さんのみんなが楽しく遊べるように、ていねいに説明したよ。

友達からアドバイスをもらって直したらうまくいったよ。



友達と協力して準備できたから楽しい会ができたよ。



「楽しかった、ありがとう」って言われてうれしかったよ。



3 今までの活動について記録してきたワークシートを絵本や新聞などにまとめる。

- これまで蓄積してきたワークシートを絵本や新聞などにまとめていく中で、気づきを自覚させたり、新たな考えをもたせたりする。

ワークシートをまとめることで、今までの活動を思い出してみよう。



最初のころはうまく遊べなかったけど、〇〇さんが教えてくれて上手にできたんだ。



みんなで協力しながらおもちゃを作ったときが楽しかったな。



4 単元全体の振り返りをする。

- 交流したことやまとめて気付いたことについて自己評価を行い、次時への見通しをもたせる。



年長さんが「もう一度やりたい」って言ってくれて自信ができたよ。みんなで協力して頑張ったから楽しい遊びの会になったよ。



今までの活動を思い出しながらまとめることができたね。

次の時間は、できるようになったことやこれからやってみたいことを考えていきましょう。

小学校 第2学年 「つたわる 広がる わたしの生活」 【ねらい】

地域の人々との関わりやグループ活動、発表会を振り返ることを通して、分かったことや自分の成長で気付いたこと、これからやってみたいことについて考えることができるようにする。

1 本時のめあてをつかむ。

- 今までの活動や発表会の様子の写真を提示し、活動時の思いや願いを想起させる。

地域で働いている人のすばらしいところを伝えてきましたね。



発表会、おうちの人がたくさん来てくれたね。

【めあて】

地域で働いている人の学習を振り返り、できるようになったことやこれからやってみたいことを考えよう。

2 学級全体で発表会について振り返り、交流する。

- 発表会の写真や自分たちが作った新聞を見返し、感想を書き、交流させる。

地域で働いている人が一生懸命頑張ってくれているおかげで楽しく過ごせていることがわかったよ。



アドバイスをもらって直したら、分かりやすく発表できてうれしかった。



みんなたくさんのことに気付いたり、考えたりできたね。



〈グループごとにつくった新聞〉

3 地域で働いている人の紹介を通して、できるようになったこと、頑張ったことをワークシートにまとめる。

- 今まで記録してきたワークシートや写真、製作物を見返すよう促す。

- 「調べたこと」「まとめたこと」「紹介したこと」など活動全体を振り返り、自分の気づきや成長を自覚させる。



4 単元全体の振り返りをする。

- 単元全体の学習内容と照らし合わせながら、成長したことやこれからやってみたいことについて伝え合わせる。

自分が住んでいる地域の人のもっと知ることができたよ。



グループのみんなと協力することで分かりやすい新聞が作れたよ。

いろいろな人と話をして、自分が積極的になれたよ。



他のグループの発表を聞いて、そこに行きたくなった。

自分の知らないことをもっと調べて、いろいろな人に伝えたいな。



3 学習過程と教科書との関連

生活科の教科書は、はじめに学習対象と出合わせ、気付きの質を高める体験活動や表現活動などを見開きで示しているとともに、単元ごとに生活上必要な習慣や技能も示されています。単位時間のねらいや学習内容に応じて効果的に活用しましょう。また、幼稚園等や他教科とのつながりのある学習活動が示されています。指導計画を構想する際に参考にしましょう。

児童に興味・関心をもたせたり、生活上必要な技能を身に付けさせたりする際の活用

◎教科書にある児童のつぶやきや表情、歌などに着目させ、児童の意欲や想像力を高めましょう。

◎教科書にある約束などに着目させ、学習活動の留意事項を確認する際に、安全面や衛生面に対する児童の意識を高めよう。



児童に学習活動のイメージを持たせる際の活用

◎教科書にある活動の写真を活用し、学習活動の流れを視覚的に確認させ、見通しをもたせましょう。

◎教科書に載っている作品などを提示し、アイデアが思い浮かばない児童へのヒントや手掛かりとしましょう。

教師が指導計画を構想する際の活用

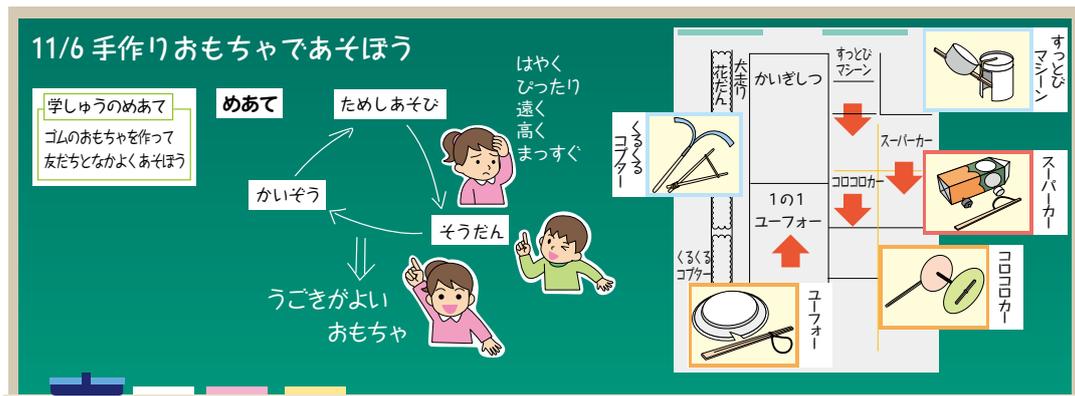
◎教科書に幼稚園等や小学校中学年との縦のつながり、同学年の他教科との横のつながりを意識した学習活動が示されています。児童や学校の実態、地域の特色を踏まえて指導計画を構想しましょう。

- (例) ・小学校がどんなところか年長さんを招待する。【幼稚園等との縦のつながり】
 ・生活科で気付いたことや伝えたいことを書いたり話したりする。【国語との横のつながり】

4 学習活動を行う場合に生じる困難さに応じた指導の工夫【例】

困難さ	指導の工夫
言葉での説明や指示だけでは、安全に気を付けることが難しい場合	・説明や指示の意味を理解し、なぜ危険なのかをイメージできるように、体験的な事前学習を行う。
みんなで使うもの等を大切に扱うことが難しい場合	・大切に扱うことの意義や他者の思いを理解できるように、学習場面に即して、児童の生活経験等も踏まえながら具体的に教える。
自分の経験を文章にしたり、考えをまとめたりすることが困難な場合	・児童がどのように考えればよいのか、具体的なイメージを想起しやすいように、考える項目や順序を示したプリントを準備したり、事前に自分の考えたことを言葉や動作で表現したりしてから文章を書かせる。
学習の振り返りの場面において学習内容の想起が難しい場合	・学習経過を思い出しやすいように、学習経過などの分かる文章や写真、イラスト等を提示する。

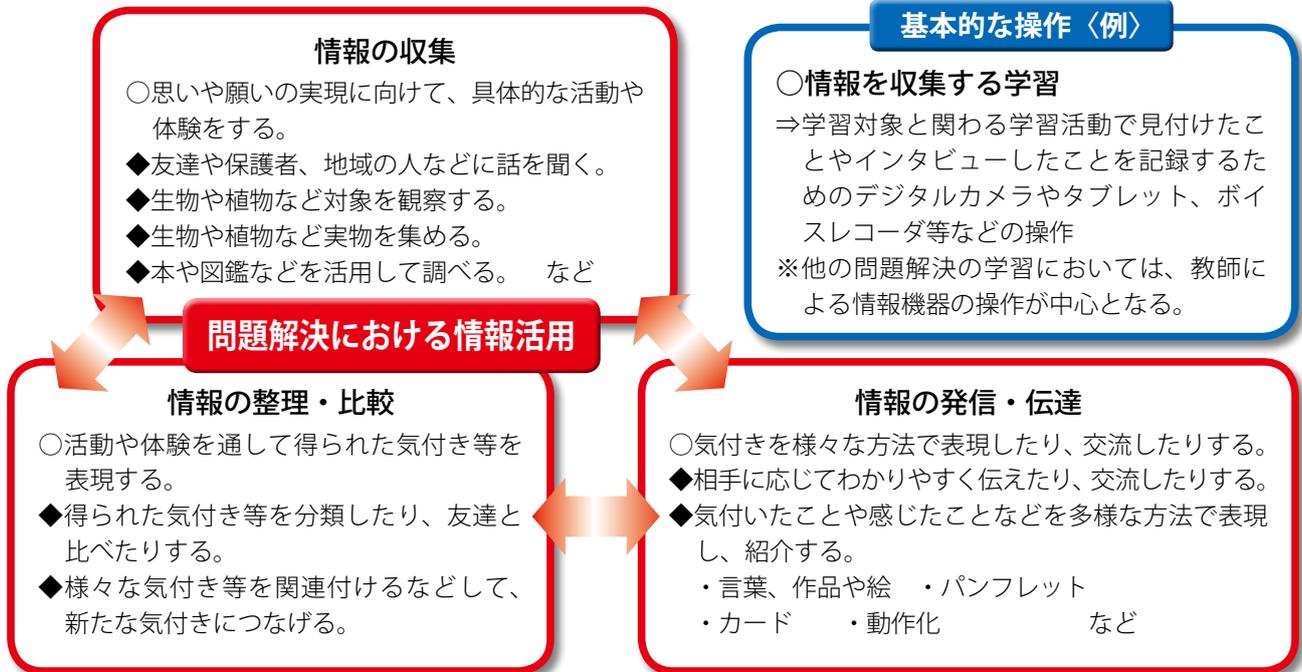
(例) 学習経過などの分かる板書例



5 情報活用能力の育成

生活科の学習における情報とは…学習対象に関する様子や内容等

〈例〉ドングリの特徴、アサガオの成長、自分自身や成長など



6 地域の人材や物的資源の活用

生活科の授業は、児童の身の回りの環境や地域を学習の対象とし、フィールドとしています。

学校においては、地域の特色を生かして様々な施設や地域の人と連携して授業を行うようにしましょう。

〈低学年に関わってほしい学習対象〉

- ①学校の施設 ②学校で働く人 ③友達 ④通学路 ⑤家族 ⑥家庭 ⑦地域で生活したり働いたりしている人
⑧公共物 ⑨公共施設 ⑩地域の行事・出来事 ⑪身近な自然 ⑫身近にある物 ⑬動物 ⑭植物 ⑮自分のこと

内容	活用が考えられる地域の人材や物的資源	
	人材	物的
(1) 学校と生活	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員・児童・保護者・交通指導員・警察官 ・給食センターの人々・旗振りの人 ・子ども110番の家の人・見守りボランティア ・幼稚園等の職員・児童館の職員 	<ul style="list-style-type: none"> ・教室・特別教室・校庭・教具・遊具・掲示物 ・自然物・通学路・信号機・歩道橋・横断歩道
(2) 家庭と生活	<p>家族</p> <p>※家庭や児童のプライバシーを尊重、配慮し、家庭の理解と協力を得て、個々の家庭の状況を十分把握し、児童の実態を踏まえた適切な学習活動を行うようにすること。</p> <p>※他の内容との関連を図った活動を取り入れるよう工夫することが考えられる。</p>	/

内容	活用が考えられる地域の人材や物的資源	
	人材	物的
(3) 地域と生活	<ul style="list-style-type: none"> ・地域に住んでいる人々 ・地域で働いている人々・子供会・高齢者 ・地域にある幼稚園等の職員や乳幼児 ・交通指導員・警察官・旗振りの人 ・子ども110番の家の人・見守りボランティア 	<ul style="list-style-type: none"> ・商店街・公園・公民館・交番や派出所・病院 ・老人ホーム・図書館・児童館 ・田や畑・川・林・道路・信号機・横断歩道 ・歩道橋・駅・バス停
(4) 公共物や公共施設の利用	<ul style="list-style-type: none"> ・公共の施設を管理する人・利用者 ・ボランティア 	<ul style="list-style-type: none"> ・公園・公園にある物・図書館・図書館にある本・博物館・博物館の展示物 ・道路標識・横断旗・公園・児童館・集会所 ・公民館・美術館・駅・バスターミナル・防災倉庫 ・避難場所・掲示板や掲示物・河川・広場 ・公共の交通機関
※(1)、(3)と組み合わせて単元構成をすることも考えられる。		
(5) 季節の変化と生活	<ul style="list-style-type: none"> ・自然観察指導員 ・季節や地域の行事を主催し、保存や継承に携わる人々 	<ul style="list-style-type: none"> ・校庭や通学路の自然・地域の公園、川や土手、林や野原、山の自然 (生き物、草花、樹木、木の実、木の葉、水、氷、雨、雪、風、光など) ・地域の季節の変化と関わりを持つ行事
※(3)、(6)、(7)、(8)と適宜関連させ創意工夫のある指導計画を作成することが大切である。		
(6) 自然や物を使った遊び	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者・児童・地域の幼児・高齢者 ・自然観察指導員 	<ul style="list-style-type: none"> ・身近な自然(草花、樹木、木の実、木の葉、石、砂、土、光、影、水、氷、雨、風など) ・身近にある物(紙、ひも、ポリ袋、空き缶、空き箱、空き容器、ストロー、割り箸、ペットボトル、牛乳パック、紙コップ、トレイ、輪ゴム、磁石など)
(7) 動植物の飼育・栽培	<ul style="list-style-type: none"> ・獣医師・近隣の農家の人・JA職員 	
(8) 生活や出来事の伝え合い	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員・児童・地域の人・保護者・家族 ・幼児・高齢者・障害のある児童生徒 	<ul style="list-style-type: none"> ・手紙・電話・ファックス
※全ての内容との関連を図り、単元構成をしていくことが考えられる。		
(9) 自分の成長	<ul style="list-style-type: none"> ・家族・親戚の人・幼稚園等の教職員 	<ul style="list-style-type: none"> ・幼い頃に使った物・幼い頃の写真・幼い頃の作品 ・入学当初の書いた名前や絵 ・生活科の学習カード

【参考】スタートカリキュラム

- ・小学校へ入学した子供が、保育所・認定こども園・幼稚園での遊びや生活を通じた学びと育ちを基礎として、主体的に自己を発揮し、新しい学校生活を創り出していくためのカリキュラムです。幼児期の教育を通して育まれた資質・能力を踏まえて教育活動を充実させていきましょう。
- ・スタートカリキュラムの編成については、下記のアドレスにアクセスし、参考にしてください。

http://www.nc.gunma-boe.gsn.ed.jp/?action=common_download_main&upload_id=1427

音 楽

Music

音楽科は、表現及び鑑賞の幅広い活動を通して、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と豊かに関わる資質・能力の育成を目指す教科です。

そのためには、音や音楽を音楽を形づくっている要素とその働きから捉え、課題解決に向けて活用し、他者と協働しながら、音楽表現を生み出したり音楽を聴いてそのよさや美しさを見いだしたりするなど、思考、判断し、表現する一連の過程を大切に学習の充実を図っていくことが大切です。その際、「A表現」及び「B鑑賞」の指導については、表現領域と鑑賞領域の関連や、歌唱、器楽、音楽づくり・創作の各分野間の関連を図り、それぞれが特定の活動で終わらないようにすることも大切です。

【音楽科のページで使用されている用語解説】

共通教材	唱歌や童謡、わらべ歌、歌曲等、各学年で指導することを学習指導要領で示された歌唱教材。
〔共通事項〕	「A表現」及び「B鑑賞」の全ての活動において共通に指導する内容。
音楽を形づくっている要素	音色、リズム、速度、旋律、強弱、テクスチャ、形式、構成など、音楽を構成するもととなるもの。

1 題材のつくり方

音楽科では、第1章の2で示すAパターンの題材の構想が多くなります。「つかむ」過程では、児童生徒の興味・関心や既習事項、音楽を形づくっている要素を結び付けて題材の課題を設定します。「追求する」過程では、単位時間ごとに、課題解決に向けて思いや意図と音楽を形づくっている要素とを関連付け、音楽表現を積み重ねます。そして、「まとめる」過程では、発表等を通して音楽表現の高まりを価値付け、実感させながら、題材で身に付けさせたい資質・能力を育成していきます。

「A表現」と「B鑑賞」の関連を図った題材を例に

主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善のポイント

- 題材に対する興味・関心を高められるよう、聴かせ方や資料の提示の仕方を工夫する。
- 音や音楽の特徴を捉えることができるよう、感じ取ったことと音楽を形づくっている要素とその働きを問いかける。
- 見通しをもって取り組むことができるよう、児童生徒のイメージと〔共通事項〕を手がかりに、題材で何を学ぶのかを確認させる。

- 一人一人が表したい思いや意図を音楽を形づくっている要素とその働きの視点で結び付けさせる。
- 音や音楽、言葉で伝え合ったり、曲を聴き直したりしながら表現させる。
※必要な知識及び技能も併せて習得させる。
- 表現の高まりを共有・共感し、表したい思いや意図をより膨らませることができるよう、表現を繰り返し試行させたり、表現を価値付けたりする場を設定する。

- 題材を通しての互いの表現や技能の高まりを実感することができるよう、表現のよさや面白さを伝え合ったり認めたりする場を設定する。
- 題材における学びを、音楽を形づくっている要素とその働きや生活や文化等と関連付けた振り返りをさせる。

過程と基本的な学習活動

1 題材の課題を把握する。

- ◇音や音楽と出会う。
- ◇出会った音や音楽について、その雰囲気と音楽を形づくっている要素とを結び付けて聴き取る。
- ◇聴き取ったことを基に、どのような音楽表現にしたいかについてイメージをもつ。
- ◇題材の課題をつかむ。

【題材の課題】

〈題材で取り組む大まかな音楽表現〉

- ◇題材の課題解決に向けての大まかな見通しをもつ。
- ◇音や音楽の雰囲気を醸し出す理由を、音楽を形づくっている要素等に注目して探る。

2 音楽を形づくっている要素と思いや意図とを関連付けながら表現を探る。

単位時間

【めあてをつかむ】

◇表したい思いや意図をもつ。

繰り返す

更新する

◇音楽を形づくっている要素を手がかりに、表現を試しながら工夫する。

更新する

◇表現の高まりを共有・共感し、その後の表現に生かす。

【まとめ・振り返りをする】

単位時間

単位時間

単位時間

追
求
す
る

ま
と
め
る

3 発表等を通して表現の高まりを実感し、題材の学びを振り返る

- ◇グループごとの発表や、全体でまとめの演奏等を行う。
- ◇題材の学びを振り返る。

題材全体の振り返り

重要：題材をつくる際には、適宜〔共通事項〕を要として各領域や分野の内容の関連を図って構成していく。また、一題材の学習過程だけでなく、年間を見通して各題材間における各領域や分野の関連を図る。

小学校 第4学年
「日本の音楽に親しもう」(全6時間計画)

【目標】

日本の音楽の雰囲気や旋律の特徴を感じ取りながら民謡を聴いたり、お囃子の旋律をつくったりすることを通して、日本の音楽に親しむことができるようにする。

1 題材の課題を把握する。

- ◇「ソーラン節」「八木節」を聴き、感じたことを自由に伝え合う。
- ◇旋律を歌ったり手拍子をしたりしながら、日本の音楽の特徴を音楽を形づくっている要素と結び付けて聴く。
- ◇聴き取ったことを基に、題材でどのような音楽表現にしたいかについてイメージをもつ。
- ◇題材の課題をつかむ。

【題材の課題】 日本の音楽に親しみ、自分たちのおはやしをつくろう。

- ◇題材の課題解決に向けての大まかな見通しをもつ。
- ◇「こきりこ」を聴き、音楽の雰囲気が醸し出す理由を五音音階やリズムの特徴に着目して探る。

2 音楽を形づくっている要素と思いや意図とを関連付けながら表現を探る。

①前時までに学習した民謡の特徴を基に、どんな旋律をつくりたいかという思いや意図をもつ。

5つの音の中から低い音を使ったら、面白い旋律ができた。次の時間に友達がつくった旋律をつなげるとどんな感じになるのか楽しみだな。

②グループで旋律をつなげて演奏し、グループの「おはよしの旋律」をまとめる。

低い旋律の後に高い旋律をつなげてみたら、「呼びかけとこたえ」みたいで面白くなったよ。次の時間はリズム伴奏を重ねておはやしを盛り上げていきたいな。

③リズム伴奏を工夫し、旋律と合わせて演奏する。

自分たちのつくったおはやしに、太鼓を加えたら、おはよしの旋律とうまく重なって面白いおはやしになったよ。次の時間の発表が楽しみだな。

3 発表等を通して表現の高まりを実感し、題材の学びを振り返る。

- ◇グループごとにお囃子を演奏し、互いに聴き合う。
- ◇学級全体で各グループのお囃子のよさや面白さを交流する。
- ◇題材の学びを振り返る。

自分のつくった低い音を使った旋律と友達のとくった高い音を使った旋律をつなげたら、祭りのはじまりから終わりのような流れができて、自分たちのつくったおはやしができた。
これからは、お祭りのとき、どんなおはやしが流れているのかも聴いてみたいと思った。

中学校 第2学年
「曲の構成を理解して曲想を味わおう」(全5時間計画)

【目標】

構成や形式等に注目しながら鑑賞したり創作したりすることを通して、曲想と音楽の構造との関わりを理解し、創意工夫を生かした表現をすることができるようにする。

1 題材の課題を把握する。

- ◇「交響曲第5番ハ短調第1楽章」(ベートーヴェン作曲)を聴き、感じたことを自由に伝え合う。
- ◇音楽の特徴を、「動機」の働きが生み出す特質や雰囲気と結び付けて聴く。
- ◇聴き取ったことを基に、題材でどのような音楽表現にしたいかについてイメージをもつ。
- ◇題材の課題をつかむ。

【題材の課題】 曲の構成や形式の特徴を聴き取り、聴き取ったことを生かしてリズムアンサンブルを創作しよう。

- ◇題材の課題解決に向けての大まかな見通しをもつ。
- ◇音楽の雰囲気が醸し出す理由をソナタ形式や曲に込められた思いに着目して探る。

2 音楽を形づくっている要素と思いや意図とを関連付けながら表現を探る。

①グループごとにリズムアンサンブルのテーマを決め、基となるリズム・パターンをつくる。

テーマ(ハンバーグの作り方)を基に、ハンバーグの材料(パン粉)のリズムができた。次の時間に、どのように構成していくとテーマに合うリズムアンサンブルになるのか楽しみだな。

②構成図を用いて、自分たちの思いや意図に合ったリズムアンサンブルを試行しながら、創意工夫する。

4拍ずつずらして重ねてみたら、材料を混ぜていく様子が表現できて、テーマに合ったリズムアンサンブルになった。発表前にハンバーグを焼く様子を表すリズムのつながり方や重なり方を整えて、みんなの前で発表したい。

3 発表等を通して表現の高まりを実感し、題材の学びを振り返る。

- ◇グループごとにリズムアンサンブルを発表し、互いに聴き合う。
- ◇学級全体で各グループの作品のよさや面白さを交流する。
- ◇題材の学びを振り返る。

作曲家は曲をつくるために、構成や形式を踏まえているだけでなく、「このように運命の扉をたたく。」といったように、思いを込めていることが分かった。リズムアンサンブルでも、構成を工夫してテーマがより伝わるアンサンブルになるように創作することもできた。
これからは一つ一つの曲に、今まで以上に気持ちを込めて歌ったり演奏したりしていこうと思った。

2 単位時間の作り方（「つかむ」過程）【例】

「つかむ」過程では、児童生徒が音や音楽に出会ったときのイメージや感情を大切にするとともに、音楽を形づくっている要素と結び付けさせながら児童生徒が追求したい音楽表現に関わる題材の課題を設定します。そして、児童生徒に題材で何を学ぶのかを意識付け、興味・関心を高めさせましょう。

※「B鑑賞」を例に 【指導のポイント】

【興味・関心を高めるために】

○児童生徒の実態に応じた聴かせ方をしたり、資料の提示の仕方を選択したりする。

<例>

- ◆めあての設定につながる音源を示す。
- ◆特徴的な部分を聴き取らせる。
- ◆他の部分や曲を比較し聴き取らせる。
- ◆曲名を知らせずに聴かせる。
- ◆写真や実物等、視覚に訴える資料を提示する。 等

【めあての設定】

○基本的に題材のスタートにおいては、活動の要素を含んだめあての設定が多くなる。

<例>

- 「～（曲名）のよさや面白さを見付けよう。」
- 「この曲が表している様子を、～を手がかりに探ろう。」 等

【音や音楽の特徴を捉えるために】

○児童生徒及び題材に合わせた活動を選択する。

<例>

- ◆音楽に合わせて体を動かす。
- ◆感じ取ったことや気付いたことを伝え合う。
- ◆特徴的な部分を取り出して、聴いて確かめる。 等

【題材の課題の設定】

○子供たちのイメージと〔共通事項〕を支えに、題材で何を学ぶのかを共有する。

<題材の課題の例>

- 「（音楽を形づくっている要素）に合わせて～しよう。」
- 「～の音楽に親しみ、（音楽を形づくっている要素）を生かして～みよう。」 等

【振り返りについて】

○本時の振り返りだけでなく、題材に対する思いや願いをもたせることで、学びの見通しや意欲をもたせる。

<例>

- 「これからやってみたいことは何か。」
- 「これからどんなことを学んでいきたいか。」 等

※「つかむ」過程は、1単位時間全てを使わず、発達段階に応じてそのまま「追求する」過程へ進むことがあります。

基本的な流れ

1 本時のめあてをつかむ。

- 音や音楽に出会わせ、題材で何を学ぶかをつかむための動機付けを行う。
- 児童生徒がはじめに捉えたイメージや感情を問いかける。
- 本時の大まかな活動の流れや、手がかりとなる音楽を形づくっている要素等を児童生徒につかませるめあてを設定する。

【めあて】

2 音や音楽の雰囲気を感じ取り、雰囲気が醸し出す理由を探りながら鑑賞する。

- 児童生徒の気付きを手がかりにして、聴き取ったこと（知覚）と感じ取ったこと（感受）とを教師が音楽を形づくっている要素を基に問いかけながら結び付ける。

3 題材の課題をつかむ

- 各自が感じ取ったよさや面白さを音楽を形づくっている要素と関連付け、題材で追求していくことを板書等で焦点化する。

【題材の課題】

〈題材で取り組む大まかな音楽表現〉

- ※1単位時間の中で「追求する」過程へ進むような場合は、「1. 本時のめあてをつかむ」段階で課題を提示することもある。
- 児童生徒の気付きと関連付けながら、課題解決に向けての大まかな見通しを確認させる。

4 学習のまとめをし、学びを振り返る。

- 音や音楽のよさや面白さと、音楽を形づくっている要素との関わりを確認し、言葉や板書でまとめる。

学習のまとめ

- 鑑賞して気付いたことや感じたこと、分かったことや「題材で何を学びたいか」を問いかける。

振り返り

小学校 第4学年

「日本の音楽に親しもう」

【ねらい】

「ソーラン節」「八木節」を聴き、旋律を歌ったり手拍子をしたりしながら特徴を感じ取ることを通して、日本の音楽の特徴に興味・関心をもつことができるようにする。

1 本時のめあてをつかむ。

- 「ソーラン節」「八木節」などの民謡を聴き比べ、聴き取ったことや感じ取ったことを伝え合わせる。



声の出し方が、合唱とは違っているね。



リズムを取っている楽器は、太鼓やかねだね。

【めあて】

いろいろな民謡を聴いて、日本の音楽のよさやおもしろさを見付けよう。

2 音や音楽の雰囲気を感じ取り、雰囲気が醸し出す理由を探りながら鑑賞する。

- 民謡が生まれた背景について知り、歌詞の内容から民謡と生活との関わりを捉えさせる。

- 民謡のよさや面白さにつながる特徴を問いかける。

はじめの「ソーラン」の旋律はみんなで力を合わせている感じがするね。



「タン・タタ」のリズムが繰り返されているから、力を合わせて綱を引く感じがするんだね。

ふしとふしの間に、「ヨイヨイ」や「ハードッコイ」などの掛け声が入っているね。



「合いの手」として調子を整える役割をしています。

「合いの手」を入れて歌ってみると、タイミングが合うのがわかるよ。

3 題材の課題をつかむ。

- 日本の音楽の特徴を感じ取りながら民謡を聴いたり、おはやしをつくりたりすることで、日本の音楽に親しんでいくイメージをもたせる。



日本の音楽の特徴をもっと知りたい！

合いの手やかけ声を入れてみて、楽しいおはやしをつくらしてみたいな。どんなふうに入れたらいいのかな。



【題材の課題】

日本の音楽に親しみ、自分たちのおはやしをつくらう。

- 課題解決に向けた、大まかな見通しを確認させる。



自分のおはやしをつくらって、そのあとに友だちのつくったおはやしとつなげていくんだね。

最後にできたおはやしをクラスで発表するんだね。



4 学習のまとめをし、学びを振り返る。

- 題材で学んでいきたいことも含めた、本時の学びの振り返りをさせる。

日本の音楽の特徴を「旋律」や「リズム」から見付けることができた。

声を伸ばしながら、だんだんと音が上がっていく旋律や合いの手、かけ声が入ることが民謡の面白さだとわかった。みんなと民謡を歌ったり、合いの手やかけ声を入れたりして楽しいおはやしをつくりたいな。



中学校 第2学年

「曲の構成を理解して曲想を味わおう」

【ねらい】

動機の反復や変化、旋律の組合せ方等と曲想との関わりが生み出す特質や雰囲気を感じ取ることを通して、曲想と音楽の構造との関わりに興味・関心をもつことができるようにする。

1 本時のめあてをつかむ。

- 「交響曲第5番ハ短調第1楽章」の冒頭2小節を聴き、気付いたことや感じたことを交流させる。



あっ！この曲、聴いたことがある！

言葉で表すと「タダタダーン」って感じだね。

僕は「ジャジャジャジャーン」かな。



【めあて】

「動機」を意識して聴き、この曲の仕組みを探ろう。

2 音や音楽の雰囲気を感じ取り、雰囲気が醸し出す理由を探りながら鑑賞する。

- 曲の冒頭が「動機」であることを知り、「動機」に着目して曲を聴き取らせる。



はじめ～10小節の間に「動機」が何回使われているか、聴き取ってみましょう。

たくさん使われているな…。何回だろう？

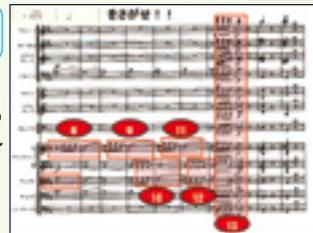


楽譜を見ながら聴いてみましょう。

13回「動機」が使われている！あと、色々な楽器が「動機」を演奏しているね！



では、曲を通して聴いてみましょう。



- 曲全体を鑑賞し、動機が様々に形を変えながら構成されていることを確認させる。

3 題材の課題をつかむ。

- 曲想と音楽の構造との関わりについて理解したり、言葉によるリズムアンサンブルを創作したりしていくことへのイメージをもたせる。



音楽の構成や作曲者の考えについてもっと知りたい！

面白そう！私たちも、この曲のように構成を生かして、リズムアンサンブルをつくらしてみたい！



【題材の課題】

曲の構成や形式の特徴を聴き取り、聴き取ったことを生かしてリズムアンサンブルを創作しよう。

- 課題解決に向けた、大まかな見通しを確認させる。



リズムアンサンブルのテーマを決めないでね。

テーマを基にリズムをそれぞれがつくり、リズムアンサンブルを創作していくことになるね。



4 学習のまとめをし、学びを振り返る。

- 題材で学んでいきたいことも含めた、本時の学びの振り返りをさせる。

「動機」を基に構成されている音楽の特徴を知ることができた。

聴いたことのある曲が、「動機」を基に曲がつくられていることを知った。曲のことをさらに知り、それを生かしてリズムアンサンブルを創作していくことが楽しくなってきた。



2 単位時間の作り方（「追求する」過程）【例】

「追求する」過程では、表したい思いや意図をもたせ、聴き取ったこと（知覚）と感じ取ったこと（感受）を結び付けながら、表現を工夫させることが大切です。表現を様々に試すことで工夫する楽しさを味わい、思いや意図を膨らませられるようにしましょう。

※「A表現」を例に
【指導のポイント】

【常時活動等を充実させるために】

- 題材のねらいにつながる楽しい活動にする。
＜例＞
- ◆拍に合わせてリズムリレーを行う。
- ◆限定された音を用いて旋律をつくる。 等

【めあての設定】

- 音楽を形づくっている要素が含まれているめあてを示す。
＜例＞
- 「自分たちのイメージに合った～になるように、～(音楽を形づくっている要素)を工夫して試そう。」 等

【思いや意図を膨らませるために】

- 子供たちが表したい思いや意図、音楽表現をワークシート等に記録し可視化させる。
(「4 学習活動を行う場合に生じる困難さに応じた指導の工夫について」参照)

【表現のよさや面白さを共有・共感するために】

- 表現の変容を捉えさせる場を設定する。
＜例＞
- ◆中間発表を行う。
- ◆いくつかの取組を意図的に紹介し、全体で試す。
- ◆グループ間で聴き合いアドバイスし合う。 等

【振り返りについて】

- ＜振り返りの視点の例＞
- ◆音楽を形づくっている要素を手がかりに試して、「何ができたか。」
「どのように雰囲気が変わったか。」
- ◆友達の表現を聴いて、「どんなことが分かったか。」
「生かしてみたいことは何か。」
- ◆次時や次過程に向けて、「どのようなことを試して表現を工夫していきたいか。」 等

基本的な流れ

1 学習に臨む雰囲気をつくる。

- 本時の学習内容とつながるリズム遊びやハーモニー遊び等の常時活動や、既習曲の演奏等を行わせる。

2 本時のめあてをつかむ。

- 前時の学びを紹介したり演奏させたりして、音楽を形づくっている要素と関連付けながらめあてを設定する。

【めあて】

3 思いや意図に合った表現をするために、音楽を形づくっている要素と関連付けながら表現を探る。

- 表したい思いや意図を問いかける。
- 思いや意図を基に、音や音楽、言葉を通して伝え合い、様々な表現を試させる。その際、音楽を形づくっている要素とその働きから、音楽の雰囲気が醸し出される理由を問いかける。
- 「なぜそのように工夫したのか(感じたのか)」など、教師が問いかけながら、児童生徒が聴き取ったこと(知覚)と感じ取ったこと(感受)とを結び付け、児童生徒に意識化させていく。
- 友達の表現の工夫を認め合ったり、鑑賞曲を聴き直したりする場を設定し、児童生徒が表現を工夫する際の手がかりにする。

4 学習のまとめをし、学びを振り返る。

- 表現のよさや面白さを、音楽を形づくっている要素と関連付けて確認し、言葉や板書でまとめる。

学習のまとめ

- 表現を試してみて、気付いたことや感じたこと、分かったことを基に、自己の変容を振り返らせる。

振り返り

小学校 第4学年

「日本の音楽に親しもう」

【ねらい】

旋律をつなげて演奏し、「おはやしの旋律」をグループごとにまとめる活動を通して、思いや意図を基にまとまりを意識した音楽をつくることができるようにする。

1 学習に臨む雰囲気をつくる。

- 五つのリズムパターンを提示し、リズムリレーをさせたり、五つの音（ミ・ソ・ラ・ド・レ）を使い、リコーダーで即興的に旋律をつくったりする活動を設定する。



2 本時のめあてをつかむ。

- 前時につくった各自のお囃子の旋律をペアで交互につなげて演奏させ、子供たちの気付きを基にめあてを設定する。



つなげ方を変えると、雰囲気も変わったね。



つなぐ人数を増やすと、もっと面白くなりそう。

【めあて】

グループのおはやしをおもしろくするために、つなげ方を工夫しよう。

3 思いや意図に合った表現にするために、音楽を形づくっている要素と関連付けながら表現を探る。

- どのようなおはやしにするか、各グループで考えるよう促す。

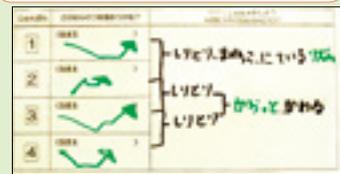
盛り上がるおはやしにしたいな。どんなつなげ方にすればいいのかな。

- 三人組で互いの旋律を聴き合い、それぞれの特徴に着目させながらつなげ方を考え、試行させる。

リズムが似ているけど、旋律の高さが違うね。

なぜこの順番でつなげたのかな？

低い旋律の後に高い音をつなげると、盛り上がる感じになるからです。



<工夫等を可視化した例>

- 中間発表の場を設定し、他のグループのよさや面白さを共有・共感させる。

低い旋律の後に高い旋律をつなげると、「呼びかけとこたえ」のよう面白いね！

4 学習のまとめをし、学びを振り返る。

- 次時に向けて試したいことも含めた、本時の学びの振り返りをさせる。

「旋律」や「リズム」の特徴を生かしてつなげ方を工夫したことで、お囃子を面白くすることができた。



今日の授業を振り返り、できたことや分かったこと、次の時間にやってみたいことは何ですか？

低い旋律の後に高い旋律をつなげてみたら、「呼びかけとこたえ」みたいで面白くなったよ。次の時間はリズム伴奏を重ねておはやしを盛り上げていきたいな。



中学校 第2学年

「曲の構成を理解して曲想を味わおう」

【ねらい】

構成図を使い、自分たちの思いや意図に合ったリズムアンサンブルを試行する活動を通して、思いや意図を基に構成を意識した音楽を創意工夫することができるようにする。

1 学習に臨む雰囲気をつくる。

- 手拍子によるリズムの模倣、即興等に取り組みさせる。



前の時間に、こんなリズムをつくった人がいましたね。全員でリズム打ちをしてみましょう。

2 本時のめあてをつかむ。

- 給食の献立をテーマにして前時につくった各自のリズムを、つながり方や重なり方を様々に組み合わせて試行し、リズムアンサンブルを創作していくことを伝える。

リズムのつながり方や重ね方をいろいろ試してハンバーグの材料を混ぜている様子を表すリズムアンサンブルをつくっていきましょう！



【めあて】

構成を工夫して、リズムアンサンブルをつくろう。

3 思いや意図に合った表現にするために、音楽を形づくっている要素と関連付けながら表現を探る。

- どのようなリズムアンサンブルにするかについて、各グループで考えるよう促す。

材料をどんどん混ぜていく様子が伝わるように、構成を工夫したいな。



- 班ごとにリズムパターンの組合せを試行し、吟味しながらリズムアンサンブルを創作させる。

材料をどんどん混ぜていく様子が伝わるように、リズムを少しずつずらしてみよう。



なるほど！では、どんなアンサンブルになっているのかを聴かせてくれますか？

- 途中でグループの取組状況を紹介し、どのような工夫がされているかを全体で共有・共感させる。

4拍ずつずらして重ねることで、材料を混ぜていく様子を表現しているんだね。僕たちのグループでは思いもつかなかった。試してみよう！



<取組を紹介する>

4 学習のまとめをし、学びを振り返る。

- 次時に向けて試したいことも含めた、本時の学びの振り返りをさせる。

「つながり方」や「重なり方」を工夫したことで、それぞれの班のリズムアンサンブルがはじめよりも面白く、表現の幅を広げることができた。



今日の授業を振り返り、できたことや分かったこと、次の時間にやってみたいことは何ですか？

4拍ずつずらして重ねてみたら、材料を混ぜていく様子が表現できて、テーマに合ったリズムアンサンブルになった。発表前にハンバーグを焼く様子を表すリズムのつながり方や重なり方を整えて、みんなの前で発表したい。



2 単位時間の作り方（「まとめる」過程）【例】

「まとめる」過程では、子供たちの思いや意図を表現するための知識及び技能も併せて高まっていることも大切です。そして、題材を振り返る際には、音楽を形づくっている要素とその働きや生活や文化等とを関連付けた振り返りをさせましょう。

※「A表現」を例に 【指導のポイント】

【「めあて」の設定】

○題材のまとめに向けた活動や方法を示す。
 <例>
 「グループの作品を演奏し合って、それぞれのよさや面白さを見付けよう。」 等

【知識及び技能を高めるために】

○思いや意図に合った表現をするために必要な知識及び技能を習得させていく。その際、機械的な知識の習得や技能の訓練とならないようにする。
 ○「追求する」過程でも同様に、個々の思いや意図を関連付けながら、意図的・計画的に指導する。

【互いの表現の高まりを認め合う】

○表現の高まりを実感できるよう、場の設定や手立てを選択する。
 <例>
 ◆イメージや工夫点を発表し、演奏する。
 ◆イメージや工夫点を意識して聴取する。
 ◆表現のよさや面白さを伝え合う。
 ◆発表後、実際に演奏し共有・共感する。 等

【振り返りについて】

○以下の例を組み合わせるなどして、題材全体の振り返りをさせる。
 <例>
 ◆音楽を形づくっている要素とその働きと関連付けさせる。
 ◆生活や文化等と関連付けさせる。
 ※生活や文化（中学校では社会、伝統）と関連付けた振り返りは題材による。
 ◆題材での学びを、今後の学習にどのように生かし、活用していくかの視点で考えさせる。

基本的な流れ

1 学習に臨む雰囲気をつくる。

- 本時の学習内容とつながるよう、前時までの取組を紹介したり、実際に演奏させたりする。

2 本時のめあてをつかむ。

- 前時や題材を通しての学びを想起させ、子供たちの気付きを基に、題材全体を振り返ることができるめあてを設定する。

【めあて】

3 まとめの発表や演奏等を行い、表現の高まりを共有・共感する。

- 児童生徒が表したい思いや意図をもち、それを実現するための知識及び技能を習得することの必要性を実感させる。
- 互いの表現を発表し合ったり、全体で共有し合ったりして、音楽表現を深めさせる。

4 学習のまとめをし、題材の学びを振り返る。

- 児童生徒に題材の学びを想起させ、音楽を形づくっている要素とその働きの視点等でまとめる。

学習のまとめ

- 題材全体のまとめを基に、できるようになったこと、分かったこと、今後生かしていきたいことなど、題材全体の学びの振り返りをさせる。
- 子供たちに振り返りの内容を発表するよう促す。
- 題材での学びの実感を共有・共感できたことを称賛する。

題材全体の振り返り

小学校 第4学年
「日本の音楽に親しもう」
【ねらい】
 グループでつくったお囃子を演奏し合い、お互いに聴き合うことを通して、音楽をつくる楽しさを味わうことができるようにする。

1 学習に臨む雰囲気をつくる。
 ● 前時までに工夫した各グループの表現の中から、よさや面白さを感じたものを取り上げ、全体で演奏させる。

 旋律のつなげ方の中で心に残ったものを思い出してみましょう。
 「しりとり」みたいに同じ音でつなぐと、つながり方が自然でした。

2 本時のめあてをつかむ。
 ● 今までの学びを想起させ、題材全体を振り返るめあてを示す。

【めあて】
 グループのおはやしを演奏し合っ、そのよさや面白さを見付けよう。

3 まとめの発表や演奏等を行い、表現の高まりを共有・共感する。
 ● グループのイメージや組み合わせの工夫を伝えてから発表させ、各グループの表現の工夫を共有・共感させる。

 静かに始まってだんだん盛り上げたかったので、低い音から高い音になるように「しりとり」でつなぎました。最後は、はじめの旋律を3人で演奏します。

♪演奏発表♪

 このグループのよかったところや面白かったところはどこですか？
 盛り上がるように、最後はみんなで一斉に演奏したところです。

 みんなで吹くと、どんな感じになりましたか？
 力強くなって、お祭りをみんなで盛り上げている感じがしました。

● 印象に残った表現を取り上げ、全体と一緒に演奏させる。

 演奏してみると、友達の工夫がよく分かったよ。

4 学習のまとめをし、題材の学びを振り返る。
 ● 学んだことをどのように生かしたいかを含め、題材全体の振り返りをさせる。

民謡を聴いたり、民謡に使われている5つの音を基におはやしをつくったりすることで、日本の音楽に親しむことができた。

 これまでの学習を振り返り、できるようになったことや分かったこと、これからの授業や生活の中で生かしていきたいことは何ですか？

自分のつくった低い音を使った旋律と友達のつくった高い音を使った旋律をつなげたら、祭りのはじまりから終わりのような流れができて、自分たちのつくりたかったおはやしができた。これからは、お祭りのとき、どんなおはやしが流れているかも聴いてみたいと思った。



中学校 第2学年
「曲の構成を理解して曲想を味わおう」
【ねらい】
 グループでつくったリズムアンサンブルを演奏し合い、お互いに聴き合うことを通して、創意工夫する楽しさや喜びを実感できるようにする。

1 学習に臨む雰囲気をつくる。
 ● 前時までにつくった作品の中で、リズムや構成を工夫したグループを取り上げ、紹介する。
 ● 重ね方や組み合わせ方をいくつか例示し、どのような効果があるのかを全体で確かめさせる。

 発表前にハンバーグを焼く様子を表すリズムのつながり方や重なり方を整えよう。

2 本時のめあてをつかむ。
 ● 今までの学びを想起させ、題材全体を振り返るめあてを示す。

【めあて】
 グループの発表を通して、それぞれのリズムアンサンブルのよさや面白さを味わおう。

3 まとめの発表や演奏等を行い、表現の高まりを共有・共感する。
 ● グループで表したいテーマを表現できるよう、リズムやテクスチャ、構成等を考えながら表現をまとめさせる。

 料理ができあがった感じになるように、最後はみんなでタイミングを合わせてみよう。

● グループごとに演奏させ、表現のよさや面白さを伝え合わせる。

 それぞれのグループがテーマに合うように、つながり方や重ね方を工夫していることがよく分かった。


 <生徒の作品例(ハンバーグの作り方)>

4 学習のまとめをし、題材の学びを振り返る。
 ● 学んだことをどのように生かしたいかを含め、題材全体の振り返りをさせる。

構成や形式等に着眼して鑑賞したり、それを生かして構成を工夫したリズムアンサンブルを創作したりすることができた。

 これまでの学習を振り返り、できるようになったことや分かったこと、これからの授業や生活の中で生かしていきたいことは何ですか？

作曲家は曲をつくるために、構成や形式を踏まえているだけでなく、「このように運命の扉をたたく」といったように、思いを込めていることが分かった。リズムアンサンブルでも、構成を工夫してテーマがより伝わるアンサンブルになるように創作することもできた。これからは一つ一つの曲に、今まで以上に気持ちを込めて歌ったり演奏したりしていこうと思った。



3 学習過程と教科書との関連

<題材での活用>

音楽科の教科書は、特に小学校において各領域や分野の内容、共通教材との関連を図って構成されており、そのまま活用することができます。また、児童生徒の実態や学校行事、他教科等との関連などを踏まえ、教科書の構成を基に、題材を配列し直して活用することがあります。



<資料としての活用>

- ・楽譜の活用…音楽を形づくっている要素とその働きを捉える。



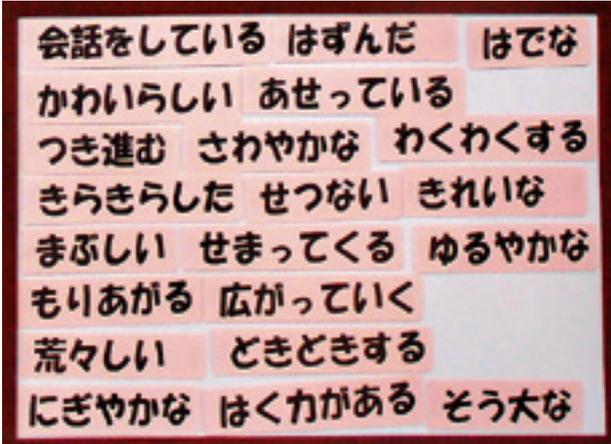
楽譜は、音楽を目に見える形で表すために先人の営みから生まれた音楽文化の一つです。共通教材等を指導する際には、音楽文化の理解を深めるためにも、楽譜から音楽的な特徴を捉える場を設定していきましょう。

- ・歌詞の活用…曲想、音楽の構造、曲の背景を捉える。
- ・写真・イラストの活用…曲のイメージを膨らませたり、情景を視覚的に捉えたりする。

<その他の資料等>

音楽の学習を充実させるために、様々な資料集や歌集等が出版されています。必要に応じて活用していきましょう。

4 学習活動を行う場合に生じる困難さに応じた指導の工夫【例】

困難さ	指導の工夫
音楽を形づくっている要素（リズム、速度等）の聴き取りが難しい場合	<p>音楽的な特徴を捉えやすくする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・要素に着目しやすくなるよう、要素の表れ方を動作化する。（拍を打ったり体を動かしたりするなど。） ※決められた動きのパターンを習得するような活動にならないよう留意する。
情報量が多く、どこに注目したらよいか混乱する場合	<p>視覚的に情報を整理する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・付箋紙を用いて、構造を単純化したり拡大楽譜を用いて声部を色分けする。 ・リズムや旋律を部分的に取り出してカードにする。 <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p><付箋紙を用いて構造を単純化した例></p> </div> <div style="text-align: center;">  <p><拡大楽譜を用いて声部を色分けした例></p> </div> </div>
様々なイメージや感情を言語化することが難しい場合	<p>表現したい言葉を思い出すきっかけをつくる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・イメージや感情を表すキーワードを示し、選択できるようにする。 <div style="text-align: center;">  <p><イメージや感情を表すキーワードの例></p> </div>

5 情報活用能力の育成

音楽科における情報・・・表現したり鑑賞したりするための音や音楽、楽譜、歌詞、映像 等
 〈例〉 ・身の回りの音や音楽 ・音楽を形づくっている要素 ・用語や記号
 ・教材の楽譜や歌詞 ・教材の参考音源 ・教材を演奏している映像
 ・作曲者が曲をつくるきっかけとなった文学作品や絵画 等

基本的な操作 〈例〉

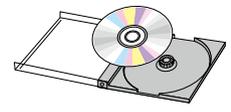
- 情報を収集する学習
⇒曲の背景や作曲者等をインターネットで検索
- 情報を整理・比較する学習
⇒自分たちの演奏のよさや課題に気付くよう、ICレコーダー等を活用して録音し記録
⇒視覚と聴覚で確認しながら試行錯誤し、リズムや旋律をつくるよう、作曲用ソフトで操作
- 情報を発信・伝達する学習
⇒音楽表現の工夫を記したワークシート等を実物投影機で操作



※コンピューターなどの操作そのものが目的化しないように留意する。

情報モラル・セキュリティ

- ・音楽に関する著作権等の知的財産権
- ・著作物や作者の創造性を尊重する態度の形成
- ※題材の内容に応じて、学習した曲の作詞者、作曲者、編曲者を確認したり、知的財産権について触れたりする。
- 〈例〉
- ・「校歌」の作詞者や作曲者について調べ、著作者について知るとともに、どのような思いや願いを込めてつくったのか思いを巡らせる。
- ・児童生徒自ら曲をつくることで聴き合って認め合う機会を設け、自他の作品を大切に思えるようにする。 等



情報の収集

○表現したり鑑賞したりするための情報を収集する

〈活動例：新たに学習する合唱曲の情報を収集する〉

- ・参考音源や演奏している映像等から、新たに学習する曲に出会う。
- ・曲の中の音楽を形づくっている要素とその働きを知る。
- ・インターネットを活用し、作詞者や作曲者、曲がつくられた背景等を調べる。 等

問題解決における情報活用

情報の整理・比較

○表現したり鑑賞したりするために収集した情報を整理・比較する

〈活動例：思いや意図に合った表現になるよう整理・比較する〉

- ・音楽を形づくっている要素とその働きの視点を基に、表現方法を様々に試して比較する。
- ・思いや意図に合った表現を選択する。 等

情報の発信・伝達

○表現したり鑑賞したりするために整理・比較した情報を基に、発表等で発信・伝達する

〈活動例：中間発表等を通して互いの表現の工夫を共有し、自己の表現に生かす〉

- ・パートごとの表現の工夫を伝え合い、それぞれの表現のよさを実感する。
- ・互いの表現のよさを、自己の表現に生かす。 等

6 地域の人材や物的資源の活用

<人材活用例>

- 器楽指導で専門性のある保護者や地域の方にTTを依頼
- 地域のお囃子保存会等に講師を依頼
- 卒業生等、地域の音楽家による音楽教室での演奏発表
- 合唱コンクールの審査員として校区の音楽主任を招聘
- 地域の福祉施設等に訪問して演奏

以下にも例を示しますので、授業等で有効活用し、指導を充実させていきましょう。



<邦楽教室における地域団体の活用>

関係施設	実施可能内容	問い合わせ先
群馬県総合教育センター内 カリキュラムセンター	楽器の貸出 <貸出可能な楽器・数> <ul style="list-style-type: none"> ・箏セット22 (座奏用鳥居台・柱・爪含む) ・見台(座奏用の譜面台) ・立奏台(椅子使用時の鳥居台) ・三味線セット16 ・やぐら太鼓 1 ・締太鼓 2 (締太鼓の練習用タイヤ3) ・雅楽セット 1 (笙・龍笛・箏) ・尺八 1 ・大鼓 1 ・小鼓 1 ・能管 1 ・篠笛 3本セット 1 ・こぎりこ 1 ・びんささら 1 ・棒ささら 2 ・テナーリコーダー 1 ・バスリコーダー 1 	☎0270-26-9208 http://www.nc.center.gsn.ed.jp/
群馬県生涯学習センター 「まなびねつとぐんま」	団体や講師の検索	☎027-224-5700 http://www.manabi.pref.gunma.jp/



<三味線セット>



※各市町村文化協会に問い合わせると、加盟団体を紹介していただける場合もあります。

事業名・内容	問い合わせ先
【はじめての文化体験事業】 優れた文化芸術活動を行っている県内のアマチュア文化団体を有償ボランティアとして地域に派遣し、子ども向けの公演、講話、実技披露、ワークショップ等を行います。	群馬県生活文化スポーツ部 文化振興課 ☎027-226-2593 http://www.pref.gunma.jp/
【移動音楽教室】 群馬交響楽団による、オーケストラを身近に体感できる取組を70年以上にわたって実施しています。	公益財団法人群馬交響楽団事務局 ☎027-322-4316 http://www.gunkyo.com/



<移動音楽教室の様子>

図画工作・美術

Art and handicraft, Art

図画工作科・美術科は、表現及び鑑賞の具体的な活動を通して、生活や社会の中の形や色、美術や美術文化と豊かに関わる資質・能力の育成を目指す教科です。

そのためには、表現及び鑑賞に関する資質能力を相互に関連させた学習の充実を図ることが大切です。具体的には、鑑賞において、自分なりの見方を大切にしながら主体的に造形的な美しさなどを感じ取ったり、作者の心情や表現の意図と工夫、美術の働きや美術文化について考えたりする学習を充実させ、表現の学習の中で積極的に生かせるようにしましょう。また、表現において、自らが強く表したいことを心の中に思い描き、発想し構想を練るなど、表したいことを追求して表す学習を充実させ、その体験を生かして作品などを鑑賞できるようにしましょう。

【図画工作科・美術科のページで使用されている用語解説】

「表したいこと」 「主題」	「感じ取ったこと」や「考えたこと」、「目的」や「条件」などを基に、「こんなことを表したい」と思い描いたことで、発想や構想の基盤となるもの。		
〔共通事項〕	表現及び鑑賞の活動において共通に必要な資質・能力。「A表現」及び「B鑑賞」の指導を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。本資料では、「共通に必要な資質・能力」であることを踏まえ、〔共通事項〕の語は示していないので、〔共通事項〕と学習活動の関わりを意識する。		
	校種	目標及び内容	育成を目指す 資質・能力
	小学校 (第5学年 及び 第6学年)	ア 自分の感覚や行為を通して、形や色などの造形的な特徴を理解すること イ 形や色などの造形的な特徴を基に、自分のイメージをもつこと	知識 思考力、判断力、 表現力等

1-① 題材のつくり方

図画工作科・美術科は、第1章の2で示すBパターン of 題材の構想が多くなります。題材の構想に当たっては、表現と鑑賞の関連を図ることが大切です。児童生徒が表現を見直したり、新たな思い付きを加えたりしながら、表したいことや主題などを更新したり、具体化したりできるようにすることが大切です。

主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善のポイント

○題材への関心を高め自分のイメージをもてるよう、体験を通して感じたことなどを話し合う活動を設定する。

例えば

- 人・ものを実際に見たり触れたりして話し合わせる。
- 写真や映像などを見て行事などについて話し合わせる。
- 材料や表現技法などを試して話し合わせる。
- 発想や構想に関する資質・能力とつながる視点で鑑賞して、話し合わせる。

○題材で追求する内容をつかめるよう、話し合ったことを基に課題を立てさせる。

○自分の感覚や行為を通して必要な知識や技能を実感を持って習得できるよう、材料や用具を体験し、教科書などの資料で確認する場を設定する。

○表したいことや主題を生み出せるよう、言葉や文章、図やスケッチなどで表す言語活動を設定する。

例えば

- 「絵や立体、工作に表す」「絵や彫刻などに表す」題材は、対象や事象から感じ取ったことや考えたことを表させる。
- 「デザインや工芸などに表す」題材は、目的や条件を踏まえて考えたことを表させる。

○効果的な構想ができるよう、資料を提示して構想する際の視点を意識させる。

例えば

- 「アイデアスケッチに表す際に、次の点を意識させる。
小学校 「表したいことを中心に表す」「中心と周りの様子」
中学校 「全体と部分の関係」「造形美の要素」 など

○試行錯誤しながらよりよい表し方を見付けられるよう、資料の提示、材料や表現方法を試す場の設定、材料や用具コーナーの設置などを行う。

P90 下段を参照

○視野を広げたりよりよい表し方に気付いたりできるよう、視点を明確にして相互に鑑賞し合う場を設定する。

例えば

- 「絵や立体、工作に表す」「絵や彫刻などに表す」題材では、表したいことや主題に照らして鑑賞させる。
- 「デザインや工芸などに表す」題材では、他者がどう捉えるかという客観的な視点から鑑賞させる。

○自己の変容を実感できるよう、作品や活動の様子を手掛かりにし、表現の過程で気付いたことやできるようになったことを視点として振り返る活動を設定する。

過程と基本的な学習活動

出
会
う

1 表現の見通しをもつ。

- ◇ 題材や材料、表現方法などと出会い、イメージを膨らませる。
- ◇ 題材の課題を立てる。

【題材の課題】
 〈題材全体で学習する
 大まかな内容〉

試
す
・
広
げ
る

2 表したいことや主題を発想・構想する。

- ◇ 大まかな制作の順序や扱う材料や用具、表現方法を知る。
- ◇ 思いや願いを膨らませ、表したいことや主題を生み出す。
- ◇ 表したいことや主題を基に、構想を練る。
- ◇ 材料や用具、表現方法を習得する。

表
す

3 構想を基に制作する。

- ◇ 思いに応じて材料や用具、表現方法を選んだり組み合わせたりする。
- ◇ 材料や用具などの特性を生かし、表し方を工夫して制作する。
- ◇ 制作途中の作品を相互鑑賞し、よさなどを共有する。

振
り
返
る

4 作品を鑑賞し表現活動を振り返る。

- ◇ 作品を鑑賞し合い、よさや工夫点を話し合う。

◇ 題材全体の振り返り

絵や立体、工作に表す題材の例

「物語の世界を紙版画で表そう」 小学校第3学年 (全9時間予定)

【目標】

凹凸のある材料を生かして紙版画に表す活動を通して、物語を基に場面の様子について想像を膨らませ、主人公と周りの様子、材料の生かし方を工夫できるようにする。

1 表現の見通しをもつ。 第1時

- ◇「にじいろのさかな」を聞き、感じたことなどを話し合う。
 - ・挿絵を見せずに読み聞かせをし、興味をもったことや感じたことを話し合わせる。
- ◇凹凸のある材料を生かした紙版画で表すことを知り、題材の課題を立てる。
 - ・過去の紙版画の経験と、模様を使ってどんな表現ができるかを話し合わせ、題材の課題に結び付ける。

【題材の課題】でこぼこを生かして、物語の世界を紙版画で表そう！

2 表したいことを発想・構想する。 第2時

- ◇こすり出しの技法を用いて、様々な物の凹凸を紙に写し取り、凹凸によって模様が表せることを知る。
 - ・材料と対応する模様の資料を示し、こすり出しの技法によって、模様を集める活動を設定する。
- ◇再度、物語を聞き、ワークシートにイメージを整理し、物語を聞いて感じたことや考えたことを生かして簡単なスケッチに表す。



3 構想を基に製作する。 第3～6時

- ◇材料を組み合わせて生き物を表し、生き物を操作して構図を考え、版をつくる。
 - ・こすり出しの技法による模様を試したり、効果を確認したりするとよいことを助言する。
 - ・まず、生き物を表した版の部品を表させ、次に台紙の上で動かしながら画面構成を試す活動へと展開する。
 - ・集めた材料を自由に使えるようにした材料コーナー「どうぞボックス」を設置する。
- ◇版の完成後、模様が表れるよう刷り方を工夫して刷る。 第7・8時

4 作品を鑑賞し表現活動を振り返る。 第9時

- ◇裏に物語の文面を貼って紙芝居にし紹介し合う。
 - ・小グループで紙芝居として交代で紹介し、材料の生かし方や画面構成などについてよさや工夫したことを話し合わせる。

模様を生かして、にじうおが鱗を渡す場面の嬉しい感じを表せたよ。

絵や彫刻などに表す題材の例

「心を詩画で表現しよう」 中学校第1学年 (全7時間予定)

【目標】

自分との関わりで身の回りの事物を捉え、形や色彩などを用いて表現したり鑑賞したりする活動を通して、主題を生み出し画面構成や表し方を工夫して表現したりよさを感じ取ったりする。

1 表現の見通しをもつ。 第1時

- ◇星野富弘氏の作品を鑑賞し、作者の心情や意図、表現の工夫を話し合う。 P90 上段を参照
- ・モチーフや表し方、詩を手掛かりに話し合わせる。
- ◇自分にとって大切な物を細部まで観察して詩画に表すことを知り、題材の課題を立てる。
 - ・教師が元気を取り戻せる物についてのエピソードを話し、生徒にとって大切な物、元気を与えてくれる物は何かを問い掛け、題材の制作へと方向付ける。

【題材の課題】モチーフをよく観察し、画面構成を工夫して、大切な思いを表現しよう。

2 表したいことを発想・構想する。 第2時

- ◇モチーフとして選んだ理由を発表し合い、主題を生み出す。
 - ・モチーフに選んだ理由を、主題としてワークシートに記述させる。
- ◇参考作品を見て、画面構成の効果を話し合う。
 - ・参考作品と配置を図式化した資料を数パターン提示し、モチーフ・詩・余白の取り入れ方とバランスについて問い掛ける。

3 構想を基に制作する。 第3時

- ◇見る、描くを繰り返して鉛筆でモチーフを描く。 第4・5時
- ◇アクリル絵の具の扱い方を工夫して着色する。
 - ・絵の具に混ぜる水の量を変えて彩色した参考作品を提示し、印象の違いを話し合わせ、水の溶き具合を考えさせる。
 - ・細部まで見て描いて主題を表現している制作途中の作品を鑑賞し、よさや工夫した表し方について話し合わせる。
- ◇全体のバランスを考え、大きさや濃さを工夫して詩をかき足す。 第6時

4 作品を鑑賞し表現活動を振り返る。 第7時

- ◇鑑賞会で作品とともに主題を発表し合い、互いのよさについて付箋紙に書き、話し合う。
 - ・主題とモチーフの描き方や画面構成について意識したことを自己評価カードに記述させる。

傷を大切に感謝の思いが表現できたぞ。主題を意識して描くことが大切なんだな。

1-② 造形遊びをする題材の作り方

造形遊びは、第1章の2で示すBパターン題材の構想が多くなります。それは、表すことをあらかじめ決めるのではなく、材料や場所などに進んで働き掛け、自分の感覚や行為を通して思いのままに発想や構想を繰り返し、経験や技能などを総合的に活用してつくり、つくりかえ、つくること重点となるからです。題材の構想に当たっては、材料や場所などの関わりを通して、自分で目的を見付けて発展させられるようにすることが大切です。

主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善のポイント

○対象と関わる中で造形的な活動を思い付き発展させていく造形遊びの特質を踏まえ、材料や場所を用意する。

例えば

- 低学年 身近な自然物や人工の材料の形や色などを基に
- 中学年 身近な材料や場所などを基に
- 高学年 材料や場所、空間などの特徴を基に

◆材料を用意する際には、活動との関係に留意する。

例えば

- 木や石など、形を変えにくい材料を用いると、積む、並べるなどの組み合わせによる活動に発展する傾向にある。
- 粘土や紙など、形を変えやすい材料を用いると、変形や組み合わせによる活動に発展する傾向にある。
- 発想を広げるために、材料の種類や量を豊富に用意する。
- 発想を深めるために、材料の種類や量を絞って用意する。

◆場所を用意する際には、次の点に留意する。

- 「手や体全体を働かせて活動できる」
- 「友達の活動が自然に目に入る」
- 「光や風、広さなど、造形的な活動を引き出す特徴をもっている」(中・高学年)

○材料などへの関心を高め、活動を思い付いたり考えたりできるよう、材料と向き合う時間を確保し、関わりをイメージすることへ方向付ける投げ掛けを行う。

例えば

- 「～でどんなことができるかな？」
- 「～と仲良しになろう」

※与えた情報によって児童が活動を思い付くことを阻害することがある。与える情報を十分吟味する。

○つくり、つくりかえながら自らの表現を追求できるよう、材料や用具と関わる時間を十分確保する。

○多様な表現方法に気付けるよう、互いの表現を見合い、気付いたことや考えたことを交流する場面を設定する。

○自他の表現のよさを味わい見方や感じ方を広げられるよう、材料などの変化や見付けた形や色などを視点として、互いの表現を見合わせ活動を振り返らせる。

例えば

- 表現した場や空間を授業後に見直す
- 写真で記録して掲示する など

過程と基本的な学習活動

1 材料や場所と出会い、活動の見通しをもつ。

- ◇材料などと出会い、その場所や空間でどんなことができるかを想像する。
- ◇題材の課題を立てる。

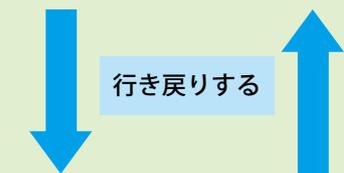
出
会
う

【題材の課題】
〈題材全体で学習する
大まかな内容〉

2 材料や用具と関わり合いながら、つくり、つくりかえ、つくることを繰り返す。

- ◇手や体全体の感覚を働かせ、楽しさを味わいながら、思い付いたことを試す。

つ
く
る



- ◇表現を見合ったり感想を交流したりする。

3 表現活動を振り返る。

- ◇加工した材料やつくりかえた場所を見合う。

振
り
返
る

◇題材全体の振り返り

造形遊びをする題材の例

「むすんで 広げて」(全2時間予定) 小学校第3学年

【目標】 毛糸をつなげ結ぶ造形活動を通して、手や体全体を十分に働かせ、思い付いたことを工夫してつくり出せるようにする。

本題材は、様々な色、長さの毛糸を自由に使い、図工室全体でできることに思いのままに取り組む学習です。活動を通して、場所の変化を楽しみます。

1 材料や場所と出会い、活動の見通しをもつ。

- ・広い場所を準備し、毛糸をつないだり結んだりするためのロープを手の届く高さに張り巡らす。
- ・様々な長さの様々な色の毛糸を複数準備する。



〈広い場所とロープの設置〉



〈様々な色、長さの毛糸〉

◇毛糸を結び付けて図工室でできることを考え取り組むことを知り、題材の課題を立てる。

- ・ロープを張り巡らせる様子を演示しながら、毛糸を結び付けてどんなことができるか投げ掛ける。



〈活動をイメージさせる導入〉

毛糸の世界を広げよう！
毛糸を結び付けて、どんなことができるかな？



どこに結ぼうかな。どんな感じになるかな。

【題材の課題】 毛糸をむすびつけ、友だちと毛糸の世界を広げよう！

2 材料や用具と関わり合いながら、つくり、つくりかえ、つくることを繰り返す。

◇思いのままに毛糸を結び付けて表す。

- ・室内を移動しながら思いのままに結び付ける活動を意図して、はじめに長い毛糸を使用させる。
- ・一人一人の思い付いた活動に取り組めるように、様々な毛糸を自由に選べるようにする。



〈体全体で思いのままに活動〉

○「ここ見て！カード」を取り付けさせ、いろいろな向きから鑑賞活動を行わせる。



「ここ見て！カード」



鑑賞活動

○思いに寄り添い、共感的な態度で個別に声掛けをする。

P90 中段を参照

広がり・深まり



〈束ねて場所づくり〉



〈丸めて吊るす〉



〈壁と毛糸で場所づくり〉

3 表現活動を振り返る。

◇様々な視点から自他の表現を見合い、活動を振り返る。

- ・寝転んだり立ち上がったたり少し離れたりしながら鑑賞するよう投げ掛ける。

普通の毛糸やボワボワの毛糸を組み合わせたら、吊るした毛糸がミノムシみたいになったよ。

立って見ると、毛糸がきれいに広がっていてすてきだね。



〈楽しさを分かち合う〉

1-③ 鑑賞題材の作り方

鑑賞は、第1章の2で示すBパターンの題材の構想が多くなります。単に知識や作品の定まった価値を学ぶのではなく、自分の見方や感じ方を大切に、知識なども活用しながら、様々な視点で思いを巡らせ、自分の中に新しい意味や価値をつくりだす活動です。表現と鑑賞を関連させた題材を基本としながらも、独立して扱うこともできます。

主体的・対話的で深い学びの実現に向けた 授業改善のポイント

○鑑賞対象との距離感を縮め関心を高められるよう、身近な対象を取り上げたり、見せ方を工夫したりする。

○鑑賞対象について直感的に感じ取ったことを意識できるよう、印象や疑問などを伝え合う活動を設定する。

◆児童生徒の発言などを基に形や色などの造形的な視点を意識させる。

例えば

- 「形」「描かれているもの」「色彩」「材料」「光」「表現方法」など（造形の要素）
- 「動き」「画面構成の効果」「色彩から受ける感じ」「表現方法の特徴」など（受ける感じ、働き、特徴）

○印象や疑問などを基に題材で追求する内容をつかめるよう、比較対象となる作品を提示したり、時代的背景、材料や表現技法、作者の人となりなどの情報を示したりして問いを焦点化し、題材の課題として整理する。

例えば

なぜ北斎は富士山を波の向こうに小さく描いたのか、
（印象や疑問、気付きなどを基に焦点化した問い）
画面構成の効果を考えながら鑑賞し、作品を味わおう
（造形的な視点）

○鑑賞対象と向き合い自分の考えをしっかりとめるよう、鑑賞する際の視点を確認し、鑑賞対象をじっくりと見る時間を確保するとともに、考えたこと、感じたことを自分の言葉で書き留める活動を設定する。

○見方や感じ方を広げたり深めたりすることに必要な場合は、書籍やインターネットを活用して情報を収集したり取材したり実際に追体験したりする場を設ける。

○見方や感じ方を深められるよう、教材などを工夫して思考を可視化させたり多様な考えを引き出したりする。

例えば

- 付箋紙によるKJ法やウェビングなどの思考ツール
- 造形的な視点についての意識化を図る教材

○変化した自分の考えや価値観を実感できるよう、自己の内面を見つめるとともに、ワークシートなどに自分の振り返りを言葉でまとめる活動を設定する。

例えば

- 集団・自己の変容（見方や感じ方）
- 今後の創造活動で生かしていくこと
- 日常生活との関わり

過程と基本的な学習活動

1 鑑賞対象と出会う。

- ◇ 全体の感じを捉える。
- ◇ 印象、疑問、気付きなどを発表し合う。
- ◇ 対象の基本的な情報を得る。
- ◇ 課題を立てる。

出
会
う

鑑賞対象の提示例

図版などを拡大して黒板などに掲示すると、遠くから全体の印象を捉えることにつながる。

【題材の課題】

〈題材全体で学習する
大まかな内容〉

2 細かいところ、気になるところに着目して鑑賞する。

- ◇ 鑑賞の視点に沿って鑑賞し、鑑賞対象に対する自分の考えをもつ。

つ
く
る

鑑賞対象の提示例

各自に図版を配付したり教科書などの図版を活用したりすると、細かいところをじっくり見ることにつながる。

広
げ
る
・
深
め
る

3 考えを交流し、見方や感じ方を広げたり、深めたりする。

- ◇ 鑑賞の視点を基に、感じ取ったことや考えたことを交流する。

振
り
返
る

4 鑑賞活動を振り返る。

- ◇ 自身の見方や感じ方の変化や今後の生かし方を言語化する。

◇ 題材全体の振り返り

鑑賞題材の例

「富士の大きさ位置は、なぜこうなの？」(全1時間予定) 中学校第2学年

【目標】 構図の視点から「富嶽三十六景 神奈川沖浪裏」を鑑賞する活動を通して、作者の意図や表現の工夫を感じ取れるようにする。

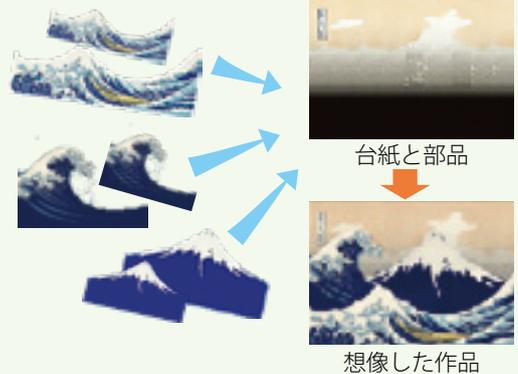
1 鑑賞対象と出会う。

◇題名を知り、富士山と波を削除した図版を見て、作品を想像する。

- ・ 作品名にある「富嶽」が富士山の意味であること、作品の一部を削除したことを伝え、「自分が作者なら、どこに富士山と波を描くか」と問い掛ける。
- ・ 様々な大きさの波と富士山の部品を、作品の背景を表した台紙の上に並べて配置を考えさせる。

◇作品を見て、構図についての問いをもち、題材の課題を立てる。

- ・ 生徒が想像した作品と意図を紹介させる。
- ・ 作品の拡大図版を板書に示し、富士山と波の大きさや配置を確認させ、想像した作品と比較して感じたことを発表させる。



大きさや位置によってずいぶん見え方が変わるな。作者は、なぜ主役のはずの富士山を波の向こうに小さく描いたのかな。



【題材の課題】 なぜ北斎は富士山を波の向こうに小さく描いたのか、画面構成の効果を考えながら鑑賞し、作品を味わおう。

2 細かいところ、気になるところに着目して鑑賞する。

◇作品の知識を得たり、「富嶽三十六景」の他の作品と比較したりしながら作品を鑑賞し、作者の意図や表現の工夫について自分の考えを記述する。

- ・ A4版のカラー図版を2人に1枚配付し、自然発生的な対話と細部への鑑賞を促進する。
- ・ 作者や制作年代、「富嶽三十六景」についての知識を示したプリントを配付する。
- ・ 波と富士山の部品を台紙の上に作品と同じ構図で並べさせ、それぞれの部品の大きさや配置を変えて、見え方の違いを確かめさせる。

他の作品も、富士山以外の風景や人が描かれているね。



風景の向こうに富士山が描かれている作品が多いね。



波と富士山の位置がぴったり。小さくてもどっしりとした富士山に自然に目がいくね。



富士山の雄大さを表したかったんだね。



3 考えを交流し、見方や感じ方を広げたり、深めたりする。

◇ワークシートに記述した考えを発表し合い、北斎の意図や構図の工夫を話し合う。

- ・ ワークシートの記述内容を見取っておき、意図的な指名によって話し合いを深めさせる。



波が覆いかぶさりそうになっても、動かない富士山の雄大さを表したと思います。



船と人のことを考えた、〇〇さんの意見を聞いてみよう。



富士山の前に描いた船が気になります。自然におろおろする人を表したと思います。



最初に大波が目に入り、次におろおろする人に気がきます。そして、よく見ると富士山があったという驚き。構図と対比で富士山の雄大さを表したと思います。

4 鑑賞活動を振り返る。

◇見方や感じ方の変化を見つめ、ワークシートに記述する。

- ・ 作品を想像した際に考えたことを想起させ、鑑賞して考えたこととの違いに気付かせる。

富士山中心の絵を想像したけど、構図と対比を視点に見て作品のすごさに気付けたよ。

2 単位時間の作り方（「表す」過程）【例】

ここでは、表現領域の学習で多くの時間を費やす「つくる・表す」過程の単位時間の学習のポイントを示します。主体的・対話的で深い学びを実現するためには、めあての設定によって目的意識をもたせること、表現活動の中で自己決定を繰り返させること、表現する際に鑑賞の能力を働かせること、めあてに対する振り返りによって学習の意義を自覚させることが大切です。

【指導のポイント】

【前時までの学習の振り返りから本時の学習内容につなげる】

○前時にもった課題の解決への意欲を高め、本時に取り組むことをイメージできるよう、画像や動画、作品などの視覚的に捉えられる資料を提示したり、前時に記述した振り返りを確認させたりする。

【児童生徒の思いを基にめあてを設定する】

○学習の振り返りを基に、児童生徒とのやりとりを通して、めあてを設定する。
○個々にめあてを設定させる際には、「どの部分をどのように工夫するか」など、視点を示し具体化を図る。

【めあての追求の手掛かりをつかませる】

○表現活動に取り組む際に意識する点を具体的につかめるよう、画像や図、作品の資料、表し方の演示や動画などによって、めあての追求の手掛かりを視覚的に示し、受ける感じや特徴、効果などを話し合わせる。

【児童生徒の自己決定を後押しする個別指導を行う】

○全体を見て、個々の学習状況を把握する。（おおむね満足できる状況になっているか判断）
○形や色などを意識して試行錯誤する中で、自己決定できるよう、必要に応じて対話による支援を行う。 **P90 中段を参照**

【全体でよさなどを共有したり個別の交流を促したりする】

○視野を広げたり考えを深めたりできるよう、全体でよさなどを共有する場を設けたり、個別に友達と交流できるような声掛けをしたりする。
※表現活動の時間を過度に削ったり、思考を分断したりしないよう留意する。

【作品や活動の様子などから具体的に振り返らせる】

○自身の取組のよさや頑張り、自己の変容などについて実感できるよう、作品や活動の様子などを手掛かりに、表現の過程に目を向けさせる。

例えば

- ・表現を工夫したり、思いを十分表現したりしている児童生徒の作品や活動を取り上げて紹介する。
- ・自分の表現途中の作品や画像や動画を視聴させる。
- ・自己評価をさせる。 など

基本的な流れ

1 本時のめあてをつかむ。

- 前時までの学習を振り返る場を設定する。
- 児童生徒の思いを受け止め、めあてとして設定する。

【めあて】

- 本時のめあてを踏まえて個々のめあてを立てるよう促す。
- 本時の学習の流れや時間の配分、使用する材料や用具、安全の約束を確認させる。

2 表現活動に取り組む。

- 制作の手順や追求の手掛かりなどをつかむ場を設定する。
- 自己決定に結び付ける個別指導を行う。
- 表現活動を互いに見合う場を設定する。

3 本時の振り返りをする。

- 本時の表現活動を振り返り、全体や自己の変容を実感する場を設定する。

【単位時間の振り返り】

- 次時に追求する課題、必要な用具などを意識させ、見通しをもたせる。
- 分担して、片付けをさせる。

単位時間の学習の例

「水引で結んで広がる世界」 中学校第2学年

【ねらい】 変化と統一による調和のある美しさを意識した水引の制作を通して、紐の結び方や編み方、折り方、曲げ方などの表し方を工夫できるようにする。

1 本時のめあてをつかむ。

活動 生徒のアイデアスケッチを数例見て、前時の学習で主題や構想を明らかにしたことを想起する。

- ・各自のアイデアスケッチを見て、主題や構想について隣同士で紹介し合わせる。

活動 紐の本数や色の組合せ、表し方の工夫により、調和のとれた美しい水引を制作することを確認し、めあてをつかむ。

- ・構想段階で試したときと制作との違いを確認し、めあてをつかませる。そして、各自に気を付けたいことを考えさせ、個々のめあてをつかませる。



〈全体でアイデアスケッチを確認〉



紐の組合せで、ずいぶん印象が変わるな。紐の折り方や曲げ方によって、美しい水引になるな。綺麗な水引に仕上げたいな。

【めあて】 変化と統一の調和を意識し、紐の本数や組合せ、表し方を工夫して制作しよう。

2 表現活動に取り組む。

活動 資料などを見て、追求の手掛かりをつかむ。

- ・以下の通り追求の手掛かりをつかませる。
 - 変形の際の視点を確認する。
 - 類似色相と対称色相による組合せで結んだ水引の写真を提示し、受ける感じの違いについて話し合わせる。
 - 美しいたゆませ方を演示する。



〈変形の際の視点 (部分)〉

活動 アイデアスケッチを基に、紐の数や色の組合せ、表し方を工夫して水引を制作する。

- ・紐の本数や色の組合せ、表し方の工夫の視点から個別指導を行い、自己決定を促す。
- ・構想に基づき、水引の紐やはさみ、セロハンテープなどを自由に選べるよう、材料・用具コーナーを設置する。

P90 下段を参照



〈美しいたゆませ方で演示した手順〉



〈材料・用具コーナー〉



〈バランスを取り変形〉



〈色の組合せを試す生徒〉

類似色相でまとまりのある感じにしたよ。赤やピンクで華やかな感じになりそう。



バランスを慎重に整えたら、アイデアスケッチよりきれいになったな。



3 本時のまとめと振り返りをする。

活動 「変化と統一の調和」の視点から、紐の本数や色の組合せ、表し方がどうだったかを自己評価する。

- ・めあてに照らしてよさが表れる作品を紹介し、振り返りの視点を確認した上で、振り返りカードに自己評価をさせる。

【振り返り】 金と銀、緑、赤の組合せを試してよかった。形のバランスの取り方も分かったぞ。



3 学習過程と教科書との関連

<教科書>

図画工作科・美術科の教科書は、題材を見開きで示していることが多く、作品例とともに、材料や用具についての説明、鑑賞の資料、色彩や技法に関する資料などを掲載しています。教科書は、授業を進める上で中心的な教材であることを踏まえ、題材及び単位時間のねらいや学習内容に応じて、効果的に活用しましょう。

題材に活用

教科書に掲載されている題材を計画に位置付ける。

児童生徒の実態や地域の特色を踏まえ、掲載されている題材例にアレンジを加えて計画に位置付ける。

資料として活用

掲載されている作品を表現際の参考作品や、鑑賞作品として活用する。

材料や用具、技法などに関する記述や図等を資料として活用する。



教科書会社によって様々ですが、題材を通して身に付けさせたい資質・能力との関連で、「学習のめあて」「ふりかえってみよう」なども掲載されています。授業構想の参考にしましょう。

<その他の資料等>

美術の学習を充実させるために、様々な「表現や鑑賞に関する資料集」も出版されています。技法の習得や作品の鑑賞など、必要に応じて活用しましょう。

4 学習活動を行う場合に生じる困難さに応じた指導の工夫【例】

困難さ	指導の工夫
形や色（色彩）などの変化を見分けたり、微妙な違いを感じ取ったりすることが難しい場合	<ul style="list-style-type: none"> 児童（生徒）の経験や実態を考慮して、形や色（色彩）などの特徴が分かりやすいものを個別に例示する。 <p>例えば、粘土の形を変えて思い付いた形をつくる題材において、ひも状に伸ばしてつくった形と、粘土べらで長く削りとった形を実際に示して、違いに気付かせ、どのようなところに生かせるか考えさせるのもよいでしょう。</p> <p>例えば、鑑賞で、カラー図版の他にモノクロ図版を提示して比較させると、色（色彩）のもつ効果に気付きやすくなります。</p> 
自分に合った材料や用具を選ぶことが難しい場合	<ul style="list-style-type: none"> 多様な材料や用具を用意して選択の幅を広げる。逆に種類や数を絞って選択しやすくする。 <p>選択肢が少なく選べない場合もあるし、多過ぎて混乱してしまう場合もあります。その児童（生徒）に応じた配慮が必要です。</p> <ul style="list-style-type: none"> 形や色彩、材料や光などの造形の要素の特徴や働きが分かりやすいものを例示して、一人一人が自分に合ったものを選ぶようにする。（美術科） <p>画一的に教え込むのではなく、実際に材料や用具に触れさせる中で、本人と丁寧に対話しながら、自ら選択できるようにすることが大切です。</p>  
自分のイメージをもつことが難しい場合	<ul style="list-style-type: none"> 児童（生徒）とのやりとりを通して、感じたことや考えたことを言葉として引き出す場を設定することで、自分のイメージをもつことのきっかけを得られるようにする。 <p style="text-align: right;">P90 中段を参照</p>

5 情報活用能力の育成

図画工作科・美術科における情報とは…表現や鑑賞に関連する材料、場所、作品等

基本的な操作〈例〉

○情報を収集する学習

⇒作品や作品に関する情報をインターネットから検索・閲覧

○情報を整理・比較する学習

⇒活動や作品を記録したり、表現に活用したりするためのデジタルカメラやコンピュータなどの操作

⇒形の自由な変形、配置換え、色彩換えなどを試す活動における画像編集ソフトの操作

〈例〉

- ・材料（形、色、重さなど） ・技法
- ・場所（広さ、明るさ、天候など）
- ・作品（よさ、工夫、主題など）
- ・鑑賞カード など

情報の収集

【どのように】

- ・材料集め ・導入時の活動（材料、技法、場所、参考作品との出会い） ・教師の説明
- ・友達との交流 ・相互鑑賞
- ・地域人材との交流（作品鑑賞や説明） など

「情報」との出会いが大切です。児童生徒が、「いいこと考えた。やってみよう。」と思えるような出会いを工夫しましょう。



問題解決における情報活用

情報の整理・比較

【どのように】

- ・イメージしたことをメモやスケッチする
- ・「表したいこと」、「主題」を生み出す
- ・試しの活動 など

情報の発信・伝達

【だれに、どこに】

- ・友達、教師
- ・家族
- ・関わっていただいた地域人材
- ・地域施設やイベント
- ・社会一般の不特定な人々 など

【どのように】

- ・言葉で伝える
- ・相互鑑賞会
- ・校内展示
- ・地域の作品展
- ・Web など

情報モラル・セキュリティ

思いの込められた作品を大切にすることを学びましょう。また、発信の段階に応じて、著作権や肖像権に触れ、作者の権利を尊重し侵害しないことや写真等で人物を撮影して作品化する場合、相手の理解が必要なことなどを指導しましょう。

6 地域の人材や物的資源の活用

各地域には、粘土、砂、石、和紙、木、竹などの様々な材料があります。それら地域の材料の特性を生かした表現方法や題材を工夫しましょう。その際、地域の伝統的な工芸、民芸など、地域の材料とそれに伴う表現技術、経験豊かな人材なども併せて活用することなどが考えられます。そして、美術が生活に根ざし、伝統や文化の礎となっていることを、体験を通して理解できるようにすることも大切です。



〈土を集めて粘土あそび〉

地域の材料を活用する

家庭や地域の協力を得て、地域特有の材料、地域で手に入る材料などを積極的に活用しましょう。

地域の施設などに展示する

地域の方に見てもらうことで、表現の確かさが明確になり、活動への意欲が高まります。社会の中で美術が果たす役割を理解することにもつながります。

地域の人材を活用する

経験豊かな人材として、地域の伝統工芸家や作家、職人などを活用しましょう。

県生涯学習センターの「まなびねっとぐんま」で人材を検索できます。

- ・県生涯学習センター「まなびねっとぐんま」
- <http://www.manabi.pref.gunma.jp/>
- ☎ 027(224)5700

美術館などを活用する

美術館は、郷土の作家の作品に触れる貴重な場です。展示室を使った鑑賞や出張授業などのプログラムがあります。

- ・県立近代美術館
- ☎ 027(346)5560
- ・県立館林美術館
- ☎ 0276(72)8188



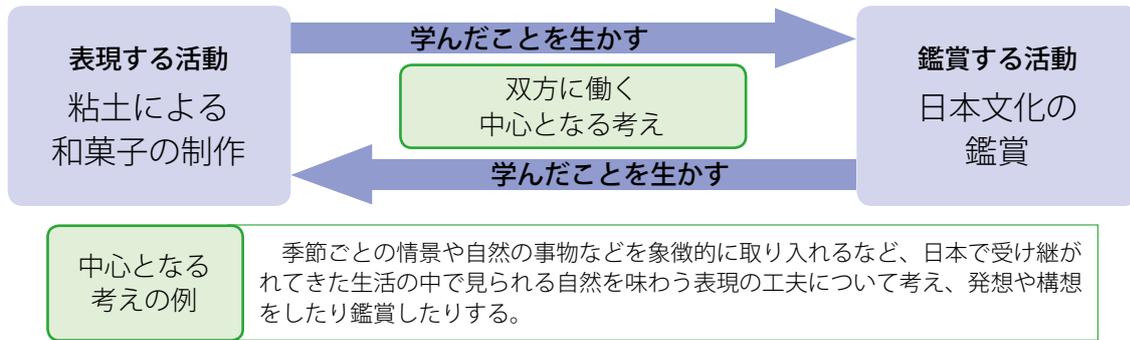
〈美術館で対話しながら鑑賞〉

【参考】

■ 表現と鑑賞を関連させた授業づくりをしましょう！

発想や構想する際と鑑賞する際の双方に働く中心となる考えを明確にして、表現と鑑賞の学習を関連させましょう。資質・能力は相互に関連して働き、共に高まっていきます。

例えば・・・



■ 個別指導を通して自己決定を促しましょう！

児童生徒一人一人の「表したいこと」や「主題」を捉え、自己決定を促す個別指導を行いましょう。

例えば・・・



■ 自然に活動に没頭できる場づくりを工夫しましょう！

児童生徒は、活動の中で目に入るもの、出会うものなどに影響を受けながら、学習を進めています。児童生徒の豊かな活動を引き出す場づくりを心掛けましょう。



〈材料・用具コーナー〉

材料や用具を選びながら自然な交流が生まれます。



〈展示コーナー〉

掲示している間に自然に他の作品を鑑賞します。



〈材料や表し方などの試しの場〉

表現の過程で自由に試せるようにしておきます。

体育・保健体育

Physical Education・Health and Physical Education

体育・保健体育科は、心と体を一体として捉え、生涯にわたって心身の健康を保持増進し、豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力を育成する教科です。

そのためには、育成を目指す資質・能力の中で、運動の行い方に関する「知識」と、従来から指導してきた「技能」をより関連付けて指導すること、「思考、判断したことを他者に伝える」ことを重視し、運動や健康についての自己の課題を見付け、その解決方法を選んだり工夫したりする活動の充実を図ることが大切です。

【体育・保健体育のページで使用されている用語解説】

試しの活動	記録の測定や簡易化されたゲーム等、「つかむ」過程において、児童生徒が単元の課題を実感したり、学習の見通しをもったりできる活動。
課題のスマールステップ化	運動技能の学習において、学習者の習得状況や運動課題に応じて、より細かな複数の段階を設定。
ドリルゲーム (ドリル)	主として基本的な技能の習得や習熟を目的とした練習内容をゲーム化した活動。 〈例〉1分間で何回シュートが決まるかを得点化した「シュートゲーム」
タスクゲーム (タスク) ※単元の前半等は、メインゲームとして実施する場合もある	仲間と連携した動きの育成を目指し、特定の技能等を高めるための活動。 〈例〉バレーボールのポジショニングを意識できるよう、レシーブやトスをキャッチできるようにして行う「キャッチゲーム」
メインゲーム (メイン)	学んだ知識や基本的な技能等を活用・発揮できるように工夫された児童生徒の能力レベルに合った活動。 〈例〉礼法や受け身、片膝立ちからの固め技の攻防などを織り交ぜた柔道の簡易試合

1 単元のつくり方

体育・保健体育科は、第1章の2で示すAパターンの単元の構想が多くなります。単元を構想する際、「つかむ」過程では、児童生徒が取り組みたくなる（主体性を引き出す）課題を設定し、「追究する」過程では、仲間等に話したくなる（対話を活性化させる）工夫をします。そして、「まとめる」過程では、成果を実感できるような（さらなる意欲を引き出す）場を設定することが大切です。

主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善のポイント

- 主体的に学習を進められるように、図や写真を交えた掲示物や指導資料、ICT機器を効果的に活用する。
- 『○○ができるようになりたい』『□□をすれば…できそう』と思えるように、試しの活動や課題提示の仕方を工夫する。
- 学習意欲（課題解決へのワクワク・ドキドキ）を高める工夫をする。

※特に小学校低学年では、多様な運動経験が充分できるように、遊びの要素を取り入れた活動をたくさん計画する。

- 児童生徒が「できた」を実感できるように単元前半では、(活動1)を多めに設定する。
※児童生徒は、「できる」が増えることで、自信がもて、意欲的、主体的に学習に取り組むことができるようになります。

- 友達同士の交流が、励まし合いや単なる確認作業ではなく、新たな発見や課題解決につながるように、資料の提示や教師の関わり方を工夫する。

- 一人一人が学習の成果を進んで発揮したくなるように、発表の仕方（試し方）を工夫して設定する。

- 自分自身では気付けない学習成果を多面的に実感できるように、仲間や教師との意見交流を中心とした振り返りの場等も設定する。

重要：単元・単位時間のすべてに関わること

- 単元の成果を実感できるように、具体的な規準に基づいた振り返りの場を設定する。

<保健領域・保健分野>

- 運動領域・体育分野や「特別活動の学級活動」「総合的な学習の時間」「家庭科」など他教科等と関連付けた指導を工夫する。

過程と基本的な学習活動

つかむ

1 単元の課題をつかむ。

- ◇試しの活動（記録の測定やゲーム等）や課題把握につながる身近な事象（生活）等を見直す。
- ◇単元の課題を明確にする。

単元の課題
〈単元の目標を達成するための学習内容〉

- ◇追究内容や方法、学習の計画を明確にする。

追究する

2 単元の課題の解決に向け、単位時間ごとに追究する。

単位時間

- ◇課題解決に必要な知識や基本的な技能を習得する。（活動1）
- ◇習得した知識や基本的な技能を活用して課題を解決する。（活動2）
- ※学習する領域や学習スタイル（個人・集団）にあった単元をつくる。その際、体育授業プログラム等資料を参考にする。
- ※保健領域は、内容に応じて、単位時間（小単元）ごとに追究する。

単位時間

単位時間

単位時間

まとめる

3 単元の課題についてまとめる。

- ◇学習の成果を発表する（試す）。
 - ・演技会や記録会、リーグ戦等
＜運動領域・体育分野＞
 - ・グループ発表やレポート紹介等
＜保健領域・保健分野＞
- ◇学習成果を確認し整理する。

- ◇単元全体を振り返り、習得した技能や知識等を整理し、日常生活や次の単元に生かせることをクラス全体で共通理解する。 ※学級全体

- ◇学習の成果を確認する

◇**単元全体の振り返り**（個人）

小学校 第3学年「健康な生活」 (全5時間計画：保健4＋学級活動1)

【目標】

身近な生活について関心を持ち、生活時間表の作成や実験等を通して、健康な生活とはどのようなものかを考え、自分自身の課題を解決するための健康宣言ができるようにする。

1 単元の課題をつかむ。

◇身近な生活場面のイラストや写真をもとに「元気さんをさがせゲーム」をしたり、単元前に行った生活アンケートや生活チェックを表やグラフで確認したりして、自分のこととして「健康な生活とはどのようなものか」について考える。



◇単元の課題を明確にする。

【単元の課題】

健康な生活とはどのようなものかを考え、自分自身の課題を解決し、健康宣言をしよう。

◇ワークシートや教科書をもとに、追究内容や方法、学習の計画を明確にする。

※体育の時間に体ほぐしの運動を行うなど、体育の時間と連携して運動の必要感をもたせる。(運動領域との連携)

2 単元の課題の解決に向け、単位時間ごとに追究する。

①けんこうによい1日の生活

課題や解決の方法等を他者と伝え合いながら生活時間表を作る活動を通して、運動、食事、休養及び睡眠の調和のとれた生活を送ることの大切さについて考える。

②体のせいけつとけんこう

手や衣服のよごれ実験を通して、毎日気持ちよく過ごすには、自分の体や身の回りの物を清潔に保つ必要があることを理解する。

③けんこうによいかんきょう

部屋の明るさや空気について考える活動を通して、健康の保持増進には生活環境を整える必要があることを理解する。

※保健としてのまとめは単位時間ごとに行い、単元全体のまとめは、学級活動の時間として行う。(他教科等との連携)

3 単元の課題についてまとめる。

◇学校内の健康探しや自分自身の生活を振り返り、これからの健康に関わる課題や解決方法について考え、これからの健康な生活に向けた健康宣言をする。



健康な生活を送るために、運動、食事、睡眠のバランスを意識して生活することが大切なんだな。身の周りの環境にも気を付けて、仲間や家族と協力して健康宣言を実行できるようにしたい。 ※学級全体

◇健康な生活を送るために、自分の課題を踏まえた健康宣言ができたかを振り返る。

私の課題は、運動をたくさんした後には手洗い・うがいをちゃんとすることや、タブレットを操作するとき部屋を明るくすることだな、宣言通りがんばるぞ。(個人)

中学校 第1学年 「バレーボール」(全9時間)

【目標】

互いに意見を伝え合ったり仲間の意見を尊重し合ったりしながらキャッチ有リバレーを行うことを通して、ボールを繋げながら空いた場所をめぐる攻防を楽しめるようにする。

1 単元の課題をつかむ。

◇「パスゲーム(グループでボールを落とさないように何回パスが繋げるか)」や「キャッチ有リバレー」をする。(レシーブとトスはキャッチしてもOK、3回で返す、ワンバウンドまでOK、スパイクなし)を通して、ボールを繋げてゲームを楽しむには、どのようにすればよいか考える。

◇単元の課題を明確にする。

【単元の課題】

互いに意見を伝え合ったり仲間の意見を尊重し合ったりしながら、ボールを繋げるための技術と状況に適した判断力を習得し、空いた場所をめぐる攻防を楽しもう。

◇ワークシートや指導資料等をもとに、追究内容や方法、学習の計画を明確にする。

2 単元の課題を追究する。

①②基本的な技能のポイント

複数の写真を比較し共通点を見付ける活動やスティックボールを活用した説明を通して、オーバーハンドパスとアンダーハンドパスの基本的な技術のポイントを理解する。



③④扱いやすいパス

「パスゲーム」を通して、ボールを繋げるため、受け手が扱いやすいパスとはどのようなパスかをグループで考え、受け手が扱いやすいパスができる。

⑤正確な動き

「キャッチ有リバレー」を通して、ボールを正確にコントロールするための動きを理解する。

⑥⑦状況に応じた判断

「キャッチ有リバレー」を通して、ボールを正確にコントロールするための動きを見付けると共に、状況に応じた判断力を身に付け、ボールを繋げられるようにする。



3 単元の課題についてまとめる。

◇ラリーを続けることを重視した「キャッチ有リバレー大会」を実施し、これまで身に付けた技能や判断力を生かしてチームの勝利を目指して、攻防を楽しむ。

◇単元を通しての成果を振り返る。

チームの仲間が、パスしやすいところに動いてくれるようになって、最初よりラリーが続くようになった。 ※学級全体

ボールの落下点に素早く入れるようになったし、仲間にも動き方のアドバイスができるようになった。(個人)

2 単位時間の作り方（「つかむ」過程）【例】

「つかむ」過程では、『この技ができるようになりたい』『記録に挑戦したい』と思えるような課題設定や、身近な日常生活の体験や事例と関連付けましょう。

【指導のポイント】

【主体的な学びに向け】

○単元の学習内容や学習の進め方を、掲示物や学習カード等に示し、単元を通して、児童生徒に次に取り組むことをイメージさせる。

【学習意欲を高める】

○児童生徒が単元の学習内容に関心や期待感をもてる活動を設定する。

<例>

- ◆主運動で活用する動きを簡単にゲーム化した運動。
- ◆体ほぐしの運動や身近な遊びと関連付けた運動。
- ◆身近な健康探しゲーム。 等

【「課題」の設定】

○児童生徒一人一人が、能力に応じて意欲的に取り組める「課題」の設定に向け、複数の能力別の活動を設定する。

<例>

- ◆補助有りの頭つき壁倒立→頭つき壁倒立→補助有り壁倒立→壁倒立。 等

【単元全体を見通した振り返り】

○学習カード等に記入した内容について、学習カードをファイルさせ、毎時間確認できるようにしたり、毎時間の「めあて」を掲示して、随時確認できるようにしたりする。 等

○「まとめる」過程で、学習成果を実感しやすいように、単元前半の取組の様子を残しておく。

<例>

- ◆写真や映像に記録。
- ◆シュート回数や動きの特徴を記録。
- ◆生活記録や単元前の事前アンケートを表にして保存。 等

基本的な流れ

1 本時のめあてをつかむ。

- 学習活動そのものではなく、活動を通して、どのような課題を解決するのかを明確にしためあてを設定する。
- これまでの学習を振り返り、本単元で活用できる運動に関する知識や技術等を意識させる。
- 動画や写真、図等を効果的に活用し、短時間で児童生徒が単元の学習内容や学習の進め方をつかめるようにする。

【めあて】

<運動領域・体育分野>

2-①（活動1）

本単元の運動につながる予備的な運動を行う。

2-②（活動2）

試しの活動を行う。

※領域によっては、試しの活動を踏まえたグループ構想をする。

<グループ構想の仕方>

グループ間等質、グループ内等質、兄弟グループ、親子グループ、男女別グループ等

<保健領域・保健分野>

2 身近な日常生活の体験、事例等を用いた話合い、ブレインストーミング等を行う。

- 児童生徒が自分自身のこと置き換えやすいように身近な事例や体験活動を取り入れる。

3 学習を振り返り、単元の課題をつかむ。

- 学習カード等に、試しの活動を通して分かったことや、今後の学習においてできるようになりたいこと等を記入させる。

【単元の課題】

〈単元の目標を達成するための学習内容〉

- 個人やグループの「課題」を仲間と共有し合う場を設定する。

単位時間の振り返り（個人）

小学校 第4学年「マット運動」

【ねらい】

学習の進め方を知り、準備や片付けの仕方を確認するとともに、基本の運動及び試しの運動を通して、児童一人一人が自分自身の課題を設定できるようにする。

1 本時のめあてをつかむ。

- 技の動画を活用し、3年生までに学習してきたマット運動を振り返り、今までに取り組んだり習得したりした技を確認させる。
- 本単元の学習で中心的に取り組む技を紹介し、単元の見通しを具体的にもたせる。



【めあて】

試しの運動を通して、自分の課題をもとう。

2-① 活動1

- 学習する技につながるやさしい運動を設定する。
 <例> 手足歩きから前転、うさぎ跳びから前転、手押し車、かえるの足うち、大きなゆりかごから立ち上がってジャンケン、川跳び、大きな川跳び、マット倒れ込み 等>

川跳びの動きが大きくなれば、側方倒立回転に繋がられるよ。



2-② 活動2

- 各自の能力に応じて、グループで協力しながら、開脚後転、側方倒立回転の試しの運動を設定する。
 <例> 後転、開脚後転、壁倒立、側方倒立回転 等>



※技能が不十分な場合には以下の手順で取り組む。
 頭つき壁倒立（ひざは曲がっていいよ）→頭つき壁倒立（ひざを伸ばす）→ひざが伸びた頭つき壁倒立から、補助者に脚を引っ張ってもらい、腕を伸ばし頭を離す。



側方倒立回転は、どうすれば腰が上がるようになるだろう。上手くできるようになりたいな。

3 学習を振り返り、単元の課題をつかむ。

- 学習カードに今後の学習の見通しを記入させる。

膝を伸ばした側方倒立回転ができるようになりたいな。(個人)

※「どんな練習をすれば、膝が伸びるようになるかな？」など、問いかけ、児童が解決方法の見通しをもてるように工夫する。

- 個人の振り返りを仲間と共有する場を設定する。

【単元の課題】

仲間と協力して、開脚後転や側方倒立回転のポイントを見つけて、2つの技をできるようにしよう。

中学校 第1学年「柔道」

【ねらい】

グループでの関わり合いを通して、抑え込みの条件を満たした抑え込み方を考えられるようにする。

1 本時のめあてをつかむ。

- 抑え込みの条件を提示することで、抑え込み方をイメージできるようにする。

抑え込みの3条件

- ・腕は相手が押向けの姿勢である。
- ・腕は互いに向かい合った形になっている。
- ・相手の脚で自分の胸や脚を挟まれていない。

単に相手を動けなくするだけでは、抑え込んだことにならないのか…



【めあて】

グループで協力して、3条件を満たした抑え込み方のポイントを見つけよう。

2-① 活動1

- 抑え込みの3つの条件を満たしたいろいろな抑え込み方をグループで考えさせる。
- 「受(技を受ける)」「取(技をかける)」「観察」と役割を分担する。その際、「観察」には、他のグループの動きにも注意を払わせ、接触しそうなときには間に入るように指示しておく。

②この抑え方だと力の強い相手には通用しなそうだな。



①腕の力だけでなく、体全体を使って相手を抑えようと上手く抑えられそうだね。

2-② 活動2

- グループで考えた抑え込み方を説明しながら発表する場を設定する。

①このように自分の体を相手に密着させると相手が動けなくて、上手く抑えられた。

②この抑え込み方に、何か問題はないかな？



③でも脚を簡単に絡められてしまうと思うよ。

④脚を絡められないように自分の脚で相手の脚を挟んだら上手くいったよ。

3 学習を振り返り、単元の課題をつかむ。

- 発表で知った抑え込み方をグループで実演する場を設定する。
- 抑え込み方について気付いたことを問いかけ、単元の課題を具体化させる。

【単元の課題】

相手のことや仲間の意見を尊重し合い、抑え込みや返しポイントを見付け、柔道固有の所作や礼法、理にかなった固め技を身に付け、簡易試合をしよう。

礼法や柔道衣の着方も試合にあるのか。これなら自分も勝てるような気がするからがんばろう。(個人)

2 単位時間の作り方（「追究する」過程）【例】

【運動領域・体育分野】

「追究する」過程では、運動をしながら主体的・対話的で深い学びにつながる工夫をしましょう。

【指導のポイント】

【「めあて」の設定】

○小学校では、児童一人一人が能力に応じた「めあて」を設定できるように、段階的な課題を提示する。

<例>

◆ゆっくりできる→早くできる。

◆1回できる→2回続けてできる。 等

○中学校では、生徒一人一人が自らの体力・運動能力の実態を正確に捉え「めあて」を設定できるように、正確な判断ができる具体的な資料を提示する。

<例>

◆出来映えを得点化したチェックシート。 等

【活動意欲を高める】

○「少しがんばればできそう」と思える活動を設定する。

<例>

◆課題をスモールステップ化した練習。

◆ねらいが明確な「ドリルゲーム」や「タスクゲーム」。
等

【対話で学びを深める】

○めあてに応じた話合いができるように、基本的な進め方（話合いの手順など）を示しながら、話合いに必要な材料（技能ポイントカード、作戦盤、作戦カード等）を準備する。

○喜びや感動のある楽しい授業展開になるように、友達同士で教え合ったり、協力し合ったりする場面を工夫することで、「作戦が成功した」「教えてもらったポイントを意識したらできるようになった」等の発言を児童生徒から引き出す。

【「振り返り」について】

○「めあて」が達成できたかを実感できるように、学習カード等を効果的に活用し、具体的な規準に基づいて確認する。

<例>

◆具体的な規準を写真や図で明確に示す。 等

基本的な流れ

1 本時のめあてをつかむ。

- 動画や写真等を効果的に活用し、前時までの学習内容を振り返らせる。
- 児童生徒一人一人が自分に合った「めあて」を設定できるように促す。
※5分程度で行いましょう。

【めあて】

2-①（活動1）

知識や技能を習得する活動を行う。

<器械運動系や陸上運動系等>

- 各運動の技（前転や台上前転等）や運動局面（助走、踏切等）に焦点を当てた練習を設定する。

<ボール運動系>

- 課題解決につながるドリルゲーム、タスクゲームを設定する。等

2-②（活動2）

習得した知識や技能を活用する活動を行う。

- 小学校低学年では、児童が自分で動きを変えたり、考えたりする活動を設定する。
- 小学校中学年から中学校では、児童生徒が自分に合った練習を選んだり、練習を工夫したりすることができるような発展的な活動を設定する。
- 友達同士が交流しながら課題解決する活動を設定する。

※メインの運動は、児童生徒の実態に応じて内容やルールを簡易化し、習得した技能や知識を活用しやすくする。

※活動1と活動2の組み合わせ例

「ドリルゲーム」と「タスクゲーム」

「ドリルゲーム」と「メインゲーム」

「タスクゲーム」と「メインゲーム」等

3 学習したことを振り返る。

- 学習カード等に学習を通して分かったことやできるようになったことを記入させたり、動きを確認させたりする。

※5分程度で行いましょう。

単位時間の振り返り（個人）

小学校 第1学年 「鬼遊び」 【ねらい】

作戦ボードを使って仲間がより点数を取れるような攻め方を見付け、協力してボール運び鬼をすることができるようにする。※体育授業プログラム活用例

1 本時のめあてをつかむ。

- 前時の作戦（攻め方）を提示することで、前時の学習の様子を簡単に想起させる。

2 おとりさくせん
*1人がおとり鬼にゾーンにはいっておとりになって、おとりがつかまえていないあいだに、ほかの鬼がつかまわれる

【めあて】

なかまときょうりよくして、もっとてんすうをとれるせめかたを見つけよう。

2-① 活動1（タスクゲーム）

<しっぽとり鬼>

- 楽しみながら、メインゲームで活用する動き（相手をかわす動きなど）を身に付けさせる。



2-② 活動2（メインゲーム）

<ボール運び鬼：1回目>



※前時に色々出てきた攻め方を使い、1回目のゲームを行う。

- ① 1分間で攻守交代。
- ② 集合し、全体でよい動きの共有。

<作戦（攻め方）を選ぶ>

①前の時間に出てきた、あの動き（おとり作戦）を使ってみたいらどうか？



②ぼくは走るのが得意だから、おとり役になる。

③□□さんは、ここを通ればいいんじゃないかな。

<ボール運び鬼をする。（2回目）>

※2回目も同じ相手と対戦させることで、選んだ作戦の効果を見ることが実感しやすくなります。

3 学習したことを振り返る。

- 顔の表情を活用した学習カードを活用し、短時間でめあての達成を確認させる。

しっぽとり鬼やボール運び鬼で、相手をかわして逃げるようになった。作戦で考えたおりに動けてうれしかった。

（個人）



中学校 第1学年「バレーボール」 【ねらい】

「キャッチ有リバレー」を通して、状況に応じた判断力を身に付け、ボールを繋げられるようにする。

1 本時のめあてをつかむ。

- 前時の動きを再現したり、教師が発問したりしながら、前時までに解決してきたことを確認させる。



①個人的な技能は高まってきましたね。チームとしてのポジショニング（仲間との連携）はどうか？

②チームで連携して動ければもっとボールがつながりやすいと思います。



【めあて】

「キャッチ有リバレー」を通して、ボールを繋げるためのポジショニングを見つけよう。

2-① 活動1（ドリル・タスクゲーム）

<パス交換：基本技能を習熟するドリルゲーム>

<キャッチゲーム>

- トスをキャッチでつなぎ、落ち着いてポジショニングを確認するよう促す。

②ボールが後ろに行ったときは、次にパスをもらう人も近くに行けばパスがつながるね。

①ボールに関わらないときのポジショニングを考えながら練習しよう。



③誰にパスするか決めておくとスムーズにパスがつながるね。



2-② 活動2（メインゲーム）

<キャッチ有リバレー>

- 生徒の実態に応じてレシーブとトスはキャッチしても可とし、ポジショニングを意識して、楽しくゲームに参加させる。

※ミーティングタイムは得点直後の15秒以内とし、ボールが繋がらなかった原因を「ポジショニング」に絞って意見交流することで、本時のねらいを意識できるようにすると共に、運動量を確保しゲームの流れを止めないようにする。

瞬時に動けないメンバーには誰かが指示してあげたり、お見合いしないためには互いに声を掛け合ったりすることが大切だ。



3 学習したことを振り返る。

- 本時のめあてに即した振り返りに向け、話し合いのポイントを明確に提示する。

②パスする相手が遠くにいるとなかなかパスが繋がらないから、パスをもらう人はパスをしてくれる人の近くに動くことがポイントだ。

①話し合いの視点を「ポジショニング」に絞って意見を出し合おう。



③ボールの動きに合わせて、チーム全員が素早く動けるようになったね。



仲間の声かけで、動きが分かってボールをつなげられるようになってよかった。（個人）

2 単位時間の作り方（「追究する」過程）【例】

【保健領域・保健分野】

「追究する」過程では、身近な日常生活や実験、体験などを取り入れ、実感を伴う意見交流の場を設定しましょう。

【指導のポイント】

【「めあて」の設定】

○身近な日常生活の体験や事例などを用いた話し合いを基に、児童生徒一人一人が自分自身の生活と結び付けて、「健康な生活を楽しみたい。」「生活を改善したい。」など、児童生徒が主体的に取り組みたくなる「めあて」を設定する。

【主体性を引き出す】

○児童生徒が、主体的に必要な知識や基本的な技能を習得できるように、児童の実態に即した資料を提示したり、話し合いの進め方を具体的に提示したりする。
○中学校では、科学的な根拠を踏まえ、知識や基本的な技能が身に付けられるように、各種データ等を表やパワーポイント等にまとめて提示する。

【対話で学びを深める】

○めあてに応じた話し合いができるように、基本的な進め方（話し合いの手順など）を示しながら、話し合いに必要な材料（科学的データ、生活記録カード等）を準備する。
○驚きや発見のある楽しい授業展開になるように、友達同士で意見交流する場を工夫することで、「そうか…そんな見方をするともっと生活に生かせるね。」「なるほど〇〇さんの考えを取り入れてみよう。」といった意見を引き出す。

【「振り返り」について】

○「めあて」が達成できたかを実感できるように、具体的な規準に基づいて確認できる、チェックリスト等を提示する。
○必要に応じて家庭科や特別活動、給食(食育)など、他教科等との関連を図る。
<例>
◆生活改善に向けた実践を給食指導でも努める。 等

基本的な流れ

1 本時のめあてをつかむ。

- 事前アンケートの集計表や、動画や写真等を効果的に活用し、短時間で児童生徒にめあてをつかませる。
- 既習事項や身近な生活を想起させ、学習内容と関連付けることで、具体的な学習のイメージをもたせる。
※5分程度で行いましょう。

【めあて】

2-①（活動1）

課題解決に必要な知識や基本的な技能を習得する活動を行う。

- 写真やイラスト、各種データ、フィールドワークなどから課題に関連したことについて見だし、課題に対する自分なりの考えをまとめさせる。
- グループでの話し合いを取り入れる。
- 運動領域との関連を意識させた実習等を設定する。

2-②（活動2）

習得した知識や技能を活用する活動を行う。

- 習得した知識や技能を自分たちの生活や他の事例などと比較したり、関連付けたりして考えるよう促す。
- 分かったことを筋道立てて説明させる。
- 習得した知識や技能を活用した疑似体験等を設定する。

3 学習したことを振り返る。

- これから日常生活の中で続けていきたいこと等を学習カード等に記入させる。
- 各自の考えやその理由を発表する場を設定する。
※5分程度で行いましょう。

単位時間の振り返り（個人）

小学校 第3学年 「健康な生活」

【ねらい】

生活時間表を作って、意見交流する活動を通して、運動、食事、休養及び睡眠の調和のとれた生活を送ることが大切であることを実感できるようにする。

1 本時のめあてをつかむ。

- 事前に行った生活アンケートの結果を提示し、運動・食事・睡眠のバランスを具体的にイメージさせる。



毎日運動している人が少ない。



3つのバランスが悪いから、毎日運動した方がいいと思う。



【めあて】

健康な生活に向け自分自身に必要な改善点を見つけよう。

2-① 活動1

- 生活チェックシートの分析を基に、健康な生活を送るための生活時間表を作成させ、自分の課題を考えるよう促す。

運動が少ないから、放課後に運動しよう。



寝る時間が遅いかな…早寝早起きをしよう。



2-② 活動2

- 生活時間表の工夫探しゲーム（各自が作成した生活時間表の工夫を見付け作成者に伝えることにポイントが獲得できるゲーム）を設定する。

Aさんは、体育のない日に、家で運動する時間を入れているところが工夫していると思いました。



私は、毎日運動できるように、体育のない日は、家で縄跳びなど簡単な運動をする計画にしました。

3 学習したことを振り返る。

- 工夫探しゲームによって見つけた新たな発見を全体で共有させ、1日の生活で運動・食事・睡眠をどのように行うとよいのかを確認させる。
- これからの生活について自分の考えを具体的にワークシートに記入するよう声をかけ、生活改善への意識を高める。



工夫探しゲームを行って、自分では運動時間が少ないと思っていたけど、友達から「たくさん運動しているね。」と言われ、新たな発見につながった。(個人)

中学校 第3学年 「感染症の予防」

【ねらい】

資料や実験に基づく意見交流を通して、性感染症の特徴を理解し、性感染症が低年齢化していることに気付くとともに、自分自身にも起こりうる問題として、その予防方法を考えることができるようにする。

1 本時のめあてをつかむ。

- 前時に学習した感染症と性感染症を比較しながら提示し、性感染症をイメージさせる。

【めあて】

性感染症の特徴や現状を知り、性感染症の自分なりの予防方法を見つけよう。

2-① 活動1

- 主な性感染症の症状等をワークシートにまとめさせる。
- 「性器クラミジア感染症」の年齢分布のグラフを読み取らせ、友達と意見交流をさせる。
- 複数の性的接触によって、気付かないうちに他の人に感染を広げる危険性に気付かせる実験を観察させる。

自分たちと同じ10代の患者もいるんだ。

気付かない間に感染するなんて怖い。



2-② 活動2

- 予防方法について、個人の考えを持ち寄り、グループで意見交流させる。
- グループでの意見を発表シートにまとめさせる。
- 活動1で活用した感染者の年齢別のグラフや実験等を想起させ、若者の間で感染が多い理由なども意識して考えさせる。
- 科学的な根拠や資料に基づいて、話し合いが進められるように、複数の資料を準備し、必要に応じて活用できるようにする。

《 予防法 》

- 多くの人と性的接触をしない。
- 早期発見に心がける。(病院で検査する)
- 正しい知識をもつ。

《 理由 》

- 性的接触によって感染してしまうから。
- 気付かずに広がってしまうから。
- 自覚症状がない場合もあるから。



3 学習したことを振り返る。

- 性感染症の予防の学習を通して、分かったことや今後の生活に向けて思うことなどを具体的にワークシートに記入させる。
- 各グループの意見をクラス全体で確認し、学習を今後の生活に生かす必要感をもたせる。

もっと正しい知識をもち、正しい判断ができるようにしたい。安易な性的接触は避け、相手のことも考えて行動できるようにしたい。(個人)



2 単位時間のつくり方（「まとめる」過程）【例】

「まとめる」過程では、児童生徒が学習成果を具体的に実感し、新たな課題の発見や日常生活へつなげられるように、学習成果の発表の仕方や、振り返りの方法を工夫しましょう。

【指導のポイント】

【「めあて」の設定】

○児童生徒一人一人が単元を通じた学習成果を実感できるようにめあてになるように、児童生徒の成長の様子を具体的に判断できる資料を準備する。

<例>

◆試しの運動の様子と前時の学習の様子を短時間のVTRにまとめ紹介する。 等

【声かけについて】

○仲間からの称賛や助言が新たな発見や学習意欲につながるように、声かけの仕方やポイントを明確にする。

○成績を付けるための評価のみにならないよう留意する。

○児童生徒と積極的に対話し、児童生徒の意識の変化等を見取り、児童生徒一人一人の学習成果を複数の視点で、具体的に伝える。

<例>

◆「○○さん、膝を伸ばして壁倒立ができるようになったね。お腹に力を入れると体がまっすぐになるよ。」 等

【話し合う際】

○思考が深まる意見交流になるように必要に応じて、教師から児童生徒へも発問する。

<例>

◆「○○ができるようになったきっかけは何ですか。」

◆「どんなアドバイスが参考になりましたか。」 等

【単元全体の振り返り】

○単元の「課題」の達成度合いを実感できるように、具体的な判断材料（単元前半の写真や映像等）を準備する。

○グループやクラス全体での学習成果についての意見交流をすることで、個人では気付けない学習成果にも着目させる。

基本的な流れ

1 本時のめあてをつかむ。

- 学習カードの記録等を活用し、単元の課題と前時までの学習成果を比較し、本時のめあてを設定させる。
- 児童生徒のめあてが、勝敗や記録の伸びのみにならないよう促す。
※5分程度で行いましょう。

【めあて】

2 - ①（活動1）

学習の成果を発表する準備をする。

- 学習成果を具体的に伝え、発表への自信と意欲を高めさせる。

2 - ②（活動2）学習の成果を発表する。

<運動領域・体育分野>

- 課題別の小集団での発表など「学習成果を発表したい」と思えるような場の設定や雰囲気作りをする。

<保健領域・保健分野>

- 学発表の際、児童生徒の課題解決に向けた思考の流れを、理由を添えて説明できるよう声かけをする。

3 学習したことを振り返り、単元のまとめをする。

- 児童生徒から「こうだったらできた。」「作戦が成功した。」「○○さんのアドバイスでうまくできた。」「家族にも伝えて、家で実践したい。」「部活動の練習にも取り入れたい。」等の意見を引き出し、学習成果を実感させると共に、学習成果を今後の生活や学習に生かせるよう促す。

単元で学習した技能のポイントや学び方のコツ等を共有する ※学級全体

- 単元全体の学習を通じた振り返りをさせる。

単元全体の振り返り（個人）

- 学習カード等で、上手に振り返りができない児童生徒には、仲間や教師との対話など、実感をもって学習の振り返りができるように配慮する。
※5分程度で行いましょう。

小学校 第4学年「マット運動」

【ねらい】

できるようになったり、上手になったりした技の発表会を行うことを通して、学習の成果を認め合い自分自身の成長を実感できるようにする。

1 本時のめあてをつかむ。

- 単元の課題を提示し、前時までの学習成果と比較することで、本時のめあてを具体的に設定させる。

【めあて】

できるようになったり、上手になったりした技の発表会をし、マット運動の成果を実感しよう。



開脚後転で、前は回転の途中で止まったり、横に崩れたりしたけど、スムーズに立てるようになったから、開脚後転を発表しよう。

2-① 活動1

＜学習の成果を発表する準備をする。＞

- できなかったことができるようになったり、動きの質が向上したりしたことを見取り、具体的に伝える。

※発表の際に、易しい場での実施や仲間の補助も認めることで、児童一人一人が安心して演技できるようにする。



2-② 活動2

＜学習の成果を発表する。＞

- 練習してきたグループの仲間や他のグループと学習成果を伝え合い認め合う発表の場を設定する。



〇〇さん、線からずれないで、まっすぐ回れるようになったね。練習の成果が出ているね。

3 学習したことを振り返り、単元のまとめをする。

- 単元はじめの動きと本時の動きを動画で提示し、全体で学習の成果について話し合い、効果的であった練習方法や、参考になったアドバイス等を共有させる。
- 本単元で学習した内容が、他の単元や他の学習でも役立ったり、つながったりすることがあるか考えるよう促す。

友達に手伝ってもらったことで、動きの感じをつかむことができた。

今回できるようになったことを、跳び箱や鉄棒などの他の運動でも生かしていきたい。

今回学習したマット運動の動きは、跳び箱の台上前転や鉄棒の回転する感覚にも生かれますね。また、協力して課題を解決していく学習の仕方は、体育の学習以外でも生かれますね。 ※学級全体

側方倒立回転の練習で、脚を引っかけるゴムひもの位置を高くしていくのが楽しかった。友達と挑戦し合っているうちにできるようになった。(個人)

中学校 第1学年「柔道」

【ねらい】

今まで身に付けた技能の出来映えを競い合う簡易試合を通して、チームの勝利を目指して意欲的に活動し、チームや自分自身の学習成果を実感できるようにする。

1 本時のめあてをつかむ。

- 学習を通して発見したことや解決してきたことについて、発表し合う場を設定し、本時のめあてを具体的に設定させる。



技だけでなく礼法や受け身についても学習したな。

相手を抑え込むための技やその技からの逃げ方を考えたよ。



【めあて】

簡易試合を通して、チームや自分自身の学習成果を実感しよう。

2-① 活動1

＜簡易試合の準備をする。＞

先鋒：礼法、柔道衣の着方
次鋒：受け身
中堅：けさ固めへの移行及び形
副将：横四方固めへの移行及び形
大将：片膝立ちからの攻防



※簡易試合の内容を、学習してきた内容と一致させることで、生徒は、準備をしながら学習成果を実感することができます。また、審判を生徒自身が行うことで、技のポイントなども意識して確認することができます。

2-② 活動2

＜簡易試合を実施し、これまでに身に付けた技能の出来映えを競い合う。＞

それぞれの技のポイントやコツをしっかりと理解していないと正しく判断したり説明したりできないぞ。



試合は1対1で戦うけど、団体戦だからチームが勝つためには互いに励まし合ったりアドバイスを送ったりすることが大事なね。



3 学習したことを振り返り、単元のまとめをする。

- 試合を通して感じたことやできるようになったことを紹介し、生徒が学習成果を実感できるようにすると共に、柔道以外の単元でも生かせる技術やフェアプレイの精神などをクラス全体で共有させる。

フェイントを使うという考えは、柔道以外の授業でも使えそうだな。



正々堂々と戦うと、勝敗に関係なく清々しい気分になるよね。

フェイントの技術は、柔道だけでなく球技などにも生かれますね。この後の単元でも正々堂々と戦うフェアプレイの精神なども大切にしていきたいと思います。 ※学級全体

これまでの授業で発見したり教わったりした技を試合で出すことができた。(個人)

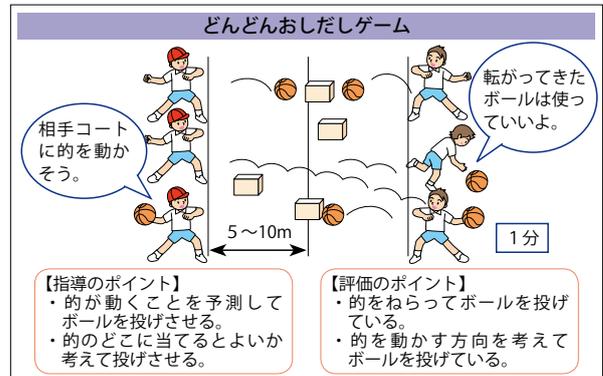
3 学習過程と教科書・指導資料との関連

- 運動領域・体育分野は、教科書がないため、指導要領の例示等をしっかり確認し、系統的に指導できるように配慮しましょう。
- 技能のポイント等は、各種指導資料を活用し、児童生徒が具体的にイメージをもてるようにしましょう。
- 保健分野・保健領域については、教科用図書に示されている資料を効率的に活用し、学習の見通しをもたせると共に、生活の振り返りや、実験等の参考資料にしましょう。

<小学校体育授業プログラム>

<http://gepra7.ec-net.jp/51programs/index.html>

県教育委員会と群馬大学、県小学校体育研究会が共同開発した『体育授業プログラム』に、多くの単元構成例が紹介されているので、積極的に活用しましょう。



<県公開授業実践例>

県総合教育センターのホームページには、これまでの公開授業の授業実践例が各種紹介されています。また、長期研修員や特別研修員の実践例も紹介されているので、積極的に活用しましょう。

本時のめあて なかまときょうりょくして、もっとてんすうをとれる せめかたを見つけよう。

【ボールはこび鬼 1ゲーム目①】



前時に色々出てきた攻め方を使い、まず1ゲームやってみる。
①1分間で攻守交代。終わったら集合する。
②全体で良い動きの共有。

【学校体育指導資料】

- ・「小学校体育授業モデル実践事例（ハンドボール）」【平成31年3月】.pdf **NEW!**
- ・「小学校体育授業モデル実践事業（鬼遊び）」【平成30年3月】.pdf
- ・「小学校体育授業モデル実践事例（ティーボール）」【平成29年3月】.pdf
- ・「小学校体育授業モデル実践事例（プレルボール）」【平成28年3月】.pdf
- ・「小学校体育授業モデル実践事例（プレルボール・ティーボール）」【平成27年3月】.pdf
- ・「小学校体育授業モデル実践事例（ソフトバレーボール・プレルボール）」【平成26年3月】.pdf
- ・「中学校保健体育科授業実践事例（保健）」【平成31年3月】.pdf **NEW!**
- ・「中学校保健体育科授業実践事例（バレーボール）」【平成30年3月】.pdf
- ・「中学校保健体育科授業実践事例（体づくり運動）」【平成29年3月】.pdf
- ・「中学校保健体育科授業実践事例（サッカー）」【平成28年3月】.pdf
- ・「中学校保健体育科授業実践事例（バレーボール・サッカー）」【平成27年3月】.pdf
- ・「中学校保健体育科授業実践事例（保健・ダンス）」【平成26年3月】.pdf
- ・「中学校保健体育科授業実践事例（球技・武道）」【平成25年3月】.pdf

<文部科学省・スポーツ庁指導資料例>

文部科学省・スポーツ庁のホームページには、各種指導資料が掲載されています。また、映像資料もあるので、積極的に活用しましょう。

【文部科学省指導資料例】

- ・小学校低学年体育（運動領域）デジタル教材（※YouTubeへリンク）
- ・学校体育実技指導資料第4集「水泳指導の手引（三訂版）」
- ・学校体育実技指導資料第9集「表現運動系及びダンス指導の手引」
- ・学校体育実技指導資料第2集「柔道指導の手引（三訂版）」
- ・小学校体育（運動領域）まるわかりハンドブック
- ・学校体育実技指導資料第8集「ゲーム及びボール運動」
- ・学校体育実技指導資料第7集「体づくり運動」（改訂版）
- ・学校体育実技指導資料第10集「器械運動指導の手引」
- ・新学習指導要領に基づく中学校・高等学校向け「体づくり運動」体育理論 リーフレット 等

4 学習活動を行う場合に生じる困難さに応じた指導の工夫【例】

困難さ	指導の工夫
うまく用具を扱うことができない。(細いバットでボールを打つことができないなど)	<ul style="list-style-type: none"> 児童生徒の能力差に対応した用具(バットの代わりにテニスラケットを活用等)や場を複数準備することで児童生徒の「できた」を実感する場面を増やせるようにする。 
けがをすることもかもしれないという不安で挑戦できない。	<ul style="list-style-type: none"> 児童生徒の不安を取り除く場(跳び箱をロールマットに変える等)を設定したり、補助をつけたりして、児童生徒が「やってみようかな…」と思えるような工夫をする。 
説明を聞いたり、文字を読んだりしただけでは、学習内容等をイメージできない。	<ul style="list-style-type: none"> 写真や図、映像を活用し、児童生徒が短時間で学習内容等をイメージできるような工夫(台上前転の模範映像を見せる等)をする。
思ったことや考えたことを書いたり、発言したりするのが苦手。	<ul style="list-style-type: none"> ワークシートを工夫し記号等(顔の表情を活用する等)で成果を確認したり、発問を工夫して児童生徒の思いや考えを言葉で引き出したりする。 

5 情報活用能力の育成

体育・保健体育科における情報とは…自分自身の動きを可視化したり、生活の様子などをグラフ化する等して得られる、映像(タブレット等に録画された自分自身のフォームなど)やデータ(一週間の運動時間の棒グラフなど)。

基本的な操作〈例〉

- 正しい動きや学び方を理解する。
⇒コンピュータを活用した検索、タブレットに保存された動画の再生。等
- 自身や仲間の動きを客観的に理解したり、課題を見付けたりする。
⇒タブレットやデジタルカメラ等を活用した撮影及び撮影された動きの再生。等
- 必要なデータを整理する。
⇒アンケート結果や記録の変化をコンピュータを活用して表やグラフにする。等

情報の収集

- <各種資料から>
 - ・小学校体育授業プログラム
 - ・文部科学省ホームページの動画資料
 - ・補助教科書や学習カード 等
- <動きの中から>
 - ・タブレットやデジタルカメラで撮影した映像 等
- <児童の実態から>
 - ・アンケートやインタビュー 等

問題解決における情報活用

情報の整理・比較

- <運動領域・体育分野>
 - 自分の動きを確かめる。
 - 模範となる動きを画像で確かめ、技能のさらなる習得に生かす。
 - 画像の蓄積により、学習の成果を確認したり評価の資料としたりする。等
- <保健領域・保健分野>
 - 自分の活動量等のデータを客観的に把握・評価する。等



情報の発信・伝達

- <運動領域・体育分野>
 - 撮影された動画を基に仲間にアドバイスを。
 - グループの動きが撮影された画像を基に、考えたことをまとめ発表する。等
- <保健領域・保健分野>
 - アンケートを活用し、他者の多様な考えを共有し、思考・判断・表現する。等

6 地域の人材や物的資源の活用

体育・保健体育科においては、専門的な技能の習得・向上のため、必要に応じて専門家との連携した指導が有効です。

各種団体等との連携

各市町村の人材バンクや学校支援センター、養護教諭や栄養教諭等と連携した授業を工夫して実践しましょう。

また、県教育委員会が行っている学校体育実技指導協力者（水泳、ダンス、武道）派遣事業も積極的に御活用ください。

実技研修を授業に生かす

夏の水泳指導に向けて、保護者を含めた救急蘇生法講習会



外部講師と連携した実践例



ダンス指導が得意な保護者と連携した「体づくり運動」や「表現運動」



柔道の専門家と連携した「柔道」の授業



地域の陸上競技協会の指導者と連携した「持久走」の授業



地域のスポーツ指導員による、ラグビーボールを利用したボール渡しリレーの様子

<地域の人材活用等の相談例>



体育主任さん、2学期からマット運動の授業をするんですが、実技指導が不安なので、地域の方でお手伝いして下さる方はいないでしょうか。

これまでマット運動で、協力していただいた人はいないので、教頭先生と相談して、市の教育委員会やスポーツ協会の方に紹介していただけないか、聞いてもらいますね。



必要に応じて専門家や地域の方に協力を求める際、校内での相談や各市町村の教育委員会及びスポーツ協会、当該教育事務所等で適切な人材が見つからない場合は、県教育委員会健康体育課まで問合せください。

家庭

Home Economics

小学校家庭科及び中学校技術・家庭科家庭分野(以下、家庭科という)は、生涯にわたって健康で豊かな生活を送るための自立に必要な資質・能力を育成する教科です。

そのためには、生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決方法を考え、他者と意見交流し、実践を評価・改善して、新たな課題を見いだす過程を重視した学習の充実を図る必要があります。そして、家庭科では、実践的・体験的な活動を通して生活に必要な基礎的・基本的な知識及び技能を身に付けそれらを活用すること、学んだことを生活に生かす観点から、題材の指導計画に家庭や地域での実践を位置付けることが大切です。

【家庭科のページで使用されている用語解説】

実践的・体験的な活動	衣食住や家族の生活などの家庭生活に関する内容を主な学習対象とする調理、製作等の実習や観察、調査、実験などの活動のこと。
一般化した言葉でまとめる	実践的・体験的な活動を通して気付いたことを、家庭や地域、社会などにおける様々な場面で活用できる概念として理解できるようにまとめること。
実践（実習）計画	調理・製作等の実習のための計画や家庭・地域で実践するための計画のこと。

1 題材のつくり方

家庭科は、第1章の2で示すAパターンの題材の構想が多くなります。よりよい生活の実現に向けて、生活の中から問題を見いだして課題を設定し、実践的・体験的な活動を通して生活に必要な知識や技能を習得し、それらを活用して具体的に計画・実践することを通して、課題の解決をすることができるよう題材を構想することが大切です。

主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善のポイント

○よりよい生活（題材の目標）にするために、現在の自分の生活を見直し、問題を見つけさせる。

○題材を通して解決すべき課題について、班や学級全体で話し合わせる。

○一人一人が実感を伴って理解できる実践的・体験的な活動を設定する。

○実践（実習）計画や生活の中で活用できる知識及び技能となるよう、児童生徒の気づきを基に、一般化した言葉でまとめる。

○計画を立てさせる際は、習得した知識や技能を活用して、様々な解決方法を考えさせる。

○他者からの意見を踏まえて、計画について検討させる。

○実践（実習）の自己評価は、計画どおりにできたことや実践（実習）の中で工夫したことなどについて記録させる。

○「追究する1」で習得した知識や技能を活用して、実践的に学ぶ。

○内容により3と4の学習のどちらか一方を省略することもある。

<例>

商品の選択と購入に関する題材の「追究する2」では、「追究する1」で習得した知識及び技能を活用して、商品を購入するシミュレーションの学習をすることがある。この場合、3の学習は省略することが考えられる。

○実際の生活で生かすことができるよう、実践（実習）の評価を根拠や理由を明確にして発表させたり、他者からの意見を踏まえて改善方法を考えさせたりする。

【家庭・地域での実践】

○題材構成等に応じて、「5「題材の課題」の解決についてまとめたり、振り返ったりする」学習の前に位置付ける場合もある。

過程と基本的な学習活動

つかむ	1 題材の課題を設定する。 ◇生活の中から問題を見だし、整理する。 ◇見いだした問題を基に題材の課題を立てる。 【題材の課題】 <題材の目標に到達するための大きな問い> ◇学習の計画を立てて、題材の学習の見通しをもつ。
	2 題材の課題の解決に必要な知識及び技能を習得するための実践的・体験的な活動をする。 単位時間 【めあて】 ◇実践的・体験的な活動をする。 ◇気付いたことや考えたことを自分の言葉でまとめる。 ◇気づきを基に、一般化した言葉でまとめる。 【振り返り】 単位時間 単位時間 1 ※習得させたい知識及び技能が多ければ、この時数が多くなります。 ※「生活についての課題と実践」の題材では、この過程は省略されます。
追究する	3 題材の課題の解決に向けた実践（実習）計画を作成する。 ◇学習した知識や技能を活用して、課題の解決に向けた計画を作成する。 ◇検討したことを基に、計画を修正する。
	4 題材の課題の解決に向けた実践（実習）をする。 ◇3で立案した計画に従って、実践（実習）する。 ◇実践（実習）を評価する。 ※3の学習で、家庭・地域での実践計画を作成した場合は、ここは省略されます。
まとめ	5 題材の課題の解決についてまとめたり、振り返ったりする。 ◇「題材の課題」について、まとめる。 【題材の課題】のまとめ ◇4の実践（実習）や家庭・地域での実践を基に、改善策や生活に生かしたいことを考える。 ◇題材全体の振り返り

【家庭・地域での実践】

小学校 第5学年

「おいしい楽しい調理の力」(全8時間計画)

【目標】

ゆで野菜サラダの調理を通して、ゆでる調理に関する知識及び技能を身に付けさせるとともに、調理の仕方を工夫し、日常生活で調理をしようとする実践的な態度を育成する。

1 題材の課題を設定する。

- ◇これまでの調理経験や日常生活を想起することを通して、一人でオリジナルゆで野菜サラダを調理することについて疑問に思うことやできるようになりたいことなどの問題を見いだす。
- ◇問題を基に、題材の課題を立てる。



【題材の課題】一人でオリジナルゆで野菜サラダを作るには、どうしたらよいだろうか。

- ◇一人でゆで野菜サラダを調理するために必要なことを考え、学習の計画を立て、題材の学習の見通しをもつ。

2 題材の課題の解決に必要な知識及び技能を習得するための実践的・体験的な活動をする。

- ①調理実験を通して、青菜のゆで方が分かる。
ほうれん草をゆでる実験をしたら、湯から2～3分ゆでるとよいことが分かった。
- ②調理実験を通して、根菜類のゆで方が分かる。
じゃがいもをゆでる実験をしたら、水から8分くらいゆでるとよいことが分かった。

3 題材の課題の解決に向けた実践(実習)計画を作成する。

- ◇学習した知識や技能を活用して、おいしいゆで野菜サラダ作りの実習計画を立てる。
- ◇グループで検討し、計画を修正する。



材料に合わせたゆで方を考えて作ろう。

4 題材の課題の解決に向けた実践(実習)をする。

- ◇計画に従って、調理実習を行う。
- ◇実習について、評価する。



野菜に合ったゆで方をすることができた。
野菜を切ったり、調味料を計量したりできるようになった。

5 題材の課題の解決について、まとめをしたり、振り返ったりする。

- ◇実習の報告会を通して、友達の工夫を参考に自分の実践を改善したり、題材のまとめをしたりする。

一人でオリジナルゆで野菜サラダを調理するためには、調理計画を立て、材料に合わせた調理をすることが大切だ。

- ◇題材全体の学習を振り返り、家庭での実践で生かしたいことをワークシートに記入する。

もっといろいろな野菜をゆでて、おいしいゆで野菜サラダを一人で調理して、家族に食べてもらいたい。



【家庭での実践】

中学校 第1学年

「衣生活と自立」(全10時間計画)

【目標】

衣服の選択や手入れなど実践的・体験的な活動を通して、衣服の選択、着用及び手入れに関する知識及び技能を身に付けさせるとともに、衣服の計画的な活用について工夫し、自立した衣生活を送ろうとする実践的な態度を育成する。

1 題材の課題を把握する。

- ◇日常の衣生活に関するアンケート結果や、衣生活について自立した姿と現在の自分との比較から、自立した衣生活を送るために必要なことやできるようになりたいことなどの問題を見いだす。
- ◇問題を基に、題材の課題を立てる。



【題材の課題】自分で、快適な衣生活を送るためには、どうしたらよいだろうか。

- ◇「自立した衣生活を送る」ために必要なことについて考え、学習の計画を立て、題材の学習の見通しをもつ。

2 題材の課題の解決に必要な知識及び技能を習得するための実践的・体験的な活動をする。

- ①②目的に応じた衣服の適切な選択の仕方が分かる。
TPOを考えて自分らしい着方を工夫する必要があることが分かった。
和服を着てみて、その特徴が分かった。
- ③環境に配慮した衣服の計画的な活用の必要性が分かる。
衣服計画を立ててみたら、無駄のない購入につながる事が分かった。
- ④既製服の選択・購入の際の留意点分かる。
既製服を選ぶ時は、組成表示やサイズなど情報を収集したり、手持ちの衣服との組み合わせを考えたりすることが必要だと分かった。
- ⑤衣服の材料に応じた日常着の手入れが分かる。
既製服を選ぶ時は、手入れの方法を考えることも必要だと分かった。



3 題材の課題の解決に向けた実践(実習)計画を作成する。

- ◇学習した知識や技能を活用して、快適で自立した衣生活を送るための実践計画を立てる。
- ◇グループで検討し、計画を修正する。

(4. 題材の課題の解決に向けた実践をする。)
【家庭での実践】

5 題材の課題の解決について、まとめをしたり、振り返ったりする。

- ◇家庭での実践の発表会を通して、友達の工夫を参考に自分の実践を改善したり、題材のまとめをしたりする。

自分で、快適な衣生活を送るためには、衣服の選択や購入、手入れ、廃棄までを見直し、資源や環境に配慮して衣服を活用する。

- ◇題材全体の学習を振り返り、これからの生活で生かしたいことをワークシートに記入する。

これからは、手入れの仕方や廃棄のことまで考えて、購入したい。



2 単位時間の作り方(「つかむ」過程)【例】

「つかむ」過程では、既習の知識及び技能や生活経験を基に生活を見つめることを通して、問題を見だし、題材の課題を立てさせましょう。

【指導のポイント】

【問題を見いださせる指導の工夫】

問題とは：

- 題材の目標（よりよい生活）と現在の生活との違いや差
- 目標と比較して、できていないことやもっと知りたいこと、できるようになりたいこと等

<例>

- 生活を見つめさせる。
 - 自分の生活を見直す。
 - 家族や地域の人へのインタビュー 等
- 客観的な資料を提示する。
 - 教科書
 - 統計資料
 - 児童生徒や家族、地域等へのアンケート結果
 - 課題につながる画像 等
(例：調理実習や幼児ふれあい体験の様子等)
- 見本となる製作品や料理等を提示する。
(例：調理や製作の完成品)
- 今までの学習を想起させる。
 - 教科書やノート
 - 他教科の学習 等

【「めあて」の設定】

- 学習内容が見えないため、「活動・テーマ」の要素にかかわる「めあて」が多くなる。

<例>

「見いだした問題を基に、課題を立て、学習の見通しをもとう。」

【課題を立てる際のポイント】

- 題材の学習後の姿を踏まえる。
- いくつかの問題をつなぎ合わせる。

【振り返りの視点】

- 本題材の学習終了後に、どのようなことができるようになっていたか考えさせ、これからの学習への意欲付けを図る。

<例>

- 「(題材の学習を通して)○○ができるようになった。」
- 「できないことや知らないことがあったので、これからの学習が楽しみだ。」

基本的な流れ

1 生活の中から問題を見いだす。

- 教科書や見本となる製作品等を基に、題材の目標である具体的な姿を全体で共有させる。
- 題材の目標を達成すると、どのようなよさがあるのか考えさせる。※学ぶ必要感を持たせられるようにする。
- 課題につながる問題を出し合わせる。

2 本時のめあてをつかむ。

- 本時のめあては、見いだした問題を基に課題を立て、題材を通してどのような学習をするのか見通しをもつことを伝える。

【めあて】

3 見いだした問題を基に、題材の課題を立て、学習の見通しをもつ。

- 一人一人が見いだした共通する問題を明らかにさせる。
- 共通する問題を基に、解決すべき課題について話し合わせる。

題材の課題

〈題材の目標に到達するための大きな問い〉

- 見いだした問題や教科書の学習内容を基に、大まかな学習計画を立て、題材の学習の見通しをもたせる。

4 一人一人が本時の学習の振り返りをする。

- 題材の課題と解決するための学習の計画について確認させる。
- 本時の学習の振り返りを記述させ、発表するよう促す。

単位時間の振り返り

小学校 第5学年「おいしい楽しい調理の力」 【ねらい】

土がついた生の野菜とオリジナルゆで野菜サラダの画像を比べて一人で調理することについて問題を見だし、題材の課題を立てる活動を通して、これからの学習の見通しをもつことができるようにする。

1 生活の中から調理に関する問題を見いだす。

- 生の野菜の画像（図1）を提示し、どうしたら食べられるようになるか考えさせる。
- オリジナルゆで野菜サラダの画像（図2）を提示して、ゴールの姿のイメージをもたせ、調理のよさについて考えさせる。

図1



図2



- これまでの調理の学習や家庭での調理経験を想起させ、疑問に思うことやできるようになりたいことなど一人で調理することについての問題を付箋紙に書かせる。



お茶を入れた時、お湯を沸かしたよ。でも、野菜のゆで方は知らないな。



野菜を洗ったり、包丁で切ったりする必要がある。どのように切ったらいいのかな。

2 本時のめあてをつかむ。

【めあて】

見いだした問題を基に、課題を立て、学習の見通しをもとう。

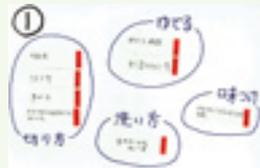
3 見いだした問題を基に、題材の課題を立て、学習の見通しをもつ。

- 見いだした問題を解決するためには、どのような課題を立てるか考え、発表させる。

【題材の課題】

一人でオリジナルサラダを作るためには、どうしたらよいらうか。

- 見いだした共通する問題や教科書の学習内容を基に、大まかな学習の計画を立て、題材の見通しをもたせる。



<学習の計画>

- | | |
|-------------|---------------|
| ① 野菜のゆで方 | ④ オリジナルサラダの計画 |
| ② じゃがいものゆで方 | ⑤ オリジナルサラダづくり |
| ③ 基本のサラダづくり | ⑥ 実践の発表会 |

4 一人一人が学習の振り返りをする。

- 本時の学習を振り返り、これからの学習で頑張りたいことをワークシートに記入させる。

- 野菜やいものゆで方を知って、おいしいサラダを作りたい。
- 野菜の洗い方やゆで方を覚えて、おいしいサラダを一人で作れるようになりたい。

中学校 第1学年「衣生活と自立」 【ねらい】

自分の衣生活について振り返って問題を見だし、題材の課題を立てる活動を通して、これからの学習の見通しをもつことができるようにする。

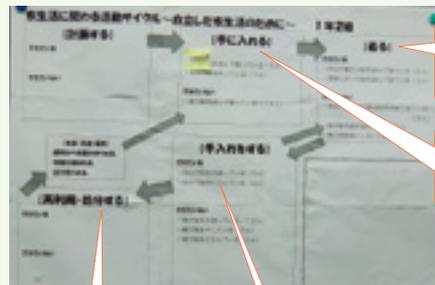
1 生活の中から衣生活に関する問題を見いだす。

- 普段の衣生活についてのアンケート結果を提示する。
- 衣生活に関わるキーワードを示したり、教科書を用いたりして、自立した衣生活を具体的に捉えさせる。

◆衣生活に関わるキーワード

「手入れ」「収納」「入手」「着る」など

- 自立した衣生活を送るために、今の自分が抱えている問題を見いださせる。
- 衣生活において、今の自分ができること、家族に任せていること、自立するために必要なこと、できないことを付箋紙に記入させる。



休みの日は自分の好きな服を着ているな。

親が服を買うので、選び方が分からない。

家に着ていない服がたくさんあるよ。

洗濯など親にまかせているな。

2 本時のめあてをつかむ。

【めあて】

見いだした問題を基に、課題を立て、学習の見通しをもとう。

3 見いだした衣生活の問題を基に、題材の課題を立て、学習の見通しをもつ。

- 各自が見いだした問題を、衣生活に関わるキーワードを基に、整理・分類させ、共通する問題を見いださせる。
- 見いだした問題を解決するためには、どのような課題を立てるか考え、発表させる。

【題材の課題】

自分で快適な衣生活を送るためには、どうしたらよいらうか。

- 課題を解決するためには、どのような学習が必要か考えさせ、学習の見通しをもたせる。



4 一人一人が学習の振り返りをする。

- 本時の学習を振り返り、本題材の学習を通して、どのようなことを学びたいか、ワークシートに記入させる。

- 自分ができることや知らないことがたくさんあった。自分の服を自分で選べる方法を知りたい。
- 衣服の再利用ができるように頑張りたい。

2 単位時間の作り方（「追究する1」過程：知識及び技能の習得）【例】

「追究する1」過程（知識及び技能の習得）では、実践的・体験的な活動を通して、生活に必要な基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付けさせるようにしましょう。

【指導のポイント】

【「めあて」の設定】

- 「追究する1」過程では、「活動・テーマ」の要素を含んだ「めあて」の設定が多くなる。
 - 「①どんな活動を通して、②何を学習するのか」が具体的に分かるようにする。
- <例> 「○○（実践的・体験的な活動）を通して、△△について～しよう。」

【実践的・体験的な活動の充実】

- 課題解決に向けて、試行錯誤したり、実物に触れたり、観察したりさせるようにする。
- 活動の手順や方法等については、教科書で確認をさせたり、視覚的に分かりやすく提示したりする。
- 一人一人が十分に活動できる工夫をする。

<学習形態の例>

- ・実習班の人数を少なくする
(ペア調理、学級を半分ずつに分ける等)

<学習環境の例>

- ・全員が体験できるミシンの台数を確保する
- ・手順の掲示・ICT機器の活用等

【各自の気づきからのまとめ】

- 活動を通して気付いたことの根拠を明らかにさせる。
- <例> ほうれん草は、ゆでる前と比べて、かさが減った。
- 実習等で体験したことを書いたり、説明したり、話し合ったりさせる。
 - 児童生徒の気づきを、本時のまとめにつながるように、整理しながら板書する。
 - 理解させたいことに気付かない場合には、グループで話し合わせたり、教師がねらいにせまる問いかけをしたりする。
 - 児童生徒の気づきから一般化した言葉でまとめる。

<例>

ほうれん草をゆでることを通して、ゆでる調理の仕方を理解させる場合

(気づき) ほうれん草は湯からゆでるとよい。

→一般化した言葉によるまとめ

ほうれん草などの葉物の野菜は、湯からゆでる。

【振り返りの視点】

- 分かったことやできるようになったこと、生活に生かしたいこと、もっと知りたいこと、やってみたいことなどを考えさせる。
- <例> ・「○○の仕方が分かった・できた」等

基本的な流れ

1 本時のめあてをつかむ。

- 学習計画における本時の位置付けを確認させる。
- ノートやワークシートの記述、教科書等を確認しながら、前時までの学習を想起させる。

【めあて】

2 実践的・体験的な活動を行う。

- 活動のねらいや手順、注意事項を確認させる。
- 一人一人が気付いたことを言葉や図表等を使い、ワークシート等に自分の言葉で書かせる。

3 全体で共有し、まとめる。

- 一人一人が気付いたことを言葉や図表等を使い、グループや全体で発表させる。
- 理解させたいことに児童生徒が気付かない場合には、教師が問いかけたり教科書等で確認をさせたりする。
- 課題解決のために必要な基礎的・基本的な知識を次の学習や家庭・地域などの生活の様々な場面で活用できるように、児童生徒の気づきを、一般化した言葉でまとめる。

【まとめ】

4 本時の振り返りをする。

- 本時で分かったことやできるようになったことを確認させる。
- 本時の学習の振り返りを記述させ、発表するように促す。
- 次時への予告をする。

単位時間の振り返り

小学校 第5学年「おいしい楽しい調理の力」

【ねらい】

ほうれん草をゆでる調理の実験を通して、青菜のゆで方について理解できるようにする。

1 本時のめあてをつかむ。

- 学習計画における本時の位置付けを確認する。

【めあて】

ほうれん草をゆでる実験を通して、青菜に合ったゆで方を探ろう。

2 班でほうれん草をゆでる実験を行う。

- ほうれん草は水からゆでるか、お湯からゆでるか、どのくらいゆでたらよいか予想を立てさせる。
- 水からと湯からの違い、ゆでる時間（2分、5分）の違いを比較させる。
- 試食の時、適切なゆで方をした青菜を用意して比較させる。



ほうれん草は、根の方から鍋に入れよう。

ゆでた時間で歯ごたえが違うな。長くゆですぎると、歯ごたえがなくなる。



水から長くゆでると、色が悪くなるよ。



ゆでると緑色が濃くなっている。

- 一人一人が気付いたことをワークシートに書かせる。
- 実験の結果を根拠に、適切なゆで方についてまとめさせる。

5分間だと、色も悪くなったし、歯ごたえもないので、2分間でゆでるのがいいね。（下線が根拠となる部分）



3 どのゆで方が適切だったか意見交流し、まとめる。

- ほうれん草のゆで方について気付いたことを発表させる。
- ほうれん草のゆで方について気付いたことを基に、青菜のゆで方について、一般化した言葉でまとめる。

【まとめ】

青菜は、湯から2～3分くらいゆでる。また、ゆでるとやわらかくなり、かさが減り、色がよくなる。

4 本時のまとめ・振り返りをする。

- 本時の学習を振り返り、「青菜のゆで方で分かったこと」をワークシートに記入させる。

- 沸騰した湯からゆでればよいことが分かった。
- ゆでるとかさが減るので、たくさん食べられることが分かった。

○次時は、じゃがいものゆで方の実験をすることを伝える。

中学校 第1学年「私たちの消費生活」

【ねらい】

身近な消費生活の場面において、消費者として自分ができることを話し合う活動を通して、消費者の権利と責任について理解できるようにする。

1 本時のめあてをつかむ。

- 学習計画における本時の位置付けを確認する。

【めあて】

身近な消費生活の場面で、消費者として自分ができることは何かについて考えよう。

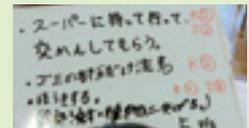
2 消費者として自分ができることを話し合う。

- 身近な消費生活の場面について、自分たちだったらどうするか、グループで話し合わせる。

◆身近な消費生活の場面<例>

- 自動販売機でコーラのボタンを押したら、温かいお茶が出てきた。
- 店で水（ペットボトル）を購入した。家に帰って中身をよく見たら、白いゴミが少し浮いていた。まだ、蓋は開けていない。
- シャンプーを買いに行ったら、通常のものと同様の詰め替え用のものが、同じ値段で売られていた。

- グループで話し合ったことを発表させ、共有させる。
- 一人一人が気付いたことをワークシートに書かせる。



自動販売機で表示と異なるジュースが出てきた時は、きちんと主張しないと、他の人も被害にあってしまうね。



買う物を選ぶ時には、環境のことを考えることも大切だな。

3 一人一人が気付いたことを発表し、まとめる。

- ワークシートに書いたことを発表させ、どのような消費者の権利と責任があるか考えさせる。

○消費者の権利

- 安全を求める権利
- 健全な環境を享受する権利

○消費者の責任

- 主張し行動する責任
- 環境への配慮をする責任

- 他にも、消費者の権利と責任があることを知らせる。
- 「消費者の権利と責任」を基に、消費者としてできることを考えさせ、一般化した言葉でまとめる。

【まとめ】

- よりよい消費生活を送るために、消費者の権利と責任について理解し、行動することが大切である。
- 消費者として適切に主張し、行動する責任を果たすことで、消費者被害の拡大を防ぐことができる。

4 本時の学習の振り返りをする。

- 本時の学習を振り返り、分かったことや消費者としてこれからどのように行動したらよいか考えたことをワークシートに記入させる。

- あきらめないで意見を言うことは、みんなのためにもなることが分かった。
- 環境への配慮をする責任を果たすために、詰め替え用の商品を選ぶようにしたい。

2 単位時間のつくり方 (「追究する2」過程：実践(実習)計画の作成について)【例】

「追究する2」過程(実践(実習)計画の作成)では、主に「追究する1」過程で学習した知識及び技能を活用して、生活の課題を解決したり、家庭や地域で実践したりするための計画を作成させるようにしましょう。

【指導のポイント】

【「めあて」の設定】

- 「追究する2」過程(実践(実習)計画の作成)では「活動・過程」の要素を含んだ「めあて」が多くなる。
- <例>
「~~~~できるように、〇〇の実践(実習)計画を立てよう。」等

【実践(実習)計画の立て方】

- 実践(実習)の方法や手順等について、教科書を参考にさせる。
- 布を用いた製作の計画を立てさせる際は、製作物の見本や段階見本を示す。
- 実践(実習)によって、個人で計画する場合とグループで計画する場合がある。

<実践(実習)計画の例>

- ・調理実習計画 ・製作実習計画
- ・買い物計画 ・幼児との触れ合い計画
- ・「快適な住まい方」についての実践計画等

【検討の視点】

- 検討の視点を児童生徒に考えさせたり、教師が示したりする。
- <検討する際の視点の例>
 - ・目的に合っているか
 - ・既習の知識や技能を活用しているか
 - ・題材の課題や個人の課題の解決につながっているか
 - ・よりよい生活になっているか
- 活発な交流ができるように、学習形態を工夫する。
- <例>
ペア、班、作品別や課題別グループなど
- 外部講師からアドバイスをしてもらう場合もある。

【振り返りの視点】

- 計画を立てたり、検討・改善したりしたときの場面を振り返らせ、新たに気付いたことや工夫したこと、実践(実習)でがんばりたいことを考えさせる。
- <例>
 - ・「〇〇について、教えてもらった方法にしたら、うまくできそうだ。」
 - ・「工夫したことは、~~~~だ。計画通りに実践ができるようにがんばりたい。」

基本的な流れ

1 本時のめあてをつかむ。

- 学習の計画における本時の位置付けを確認させる。

【めあて】

2 課題解決のための実践(実習)計画を作成する。

- ノートやワークシート、教科書等を振り返らせる。
- 前時までに習得した知識及び技能を活用して計画を立てさせる。

3 実践(実習)計画について検討し、改善する。

- 児童生徒同士で計画について、意見交流をさせ、よりよい計画になるよう検討し合わせる。
- 検討したことを踏まえて、計画を改善させる。
- 課題を解決することができる計画になっているか確認させる。



4 本時の振り返りをする。

- 本時の学習を振り返り、ワークシート等に記述させ、発表するように促す。

単位時間の振り返り

小学校 第5学年「物を生かして住みやすく」

【ねらい】

クリーン大作戦の実践計画を立てる活動を通して、家族が気持ちよく生活ができるように住まいの整理・整頓や清掃の仕方について考え、工夫することができるようにする。

1 本時のめあてをつかむ。

- 家族へのインタビューなどを踏まえて、事前に考えた各自の課題（クリーン大作戦を実践する場所とその理由）を確認させる。

（各自の課題の例）

家族が出かける時に気持ちのよいピカピカな玄関にしたいな。

【めあて】

家族が気持ちよく生活できるように、「クリーン大作戦」の計画を立てよう。

2 課題解決のための実践（実習）計画を作成する。

- 教科書やプリント、掲示物等を用いて、既習事項を確認させる。

◆既習事項

- ・住まいの整理・整頓の仕方
- ・住まいの掃除の仕方
- ・環境に配慮した物の使い方



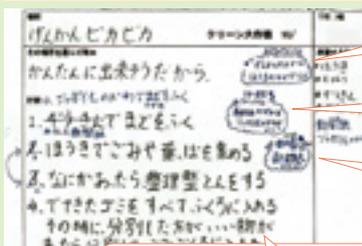
- 既習事項を活用して課題の解決に向けた計画を立てさせる。

3 実践計画についてグループで検討し、改善する。

- 3～4人グループになり、掃除をしている自分の姿を具体的にイメージしながら、実行方法や手順などを発表させたり、気付いたことをアドバイスさせたりする。
- よりよい計画となるように、改善策を話し合わせる。

<検討の視点>

- ・課題を解決できる実践計画になっているか
- ・◆既習事項を活用しているか



友達のアドバイスをメモしておこう。

窓ふきは新聞紙を使うといいよ。

ほうきではなく前に、靴を片付けた方がいいよ。

環境を考えると再利用などの工夫をしてみるといいね。

- 検討したことを基に各自の計画を見直し、改善させる。
- 家族が気持ちよく生活できるようにするための実践の計画となっているか確認させる。
- シミュレーションをさせ、計画どおり実践できるか確かめさせる。

4 本時の振り返りをする。

- 計画を立てたり改善したりしたときに、家族が気持ちよく生活できるようにするために気付いたことや工夫したことを振り返らせる。

- 話し合ってみて掃除の手順が大切だと気付いた。
- 油污れは古い布や新聞紙でまずふき取るとよいと教えてもらったので、環境のためにも実践したい。

中学校 第1学年

「日常食の調理—前橋とんとん弁当を作ろう—」

【ねらい】

自分や家族の生活スタイルに合わせた弁当づくりの実践計画を立てる活動を通して、1食分の調理について考え、工夫することができるようにする。

1 本時のめあてをつかむ。

- どのような弁当にするのか、事前に考えた各自の課題を確認させる。

（各自の課題の例）

疲れていても頑張れるように肉と野菜を多めに食べられる「エネルギー満タン弁当」を作りたい。

【めあて】

自分や家族の生活スタイルに合わせた弁当づくりの計画を立てよう。

2 課題解決のための実践（実習）計画を作成する。

- 教科書やワークシート、試しの弁当づくりの画像を掲示し、弁当づくりのポイントや既習事項を確認させる。



試しの弁当

（しょうが焼き、蒸し野菜、青菜としらすのおひたし、ごぼうとにんじんのきんぴら）

◆既習事項

- ・肉の調理の仕方
- ・6つの基礎食品群など、食品の栄養的な特質
- ・献立の作成の方法

- 既習事項を活用して課題の解決に向けた計画を立てさせる。

3 実践計画についてグループで検討し、改善する。

- 4～5人グループになり、計画について検討し合わせる。

<検討の視点>

- ・課題を解決できる弁当になっているか
- ・◆既習事項を活用しているか



ハンバーグがあるので、肉をたくさん食べられるから課題にあってるね。中までしっかり火が通るように調理するといいいね。



頑張るためにはエネルギーが必要なので、5群の食品を多めにした方がいいね。



2群の食品が不足しているから、海苔やチーズなどの食品があるといいいね。

- 検討したことを基に、各自の計画を見直し、改善させる。

2群の食品を補うために、ご飯の上に、海苔をのせることにしました。

5群の食品を多めに食べられるように、スパゲッティナポリタンを追加しました。



4 本時の振り返りをする。

- 計画を立てたり改善したりしたときに、自分や家族の生活スタイルに合わせた弁当づくりについて気付いたことや工夫したことを振り返らせる。

- 栄養バランスだけでなく、目的に合わせて食品を選択することが大切だと気付いた。
- 栄養バランスのよい弁当にするために工夫したことは、友達の意見を参考に、2群の海苔を追加したことだ。

2 単位時間のつくり方（「まとめる」過程）【例】

「まとめる」過程では、課題の解決に向けて実践した結果を振り返り、考えたことを発表し合い、他者からの意見を踏まえて改善方法を考えるなど、実際の生活で生かせるようにしましょう。

【指導のポイント】

【「めあて」の設定】

○本時で家庭や地域の実践につながるまとめとなるように、「活動・テーマ」の要素に係る「めあて」が多くなる。

<例>

「〜（課題を解決）するために、これからの生活でできることは何か考えよう。」

【改善策の検討】

○自分の考えの根拠や理由を明確にして改善策を考えさせる。

○学んだことを実際の生活で生かす視点で改善策を考えさせる。

<改善策を考えさせる際の視点の例>

- ・目的にあった実践をするためには、どうすればよいか
- ・よりよい生活を送るためには、協力・健康・快適・安全、生活文化の継承などの視点から、工夫するとよいことはあるか
- ・（製作の場合）もっと使いやすくするためには、どのような工夫をするとよいか

【題材の課題についてのまとめ】

○題材の初めの姿と比較し、題材を通して自分が成長したことを実感できるようにする。

<例>

「題材の課題」を解決するためには、〜する。

【振り返りの視点】

○題材全体の学習を振り返って、分かったことやできるようになったこと、これからの生活で生かしたいことを考えさせる。

<例>

- ・「〇〇について、もっと〜にしたい。」
- ・「今度は、〜〜にしてみたい。」

基本的な流れ

1 本時のめあてをつかむ。

- 学習の計画における本時の位置付けを確認させる。
- 本時は、題材の学習のまとめであることを確認させる。
- 前時の実践（実習）を想起させる。

【めあて】

2 実践の評価を基に、改善策を検討する。

- 自分で評価したことについて児童生徒同士（ペアやグループ）で意見交流をさせる。
- 課題を共有し、改善策について、個人で考えさせたりグループで話し合わせたりする。
- 「もっと〇〇したい」「今度は〇〇をしてみたい」「〇〇にするにはどうすればいいのだろう」など、新たな課題を見付け、全体で共有する。



3 題材の課題についてのまとめをする。

- 題材の課題を提示する。

【題材の課題】

- 教科書やノート、ワークシート等を振り返り、題材の学習を通して、できるようになったことや分かったことを確認させる。
- 題材の課題について解決ができたか確認させ、実際の生活につながるまとめをする。

【題材の課題】のまとめ

4 題材全体の学習について振り返りをする。

- 題材全体の学習を振り返り、ワークシート等に記述させ、発表するように促す。

題材全体の振り返り

小学校 第6学年 (家族・家庭生活についての課題と実践) 「地域の一員として、できることをやってみよう」

【ねらい】

地域での実践を評価・改善することを通して、自分や地域の人々にとってよりよい生活とはどのようなものか考え、新たな課題を見付け、実際の生活につなげることができるようにする。

1 本時のめあてをつかむ。

- 学習計画における本時の位置付けを確認する。

【めあて】

地域での実践の発表会を通して、地域の人々とよりよく生活するために、実践できることは何か考えよう。

2 地域での実践の評価を基に、改善策を検討する。

- よくできた点や工夫した点、改善点をワークシートに記入させる。



相手のことを考えてプレゼントを作ることができた。渡したら喜んでくれたので、うれしかった。



計画通りにできた。色や形をもっと工夫した方がよかった。

- ペアで交流した後、グループで発表し、改善策やこれからの生活に生かしていきたいことを話し合わせる。



今回は、コースターを作ったけれど、ティッシュケースの方が生活に役立ったかもしれない。



友達はプレゼントと言葉で感謝の気持ちを伝えていたな。これからの生活で、地域の人との会話を増やしていきたいな。

- 新たな課題を見付け、全体で共有する。



他にもお世話になっている地域の人がいることに気付いた。感謝の気持ちを伝えたいな。

3 題材の課題についてのまとめをする。

- 題材の課題を提示する。

【題材の課題】

地域の人との関わりを考え、気持ちを伝えよう。

- ワークシートを振り返り、題材の学習を通して、分かったことやできるようになったことを確認させる。
- 「つかむ」過程で立てた自分の課題が解決できたか確認をさせる。

【題材の課題】のまとめ

自分にできることを考えて、地域の人に感謝の気持ちを伝えることで、地域の人々とよりよく生活することができる。



4 題材全体の学習について振り返りをする。

- 題材全体の学習を振り返り、地域の一員としてできることを考え、ワークシートに記入させる。

- 地域の行事に参加したり、あいさつをしたりすることで、地域の人との関わりを増やしたい。
- 自分にできることで、地域の生活に協力したい。

中学校 第1学年「衣生活と自立」

【ねらい】

家庭実践について評価・改善することを通して、自分で快適な衣生活を送れるようにするための新たな課題を見付け、実際の生活につなげることができるようにする。

1 本時のめあてをつかむ。

- 学習計画における本時の位置付けを確認する。

【めあて】

自立した衣生活を送るために、これから実践できることは何か考えよう。

2 家庭での実践の評価を基に、改善策を検討する。

- 家庭での実践の評価について、グループで意見交流をさせる。



自分で洗濯ができた。泥汚れのひどい所は、部分洗いをしたら、いつもよりきれいになった。

自分の衣服点検ができた。小さくなっている服があることに気付いた。



- 課題を共有し、改善策について話し合わせる。

友達は風呂の残り湯を利用して水を節約していた。環境のことを考えた洗濯を考えたい。



たたみ方だけでなく、取り出しやすい収納の仕方にも気を付けたい。



- 新たな課題を見付け、全体で共有する。



小さくなった服があったから、それらを活用する方法を考えたい。

3 題材の課題についてのまとめをする。

- 題材の課題を提示する。

【題材の課題】

自分で快適な衣生活を送るためには、どうしたらよいだろうか。

- ワークシートを用いて、題材を通して分かったことやできるようになったことを発表させる。
- これから自分が衣生活についてどのように実践していきたいか交流させ、実際の生活につながるまとめをする。

【題材の課題】のまとめ

自分で快適な衣生活を送るためには、衣服の購入から廃棄までを見通し、資源や環境に配慮して衣服を活用する。

4 題材全体の学習について振り返りをする。

- 題材全体の学習を振り返り、自立した衣生活について考えたことをワークシートに記入させる。

- 衣服の再利用の実践が参考になった。今度、ほくも衣服の再利用について工夫してみたい。
- 自立した衣生活のためには、購入だけでなく、廃棄まで考えることが大切だと思った。これからは、衣服の廃棄まで考えて、購入していきたいと思う。

3 学習過程と教科書との関連

家庭科の教科書は、課題を解決する過程に沿って構成されています。例えば、生活の中から課題を設定できるヒントがあったり、課題を解決するための方法や手順、まとめ方の例などが示されたりしています。

また、家庭科の教科書には、包丁の使い方や消費者としての権利と責任など、学習指導要領には記述されていない身に付けさせたい具体的な知識が詳しく記載されています。他にも、多くの調理例や実践例などの写真や図などが掲載されています。従って、教科書を参考に、児童生徒の実態に合わせて、学習内容を取捨選択し、題材を構成しましょう。

そこで、教科書を参考に、どのような学習をするのか、どのような知識及び技能を身に付けさせるのか、それらを活用して何ができるようになるのかを明確にして、題材の目標や指導計画を作成しましょう。

以下の表は、各過程における教科書の活用例です。教科書を有効に活用し、指導の充実を図りましょう。

過程	活用例
つかむ	<ul style="list-style-type: none"> ・よりよい生活の様子、調理や製作物の画像を見て、題材の学習後の目標や理想の姿を共有させる。 ・身近な生活の様子のイラストや画像を基に、自分の生活を見つめ、問題を見いださせるようにする。 ・既習事項を確認させたり、題材の大まかな学習内容を把握させたりする。
追究する 1	<ul style="list-style-type: none"> ・野菜の切り方や縫い方などの画像を見て、課題の解決に必要な知識や技能のコツを見つけさせる ・実践的・体験的な活動を通した気づきを基にまとめたことを再度確認させる。
追究する 2	<ul style="list-style-type: none"> ・実践（実習）計画を立てさせる時に、既習事項を確認させる。 ・調理や製作の計画を立てさせる時に、教科書の調理例や作品例を参考にさせる。
まとめる	<ul style="list-style-type: none"> ・学習のまとめや家庭・地域での実践についてまとめさせる時に、学習をまとめたワークシートなどの例を参考にさせる。 ・解決方法の改善策について考える時に教科書の内容を参考にさせる。

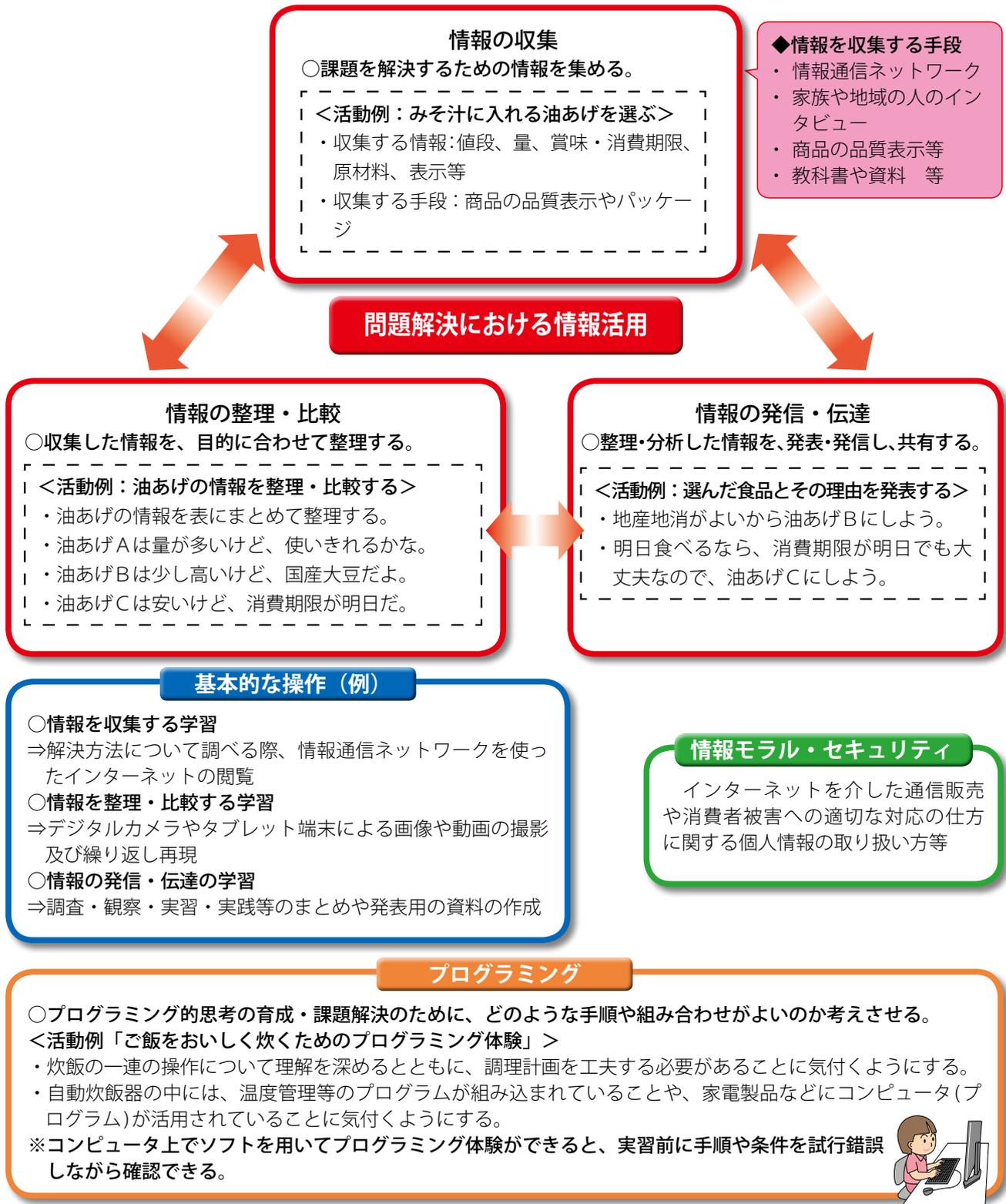
4 学習活動を行う場合に生じる困難さに応じた指導の工夫【例】

困難さ	指導の工夫	
学習に集中したり、持続したりすることが難しい場合	<ul style="list-style-type: none"> ・道具や材料を必要最小限に抑えて準備する。 ・整理・整頓された学習環境で学習できるように工夫する。 	 <p>必要最小限の道具</p>
活動への関心をもつことが難しい場合	<ul style="list-style-type: none"> ・約束や注意点、手順等を視覚的に捉えられる掲示物やカードを明示する。 ・体感できる教材・教具を活用する。 	
周囲の状況に気が散りやすく、包丁、アイロン、ミシン等の用具を安全に使用することが難しい場合	<ul style="list-style-type: none"> ・手元に集中して安全に作業ができるように、個別の対応ができる作業スペースや作業時間を確保する。 ・安全への配慮を徹底するために、実習中の約束事を決め、随時、児童生徒が視覚的に確認できるようにする。 	 <p>安全への配慮を徹底するための掲示物</p>
調理や製作等の実習を行う際、学習活動の見直しをもつことが難しい場合	<ul style="list-style-type: none"> ・視覚的に確認ができるようにするために、個に応じた段階的に手順を写真や図で提示する。 	
グループで活動することが難しい場合	<ul style="list-style-type: none"> ・他の生徒と協力できるようにするために、協力する具体的な内容を明確にして役割分担をする。 ・役割が実行できたか振り返ることができるようにする。 	 <p>手順が分かる掲示物</p>

5 情報活用能力の育成

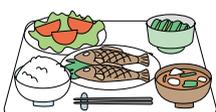
※家庭科における情報とは・・・身の回りにある人やもの、日常生活に必要なものやことなど

- 〈例〉・家族や地域の人、地域の行事・食品や食品に含まれる栄養、料理やそのレシピ
 ・布を用いた物やその作り方 ・住まいに関すること ・金銭や価格
 ・環境など



6 地域の人材や物的資源の活用

家庭や地域と積極的に連携を図り、地域の人材や物的資源を積極的に活用することで、効果的に学習が進められるようにしましょう。

学習指導要領の内容	関係施設や団体等	実施可能な主な内容
A 家族・家庭生活 	県老人福祉施設協議会 027-255-6034	介護の仕事や介護の疑似体験等
	地域の幼稚園、保育所（園）、認定こども園 保育士、幼稚園教諭等	幼児との触れ合い体験 幼児の心身の発達等に関わる講演
	地域の団体、敬老会、公民館等	地域の人々（高齢者）との触れ合い体験等
B 衣食住の生活    	群馬県食生活改善推進員連絡協議会 群馬県保健予防課内 027-897-2967	地域の食生活改善推進員による郷土料理の調理実習等
	一般社団法人和食文化国民会議 03-5817-4915	だしの役割など和食に関する出前授業等
	学校栄養士、栄養教諭	食物アレルギーの事故防止 栄養バランスを考えた食事のとり方 1食分、1日分の献立作成の方法 調理に必要な用具の安全で衛生的な取扱い その他食に関する指導全般 〈参考：食に関する指導の手引-第二次改訂版-〉
	和食の調理師	和食についての学習
	NPO 法人和装教育国民推進会議 群馬支部：桐生織物協同組合内 0277-43-7171	浴衣着付け体験等
	衣料品の生産・販売に関する企業	衣服の選択、活用、リサイクル等
	保護者や地域の方（公民館のサークル等）	手縫いによる製作やミシンを用いた製作等
	洗濯洗剤に関する企業	洗剤の働きと環境への影響 界面活性剤が汚れを落とすしくみ 環境に配慮した消費生活 環境のことを考えた快適な暮らし等
	クリーニング店	汚れの落とし方の実習やアイロンのかけ方等
	NPO 法人住・環境支援ネット 027-325-6085	室内の温度や湿度、明るさ調べ 通風や換気の実験 家具の配置や固定方法などの安全な住まい方の工夫等
住宅メーカーなどの企業	住まいの役割や機能、快適な住空間等（明るさ、温度、湿度、音）	
清掃に関する企業	掃除の役割、掃除の仕方等	
C 消費生活・環境 	群馬県消費生活課(消費生活センター) 027-226-2281	若年層消費者被害防止出前講座
	群馬県廃棄物・リサイクル課 027-226-2852	循環型社会づくりに向けた取組の紹介等

技術

Technology

技術・家庭科技術分野は、ものづくりなどの実践的・体験的な活動を通して、技術によってよりよい生活や持続可能な社会を構築する資質・能力を育成する教科です。

そのためには、まず技術についての基礎的な知識等を身に付け、その上で、生活や社会の中から問題を見だし、身に付けた基礎的な知識等を活用して解決したり、今後の自分自身の生活や技術の在り方について考えたりする、問題解決的な学習活動を充実することが大切です。

【技術分野のページで使用されている用語解説】

技術の見方	<ul style="list-style-type: none">・ 社会からの要求、安全性、環境への負荷、経済性等の視点・ 作る、使う、廃棄する、万が一のトラブルなどの場面を想定・ 作り手や使い手の立場からの視点
技術の考え方	<ul style="list-style-type: none">・ 社会からの要求、安全性、環境への負荷、経済性等に配慮して、現状の目的と条件の中で最適な解決策を見いだすこと
製作・制作・育成	<ul style="list-style-type: none">・ 製作… A 材料と加工の技術及び、C エネルギー変換の技術におけるものづくり・ 制作… D 情報の技術におけるプログラミング・ 育成… B 生物育成における栽培、飼育、養殖

1 題材のつくり方

技術分野には、「A材料と加工の技術」「B生物育成の技術」「Cエネルギー変換の技術」「D情報の技術」の4つの内容があります。そして、各内容を1つの大きな題材として扱います。

また、各内容は「基礎的な知識等を身に付ける」「生活や社会の中の問題を解決するものづくり」「これからの技術の在り方を考える」の3つの要素で構成されています。題材をつくる際、これらの3つの要素は「つかむ」過程、「追究する」過程、「まとめる」過程として扱うことができます。

よって、技術分野の題材は、「つかむ」過程では題材の課題を把握し基礎的な知識等を身に付ける。「追究する」過程では、身に付けた知識等を活用しながら生活や社会の問題を解決する製作・制作・育成の課題を設定し解決する。「まとめる」過程では、つかむ過程で把握した題材の課題について改めて考え、技術の在り方について提言等をまとめるという流れとなります。

主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善のポイント

○第1学年の最初に、A～Dの4つの内容について学ぶことや、「基礎的な知識等を身に付ける」「生活や社会の問題を解決するものづくり」「これからの技術の在り方を考える」の3つの活動を通して学ぶことを伝える。

○見通しをもった学習ができるよう、教室に題材の流れなどを掲示するなどの工夫をする。

○題材の課題は、題材を構成する3つの要素に共通する抽象的で大きな問いとなる。

○「つかむ」過程では、技術の見方・考え方や科学的な原理・法則を身に付けさせながら、「生活を便利にするものをつくってみたい」「安全や環境に配慮して設計・計画してみたい」といった意欲を高める。

○「追究する」過程では、身に付けた技術の見方・考え方や科学的な原理・法則を活用しながら、生活や社会の問題を解決するものづくり等の活動に取り組ませる。

○最適な解決策を考える能力と態度を養うため、意見交流等により見方を広げる活動と、個人でじっくりと考える活動を繰り返し位置付ける。
・図や試作品等を基に意見を交流することで、見方を広げる活動。
・解決策を図や計画に表したり、試作・試行したりすることで、考えを深める活動。

○「まとめる」過程では、題材の課題について改めて問いかけ、「つかむ」過程で気付いた見方・考え方や「追究する」過程で生活や社会の問題を解決した経験を踏まえて考えさせる。

○学習したことを生活に生かす実践的な態度を育成できるように、持続可能な社会を構築するために自分自身にできることを考えさせる。

過程と基本的な学習活動

つかむ

1 題材の課題を把握する。

◇題材に関わる技術と生活、社会、環境との関わりに気付く。

【題材の課題】(全体)
〈題材の目標を達成するための問い〉

◇題材の学習の見通しをもつ。

2 基礎的な知識等を身に付ける。

◇題材に関わる技術の見方・考え方に気付く。

◇題材に関わる技術の科学的な原理・法則と仕組みを知る。

追究する (D情報の技術は追究するを2回行う)

3 「製作・制作・育成の課題」を設定する。

◇生活や社会の中から技術に関わる問題を見いだす。

◇個人で「製作・制作・育成の課題」を設定する。

「製作・制作・育成の課題」(※個人)

4 設計・計画する。

◇設計・計画や製作・制作・育成に必要な知識及び技能を習得する。

◇製作・制作・育成の課題の解決策を構想し、図・計画に表す。

◇試作・試行を通して、構想した解決策を具体化する。

◇製作・制作・育成の作業計画を立てる。

5 解決に向けて製作・制作・育成する

◇構想した解決策及び、作業計画に基づき、製作・制作・育成を行う。

6 成果を評価する。

◇製作・制作・育成の課題の解決結果と解決の過程を、個人及び相互に評価する。

製作・制作・育成の振り返り

まとめる

7 これからの技術の在り方を考える。

◇つかむ過程で把握した題材の課題について、改めて確認する。

◇社会問題や最新の技術について調べ、優れた点や問題点について、意見を交流する。

◇これからの自分の生活や題材に関わる技術の在り方について考えさせ、発表させる。

題材のまとめ (全体)

題材全体の振り返り (個人)

A 材料と加工の技術(第1学年/全25時間計画)**【目標】**

生活の中にある問題を製品を製作することで解決する活動や、材料と加工の技術の在り方を考える活動を通して、技術を適切に選択できるようにする。

1 題材の課題を把握する。

◇材料と加工の技術と生活や環境との関わりに気付く。

【題材の課題】

材料と加工の技術はどう在るべきだろう。

◇題材の学習の見直しをもつ。

2 基礎的な知識等を身に付ける。

◇材料と加工の技術の見方・考え方に気付く。
◇木材、金属、プラスチックなどの材料の性質、形・構造、接合方法、塗装方法等の特徴を理解する。

3 「製作の課題」を設定する。

◇生活の中で不便さを感じることから問題を見いだす。
◇木製品の製作により解決できる課題を個人で設定する。

**「製作の課題」※個人**

自分の部屋の机を整頓するため、適切な材料や加工方法を選択し本棚を製作しよう。

4 設計・計画する。

◇等角図等のかき方や工具の適切な使用方法を習得する。
◇製作の課題の解決策を構想し、等角図等に表す。
◇模型の試作や意見交流を通して、構想した解決策を評価し、具体化する。
◇製作の作業計画を立てる。

5 解決に向けて製品を製作する。

◇各自の解決策及び、作業計画に基づき、製作する。

6 成果を評価する。

◇製作した製品は問題の解決に効果があるか、設計や製作の過程に安全性や環境への負荷、経済性の視点から見直すべきことがないか、個人及び相互に評価する。

【製作の振り返り】

安全性・環境への負荷・経済性等の視点で検討することで、最適な材料や加工方法を選択し製品を製作できる。

7 これからの材料と加工の技術の在り方を考える。

◇材料と加工の技術がどう在るべきか考えることを再確認する。
◇木材を育てる技術や廃材を原料とする木質材料について優れた点や問題点を調べ、将来、発展して欲しい材料の技術について意見交流する。
◇これからの自分自身の生活や材料と加工の技術の在り方について考えさせ、発表させる。

題材のまとめ(全体)

・木材に限らず、再生産・再生可能な材料を使った製品が増えるといい。

題材全体の振り返り(個人)

・家庭の家具等を、補修しながら大切に使っていこう。

D 情報の技術(第2～3学年/全22時間計画)**【目標】**

生活や社会の中にある問題をプログラムを制作することで解決する活動や、情報の技術の在り方を考える活動を通して、技術を適切に改良、応用できるようにする。

1 題材の課題を把握する。

◇情報の技術と生活や社会との関わりに気付く。

【題材の課題】情報の技術はどう在るべきだろう。

2 基礎的な知識等を身に付ける。

◇情報の技術の見方・考え方に気付く。
◇デジタル情報の特性、ネットワークの仕組みを理解する。

3 「制作の課題」を設定する。

◇生活の中から、情報通信の技術に関わる問題を見いだす。
◇プログラムの制作により解決できる課題を個人で設定。

**【制作の課題】※個人**

基本のチャットシステムのプログラムを改良し、なりすまし防止機能を追加しよう。

4 設計・計画する。

◇アクティビティ図のかき方等を習得する。
◇課題の解決策を構想し、アクティビティ図に表す。
◇プログラムの試作や意見交流を通して構想を具体化する。

5 解決に向けてプログラムを制作する。

◇プログラムの制作・デバッグを行う。

6 成果を評価する。

◇チャットシステムの使いやすさ、プログラムのわかりやすさなどを個人及び相互に評価する。

システム全体への影響に配慮し改良する必要がある。

7 「制作の課題」を設定する。

◇社会の中から、計測・制御の技術に関わる問題を見いだす。
◇プログラムの制作により解決できる課題を個人で設定。

**【制作の課題】※個人**

スクールバスの本数不足の問題を解決するため、情報の技術を応用した自動運転のプログラムを制作しよう。

8 設計・計画する。

◇課題の解決策を構想し、アクティビティ図に表す。

9 解決に向けてプログラムを制作する。

◇模型の製作及びプログラムの制作・デバッグを行う。

10 成果を評価する。

◇スクールバスとしての安全性や経済性、プログラムのわかりやすさなどを個人及び相互に評価する。

情報の技術をエネルギー変換の技術に応用することで、運輸に関わる問題を解決することができた。

11 これからの情報の技術の在り方を考える。

◇情報の技術がどう在るべきか考えることを再確認する。
◇人工知能等について、優れた点や問題点を調べ、将来、発展して欲しい情報の技術について意見交流する。
◇これからの自分自身の生活や情報の技術の在り方について考えさせ、発表させる。

題材のまとめ(全体)

・計測・制御の技術が、運輸や医療など様々な分野の問題の解決に役立てられるといい。

題材全体の振り返り(個人)

・安全、環境、経済等に配慮しながら、商品やサービスを購入したり、投票したりしたい。

2 単位時間の学習の作り方（「つかむ」過程）【例】

「つかむ」過程では、題材の課題を把握させるとともに、身近な技術について調べる活動や実験等を通して、技術の見方・考え方、技術に関する科学的な原則や法則、技術の仕組みなどの基礎的な知識を習得させます。なお、以下の基本的な流れは、題材の課題を把握させ、見方・考え方に気付かせる2時間程度の学習活動となっています。

【指導のポイント】

【題材の課題について】

○技術の発展が生活を豊かにしてきた一方で、環境問題などの一因となっていることに気付かせ、これからの技術はどのように発展していくべきかという大きな問いをもたせる。

【学習の見通しについて】

○1学年の最初に示した「基礎的な知識等を身に付ける」学習や「生活や社会の問題を解決するものづくり」を通して、題材の課題に取り組むことを確認させる。

【めあてについて】

○「どのように」「なぜ」といった、課題意識をもてるめあてを設定する。

【設計者の工夫について】

○設計者が、安全性や環境への負荷、経済性等に配慮しながら、最適な解決策を考えていることに気付かせることができるよう、「どのような問題を解決しようとしたのか」「どのように解決しようとしたのか」について、調べさせる。

【見方・考え方に沿って分類・整理】

○設計者の工夫を、技術の見方・考え方に沿って分類・整理しやすくなるよう、付箋紙や表を準備するなどノートへの記述方法を工夫する。
○製品の分解・観察等を通して気付いた個別の設計者の工夫を、技術ならではの見方・考え方に沿って分類・整理し、今後の学習や生活の中で活用できる知識となるようまとめる。

【振り返りの視点】

○次のような振り返りの視点を示す。
〈例〉
◆本時の学習内容を通して、初めて知ったこと、驚いたこと
◆生活や次時の学習の中で生かしたいこと
◆次時の学習でもっと詳しく知りたいこと、調べてみたいこと

基本的な流れ

1 題材の課題を把握する。

- 生活を便利にしている技術や、社会的問題の原因となっている技術の資料を提示する。
- これからの技術はどのようにあるべきか問いかけ、題材の課題を把握させる。

【題材の課題】

〈題材の目標を達成するための問い〉

- 題材の学習の見通しを確認させる。

2 本時のめあてをつかむ。

- 本題材で学習する技術に関わる資料（教科書、実物）を提示し、製品等に入れられた設計者の工夫について問いかける。
- 題材の学習の見通しを基に、本時の位置づけを確認させる。

【めあて】

3 設計者の工夫について調べる。

- 身近な製品やシステムについて、分解・観察させたり、開発経緯を調べさせたりし、設計者がどのような工夫をしているか問いかける。
- 気付いた設計者の工夫を、ノートやワークシートに記述させる。

4 気づきを共有し、まとめる。

- 気付いた設計者の工夫を、発表するよう促す。
- 発表し合った設計者の工夫を技術の見方・考え方に沿って分類・整理させ、まとめる。

【まとめ】

5 本時の学習を振り返る。

- 振り返りの視点を示し、本時の学習を振り返るよう促す。

単位時間の振り返り

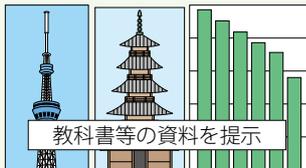
A 材料と加工の技術（第1学年）

【ねらい】

机を分解・観察する活動を通して、安全性や環境への負荷、経済性、耐久性等、材料と加工の技術に関わる見方・考え方に気付けるようにする。

1 題材の課題を把握する。

- 材料と加工の技術が、生活を豊かにしてきたことや環境へ影響を与えていることを示す資料を提示し、これからの材料と加工の技術の在り方に関心をもたせる。



【生活を豊かにする技術】【森林の減少】

材料と加工の技術を、今後も発展させ利用し続けてもよいと思いませんか？



【題材の課題】

材料と加工の技術はどう在るべきだろう。

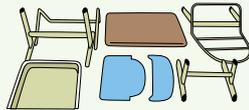
- 題材全体の学習の見通しを確認する。

2 本時のめあてをつかむ。

- 机に込められた設計者の工夫について問いかける。

角が丸いのはなぜ？

他にも工夫はあるかな？



【廃棄予定の机・椅子】

【めあて】

机を分解・観察して、製品の開発者が問題を解決するためにどのような工夫をしているかを明らかにしよう。

3 設計者の工夫について調べる。

- 分類しやすいよう付箋等を利用し記述させる。



・ケガをしないように、角を丸くしている

・丈夫にするために、鉄を使用

・廃棄の際に分別できるよ、ねじを使用

4 気付きを共有し、まとめる。

- 技術の見方・考え方に沿って分類・整理しまとめさせる。

○分解・観察から分かったこと

ケガをしない
丈夫にする } 安全

丈夫にする
表面を保護 } 耐久

廃棄の際に分別…環境
価格を安くする…価格

【まとめ】

製品の開発者は、安全、環境、価格、耐久性等に配慮しながら、使用する材料、構造や形、接合方法、塗装方法等を適切に選択している。

角を丸くする
脚部の間に棒 } 構造・形

ねじを使用
表面を塗装 } 接合方法
塗装方法

鉄を使用
プラスチックを使用 } 材料

5 本時の学習を振り返る。

- 何を学んだか、より深く知りたいこと等の視点を示す。

- ・便利さだけでなく、安全性や環境、廃棄のことまで配慮しながら製品を作る必要がある。
- ・よい作品を作るために、材料の性質、丈夫な構造や、接合方法、塗装方法について知りたい。



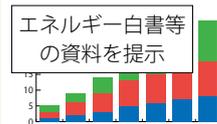
C エネルギー変換の技術（第2学年）

【ねらい】

L E D電球、蛍光灯、白熱電球の点灯観察を通して、各照明の特徴を理解させるとともに、省エネなどエネルギー変換の技術に関わる見方・考え方に気付けるようにする。

1 題材の課題を把握する。

- エネルギー変換の技術が生活を豊かにしてきたことや、エネルギー消費量が増加していることを示し、これからのエネルギー変換の技術の在り方に関心をもたせる。



【エネルギー使用量の推移】

今のままエネルギーを使い続けたらどうなるかな？

エネルギー変換の技術はどう在るべきだろう。

2 本時のめあてをつかむ。

- L E D電球、蛍光灯、白熱電球の名称を伏せて提示し、設計者の工夫について問いかける。



見た目だけではどが
L E D電球かわからないな。



見た目はそれほど変わらないのに、なぜL E D電球を開発したのだろう？



【教師が準備した器具】

【めあて】

照明機器について調べ、製品の設計者がどのような工夫をしているかを明らかにしよう。

3 設計者の工夫について調べる。

- 3種類の照明器具の性能等を調べ表にまとめさせる。

照明器具	A「 」	B「 」	C「 」
明るさ	3900lx	3000lx	2000lx
消費電力	0.006kw	0.01kw	0.03kw
温度 点灯前	31℃	30℃	30℃
点灯後	31℃	30.5℃	36℃
寿命	40000時間	6000時間	1000時間

- 照明器具に込められた設計者の工夫について考えさせる。



開発者はなぜL E D電球をつくったのかな。

より明るい照明を開発したかったのかな。

電気を効率よく光に変換することで、省資源やCO2削減を目指したのではないかな。

高価でも長寿命な製品をつくりたかったのかな。

4 気付きを共有し、まとめる。

- 技術の見方・考え方に沿って、整理しまとめさせる

○点灯観察から分かったこと

- ① 利便性 …使う人に優しい、使いやすい
- ② 省エネ、省資源…環境に優しい、持続可能な社会
- ③ 低価格、3 R …性能に合った価格、壊れにくい

【まとめ】

製品の開発者は、環境、価格、出力、省エネ等に配慮しながら、光へ変換する仕組みを改良している。

5 本時の学習を振り返る。

- 何を学んだか、今後に生かしたいこと等の視点を示す。

- ・出力や変換効率など、エネルギー変換の技術ならではの工夫が分かった。
- ・身近な電気機器を、環境への負荷や変換効率に配慮して改良できるといいな。



2 単位時間の作り方 （「追究する-製作・制作・育成の課題-」過程）【例】

「製作・制作・育成の課題」を設定する活動を通して、生活や社会の中から技術に関わる問題を見だし解決方法を考える力を育成します。また、「製作・制作・育成の課題」は、「何をつくるか」だけでなく「どのような問題を解決するのか」に着目した課題とすることが大切です。

【指導のポイント】

【「どのような問題を解決するのか」に着目させる問いかけ】

○作品をつくるのが目的とならないよう、提示した資料について、「どのような問題を解決するために作られたのか」、「現状ではどのような問題があるのか」を問いかける。

【めあてについて】

○「製作・制作・育成の課題の設定」においては、「活動」を要素としためあてとなる。

【問題を見いだす際の視点】

○見方・考え方を働かせながら、次のような視点から問題を見いださせる。

〈例〉

- ◆生活の中で感じる不便さ
- ◆既存の製品の改善の余地
- ◆自然環境の保全や防災等の社会的問題
安全や環境への負荷の点から、この懐中電灯に改善すべき点はないだろうか？

【技術分野における製作・制作・育成の課題について】

○製作・制作・育成の課題は個人で設定させる。

○解決したい問題と解決方法を含んだものとする。

〈例〉

机の上を整理整頓するため、本棚を製作しよう。
(解決したい問題) (解決方法)

※本棚の製作ではなく「机の上が散らかっている」という、生活の中の問題を解決することが目的となる。

【振り返りの視点について】

○次のような振り返りの視点を示す。

〈例〉

- ◆どのようにして問題を見いだしたか
- ◆自分の生活に生かしたいこと
- ◆次時の学習で知りたいこと、もっと深く考えたいこと

基本的な流れ

1 本時のめあてをつかむ。

- 題材に関わる資料(過去の作品、教科書の写真、製品等)を提示し、設計者の意図や、改良すべき点について問いかける。
- 本時は、ものづくり等の全工程のうち、問題を見だし課題を設定する工程であることを確認させる。

【めあて】

2 身近な生活や社会の問題やその解決方法について意見を交流する。

- 学校や家庭での生活、身近な地域の様子を想起させながら、解決すべき問題について考えるよう促す。その際、問題を見いだす視点を示す。
- 問題の解決方法について、個人で考えさせる。
- 個人で考えた問題や解決方法についてグループ内で発表させる。その際、安全性や環境への負荷、経済性等の視点から意見交流するよう促す。

3 製作・制作・育成の課題を設定する。

- 意見交流の内容を踏まえ、一人一人の問題や解決方法を考えさせる。
- 題材の課題を設定させる。

「製作・制作・育成の課題」

- 題材の課題を発表させたり、理由を問いかけたりする。

4 本時の学習を振り返る。

- 一人一人に、本時のめあてを意識した振り返りを行わせる。その際、振り返りの視点を示す。

単位時間の振り返り

A 材料と加工の技術（第1学年）

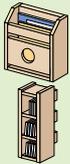
【ねらい】

家庭生活の不便さとその解決方法について意見を交流する活動を通して、問題を見だし解決方法を考えることができるようにする。

1 本時のめあてをつかむ。

- 教科書等に掲載された作品例等を提示し、設計者の意図を問いかける。

それぞれ、どのような目的で作られているのかな？



雑誌を整頓したかったのかな。出し入れしやすい形にしてある。

散らかったCDを整理したかったのかな。すき間を有効に使える形にしてある。

家の中に、木製品を製作して解決できそうな問題がありそうだね。

【めあて】

家庭の中から問題を見だし、木製品の製作に関わる課題を設定しよう。

2 身近な生活や社会の問題やその解決方法について意見交流する。

- 家庭での生活を想起させ、解決すべき問題について考えるよう促す。



家の中に、散らかっている所や、無駄になっているすき間などの問題はないかな？



机の上が、本やノートで散らかっている。本棚を製作すれば解決できるかな。



カッターナイフやコンパスを整頓する箱があれば、けがの防止にもなるね。

机を分解・観察した際に学習した、安全性、環境への負荷などの視点も問題を探すヒントになりそうだね。

3 製作の課題を設定する。

- 意見交流の内容を踏まえ、製作の課題を考えさせる。



意見交流での話を参考に、家の中にある問題を見だして、各自で課題を設定しましょう。



机の上に散らかっている本や文房具を整頓したい。



調味料を整頓する棚が必要だ。大きな棚は調理の際に邪魔になるな。

〈製作の課題〉机を整理整頓するために、文房具も収納できる本棚を製作しよう。

〈製作の課題〉調味料を整理することができる、薄型の棚を製作しよう。

4 本時の学習を振り返る。

- 振り返りの視点を示す。



どうして問題を見だし課題を設定することができたのかな。次時は、どんなことを考える必要があるかな？

- ・ 友達の助言のおかげで、教科書やノートだけでなくカッターナイフなどの文具も整理するとよいことに気付くことができた。
- ・ 学校の机の設計者のように、安全性や環境への負荷に配慮した本棚にしたいな。



C エネルギー変換の技術（第2学年）

【ねらい】

既存の製品の改善の余地について意見を交流する活動を通して、問題を見だし解決方法を考えることができるようにする。

1 本時のめあてをつかむ。

- 身近な電化製品を提示し、より便利にするために改良できることがないか問いかける。



これまでの学習を生かして、この懐中電灯をよりよく改良する方法はありますか。



震災の時は、乾電池が売り切れたと聞いたよ。手で発電できるように改良したらどうかな。

突然の停電や震災など、万が一のトラブルの場合を想定すると、改良すべき点が見つかりそうだな。



【めあて】

身近な生活の中から問題を見だし、エネルギー変換の技術に関わる課題を設定しよう。

2 身近な生活や社会の問題やその解決方法について意見交流する。

- 生活や社会の問題を想起させ、解決方法を考えるよう促す。



急な停電や災害時には、どのような問題が発生すると思いますか。



夜中に停電したら懐中電灯を見つけられない。声に反応して点灯するように、改良したいな。



災害の際、電池が切れても大丈夫なように、手回し発電機と蓄電池を追加できるといいな。



手回し発電機はいつでも充電できる。太陽光発電機は日中に自動で充電できる。どちらが懐中電灯に適しているだろう？



電球をLEDに替えたら、貯めた電気を有効に使えるかな。でも、価格が高くなるな。

3 製作の課題を設定する。

- 意見交流の内容を踏まえ、製作の課題を考えさせる。



意見交流での話を参考に、各自で懐中電灯を改良する課題を設定しましょう。



夜中に停電した際、懐中電灯が光るように改良したい。



災害に備えて、電池切れの心配がない懐中電灯に改良したい。

〈製作の課題〉暗い部屋でも探し易いように音センサーが付いた懐中電灯に改良しよう。

〈製作の課題〉電源が確保できなくても使える手回し発電機が付いた懐中電灯に改良しよう。

4 本時の学習を振り返る。

- 振り返りの視点を示す。



どうして問題を見だし課題を設定することができたのかな。改良をするために、次時は何が必要かな？

- ・ 万が一のトラブルの際を想定したことで、普段は気付かなかった問題を見だすことができた。
- ・ 材料と加工の技術の学習の時と同じように、試作をしながら友達と意見交換をして、より使いやすい製品になるよう工夫していきたいな。



2 単位時間の作り方 （「追究する-設計・計画-」過程）【例】

製作・制作・育成の課題の解決策を構想し、設計図や育成計画表、回路図、アクティビティ図に表したり、模型の試作やシミュレーションソフト等による試行したりする活動を通して、解決策を具体化する力を育成します。なお、以下の基本的な流れは、各自が構想した解決策を、他者の助言を基に修正する活動を示しています。

【指導のポイント】

【めあての設定について】

- よりよい作品を作りたいという生徒の思いから、めあてを考えさせる。
- 〈例〉
- ◆よりよい作品となるよう、設計を修正しよう。
- ◆よりよい作品となるよう、プログラムを修正しよう。
- ※よりよい作品がどのようなものかについては、意見交流の中で考えさせる。

【意見交流の際の視点について】

- 技術の見方・考え方を視点とした意見交流ができるよう、「つかむ」過程で学習したことを想起させる。

【言語活動の充実・情報活用能力の育成】

- 言葉だけでなく、技術分野ならではの情報伝達手段である設計図、回路図、アクティビティ図、試作模型等を用いて自身の考えを説明させる。

【最適解となるよう解決策を修正する】

- 他者からの助言を取り入れることで、最初に見いだした問題が解決できなくなったり、価格や作りやすさ等の点で支障が出たりしないか検討させる。
- デメリットがあることを理由に他者からの助言を取り入れることをやめるのではなく、デメリットを解消する方法を粘り強く考えさせる。

【振り返りの視点について】

- 次のような振り返りの視点を示す。
- 〈例〉
- ◆参考になった助言
- ◆修正した解決策は適切であったか
- ◆次時の学習で行いたいこと

基本的な流れ

1 本時のめあてをつかむ。

- 前時までに構想した解決策に問題がないか問いかける。
- 本時は、グループでの話し合いを通して、構想した解決策を評価し、修正することを確認させる。

【めあて】

2 解決策の修正方法について、意見交流する。

- 意見交流の視点を問いかける。
- 解決しようとした問題とその解決策を、グループ内で発表させる。
- 発表された解決策について、修正方法を助言し合うよう促す。

【各グループで出された意見】

3 解決策を修正・具体化する。

- 他者からの助言を取り入れた場合のメリットとデメリットを確認するよう促す。
- 他者からの助言を踏まえ、最適な解決策を考えるよう促す。
- 考えた解決策を、製作図、育成計画表、回路図、アクティビティ図等に表現させる。

4 本時の学習を振り返る。

- 一人一人にめあてを意識した振り返りを行わせる。その際、振り返りの視点を示す。
- 参考になった助言を発表させる。

単位時間の振り返り

A 材料と加工の技術（第1学年）

【ねらい】
グループでの意見交流を通して、技術の見方・考え方を働かせながら、設計の修正ができるようにする。

1 本時のめあてをつかむ。

- 構想した解決策に従って製作して大丈夫か問いかける。

 前時に発泡スチロールで試作をしましたが、設計に問題はありませんでしたか？

 さらに設計をよくするには、どうすればよいですか？

 今回の設計でよいかどうか不安だな。友達の助言も聞いてみたいな。

【めあて】
グループでの意見交流を通して、よりよい作品になるよう設計を修正しよう

2 解決策の修正方法について意見交流する。

- グループ内で解決方法について助言し合うよう促す。

 よりよい作品にするには、どのような視点で意見交流をするよいでしょうか？

 机の分解・観察で学習した、安全、環境、経済の視点から、助言し合ってみよう。

 本の大きさに合わせて天板の高さを決めたい。
丈夫にするために釘をたくさん使ったよ。

 この本棚は、天板に引っ掛けて本が取り出しにくい。作品の高さを上げた方がよいね。

 釘が多すぎると製作も大変だし、お金もかかりそう。廃棄時に分解・分別するのも大変だ。

【各グループで出された意見】
出し入れのしやすさを考えて寸法を修正する。
つくりやすさに配慮して、構造を修正する。
丈夫にするために、接着剤やL字金具を使う。

3 解決策を修正・具体化する。

- 意見交流の内容を踏まえ、個人で解決策を修正する。

 意見交流で出された意見をもとに、設計の修正方法を考えることはできそうかな？

 作品の高さを上げると材料が不足するから、天板を無くして、本を取り出し易くしよう。
天板の上に文具を置く予定だったから、横に掛ける部分を作って対応しよう。

 L字金具はいいアイデアだけれど、お金がかかるので釘と接着剤を使うことにしよう。

4 本時の学習を振り返る。

- 振り返りの視点を示す。

 修正した解決策は、最初に見いだした問題をきちんと解決できているかな？

- 本と文具を整理するという最初の問題と、本を取り出しやすくするという助言の両方に対応できる最適解を考えることができた。
- つくりやすさ、使いやすさ、廃棄のしやすさに配慮して設計する必要があることが分かった。

D 情報の技術（第3学年）

【ねらい】
グループでの意見交流を通して、技術の見方・考え方を働かせながら、プログラムの修正ができるようにする。

1 本時のめあてをつかむ。

- 構想した解決策に従って制作して大丈夫か問いかける。

 前はチャットを改良するためのプログラムを試しました。各自で設定した課題は解決できているでしょうか？

 課題をよりよく解決するプログラムを作るにはどうすればよいですか？

 同じ課題を設定した人の意見を聞きたいな。

【めあて】
同じ課題を設定した友達との意見交流を通して、よりよい作品になるようプログラムを修正しよう

2 解決策の修正方法について意見交流する。

- グループ内で解決方法について助言し合うよう促す。

 よりよい作品にするには、どのような視点で意見交流をするよいでしょうか？

 利便性、安全、経済の視点に加え、セキュリティや健康面についても配慮した方がいいな。

 なりすまし対策として、送信する前にパスワードを要求する機能を追加したよ。

 メッセージを入力してください
赤城太郎です。よろしく

 送信します。PWを入力してください。

 発言毎にパスワードを入力するのは大変だね。一定時間毎にパスワードを要求するようにした方がよいと思うな。

 健康面を考えて、チャット開始30分後に自動的にプログラムを終了させてはどうかな。

【各グループで出された意見】
セキュリティと使いやすさのバランスに配慮する。
使用者の健康や安全にも配慮する。

3 解決策を修正・具体化する。

- 意見交流の内容を踏まえ、個人で解決策を修正する。

 意見交流で出された意見をもとに、修正するかどうかも含めてプログラムを見直そう。

 パスワードは10分毎に入力させよう。

 健康面への配慮とはいえ、強制的に終了するのは困るな。アラームが鳴るようにしてみよう。

4 本時の学習を振り返る。

- 振り返りの視点を示す。

 修正した解決策は、最初に見いだした問題をきちんと解決できているかな？

- なりすまし対策機能を追加するという最初の問題と、使いやすさを損なわないという助言の両方に対応できるプログラムを構想することができた。
- 意見交流のおかげで、健康面という新しい視点から修正点を考えることができた。

2 単位時間のつくり方（「まとめる」過程）【例】

「つかむ」過程で気付いた技術の見方・考え方や「追究する」過程で生活や社会の問題を解決した経験を基に、これからの自分自身の生活や技術の在り方について意見を交流する活動を通して、技術を適切に活用してよりよい生活や持続可能な社会を構築しようとする実践的な態度を養います。

【指導のポイント】

【提示する資料について】

○製作・制作・育成での経験を踏まえ、既知の社会問題、最新の技術等に関わる資料を提示する。

〈例〉

- ◆森林減少の問題や木を育てる技術に関わる資料
- ◆石油資源枯渇の問題や植物から燃料を作る技術に関わる資料

【めあてについて】

○技術の見方・考え方や「追究する」過程での問題解決の経験を踏まえ、「つかむ」過程で把握した題材の課題について、改めて考えることを確認させる。

【意見交流の視点】

○学年や題材に応じて、次のようなテーマで話し合うよう促す。

〈例〉

- ◆技術を適切に選択、管理・運用すること
- ◆新たな発想で、技術を改良、応用、創造すること

【意見のまとめ方について】

○よりよい生活や持続可能な社会の構築に向けて生産者と消費者の両方の立場から、これからの技術の在り方について考えさせる。

○技術の在り方には正解がない。よって、学級の考えを一つにまとめることは行わず、個人やグループの意見を提言として発表させる。

【振り返りの視点について】

○次のような振り返りの視点を示す。

〈例〉

- ◆これからの生活に生かしたいこと
- ◆本題材の学習を通して変化した自分の考え
- ◆次の題材で学習したいこと

基本的な流れ

1 本時のめあてをつかむ。

- 研究開発が進められている新しい技術や技術に関する社会問題等の資料を提示し、将来の技術の在り方について問いかける。
- 本時は、よりよい生活や持続可能な社会の構築に向けて、これからの技術がどう在るべきか自分達なりの考えをまとめることを確認する。

【めあて】

2 最新の技術や技術に関わる社会問題について調べる。

- 技術が社会や環境に与える影響について調べさせ、優れている点や問題点を整理させる。
- 持続可能な社会を構築するためには、これからどのような技術が発展すればよいかについて、意見を交流するよう促す。

3 技術の在り方について考える。

- これからの技術の在り方や自分自身ができることについて話し合うよう促す。
- 自分たちの考えを提言としてまとめ、発表させる。

題材のまとめ 〈提言〉(全体)

4 本時及び、題材全体を振り返る。

- 一人一人にめあてを意識した振り返りを行わせる。また、題材全体を通した振り返りも行うことができるよう、振り返りの視点を示す。

題材全体の振り返り(個人)

A 材料と加工の技術（第1学年）

【ねらい】

材料を再生産する技術について意見を交流する活動を通して、持続可能な社会の構築に向け、材料と加工の技術を適切に選択、管理・運用しようとする態度を育成する。

1 本時のめあてをつかむ。

- 森林面積減少の問題に関わる資料を提示し、木材の使い方がどう在るべきか問いかける。



森林を保護するためには、木材を使用しないほうがいいのかな？



木を伐採しても、苗を植えて育てれば森林は減少しないのではないかな。

- 題材の課題を再確認し、めあてを設定する

【めあて】木を育てる技術を調べ、持続可能な社会の構築に向けて、材料と加工の技術の在り方について考えをまとめよう。

2 最新の技術や、技術に関わる社会問題について調べる。

- 木を育てる技術について調べさせ、木材の使い方について意見交流をするよう促す。



再生産可能な材料の特徴を、教科書やインターネットで調べてみよう。

【木を育てる技術の特徴についてまとめたワークシート】

	優れている点	問題点
社会への影響	伐採した木の分、新たな苗木を育てれば、木材が枯渇することはない。	苗木を成木まで育てるためには、数十年かかる。
環境への負荷	CO ₂ が削減できる。野生生物の住処になる。	木製品を燃やすとCO ₂ が増加してしまう。



伐採した木材から作った製品を次の苗木が成木になるまで使い続ければ、森林も減少しないし、CO₂も増加しないね。



家や家具は、壊れてしまうことや新しいものが欲しくなることがある。廃材を紙や燃料にするのではなく、木材として使えないかな。

環境に優しい製品を選択する人が増えれば、環境に配慮した技術が発達するよね。

3 技術の在り方について考える。

- これからの自分の生活や材料と加工の技術の在り方について提言をまとめるよう促す。



持続可能な社会をつくるため、今後、どんな材料と加工の技術が発展してほしいですか。自分たちができることは何でしょう？

題材のまとめ（提言）



- 森林と同じように、石油や金属でも資源を再生産する技術が開発されるとよい。
- 製品を買うときは、便利さや価格だけでなく、リサイクルや再利用可能な材料を使用していることにも配慮して選択したい。

4 本時及び題材全体を振り返る。

- 振り返りの視点を示す。



学習したことを、生活に生かすことができるかな？



- 家にある木製品は、修理や補修をしながら長く大切に使っていこう。
- 木材など、植物を育てる技術について、詳しく知りたいな。

B 生物育成の技術（第2学年）

【ねらい】

植物から燃料を生産する技術について調べる活動を通して、持続可能な社会の構築に向け、技術を適切に管理・運用しようとする態度を育成する。

1 本時のめあてをつかむ。

- バイオエタノールの技術に関わる資料を提示し、社会や環境に与える影響について問いかける。



植物等からアルコール燃料を生産することで、社会や環境にどんな影響があるのでしょうか？



畑で燃料を生産できるなんてすごいな。石油資源の枯渇の心配がなくなるな。

- 題材の課題を再確認し、めあてを設定する

【めあて】バイオエタノールに関わる技術を調べ、持続可能な社会の構築に向けて、エネルギー変換の技術の在り方について考えをまとめよう。

2 最新の技術や技術に関わる社会問題について調べる。

- バイオエタノールについて調べさせ、その生産方法や活用方法について意見交流をするよう促す。



バイオエタノールの特徴を、教科書やインターネットで調べ、意見を交流しよう。

【バイオエタノールの特徴についてまとめたワークシート】

	優れている点	問題点
社会への影響	石油資源と異なり、枯渇する心配がない。	家畜用飼料の生産量が減っている。
環境への負荷	バイオエタノールを燃やすとCO ₂ が発生するが、植物を育てる際にCO ₂ を吸収しているため、±0になる。	植物を育てる際に使用するトラクター等から、CO ₂ が発生する。



植物から燃料を生産できることはよいことだけれど、飼料や食料が不足するのは困るな。



食料にしない茎や根の部分、廃棄される食品を燃料にできる技術が開発されるといいな。

作物の生産量を増やすため、気温や水分、肥料を管理・調整する技術が発展するとよい。

3 技術の在り方について考える。

- これからの自分の生活やエネルギー変換の技術の在り方について提言をまとめるよう促す。



持続可能な社会をつくるため、今後、どんな生物育成の技術が発展してほしいですか。自分たちができることは何でしょう？

題材のまとめ（提言）



- 育成環境の調節方法を最適化し、食糧を安定供給する技術が発展するとよい。
- 食料として使わない部分や廃棄された食品から、バイオエタノールを効率よく生産する技術が開発されるとよい。

4 本時及び題材全体を振り返る。

- 振り返りの視点を示す。



生物育成の技術の学習の前と後で、自分の考えで変わった部分があるかな？



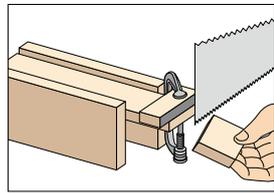
- 農作物には、安全性や環境への負荷に配慮することが大切だと思っていただけれど、必要な量を安定的に生産することも重要であることがわかった。

3 学習過程と教科書との関連

技術分野の題材は、地域や学校、生徒の実態に応じて教師が設定するため、教科書は、掲載されている作品例を参考にしたり、工具の使用方法について知る資料としたりすることが多くなります。また、扉絵や「コラム」「ポイント」等を有効に活用することで、学習の見通しを持たせたり、振り返りの視点を示したりすることができます。

	学習過程	活用方法
つかむ	既存の技術の理解	扉絵等から、技術と生活や社会とのつながりを想起させる。 コラム等から、製品やシステムに込められた開発者の意図に気付かせる。
	課題の設定	目次や学習の流れ等の資料を基に、学習の見通しをもたせる。 掲載された作品例について、製作者が作品を作った理由を問いかけることで、生活や社会の中にある問題や課題に気付かせる。
追究する	設計・計画	設計図や回路図、アクティビティー図のかき方を確認させる。 「ポイント」等を参考に、自分の設計・計画が適切であるか検討させる。
	製作・制作・育成	工具の使い方を確認させる。 「コラム」等を用いて安全面への配慮事項を指導する。 「コラム」「ポイント」等で示されている目標や評価項目を参考に、本時の学習を振り返らせる。
	成果の評価	「ポイント」等で示されている評価項目を参考に、完成した作品や問題解決の過程を評価させる。
まとめる	次の問題の解決の視点	最新の技術や社会問題に関する資料を基に、これからの自分自身の生活や技術の在り方について考えさせる。

4 学習活動を行う場合に生じる困難さに応じた指導の工夫【例】

困難さ	指導の工夫
○学習に集中したり、集中力を維持したりすることが難しい場合	・手元に集中して作業に取り組めるように、作業スペースを確保する。
○工具や機器を安全に使用することが難しい場合	<ul style="list-style-type: none"> ・作業を補助するためのジグなどを有効に活用する。 ・技術室の使用規定や機器の使用等に関する安全規則を明確に定め、全生徒に対し十分に指導する。 ・安全管理や作業効率に配慮し、整理整頓された学習環境を整える。  <p>(のこぎり引きを補助するジグ)</p>
○一人でプログラムを設計することが難しい場合	・教師があらかじめ幾つかのプログラムを用意し、その一部を自分なりに改良できるようにするなど、難易度の調整や段階的な指導に配慮する。

技術分野の目標や内容の趣旨、学習活動のねらいを踏まえ、学習内容の変更や学習活動の代替を安易に行うことがないように留意し、生徒一人一人の十分な学びを確保することが大切です。



5 情報活用能力の育成

技術分野の学習における情報とは…生活や社会の中にある問題及び問題の解決策

情報の収集

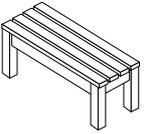
適切な収集手段を考えさせる

- ◆調査活動から
 - ・取扱説明書の内容
 - ・専門家や地域の方々からの聞き取り
 - ・インターネットによる検索・日常生活の振り返り
- ◆実践的・体験的活動から
 - ・観察・実験
 - ・製品の観察、分解・組立て
 - ・試作・試行



基本的な操作〈例〉

- ◆情報を収集する学習
 - ⇒作物の成長過程を記録する際のデジタルカメラ、デジタルビデオカメラ等の操作
 - ⇒タブレット端末による無線LANを使ったインターネットの閲覧
- ◆情報を整理・比較する学習
 - ⇒画像処理ソフトウェアによる撮影画像の編集
 - ⇒CADや回路シミュレーションソフトによる製作図や回路図の作成

問題解決における情報活用

情報の整理・比較

技術ならではの見方・考え方を働かせ情報をまとめさせる

- ◆(例)発電の特徴について、表計ソフトウェアにより表にまとめる

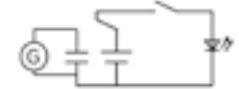
	太陽光発電機	手回し発電機	乾電池	充電式電池
出力(w)				
電圧(v)				
直流交流				
耐用年数				
安全性				
環境への負荷				
経済性				

技術の見方・考え方

情報の発信・伝達

構想した解決策を図や表などに表現させる

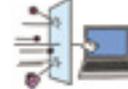
- ◆材料と加工の技術
 - ・等角図、第三角法
- ◆生物育成の技術
 - ・栽培計画
- ◆エネルギー変換の技術
 - ・回路図、製作図
- ◆情報の技術
 - ・アクティビティ図



【電源を選択できる照明器具】

情報モラル・セキュリティ

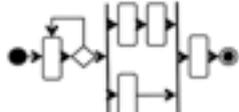
- ◆情報モラル
 - ・情報通信ネットワーク上のルールやマナーの遵守
 - ・危険の回避
 - ・人権侵害の防止
- ◆情報セキュリティ
 - ・通信の機密の保持
 - ・不正侵入の防止
 - ・コンピュータウイルスやハッキングなど、技術の悪用が社会に与える経済的・精神的損害
 - ・サイバーセキュリティの重要性
- ◆その他
 - ・ネット依存
 - ・風評被害（根拠の不明確な情報拡散）

プログラミング

生活や社会における問題を…

- ◆双方向性のあるコンテンツのプログラミングによって解決する活動
 - 〈例〉学校紹介Webページの利便性を高めるために、Q & Aコーナーを追加する。
- ◆計測・制御のプログラミングによって解決する活動
 - 〈例〉センサで障害物や路面状況などを確認し、高齢者や障害をもった方をサポートするロボットモデルの開発
 - 〈例〉自分の考えを整理するためのアクティビティ図

技術

6 地域の人材や物的資源の活用

(1) 外部機関との連携

- ・高等学校農業科や工業科と連携し実習支援や体験活動を行う。
- ・民間企業と連携し専門的な技能や実践的な製品開発に触れる。

農業・工業系の学科のある県立高等学校

学校名	学 科	住 所	電話番号
吾妻中央高等学校	農業	中之条町大字中之条町1303	0279-75-3455
伊勢崎工業高等学校	工業	伊勢崎市中央町3-8	0270-25-3216
大泉高等学校	農業	大泉町北小泉2-16-1	0276-62-3564
太田工業高等学校	工業	太田市茂木町380	0276-45-4742
桐生工業高等学校	工業	桐生市西久方町1-1-41	0277-22-7141
渋川工業高等学校	工業	渋川市渋川8-1	0279-22-2551
勢多農林高等学校	農業	前橋市日吉町2-25-1	027-231-2403
高崎工業高等学校	工業	高崎市江木町700	027-323-5450
館林商工高等学校	工業	明和町南大島660	0276-84-4731
利根実業高等学校	農業・工業	沼田市栄町165-2	0278-23-1131
富岡実業高等学校	農業・工業	富岡市富岡451	0274-62-0690
藤岡北高等学校	農業	藤岡市篠塚90	0274-22-2308
藤岡工業高等学校	工業	藤岡市下戸塚47-2	0274-22-2153
前橋工業高等学校	工業	前橋市石関町137-1	027-264-7100



農業科生徒による
栽培技能指導

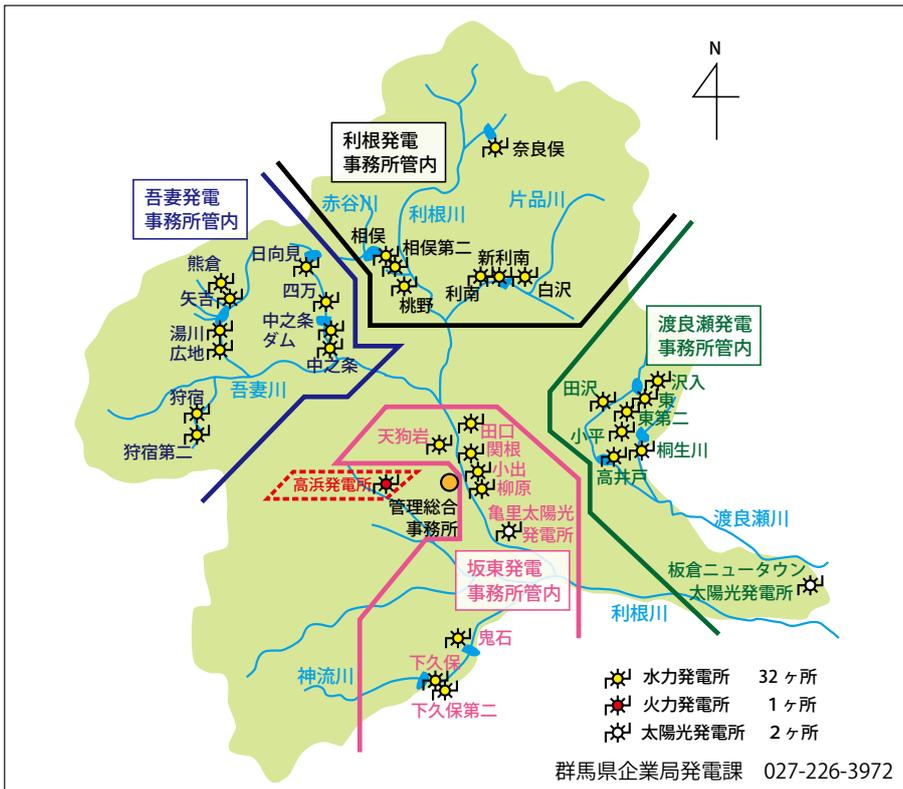


企業と連携した
製品開発体験

(2) 地域の産業等を取り入れた題材

- ・地域の資源や施設を有効活用し持続可能な社会を構築する方法を考える。
- ・特産品を生かし、地域を活性化する方法を考える

県内の発電所



地域の施設(小水力発電所)



特産品(地域銘柄野菜)

外国語活動 外国語

Foreign Languages

外国語活動・外国語科は、簡単な情報や考えなどを理解したり表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図るための資質・能力を育成する教科です。

そのためには、単元など、まとまりのある時間の中で、教材や教科書の題材に関連した具体的な課題を設定し、その課題解決に向け、目的・場面・状況のある外国語の言語活動に繰り返し取り組む中で、言語材料を実際のコミュニケーションにおいて活用できる力や情報を整理し表現する力を身に付けていくことが大切です。

【外国語活動・外国語科のページで使用されている用語解説】

言語材料	単元の中で習得すべき語彙や表現、文法のこと。その他にも音声や文字、符号、連語及び慣用表現、文構造も入る。 外国語活動では、このうち、目標を達成する上で、必要なものを選択して扱う。
言語活動	簡単な情報や考えを伝え合う活動のこと。 言語材料を理解したり練習したりする活動（チャンツ、パターンプラクティス等）とは区別される。
領域統合	「聞くこと」「読むこと」「話すこと（やり取り）」「話すこと（発表）」「書くこと」の5領域のうち、複数の領域を関連させた言語活動のこと。 P144 を参照
教材と教科書	教材：外国語活動で使用する冊子等のこと。 教科書：外国語科で使用する冊子等のこと。
必要感のある言語活動	児童生徒がコミュニケーションをする必要性を感じられる活動のこと。必要感のある言語活動とするためには、現実社会において存在する場面や、明確な活動目的を設定するなどの工夫が大切となる。

1 単元のつくり方

外国語活動・外国語科は、第1章の2で示すAパターン単元の構想が多くなります。「つかむ」過程では、単元の課題を立てるとともに、課題解決に向けた学習の見通しをもたせます。「追究する」過程では、言語活動を通して新出言語材料を習得させたり、教材の活動や教科書の本文に関する活動に取り組みさせたりします。そして、「まとめる」過程では、思いや考えを伝え合う活動に取り組み、単元を通じて言えたことやできるようになったことを自覚させるようにします。

主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善のポイント

- 単元の課題は、児童生徒が必要感をもって取り組めるよう、活動の「目的・場面・状況」をしっかりと設定する。
- 単元の課題は教材や教科書の題材と関連させる。
- 小学校では、児童が「目的・場面・状況」を把握し、「やってみたい」といった意欲をもたせられるよう、単元の課題を解決するための姿（発話例）を教師の実演で示す。
- 「試しの活動」は既習事項だけで取り組ませる。

- A**では、新出言語材料に触れる活動が中心となるが、言語材料に触れるだけでなく、授業の中に、必ず言語活動を設定する。
- 小学校では、**A****B****C**に対応している活動が教材にあるため、児童が取り組む活動が**A****B****C**のどれに当たるか意識し、単位時間を構成する。
- 小学校では**A****B****C**は順番に指導するが、**A**+**B**、**B**+**C**と単位時間の中で組み合わせて指導することもある。
- 中学校では、効果的な指導となるよう**C**の指導順位を調整する。
- 単元の課題の解決に向けて、必要な知識及び技能を習得させるとともに、解決の元となる情報を得たり、考えを整理したりできるように**A****B****C**を計画的に取り組ませる。

- 単元を通じての学びを自覚できるように、言語面として伝えられたことや、内容面として新たに気付いたり、感じたりしたことを振り返らせる。

過程と基本的な学習活動

1 単元の課題を把握する。

◇教材や教科書の題材に触れる。

課題提示型

- ◇単元の課題に出合う。(教師が提示する。)
- ◇活動の「目的・場面・状況」を確認する。

課題発見型

- ◇教師が提示する「場面・状況」を捉える。
- ◇単元の課題を発見する。
→単元の課題を解決する「目的」をもつ。

【単元の課題】

〈必要感をもって思いや考えを伝え合う活動〉

- ◇「試しの活動」として単元の課題に取り組む。
※外国語活動では、既習事項が少ないため、行わない場合もある。
※中学校では「CAN-DOリスト」との整合性を図る。

2 単元の課題の解決に向け、 単位時間ごとに追究する。

単位時間

【めあてをつかむ】

- A** 「単元の課題の解決」に向けて、新出言語材料に触れる。
- B** 新出言語材料を活用する言語活動に取り組む。
- C** 教材にあるまとめの活動や、教科書の本文理解など、本文に関する言語活動に取り組む。

【振り返り】

※言語面・内容面

単位時間

単位時間

単位時間

追
究
す
る

ま
と
め
る

3 単元の課題を解決する。

- ◇「追究する」過程で習得した知識及び技能や整理した情報、考えなどを活用し、単元の課題に示された伝え合う活動に取り組む。
- ◇単元全体の学習の振り返りをする。

単元全体の振り返り

小学校 第4学年

「Unit 7 What do you want?」(全5時間計画)

【目標】

欲しい食材などを集め、オリジナルメニューを自分で考えて紹介し合う。

1 単元の課題を把握する。【課題提示型】

- ◇教材の題材名や絵について、児童とやり取りする。
- ◇オリジナルピザを考え、必要な食材を集めて、ピザを作って紹介し合い、食べたいピザを決めるコンテストをすることを知らず。

【目的・場面・状況等の把握】

【単元の課題】 食べたいピザを決めるコンテストで人気を得るために、欲しい食材を集め、自分の考えたピザを紹介し合おう。

- ◇オリジナルピザを考え、そのピザを紹介し合うために、どのような表現を学ぶのかを知る。

2 単元の課題の解決に向け、単位時間ごとに追究をする。

A ①食材の言い方を知り、聞いたり言ったりしよう。
教材にある音やリズムに合わせてたくさんの食材の言い方を知り、英語で言えた。

A ②お店でほしい食材を集めよう。
ほしいものを尋ねたり、伝えたりする時、「What do you want?」「I want ○○。」ということが分かった。

C ③食材を集め、オリジナルパフェを作って紹介し合おう。(※単元の課題の前に類似した課題に取り組む)。
これまで勉強してきたことを使って、友だちとやり取りして食材を集め、オリジナルパフェを紹介することができた。

3 単元の課題を解決する。

- ◇オリジナルピザを紹介し合う。
- ◇クラスの中で自分が食べたいピザに投票する。
- ◇オリジナルピザを紹介し合う言語活動について振り返る。

「トマト」を英語の発音で言えた。「What do you want?」と聞かれた時、「please」でも欲しい物を伝えることができた。【言語面】

自分が考えて紹介した「チーズたくさんの元気が出るピザ」はたくさんの人に「食べてみたい」って言ってもらえた。【内容面】

中学校 第1学年

「Lesson 3 Hello, Everyone.」(TOTAL ENGLISH)

【目標】

(全6時間計画)

ALTの母に質問を含めた自己紹介の手紙(返事)を書くことができるようにする。

1 単元の課題を把握する。【課題発見型】

- ◇教科書の絵や題材名を見て、状況や場面等について、教師と生徒でやり取りし、類推する。
- ◇ALTの母から学校へ手紙が来ていることを知る。
- ◇ALTの母へどのような返事を書きたいか話し合う。

【目的・場面・状況等の把握】

【単元の課題】 アメリカに住むALTの母に自分のことや学校のことを知ってもらうために、質問を含めた自己紹介文(手紙)を書こう。

- ◇ペアで自己紹介し合って、自己紹介文を書く。
(試しの活動)
- ◇手紙を書くために、何を学ぶのかを知る。

2 単元の課題の解決に向け、単位時間ごとに追究をする。

C ①転校生Benについて聞き取ったり、読み取ったりしよう。
Benの出身や好きなことについて聞き取ることができた。出身は「I'm from ~.」で表現することが分かった。

A ②好きなことについて尋ね合おう。
疑問文や否定文の作り方がよく分かった。教科書のやり取りを参考に、ペアで好きなことを尋ね合うことができた。

B ③ALTの自己紹介を聞き、もっと知りたいことを尋ねよう。
「Do you ~?」「Are you ~?」の疑問文を使うことができるようになった。ALTは野球とお寿司が好きなことが分かった。

B ④自己紹介をして、もっと知りたいことを尋ね合おう。
自己紹介した後にやり取りして相手のことを知ることができた。

3 単元の課題を解決する。

- ◇文章の構成を意識しながら、ALTの母に返事の手紙を書く。
- ◇単元のはじめに書いた自己紹介の原稿と比較するとともに、単元全体を振り返る。

最初の時間に書いた手紙と比べると「Do you ~?」「Are you ~?」を入れて相手に関心を示す返事を書くことができるようになった。【言語面】

自分の手紙を読んでどんなことを思ったか、ALTのお母さんに聞いてみたい。【内容面】

2 単位時間の作り方（「つかむ」過程）【例】

「つかむ」過程では、単元の課題についての「目的・場面・状況」を把握させることで、本単元の学習の見通しをもたせるとともに学習への興味・関心をもたせるようにします。

【指導のポイント】

【あいさつ・ウォームアップ】

○あいさつに続くやり取りでは、天気や曜日、日付だけでなく学習段階に合わせ、既習事項を含むやり取りにする。

【「単元の課題」の設定】

- 「必要感をもって思いや考えを伝え合う活動」は、以下の点を含むものとする。
- ◆目的・場面・状況がある。
(実際にある場面、想定した場面、ゲーム性のある活動)
 - ◆教材や教科書の題材と関連している。
 - ◆自分の思いや考えを伝え合っている。
 - ◆思いや考えなどを伝え合う「英語」も児童生徒が思考・判断している。
 - ◆既習事項を繰り返し使用する活動となっている。

【課題設定の流れの具体例：中学校3年生】

- ① To Our Future Generation (NEW HORIZON3)
 - ② ALTは日本で地震が多いが、避難する時の情報がこの町にはないのでとても不安を感じている。
(「目的・場面・状況」の把握)
↓
 - ③ 「災害時に安心して外国人が避難できるために、パンフレットを作って説明しよう。」(単元の課題)
- ※小学校では、教師が実演で示し、内容について児童に問いかけながら、一緒に課題を設定してもよい。

【「つかむ」過程の本時の活動】

- 試しの活動は、単元の課題を解決する活動と同じでない場合でも、つながる活動にする。
- 【試しの活動の具体例：中学校3年生】
- <単元の課題>
「ロボットと生活することについてディベートをしよう。」
↓
- <試しの活動>
「既習事項を使ってロボットと生活することについて賛成か反対か、ペアで伝え合おう。」
※単元の課題の解決につながる活動
- 試しの活動に取り組ませ、単元の課題解決のためには何を学ぶ必要があるか確認させることで見通しをもたせる。

基本的な流れ

1 あいさつ・ウォームアップをする。

- あいさつに続けて、簡単な教師の問いに対し、英語で答えさせる。
※小学校では歌やチャンツを行う等、英語を学ぶ意欲をもたせる。

2 単元の課題をつかむ。

- 教材や教科書の題材名や絵等を使って、児童生徒とやり取りしながら類推させ、題材に触れさせる。
- **課題提示型** または **課題発見型** により課題に出合い、「目的・場面・状況」を捉えさせる。

【単元の課題】

〈必要感をもって思いや考えを伝え合う活動〉

3 本時のめあてをつかむ。

- 「試しの活動」として既習事項を使い、単元の課題を解決する活動に取り組むことを確認させる。

【本時のめあて】

- ※「試しの活動」は既習事項が少ない段階では行わない。
- ※外国語活動で、試しの活動を行わない場合は「追究する」過程の学習に進む。

4 本時の活動に取り組む。

- 新出言語材料の必要性に気付けるように単元の課題を解決する活動に取り組ませる。(試しの活動)
- 単元の見通しをもたせる。

5 本時の振り返りをする。

- 言語面と内容面について、本時の学習を振り返らせる。

単位時間の振り返り ※個人

※中学校1年生では、小学校で体験している活動をウォームアップの中に取り入れたり、言語活動に取り組む際に、小学校での学習内容を想起させたりするなど、小中の学びのつながりを意識できるようにする。

小学校 第4学年

A

「Unit 7 What do you want?」

【ねらい】

おはじきゲームやチャンツを通して、本単元で学習する語句の言い方に慣れ親しむようにする。

1 あいさつ・ウォームアップをする。

- 体で食べ物を表現しながら「バナナチャンツ」に取り組みさせる。

2 単元の課題をつかむ。 **課題提示型**

- 教材の題材名や絵について教師と児童でやり取りし、題材の内容について類推させる。
- 単元の課題を解決した姿を教師が実演し、その内容を類推させる。

T1: Hi! This is a colorful pizza. (作ったピザを見せる)
 T2: Oh, nice.
 T1: I have tomatoes, corn, green peppers and sausages. I like tomatoes. So I have four tomatoes. This is a colorful pizza.
 T2: Oh, it's a great pizza!
 T1: Thank you.

先生たちはどんな話をしたかな?



ピザのトッピングの話をしていた。

先生が考えたピザじゃないかなあ。



この単元では、みんなでオリジナルピザを考えて、誰が作ったオリジナルピザを食べてみたいかクラスの中で投票しましょう。



【単元の課題】

食べたいピザを決めるコンテストで人気を得るために、欲しい食材を集め、自分の考えたピザを紹介しよう。

3 本時のめあてをつかむ。

- 食材の言い方に慣れ親しませる。

【本時のめあて】

食材の言い方を知り、聞いたり言ったりしよう。

4 本時の活動に取り組む。

- (1) おはじきゲーム
食材の言い方に慣れ親しませる。
- (2) チャンツ
欲しいものを尋ねたり要求したりする語句をリズムに合わせて言わせる。
- (3) 映像
世界と日本の市場の違いについて考えさせる。



5 本時の振り返りをする。

- はじめて知った食材の言い方や、ゲームの中で言うことができた食材の言い方について振り返らせる。

- ☆ゲームの中でオニオンやキャロットの英語を言えた。
- ☆トマトは英語で言うときちょっと難しい。

中学校 第1学年

C

A

「Lesson 3 Hello, Everyone.」

【ねらい】

既習表現を使って自己紹介したり、自分についての手紙を書く活動を通して、ALTの母へどのような手紙を書くかを考えるようにする。

1 あいさつ・ウォームアップをする。

- ウォームアップとして本時の活動に関わる言語活動(好きなこと紹介)に取り組みさせる。

2 単元の課題をつかむ。 **課題発見型**

- 教科書の題材についてのピクチャーカードを使って生徒とやり取りしながら、題材の内容を類推させる。



Is Ben a new student? Is he a soccer player?
 What is he doing? (ベンは何してるのかな)

自己紹介してる!



That's right! He is introducing himself.
 You have a letter from Mary's mother.
 Now, I will read it.

- 単元の課題の「目的・場面・状況」を捉えさせる。

【ALTの母からの手紙】

Hello, everyone. My name is Ellen. I am Mary's mom. I am a professional figure skating coach. I am 60 years old. I am from America. I live in Florida in the USA. I like dogs and cats. Do you like animals? Thank you.

May 22, 2018 Ellen Smith

返事を書いて、自分や学校のことを紹介したいなあ。



【単元の課題】

アメリカに住むALTの母に自分のことや学校のことを知ってもらうために、質問を含めた自己紹介文(手紙)を書こう。

3 本時のめあてをつかむ。

- 既習事項を使って自己紹介し合う。

【本時のめあて】

友だちに自分のことを紹介して、どのような手紙を書いたらよいか考えよう。

4 本時の活動に取り組む。

- (1) 既習表現を使って、ペアで自己紹介し合う。
- (2) 自己紹介した内容を英語で書く。(試しの活動)

【生徒が書いた手紙】

Hello. My name is....
 I like cats. I like tennis. I play basketball every day ..

- (3) ALTの母の手紙と比較する。

手紙では、相手にいろいろ聞くから、疑問文を勉強することは必要ね。



5 本時の振り返りをする。

- 自己紹介で伝えられたことや感じたこと等を振り返らせる。

- ☆I playやI likeを使って自己紹介が書けた。【言語面】
- ☆母の手紙から、ALTのお母さんのことが分かった。質問を書く相手も返事をしやすい。【内容面】

2 単位時間の作り方（「追究する」過程）【例】

「追究する」過程では、単元の課題解決に向けて、知識及び技能を一つずつ積み上げ、言語活動において活用させながら思考力、判断力、表現力等を鍛える段階です。児童生徒の思いや考えを大切にしたい言語活動を設定しましょう。

【指導のポイント】

【帯活動・Small Talk】

帯活動【中学校】

○既習事項を繰り返し使用し、生徒の思いや考えが反映される言語活動にする。

Small Talk【小学校高学年】

P144 を参照

○5年生では教師と児童中心のやり取り。

○6年生では教師と児童のやり取りから、児童同士のやり取りにつなげる。児童が言えなかったことをクラス全体で共有し、既習事項に結び付けて指導する。

基本的な流れ

1 あいさつ・ウォームアップをする。

2 Small Talk・帯活動を行う。（外国語科）

【中学校】

・帯活動に取り組みさせる。

【小学校高学年】

・Small Talk（2時間に1回程度）に取り組みさせる。

3 本時のめあてをつかむ。

●教師が本時の学習内容につながる実演等を行う。

【本時のめあて】

4 本時の活動に取り組む。

【小学校】

【中学校】

<外国語活動>

A 新出言語材料の音声に十分に慣れ親しませる。（聞く、話す）

B 音声に慣れ親しんだ新出言語材料を活用する言語活動に取り組みさせる。

B C 体験を通じて理解を深めさせる。

<外国語科>【高学年】

A 外国語活動の取組に加え、必要に応じて、新出言語材料を理解させたり、練習させたりする。

A 音声に十分に慣れ親しんだ新出言語材料を読んだり、書いたりさせる。

<外国語科>

A 新出言語材料を理解させたり、練習させたりする。

B 新出言語材料を習得するための言語活動に取り組みさせる。

C 教科書本文を理解するための言語活動に取り組みさせる。

【新出言語材料、教科書、教材】

○リズムやチャンツ、教材の音声等を使って「聞くこと」から「話すこと」につなげる。

○言語活動は相手意識と伝え合う内容がある活動となるようにする。

○やり取りのポイントを示すなど、他者に配慮する意識をもたせる。

○「書くこと」においては、丁寧に書くなど、相手意識をもって、書き写させる。

○新出言語材料を理解させる際、文意の中で働きを捉えさせる。

○教科書の本文理解においては、自分の考えを伝え合う言語活動につなげる。

【振り返り】

○言語面の振り返りは、めあてに沿って言えたことや、言いたかったが言えなかったことなど学習した知識及び技能に関するもの。

○内容面は伝え合った内容について、分かったことや感じたこと等。

5 本時の振り返りをする。

●言語面と内容面について、本時の学習を振り返らせる。

単位時間の振り返り ※個人

※新出言語材料の学習においては、単元の課題との関連を児童・生徒が意識できるようにする。

小学校 第5学年

A B

「I want to go to Italy.」

【単元の課題】

〇〇市をすばらしさを知ってもらうために、他校のALTを〇〇市のおすすめの場所に誘おう。

【ねらい】

チャンツやインタビュー活動を通して、行きたい国でやりたいことを訪ねたり、答えたりすることができるようにする。

- 1 あいさつ・ウォームアップをする。
 - 2 Small Talkをする。(5年生：教師と児童)
- 「What food do you like?」について児童に答えさせる。

3 本時のめあてをつかむ



〇〇市のおすすめの場所を伝える時には、「どこに行きたい?」「〇〇したい」って表現ができるといいよね。

【本時のめあて】

行きたい国でやりたいことを、尋ねたり答えたりしよう。

4 本時の活動に取り組む。

(1) 話したり聞いたりする活動に取り組む。

①チャンツ

- 音声教材のリズムに合わせて、「Where do you want to go~?」「I want to go to~.」の音声に慣れ親しませる。

②インタビュー

- ペアになって行きたい国や、そこでやりたいことをインタビューさせる。

S1: Where do you want to go?
S2: I want to go to Italy.
S1: You want to go to Italy. Why?
S2: I want to eat pizza. I like pizza.
S1: Nice.

- 「やり取りのポイント」を示し、相手に配慮しながらインタビューさせる。

【やり取りのポイント】

- ①くり返し (You want to go to Italy.)
- ②関連する質問 (Why?)
- ③相づち (Nice.)



- 模範となる児童に発表させ、よいところを自分のやり取りに反映させる。【中間評価】

〇〇さんにみんなの前でやってもらいますね。どんなところがよいですか?



(2) 読む活動や書く(書き写す)活動に取り組む。

- 本時で慣れ親しんだ「I want to eat~.」の英文をワークシートに書き写させる。

5 本時の振り返りをする。

- めあてに沿って言えたことや、言いたかったことを振り返らせる。
- 友達の行きたい国など、やり取りを通じて知ったことも書くよう促す。

☆「I want to go to China.」「I want to see 万里の長城.」と言うことができた。【言語面】

☆Aさんが〇〇が好きだということを初めて知って驚いた。【内容面】

中学校 第1学年

B

「Lesson 3 Hello, Everyone.」

【ねらい】

ALTの自己紹介の内容に対するQ&A活動を通して、興味のある事柄をAre you ~?や既習のDo you ~?などの疑問文を作らせ、質問できるようにする。

- 1 あいさつをする。
 - 2 帯活動をする。
- 既習事項を使って、好きな物についてやり取りさせる。

S1: Hello. My name is
I like soccer. Do you like soccer?
S2: Yes, I do. I like soccer, too.
S1: Oh, you like soccer. Good

3 本時のめあてをつかむ。

Today, 〇〇 will introduce himself.
Please listen to his hobby and favorite food.
After that, please ask some questions to him.



【本時のめあて】

ALTの自己紹介を聞き、もっと知りたいことを尋ねよう。

4 本時の活動に取り組む。

- ALTの自己紹介を聞いたり、読んだりし、詳しく聞きたいことについての質問文を考えさせる。
- グループ内で互いの質問文を修正させる。
- グループごとにALTの自己紹介を聞き、ALTとやり取りさせる。

【ALTの自己紹介からのやり取り】

ALT: Hello, I am Mary. I am 28 years old. I have one brother and no sisters. I'm from America. I like sports very much. And I like Japanese food. Thank you.
S: What Japanese food do you like?
ALT: Sushi.
S: Oh, sushi. Me, too.
S: Are you a baseball fan?
ALT: Yes, I love baseball.
S: Do you have a favorite team?

- 模範となるグループに発表させ、よいところを自分たちのやり取りに反映させる。【中間評価】

What is a good point of A group?



相手が話したことについて質問し、そこから、違う話題にいくと自然な会話になるな。



5 本時の振り返りをする。

- めあてに沿って言えたことや、言いたかったことを振り返らせる。
- 会話の内容について感じたことも書くよう促す。

☆「Are you ~?」や「Do you ~?」を使い質問できた。「〇〇へ行ったことがありますか」と言いたいと思った。【言語面】

☆会話の流れに沿って質問できた。ALTが〇〇について知っていたので驚いた。【内容面】

2 単位時間の作り方（「まとめる」過程）【例】

「まとめる」過程では、「追究する」過程で習得した知識及び技能や整理した情報、考えなどを活用し、単元の課題に示された伝え合う活動に取り組みます。本単元を通じて、習得してきたことを表現し、何ができるようになったのかを児童生徒が自覚できるようにしましょう。

【指導のポイント】

【教師の実演】

- 小学校では教師が実演することで、目的・場面・状況をつかみやすくなる。
- 中学校では、言語活動における英語表現も思考、判断させるため、教師は実演等で単元の課題を解決した姿を示し過ぎないようにする。

【単元の課題を解決する言語活動】

- <外国語科（小学校）>
- 外国語活動のポイントに加え、これまで書きためてきた英文を清書する。これを発表等に活用できる。
- 【具体例：小学校6年】
- 行きたい国を紹介する活動で、紹介する国の写真の下に「I want to go to China. I want to see pandas.」など書いたポスターを作成する。
- ※「書くこと」においては丁寧に書くことが他者への配慮であることを指導する。

【中間評価】

- 児童生徒が言いたかったが言えなかった表現について指導し、全体でも共有する。

【単元全体の振り返り】

- 外国語活動では、言語面としてできたことや、言えたことなどに視点をあてるようにする。
 - 中学校と小学校高学年では、言語面として単元を通じて児童生徒が何ができるようになったか自覚できるようにする。
- <振り返りの視点の例>
- ◆英語で何が言えたか
 - ◆どんなやり取りができるようになったか
 - ◆コミュニケーション等によって発見したこと
 - ◆深められたこと

基本的な流れ

1 あいさつ・ウォームアップをする。

2 Small Talk・帯活動を行う。（外国語科）

3 本時のめあてをつかむ。

- これまでの学習内容を想起させる。
- 教師が実演する等、単元の課題を解決した姿を示し、何をどのように行えばいいのか（できればいいのか）をつかませる。

【本時のめあて】

4 単元の課題に示された伝え合う活動に取り組む。

- 既習事項も含め、これまでの学習において書きためた英文や、使うことができるようになった表現を見直すなどしてこれまでの学びを踏まえさせる。
- 単元の課題を解決する言語活動に取り組ませる。その際、「目的・場面・状況」を再確認させる。
- 中間評価を行い、他の児童生徒のよい例を示し、よかった点を児童生徒に問いかけ、全体で共有させる。
- 取組を見直した後、再び言語活動に取り組ませる。

5 単元全体の振り返りをする。

単元全体の振り返り

- 単元全体を通して、言語面と内容面で振り返らせる。

※言語活動は学習段階に応じた技能が統合された活動となるように設定し、それぞれの技能をバランスよく育成する。

小学校 第4学年

「Unit 7 What do you want?」

【ねらい】

オリジナルピザコンテストを通して、相手に配慮しながら、基本的な表現や慣れ親しんだ表現を使って自分の作ったピザを紹介し合うようにする。

1 あいさつ・ウォームアップをする。

- デジタル教材のチャンツに合わせて野菜や果物を繰り返し言わせる。

2 本時のめあてをつかむ。

- 教師の実演から、これまでの学習を想起させる。

T1 : Hi! This is a colorful pizza. (作ったピザを見せる)

T2 : Oh, nice.

T1 : I have tomatoes, corn, green peppers and sausages.

I like tomatoes. So I have four tomatoes. This is a colorful pizza.

T2 : Oh, it's a great pizza!

T1 : Thank you.



どんな話をしていたかな？

今日はオリジナルピザを紹介し合って、食べてみたいピザに投票をしましょう。

【本時のめあて】

多くの友だちに食べたいと思ってもらえるように、オリジナルピザを作って紹介し合おう。

3 単元の課題に示された伝え合う活動に取り組む。

- 相手に配慮をしながら活動に取り組ませるために「やり取りのポイント」を意識させる。

【やり取りのポイント】(外国語活動)

①はっきりした声で ②笑顔で ③相手をよく見て

- グループで取り組ませる。

S1 : Hi! This is a Genki morimori pizza.

S2 : Wow!

S1 : I have tomatoes, cheese, bacon and sausages.

I like cheese. So I have a lot of cheese. This is a Genki morimori pizza.

S2 : Oh, it's a great pizza!

S1 : Thank you.



- 模範となる児童に発表させ、よいところを自分のやり取りに反映させる。【中間評価】
- 代表者の発表を見て、発表の時のよさや工夫している点に気付かせ、学級全体で共有する。
- 自分の取組を見直させ、再度取り組ませる。

4 単元全体の振り返りをする。

- 言えたことや、やり取りのポイントを意識できたかについて振り返らせる。
- 言いたいと思ったことについても書かせる。

☆「これは体にいいよ」「これは元気がでるよ」とかいろいろ英語の言葉を知って、伝えたいです。【言語面】
☆絶対にみんなに食べてほしいピザなので、相手の目を見て一生懸命伝えられた。【内容面】

小学校 第5学年

「I want to go to Italy.」

【ねらい】

おすすめの場所について理由を含めて説明したり、自分の考えや気持ちなどを伝えたりする活動を通して、他校のALTを〇〇市のおすすめの場所に誘うことができるようにする。

1 あいさつ・ウォームアップをする。

- 「Where do you want to go?」「I want to go to ~.」のチャンツに取り組ませたりして、これまでの学習を想起させる。

2 Small Talkをする。(5年生：教師と児童)

- 行きたい国や、そこでしたいことについて答えさせる。

3 本時のめあてをつかむ。

- これまでの学習を想起させながら、本時の活動について教師が実演し、意欲を引き出す。

今日はALTの皆さんにみんなの住んでいる〇〇市を紹介するんだよね。



【本時のめあて】

〇〇市のすばらしさを知ってもらうために、他校のALTに希望を聞き、〇〇市のおすすめの場所に誘おう。

4 単元の課題に示された伝え合う活動に取り組む。

(1) 単元の課題を解決する言語活動に取り組む。

- ①友達や他校のALTをおすすめの場所に誘う。
- ②他者に配慮をしながら、やり取りするために「やり取りのポイント」を意識させる。

やり取りする時はどんなことに気を付けると、自然なやり取りができるのかな？



【やり取りのポイント】

(外国語科)

- ①関連する質問 (Do you like mountains?)
- ②繰り返し (You like mountains.)
- ③相づち (Me too.)

- 模範となるグループに発表させ、よいところを自分たちのグループのやり取りに反映させる。【中間評価】
- 代表グループの発表を見て、発表の時のよさや工夫している点に気付かせ、学級全体で共有する。
- 自分たちの取組を見直させ、再度取り組ませる。

(2) 読む活動や書く(書き写す)活動に取り組む。

- これまで少しずつ書き溜めていたものを一枚のワークシートにまとめさせる。

5 単元全体の振り返りをする。

- おすすめの場所に誘う際に、言えたことややり取りのポイントを意識できたかについて振り返らせる。
- 言いたいと思ったことについても書かせる。

☆「Do you want to go to ~?」の後に「Do you like ~?」と質問し、会話を長く続けることができた。【言語面】
☆無料の動物園にびっくりするALTが多かった。〇〇市にはいいところがあるなと思った。【内容面】

3 学習過程と教科書との関連

小学校の教材や教科書は、冒頭の見開きのページに題材に関する絵や写真が用意されており、それを見ながら教師と児童が英語でやり取りし、題材の内容をつかめるような構成となっています。中学校の教科書は本文の題材に関係した単元の課題を設定することで、社会的な話題等、幅広い分野で言語活動ができるようになっています。



✓ 題材的な扱い

小学校

○各単元における単元の課題は、題材に関する課題を立てるようにする。単元の課題の解決に向けて、教科書や教材に示された言語活動に取り組む中で、題材についても理解を深めることができる。

中学校

○教科書本文は内容を理解して終わりにするのではなく、内容を元とした言語活動の素材として利用することができる。

〈例〉

- ・教科書の社会的な題材を理解することを通して、実生活の課題について議論する。
- ・教科書の物語を読んで、感銘した箇所について感想をまとめたり、伝え合うことで、物語を深く理解する。

✓ 資料的な扱い

小学校

- 教科書や教材には目的・場面・状況のある言語活動が示されている。その言語活動を行う前の準備段階で、言語材料に慣れ親しむために、デジタル教材の音声や映像等を利用する。
- 巻末の絵カードや文字のカードも言語活動を行うための教具として活用できる。

中学校

- 言語材料を活用する際、言語材料の使用例として教科書の本文を参照することができる。
- 巻末の基本表現や不規則動詞活用表を英文を書く際に参照したり、語彙一覧表を辞書のように参照したりすることができる。



4 学習活動を行う場合に生じる困難さに応じた指導の工夫【例】

困難さ	指導の工夫
聞き取ることが困難な場合	<ul style="list-style-type: none"> ・一言一句を聞き取れないことで、英語を聞き取ることにより困難さを感じているため、概要を聞き取る指導する。 ・説明を短くするとともに、視覚的にも把握できるよう、図や絵、板書などを併用する。
文字と音声一致せず、読むことが困難な場合	<ul style="list-style-type: none"> ・音読を聞く際に、音読している箇所を指でなぞったり、定規を当てさせたりして、音と文字を一致させる。
人前で話すことに抵抗をもつ場合	<ul style="list-style-type: none"> ・一人ではなくグループで発表させたり、教師が横で支援したりしながら、取り組ませるようにする。
小学校において、文字を4線の中におさめて書くことが困難な場合	<ul style="list-style-type: none"> ・書く分量を少なくしたり、バランスのよい文字が書けるよう、2段目の縦幅が広い4線のワークシート等を活用する。

5 情報活用能力の育成

外国語科における情報とは・・・言語活動において伝え合う内容

〈例〉 小学校：自分で考えたピザを紹介し合う活動におけるオリジナルピザ

中学校：ALTの母に自分のことや自分を紹介するために書く手紙

情報の収集

教科書やコンピューター、ALTなどから、英語を聞いたり読んだりして必要な情報を捉えます。

〈例〉 単元の課題：ロボットが生活に入ってくることについて賛成か反対かディベートで伝え合う。教科書を読んで、ロボットと生活にすることの良い点と悪い点について調べる。



基本的な操作 〈例〉

- 題材に関する資料や情報を入手する学習
⇒コンピューターや情報通信ネットワークを使ったインターネットの閲覧
- 目的に応じた必要な情報を読み取る学習
⇒コンピューターや情報通信ネットワークを使って電子メール等を閲覧
- 様々な発音や英語の音声に触れる学習
⇒コンピューターや情報通信ネットワークを使って、英語の音声を含む映像等の閲覧
- 英語で情報を発信する学習
⇒キーボードで英文を入力
⇒適切なファイル名やフォルダ名を付け、電子ファイルデータを保存
⇒電子メール等で、英語で情報を発信



問題解決における情報活用

情報の整理・比較

英語を聞いたり読んだりして得られた情報や表現を選択・抽出したり、情報を整理したりします。

〈例〉 得られた情報を元にし、自分がロボットと生活することについて賛成か、反対かを決め、論理立てて伝えられるように情報を整理する。



情報の発信・伝達

英語で話したり書いたりして事実や自分の考え、気持ちなどを表現します。

〈例〉 ロボット生活することについての自分の考えに適した英語表現を選択し、相手に伝わるよう話す。



情報モラル・セキュリティ

- ・場面や伝える内容に適した英語の選択
- ・メールでの宛名や結びの書き方 など



6 地域の人材や物的資源の活用

外国語科ではALTや外国語指導支援員、英語の得意な方によるボランティアといった地域の方々に協力いただき、チームティーチング（TT）で指導している学校が多くあります。

以下のサイトは、TT指導等も含め、英語教育について様々な情報が提供されていますので、参考にしてください。

○（財）英語教育協議（ELEC）（文部科学省 協力）

えいごネット ～英語教員のためのポータルサイト～



<http://www.eigo-net.jp/>

英語教員のためのポータルサイト

検索

【参考】 Small Talk

小学校 Small Talk

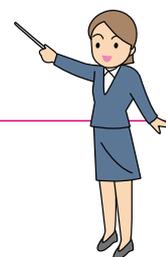
2時間に1回程度、あるテーマについて、指導者のまとまった話を聞いたり、ペアで自分の考えや気持ちを伝え合ったりする帯活動です。児童が興味・関心のある身近な話題について、自分の考えや気持ちを楽しみながら伝え合う中で、既習表現を繰り返し使用し、その定着を図ります。

互いの考えや気持ちを伝え合うと…
「本当のことを言うから、楽しい」
「その場で何が出てくるか
分からないから、話して楽しい」
「今まで習った語句や表現から
どれを使えばいいかを考えて
相手に伝わったときはうれしい」



Small Talkを行うために、教師は次のようなことが大切です。

- 児童の既習語句・表現を把握していること
- 話題を設定できること
- 児童とやりとりする英語力
- 児童が言えなかったことを既習表現に言い換える力



言えなかったことを既習表現に言い換える力（例）



教師：What sports do you like?

児童A：I like baseball.



教師：Oh, you like baseball. How about you? Bさん



児童B：好きなスポーツはない。



教師：「好きなスポーツはない」ってなんて言うのかな。みんなで考えよう。



【参考】 領域を統合した言語活動

中学校 領域を統合した言語活動

「聞いたり読んだりして得られた情報や表現を、話したり書いたりして事実や自分の考え、気持ちなどを表現すること」や「伝える内容を整理し、話したり書いたりして互いに事実や自分の考え、気持ちなどを伝え合うこと」など、複数の領域を効果的に関連付ける言語活動です。

領域を統合した言語活動（例）

- ① 教科書の題材「キング牧師」について本文を読んだり（読む）、ALTから聞いた話をもとに（聞く）人種差別について自分が思ったことや感じたことをキーワードでマッピングさせる。
- ② マッピングをもとに、みんなの前でプレゼンテーション（話す）をさせる。
- ③ プレゼンテーションで話したことを、英語で書かせる。（書く）

※ 書かせた文章における文法や語彙のミスを訂正するのではなく、印をつけ、生徒にミスを修正させる。



特別の教科 道徳

Morality

「特別の教科 道徳」(道徳科)は、「道徳的諸価値について理解する。自己を見つめる。物事を(中学校：広い視野から)多面的・多角的に考える。自己の生き方(中学校：人間としての生き方)について考えを深める。」ことを通して、道徳性(道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度)を育てる教科です。

そのためには、児童生徒が常に自己を見つめながら、他者とともに多様な視点から話し合うことを通して自己の(中学校：人間としての)よりよい生き方を考えていく、「考え、議論する道徳」の授業を実践していくことが大切です。

【道徳科のページで使用されている用語解説】

特別の教科	主たる教材として教科書を使用するが、他の教科とは異なり、数値による評定は行わないことや児童生徒の実態を把握しやすい学級担任を中心に授業を行う。なお、教育活動全体を通じて行う道徳教育の「要」としての役割を果たす、他の教科にはない役割もある。
道徳的価値	よりよく生きるために必要とされるもので、人間としての在り方や生き方の礎となるもの。
道徳的価値の理解	道徳的価値のよさや素晴らしさ(価値理解)だけでなく、道徳的価値の実現の難しさ(人間理解)や道徳的価値の感じ方、考え方の多様さ(他者理解)などについても理解を深めること。
道徳性(道徳性の諸様相)	道徳性の諸様相と呼ばれる、「道徳的判断力」「道徳的心情」「道徳的実践意欲と態度」といった、よりよく生きるための基盤となる内面的な資質・能力のこと。道徳科では道徳性は評価しない(できない)。諸様相には、特に序列や段階はなく、互いに補い合って道徳性全体を構成する。
内容項目	目標を達成するために指導すべき学習内容のこと。A～Dの4つの視点で分類され、その内容を端的に表す言葉(キーワード)が付されている。
主題(名)	どのような道徳的価値をねらいとし、どのように教材を活用する授業であるか、その内容を概観できるように端的に表したもの。(学習するテーマ) 〈例〉「自由と自分勝手」「あきらめない心」など
多面的・多角的に考える	多面的に考えるとは、一つの道徳的価値について違う側面から見ること。多角的に考えるとは、中心的な道徳的価値から関連する道徳的価値に広がりをもたせること。
道徳科におけるめあてと振り返り	道徳科におけるめあては、どのようなことを自分との関わりで深めていくか、本時で扱う道徳的価値へと方向付けるもの。 道徳科における振り返りは、本時で深めた道徳的価値の理解に基づく自己の振り返りであり、よりよい生き方への思いや願いを深めていくためのもの。

特別の教科 道徳

1 授業づくりについて

道徳科では、**明確な指導観を持って授業を構想**することが大切です。「はじめよう！道徳科②授業づくりの流れ」参照。
http://www.nc.gunma-boe.gsn.ed.jp/?action=common_download_main&upload_id=1374

【指導のポイント】

【問題意識をもつ】

○道徳的価値と自分の経験のずれ、教材の主人公の行為と自分の考えのずれなどを把握させる。

【めあての設定】

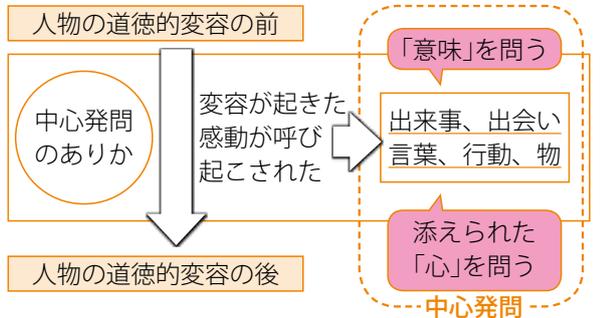
○資料を読み考える必要性が増すように、内容項目に関わって掘り下げて考えたり、一言では返答できなかったりするものが増える。
 <例>

- ◆本当の友情とはどういうことだろう？
- ◆親切にすることが大切なのはなぜだろう？

【中心発問について】

○中心発問に求めること
 本時のねらいに迫るために多様な考えを引き出すこと。

○中心発問は教材の仕掛けを生かし、次のように考える。
 <教材>



行為や言葉の裏にある「意味」や「心」を問う。

- <例>
- ◆「Aとの出会いは彼に何を気付かせたのだろう。」
 - ◆「なぜ、〇〇は涙を流したのだろう。」

【補助発問について】

○児童生徒の本音を引き出し、考えを深める。

- <例>
- ◆常識や当たり前と考えていることに対する問い直し
 「本当に？」「それでいいのかな？」
 - ◆きれいごとで終わりそうな発言に対するゆさぶり
 「難しくないの？」「できるかな？」

※展開の3や4においては、多様な考えを比較できるように、板書等で考えを可視化する。

基本的な流れ

導入

1 本時で扱う道徳的価値について、問題意識をもつ。

- 本時で扱う道徳的価値に関わる資料（アンケート結果、視聴覚教材等）を提示したり、話題（経験も含む）にしたりして気付きを共有させる。
- 児童生徒の問題意識を基に、学習のめあてを設定する。

【めあて】

展開

2 教科書の教材文の範読を聞く。

- 教師は、実態に応じて場面絵を提示し読み進める。

3 教材を通して、道徳的価値についての考えをもち、交流する。

- 人間関係を確認したり、状況を把握したりするための基本発問をする。
- 多面的・多角的に考えることのできる中心発問をする。
- 中心発問に対する児童生徒の考えに対し補助発問をする。



※問題場面を役割演技で再現するなどの体験的な活動を設定することも考えられる。

4 道徳的価値に対する多様な意見を知り、学習のめあてについてもう一度考える。

- 学習のめあてに戻り、改めて気付いたことや考えたことを問いかける。
- 児童生徒に考えたことを発表するよう促す。
- 発表された様々な考えを受容する。

終末

5 本時で扱った道徳的価値に対する思いや願い、考えを振り返る。

- 本時の学習を振り返り、よりよい自己の考えや生き方への思いや願いを深めさせる。

【振り返り】

2 実践例

(○発問 ◎中心発問 ◇補助発問)

小学校 第5学年 主題名：相手のための親切

内容項目：B 親切、思いやり

教材名：『やさしいユウちゃん』

【ねらい】

ユウコがハルカと同じ委員会に入るかやめるかを悩んだ場面で、ユウコの心の葛藤を考えさせることを通して、相手の立場を考えて親切にしようとするための判断力を育てる。

1 本時で扱う道徳的価値について、問題意識をもつ。

● 親切に関するアンケート結果を提示する。

○ 親切とはどういうことですか。また、親切にされるとどのような気持ちになりますか。

【問題意識】

自分にとって「親切」でも、相手は「親切」と感じられないこともあるのだな。

【めあて】

親切とはどういうことだろう。

2 教科書の教材文の範読を聞く。

3 教材を通して、道徳的価値についての考えをもち、交流する。

○ 「ユウちゃんといっしょになれてよかった。」と言われたユウコは、どのような気持ちだったでしょう。

◎ 本当にそれでいいのかなと、しばらく考え込んだとき、ユウコはどのようなことを考えていたでしょう。

ハルカ一人で本当に大丈夫かな。

ハルカには、本当にやりたいと思ったことをやらせてあげたいな。

私がいなくてもいろいろできるように、一人で頑張った方がいいよ。



◇ 「二人一緒にやめる」と「ユウコだけやめる」、二人にとってどちらが難しいかな。



ユウコだけやめること。でも、ハルカが自分で決めたから、応援してあげたい。

本当にハルカのためになるのは、一人でも飼育委員に入ることだと思う。



4 道徳的価値に対する多様な意見を知り、学習のめあてについても一度考える。

○ 親切とは、どういうことだと思いますか。



相手のことを、先まで考えてあげることかな。

相手のことを思えば、厳しさも必要だと思う。



◇ 厳しくしたら、困る友達もいるみたいだよ。



相手のことを考えて、優しさと厳しさを使い分けたい。

5 本時で扱った道徳的価値に対する思いや願い、考えを振り返る。

○ 親切について、今までの自分はどうかだったか、これからどのような気持ちを大切にしていこうか考えよう。

【振り返り】の一例

・ 相手を助ければ親切かと考えていましたが、相手の立場になって考えることが必要だと思いました。相手にとって何が本当の親切か、考えてから声をかけていきたいです。

中学校 第3学年 主題名：コミュニケーションの原点

内容項目：B 相互理解、寛容

教材名：『心にしみこむ言葉の力』

【ねらい】

池上さんの心情や根底にある思いを考えることを通して、よりよい人間関係づくりに必要な寛容の心をもち謙虚に他に学び、自らを高めていこうとする心情を育てる。

1 本時で扱う道徳的価値について、問題意識をもつ。

● コミュニケーションに関する生徒アンケートをモニターに提示する。

○ 自分の考えや気持ちが相手にうまく伝わらなかった経験はないだろうか。

【問題意識】

自分の考えや気持ちがうまく伝わらないのはどうしてだろう。

【めあて】

よりよい人間関係づくりに大切なことは何だろう。

2 教科書の教材文の範読を聞く。

3 教材を通して、道徳的価値についての考えをもち、交流する。

○ 「自分の気持ちを伝える」時に、池上さんが気を付けていることはどのようなことだろう。

◎ どのような気持ちで、池上さんはコミュニケーションの原点は「相手の話をよく聞くことだ。」と言ったのでしょうか。



自分の知識だけだと、相手がどんなことを知っていて、どこまで理解できるかが分からない。

相手のことを大切にすることが大切だから。



◇ 相手のことが理解できるとどのようにになりますか。



相手の状況に応じて、言葉をかみ砕いたり、説明したりすることができると思う。

そうすれば自分のこともわかってもらえるね。



4 道徳的価値に対する多様な意見を知り、学習のめあてについても一度考える。

○ よりよい人間関係を築くために、どのようなことが大切だと思いますか。

相手のことを理解する気持ちかな。

理解って、どうやってしたらいいの？



自分の一方的な考えを相手に押し付けない気持ちだと思う。

伝えるべきことはきちんと言うことも必要だと思う。

5 本時で扱った道徳的価値に対する思いや願い、考えを振り返る。

○ よりよい人間関係づくりに関して、今までの自分を振り返り、ワークシートに整理しよう。

【振り返り】の一例

・ お互いを尊重し合う気持ちをもつことが人間関係をよりよくすることにつながると思います。自分の考えをきちんと伝えた上で、相手のことを考えた友達関係を築いていきたいと思いました。

2 実践例

(○発問 ◎中心発問 ◇補助発問)

小学校 第5学年 主題名：集団での役割
 内容項目：C よりよい学校生活、集団生活の充実
 教材名：『たのむよ、班長』

【ねらい】
 班活動で直面する具体的場面を取り上げ、自分ならどうするかを考え、全体で話し合うことを通して、集団における自分の役割を自覚して責任を果たそうとする態度を育てる。

- 1 本時で扱う道徳的価値について、問題意識をもつ。
 ● 班活動に関するアンケート結果を提示する。
 ○ 班活動の時に気を付けていることはありますか。

【問題意識】
 班活動では協力が大事だとわかっていても、できないこともあるのだな。

【めあて】
 協力するために大切なことは何だろう。

- 2 教科書の教材文の範読を聞く。
 3 教材を通して、道徳的価値についての考えをもち、交流する。
 ○ 大和たちのグループは協力ができているのだろうか。協力できない原因は何だろう。

チームワークが足りないから。
 意見がバラバラで、みんなが自分勝手だから。

- ◎ それぞれが、どのようにしたら「協力」できるだろうか。
 (大和の立場、進の立場、優花の立場)

みんなでできることを確かめて行動する。
 時間だけでなく、問題も解決する。
 じっくり解決したいけど、時間を決める。

- ◇ みんなの意見が大きく違っていたらどうする？
 ○ いろいろな考えがあるけど、自分勝手にするとけんかになる。

班の人の気持ちを考えて、譲り合ったら協力できるかなと思う。

- 4 道徳的価値に対する多様な意見を知り、学習のめあてについてももう一度考える。
 ○ 協力するために大切なことは何だろう。

人に任せきりにしない。
 みんなの意見を聞いて、話し合う。

それぞれができることを考えて行動する。

- 5 本時で扱った道徳的価値に対する思いや願い、考えを振り返る。

- これまでの自分の協力はどうだったでしょう。これからはどのようにしていきたいですか。

【振り返り】の一例
 ・ 遠足のときお弁当を食べる場所でけんかになったけれど、話し合ったらみんなで決められた。これからも自分勝手ではなく協力していきたい。

中学校 第1学年 主題名：「きまり」の意義
 内容項目：C 遵法精神、公德心
 教材名：『人に迷惑をかけなければいいのか？』

【ねらい】
 「僕」が「わかった」ことは何かを考えるとともに、「僕」の考えに対する意見を比較・検討することを通して、きまりの意義を理解し、進んで守ろうとするための判断力を育てる。

- 1 本時で扱う道徳的価値について、問題意識をもつ。
 ● 駐車場の写真を提示する。
 ○ 駐車場の周りにコーンがあります。何のためにあるのでしょうか。



【問題意識】
 人に迷惑がかからないところでは、きまりを守っていないことがあるな。

【めあて】
 人に迷惑がかからなくても、きまりを守るのはなぜか。

- 2 教科書の教材文の範読を聞く。
 3 教材を通して、道徳的価値についての考えをもち、交流する。

- どのようなきまりが出てきましたか。「僕」の言い分は何だろう。

守ることのメリットやデメリットは？

- ◎ 「僕」は「人に迷惑をかけなければいい」と考えていました。このことについて、守った場合と守らなかった場合を考えよう。



ルールは守らなければ、いつ迷惑をかけるか分からないよ。

守らなくても自分の責任なのだから、よいのではないかな。

- ◇ 「僕」が学んだ「きまり」とは、どのようなことだろうか。

守らないことの原因は？

- 自分のことだけを考えると、いずれ周りの人に迷惑がかかる可能性があること。

- 4 道徳的価値に対する多様な意見を知り、学習のめあてについてももう一度考える。

- 人に迷惑がかからなくても、きまりを守るのはなぜですか。

きまりは人と人とのルールで、人に迷惑をかけないためのものでもあるから。

きまりを守らないと社会が成り立たなくなってしまうから。

- 5 本時で扱った道徳的価値に対する思いや願い、考えを振り返る。

- これまでの自分はどうだったでしょう。これからはどのようにしていきたいですか。

【振り返り】の一例
 ・ きまりにも、意味があることが分かった。これからは、きまりの意味を考えて守れるようにしたい。
 ・ きまりはただ守ればいいのではなく、その意味をよく考えたいと思った。

2 実践例

(○発問 ◎中心発問 ◇補助発問)

小学校 第3学年 主題名：家族できょうりよくし合うこと
 内容項目：C 家族愛、家庭生活の充実
 教材名：『お母さんのせいきゅう書』

【ねらい】

役割演技により、母親からの請求書を見ただいすけの気持ちを体験的な活動で考えることを通して、家族の一員として進んで楽しい家庭を作ろうとする態度を育てる。

- 1 本時で扱う道徳的価値について、問題意識をもつ。
 ○家族のためにしていることには、どのようなことがありますか。また、その理由も考えよう。

【問題意識】

自分から進んで家族のためにしていることは、あまりないな。

【めあて】

「家族」で大切なことは何だろう。

- 2 教科書の教材文の範読を聞く。
 3 教材を通して、道徳的価値についての考えをもち、交流する。
 ○400円を受け取っただいすけは、どのような気持ちになったでしょう。



やった。本当にもらえるとは思わなかった。



また、請求書を書こう。

- ◎お母さんからの請求書を読んだ時のだいすけの気持ちになって、考えてみましょう。

ぼくは、「お母さんごめんなさい。返します。」かな。



私は、「もらっちゃいけない。いろいろしてくれているのに」かな。

- 母親とだいすけになって、役割演技をする。
 ◇なぜ、お母さんは請求書を書かないのでしょうか。



お母さんは、家族みんなのことを考えて、いろいろやってくれているから。

- だいすけのお母さんへの気持ちは、どのように変わりましたか。



お母さん自分のことを考えてくれて、ありがとう。



これからは家族のことを考えて、お手伝いしよう。

- 4 道徳的価値に対する多様な意見を知り、学習のめあてについても一度考える。

- 「家族」で大切なことは、何だろう。



お金とかではなく、助け合える家族がよいと思う。



お互いを大切にして、みんなが家族のためにできることをする。

- 5 本時で扱った道徳的価値に対する思いや願い、考えを振り返る。

- これから家族の一員として、どのような気持ちで生活していきますか。

【振り返り】の一例

- ・ 家族に優しくして、協力できるようにしたい。
- ・ 家族にたくさんのをやってもらっているから、家族のためにお手伝いできるようにしたい。

中学校 第3学年 主題名：自己を見つめる
 内容項目：A 向上心、個性の伸長
 教材名：『ぼくにもこんな「よいところ」がある』

【ねらい】

友達への見方の変化を「ぼく」の姿から考え、長所へと目を向ける体験的な活動を通して、自分の個性を更に伸ばしていこうとする心情を育てる。

- 1 本時で扱う道徳的価値について、問題意識をもつ。
 ●「自分の長所と短所」のアンケート結果を提示する。
 ○アンケートの結果から、どのようなことに気が付きませんか。

【問題意識】

長所よりも短所の方が多いな。なぜ、短所の方が多いのだろう。

【めあて】

自分の個性を更に伸ばすには、何が必要だろう。

- 2 教科書の教材文の範読を聞く。
 3 教材を通して、道徳的価値についての考えをもち、交流する。

- 「ぼく」の長所と短所は何ですか。

- ◎「ぼく」は、「これまでとは違って落ち着いた気持ちでいることができる」と感じたのはなぜだろうか。



友達が、自分の「よいところ」を書いてくれて、自分に自信がもてたから。

- ◇なぜ自信がもてたのでしょうか。

自分が友達から認められているということに気付いたから。



- 体験的な活動「短所も見方を変えれば長所になる」を行う。
 ◇「ぼく」は、どのように気持ちが変わったのでしょうか。



「怒りっぽい」は見方を変えると、「情熱的」だよ。

そんな風に言ってもらえて嬉しい。ありがとう。



友達の「よいところ」を見るようになった。



大きな心で、前向きに考えるようになったと思う。

- 4 道徳的価値に対する多様な意見を知り、学習のめあてについても一度考える。

- 自分の個性をさらに伸ばすためには、どのようにしたらよいでしょうか。



自分が短所だと思っている中にも、よいところを見つける。



相手のよいところを見るようにし、自分のよいところもさらに伸ばしていく。

- 5 本時で扱った道徳的価値に対する思いや願い、考えを振り返る。

- これからはどのように生活していきたいですか。

【振り返り】の一例

- ・ 短所の見方を変えていきたい。
- ・ 短所も個性として前向きに考えたい。
- ・ 長所を更に伸ばすために、積極的に行動したい。

特別の教科 道徳

3 学習過程と教科書との関連

道徳科は、2学年をまとめり（小学校）として、内容項目との関係が明示されて配列されています。教科書では、一年間で学習すべき内容が網羅されています。主たる教材として、原則教科書を使用します。



	活用例について
年度始	・学習を始める前に、学び方や目次を使って、道徳科授業の特色や「考え、議論する道徳」の授業について説明するなど、オリエンテーションを行うことができる。
導入	・主題（名）をおさえた上で、この教材で何を考えるのかが明示されているものが多いため、導入の発問として活用することができる。 ・問題意識をもたせるために、挿絵の図、写真、イラストなどを効果的に活用することができる。
展開	・内容把握のために、挿絵などを活用して登場人物を紹介することができる。また、友達と協働したり対話したりする時間を確保することもできる。 ・簡単な考えをまとめるために、吹き出しなどを活用することができる。 ・本時で考えさせたい中心発問が示されている場合は、活用することができる。 ・教材文の次に発問例がある場合は、児童生徒の実態に応じて活用することができる。
終末	・自己評価などを活用して、学習した内容について振り返る活動を行うことができる。
学期末 年度末	・道徳科で学んだことを、「家族からの意見」などを活用し、家庭や保護者に向けて伝える活動ができる。 ・「一年間のまとめ」などを活用し、自己の成長について振り返ることができる。

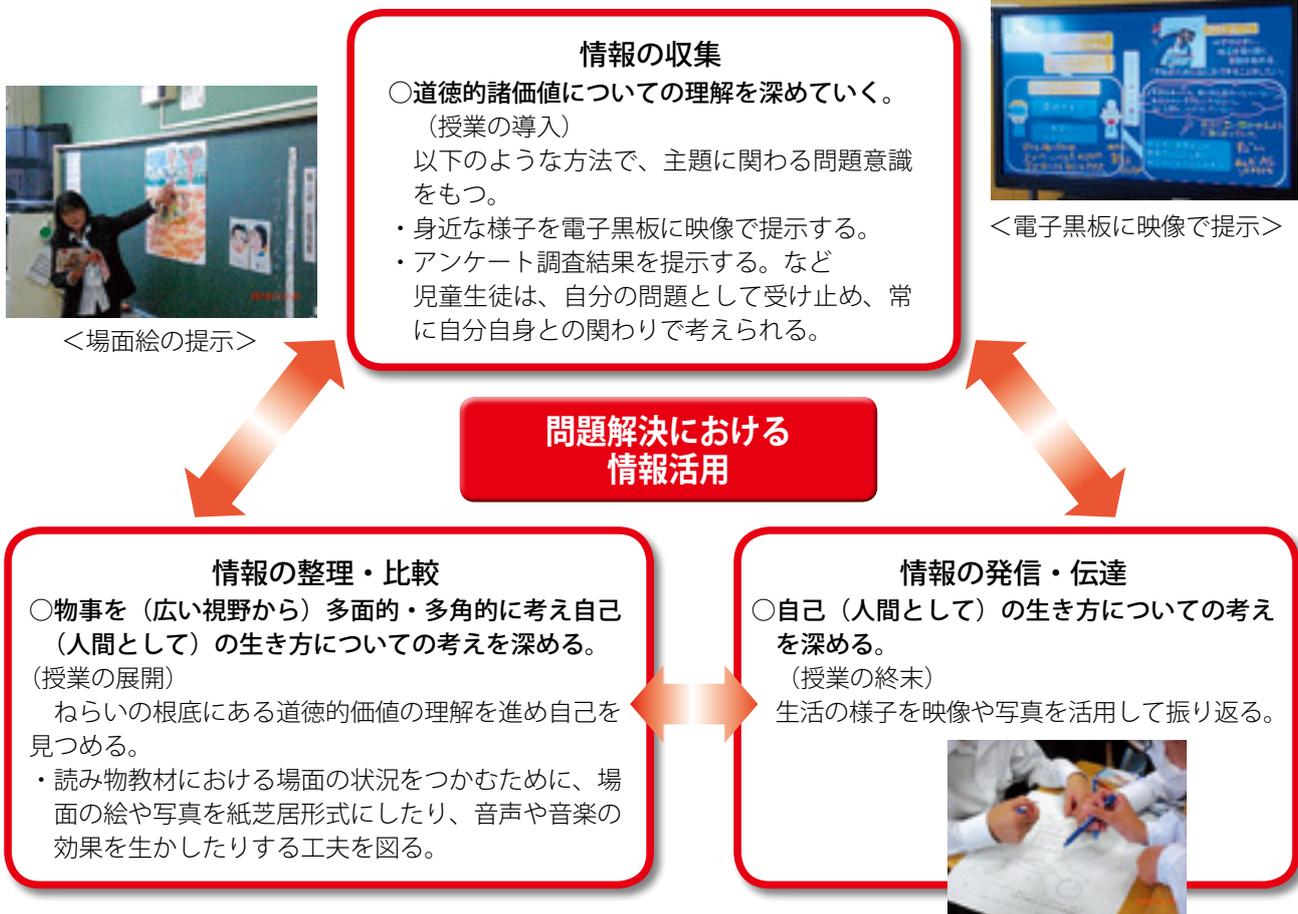
4 学習活動を行う場合に生じる困難さに応じた指導の工夫【例】

困難さ	指導の工夫
指導する上で 相手の気持ちを想像することが苦手で、字義通りの解釈をしてしまうことがある。	他者の心情を理解するために役割を交代して動作化、劇化する。 ルールを明文化して示す。 例) 授業でのルールを文字化して示す。 ・意見を言うときは、手を挙げる。 ・友達の意見を悪く言うことはしない。 ※日頃から、意見が言いやすい温かな雰囲気 of 学級づくりを心がけましょう。
学習を進める上でのルールを理解できない場合がある。	
評価の際 多面的・多角的な見方へ発展させたり、道徳的価値を自分のこととして捉えたりすることが難しい。 （前述のような配慮を伴った指導を行った結果として）相手の意見を取り入れつつ自分の考えを深めることが難しい。	相手の気持ちを想像することが苦手であることや、望ましいとわかかっていてもそのとおりにできないことがあるなど、一人一人の学習上の困難さの状況を踏まえる。 児童生徒、個人がいかに成長したかを積極的に受け止めて認め、励ます「個人内評価」を十分に意識する。



5 情報活用能力の育成

道徳科の学習における情報とは…学習で扱う道徳的価値についての考え方



情報モラル・セキュリティ

学習活動を支援する手段の一つとしてICT機器を効果的に活用する。
ポイント

- 内容項目との関連を踏まえ、情報モラルに関する指導を充実させる。
- 道徳科は道徳的価値の理解を基に自己を見つめる時間です。その特質を踏まえた指導を行うことが大切。
- ※単に危機回避の方法やその際の行動の具体的な練習を行うことなどに主眼を置くのではないことに留意する。

〈例〉親切、思いやり／礼儀

相手の顔が見えないメールと顔を合わせた会話との違いを理解し、メールなどが相手に与える影響について考えるなど、インターネットなどに起因する心のすれ違いなどを題材とした授業。

〈例〉規則の尊重

インターネット上の法やきまりを守れずに引き起こされた出来事などを題材とした授業。

基本的な操作 〈例〉

- コンピュータによる疑似体験を取り入れた学習
⇒メールの送受信
- 学習後に、教材の内容をさらに調べ、広げる
⇒情報通信ネットワークを使ったインターネットの閲覧

問題の根底にある他者への共感や思いやり、法やきまりのもつ意味などについて、児童生徒が考えを深めることができるようにすることが重要。

特別の教科 道徳

6 地域の人材や物的資源の活用

道徳科の授業では、積極的な情報発信による「社会に開かれた教育課程」の実現を目指します。そのため、家庭や地域と連携を図ることが大切です。目指す児童生徒像や学校の実態に応じた重点内容項目を踏まえて、家庭や地域社会との連携を推進していきます。

具体的には、アンケートや手紙の協力を得たり、授業への出席を依頼し、児童生徒との対話や班別協議に加わってもらったりします。



内容項目視点	活用が考えられる地域の人的な資源	活用が考えられる地域の物的な資源
A 主として自分自身に関すること	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者などの家族 ・地域における著名人 	<ul style="list-style-type: none"> ・携帯電話会社等（情報モラル）
B 主として人との関わりに関すること	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者などの家族 ・地域における著名人 ・ボランティア経験者 	<ul style="list-style-type: none"> ・福祉施設 ・ボランティア団体 ・NPO法人
C 主として集団や社会との関わりに関すること	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者などの家族 ・地域における著名人 ・ボランティア経験者 ・特技や専門知識がある方 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域に受け継がれている文化や伝統芸能 ・博物館、資料館 ・ボランティア団体 ・NPO法人
D 主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関すること	<ul style="list-style-type: none"> ・医師 ・助産師会 ・地域の先人 	<ul style="list-style-type: none"> ・病院 ・いのちの大切さ出前講座：県助産師会 ・動物ふれあい推進事業：県獣医師会 ・博物館、資料館

地域教材の開発や活用

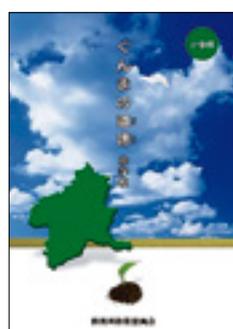
〈例〉・郷土資料集「ぐんまの道徳」の活用

「ぐんまの道徳」は、群馬県の偉人や自然、伝統文化等を教材として小学校及び中学校の各学年段階ごとに作成された読み物資料である。

郷土の伝統と文化を尊重し、それらを育んできた我が国や郷土を愛する態度を育成することが大切です。

道徳郷土資料集『ぐんまの道徳』を年間指導計画に位置付け活用

<http://www.cms.gsn.ed.jp/nc/GTaK/hdocs/>



「ぐんまの道徳」に入っているお話

中学校	小学校5・6年	小学校3・4年	小学校1・2年
<ol style="list-style-type: none"> ① 多湖湖の保存に尽くす（多湖湖） ② 伊勢崎踏切ごっこに（伊勢崎） ③ 近代日本の発展のために（近代日本） ④ 天明の大飢饉（天明の大飢饉） ⑤ 久米邦武の夢（久米邦武の夢） ⑥ 新しい日本文学をめざして（新しい日本文学） 	<ol style="list-style-type: none"> ① 農業の発展のために（農業の発展） ② 自費の校（自費の校） ③ またまたおうち（またまたおうち） ④ 飛行機王（飛行機王） 	<ol style="list-style-type: none"> ① 上三原田の歌舞伎舞台（上三原田の歌舞伎舞台） ② りっぱなまゆをつくりたい（りっぱなまゆをつくりたい） ③ 世界遺産の富岡製糸場（世界遺産の富岡製糸場） ④ 字を書きたい（字を書きたい） 	<ol style="list-style-type: none"> ① うみ（うみ） ② えんぎたまたま（えんぎたまたま） ③ けぼたけの おゆ（けぼたけの おゆ） ④ へやざぶししの れんしゅう（へやざぶししの れんしゅう）

総合的な学習の時間

the Period for Integrated Studies

総合的な学習の時間は、各教科等で育まれた資質・能力を働かせ、教科等の枠を超えた横断的・総合的な学習を行う時間です。答えや解決方法が1つに定まらない探究課題に主体的・協働的に取り組むことを通して、よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていく児童生徒の姿が望まれます。

そのためには、各学校の教育目標や、地域の実態を踏まえながら、児童生徒が実社会や実生活の中から見いだした疑問や関心に基づいて自ら課題を立て、その解決に向けて情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現する活動を発展的に繰り返すことができる探究的な学習の充実を図ることが大切です。

【総合的な学習の時間のページで使用されている用語解説】

探究課題	国際理解、環境、福祉、地域の人々の暮らし、伝統と文化等、従来「学習対象」として説明されてきたもの。学習指導要領の改訂において「探究」を重視するために言い換えられた。
探究的な学習	<p>問題解決が発展的に繰り返されていく一連の活動であり、物事の本質を探り見極めようとする知的営み。</p> <p>目標の実現のために各学校が設定した探究課題の解決に向けて「課題の設定」「情報の収集」「整理・分析」「まとめ・表現」といった学習活動を発展的に繰り返していくもの。(下図参照)</p> <p style="text-align: center;">探究的な学習のイメージ図</p>
課題の設定	日常生活や社会に目を向けた時に湧き上がってくる疑問や関心に基づいて自ら課題を見つけ、解決への見通しをもつ。
情報の収集	課題の解決に向けて必要な情報を集める。
整理・分析	収集した情報を比較・分類したり、知識や技能に結び付けたり、考えを出し合ったりしながら課題の解決に取り組む。
まとめ・表現	明らかになった考えや意見などをまとめたり、表現したりするなどしてこれまでの取組を振り返り、新たな課題を見つけ、更なる課題の解決を始める。

総合的な学習の時間

1 単元のつくり方

総合的な学習の時間の単元は、第1章の2で示すBパターンの構想が多くなります。「つかむ」過程では、探究課題との出会いを基に単元の課題を設定します。「追究する」過程では、4つの探究のプロセス（課題の設定—情報の収集—整理・分析—まとめ・表現）を発展的に繰り返すことで、単元の課題の解決に向けた活動を進めます。最後の「まとめる」過程では、「つかむ」過程で設定した単元の課題を基に取組をまとめ、自分たちの変容を振り返ります。

答えが簡単には出ない大きな課題の解決に取り組んでいく探究的な学習では、子供たちの思い等、様々な状況により、計画を変更することもあります。主体的な学習にするためにも、途中での変更ができるような柔軟な単元計画とすることが大切です。

過程と基本的な学習活動 子供の意識・思考

1 探究課題と出会い、単元の課題を把握する。

- ①探究課題と出会う。
- ◇共通体験活動を行う。
 - ◇専門家の話を聞く。 など



- ・○○はおもしろそうだな。
- ・△△は初めて知った。すごいな。
- ・□□みたいになりたいな。

- ②単元の課題を把握する。
- ◇気付きや疑問を出し合う。
 - ◇理想と現実を比べる。 など



- ・もっと○○してみたいな。
- ・△△を何とかする方法はないかな。
- ・□□の役に立ちたいな。

【単元の課題】
探究課題との出会いから導き出された単元を通して探究する内容

- ③追究の見通しをもつ。
- ◇どのようなことに取り組んでいくか、解決に向けた予想や仮説を立てる。 など



- ・○○すれば△△できるかもしれない。
- ・□月までには解決できるといいな。
- ・最後は◇◇ができるといいな。

2 単元の課題に基づき、個人・グループ等での課題を設定し、追究する。

- ①課題の設定
- ◇追究の見通しを基に、自らが取り組む課題（個別課題）を設定する。

【課題】



- ・○○の原因を調べてみよう。
- ・なぜ△△のようになるのだろう。
- ・□□が分かれば解決できるかも。

◇何をどのように追究するか、具体的な見通しをもつ。

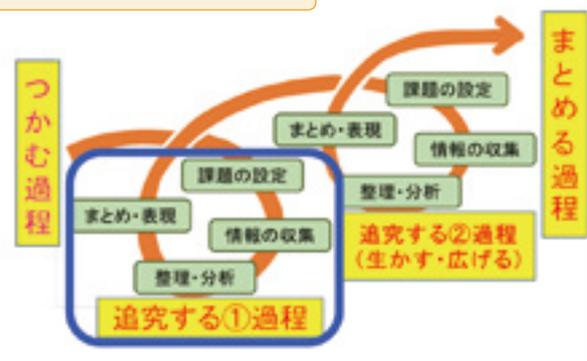
主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善のポイント

- 共通の体験活動を設定したり、専門家を招いたりするなど、探究課題と出会う場面を設定し、今の考えとの「ずれ」や「隔たり」、「憧れ」や「可能性」について感想を共有させる。

- 答えが1つではなく簡単には解決できない課題になるように、複数の活動を想定した大きなスケールの単元の課題とする。
〈大きなスケールの単元の課題の設定例〉
・「～名人（博士）になろう」
・「地域の～を世界に広げよう」

- 単元の課題の達成に向けて、様々な可能性を想定させる。
- 教師が活動内容や学習の流れをすべて決めず、子供の思いを大切に、子供と共に計画を立てる。

探究のサイクル（1回目）



- 取り組んでいく課題や解決方法を整理する際には、考えるための技法を活用させる。 **P162を参照**
- 課題を解決した姿（ゴールイメージ）を出し合い、見通しをもたせる。

追究する①

②情報の収集

◇設定した課題の解決に向けた見通しを基に必要な情報を収集する。



- ・インタビューした内容を文章にして残そう。
- ・インターネットで最新情報を集めよう。
- ・必要な情報を○○をやって集めよう。

③整理・分析

◇収集した情報や考えを整理・分析する。



- ・自分は○○だけど、友達はどうだろう。
- ・△△の原因は□□だからかも。
- ・◇◇と●●はつながっているんだ。

④まとめ・表現

◇設定した課題に対する取組をまとめたり、実践したりし、新たな課題につなげる。



- ・分かったことを○○に伝えたい。
- ・△△だから□□した方がよい。
- ・もっと◆◆してみたい。

- 他者からの多様な情報収集ができるように、観察、実験、見学、調査、追体験などを必要に応じて取り入れる。

- 比較・分類による整理やそれぞれの関連付けによる分析など、情報を活用して思考できる活動を適切に取り入れる。
- 収集した情報を可視化・操作化するための「考えるための技法」を意識的に取り入れる。

P162を参照

- 相手を意識するとともに、目的を明確にして、まとめや表現、実践方法を考えさせる。
- 設定した課題に対する実現状況を振り返らせることで、新たな課題につなげられるようにする。

追究する②

【生かす・広げる】

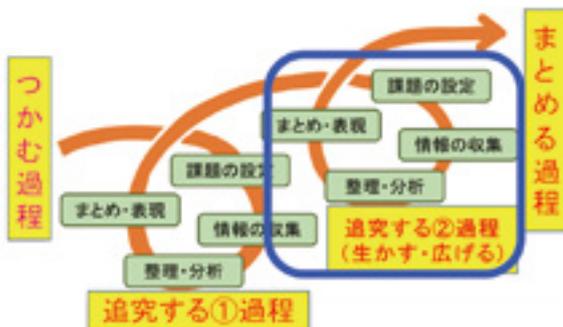
3 新たな課題を見だし、継続して追究する。

【課題】

- ①課題の設定
分かってきたことを基に、○○してみたい。
- ②情報の収集
△△するために足りない部分をもっと調べてみよう。
- ③整理・分析
□□について、より効果的な方法は、こうすればいいのか。
- ④まとめ・表現
自分たちの活動をもっと広げていけるといいな。



探究のサイクル（2回目以降）



- 1回目の探究のサイクルより発展的な課題となるように、**活動の広がり**を意識して新たな課題を見いださせる。

〈例〉自分→学級→学校→地域（空間的広がり）
過去→現在→未来（時間的広がり）

※ 2回目以降は、1回目の学びを発信する課題になることが多い。
（ポスター、チラシ、イベント参加等）

まとめる

4 単元全体の学習を振り返る。

◇単元全体の学習を振り返り、自分の変化や成長を見つめ直す。



- ・学習をする前は○○だったけれど、今の自分は△△に変わってきたよ。
- ・この学習を通して、□□の力が身に付いたと思う。
- ・この学習で学んだことは、◇◇の中で生かしていけるかもしれない。
- ・次は●●についてやってみたいな。

- 蓄積しておいた学習記録や他者評価等で自分の成長を振り返る場面を設定する。
- 達成感や自信をもたせ、自分のよさや可能性に気付かせ、自らの生活や行動について見直す機会とする。

総合的な学習の時間

小学校 単元例 (第5学年)

単元「目指せ、住みよい〇〇市～身近な環境に目を向けて～」(全30時間計画)

つかむ過程
(4時間)

追究する①過程
(13時間)

1 探究課題と出会い、単元の課題を把握する

①探究課題と出会う。

◇校区内でごみがたくさん落ちている場所や、汚れている場所を予想する。

毎日通る道路は、汚れてないな。学校の周りは、いつもきれいだと思うけどな。



◇実際に調査に出掛け、地域のごみ等の環境に関する実態を調べる。

自分たちの地域はきれいだと思っていただけども、ごみが多かったよ。



②単元の課題を把握する。

◇ゲストティーチャーから話を聞き、市のごみ問題について話し合う。

ごみの出し方や量など、問題が多いことが分かったよ。



【単元の課題】

ごみ問題ゼロを実現させ、住みよい〇〇市にしよう
～ごみ問題ゼロへの道～

③追究の見通しをもつ。

◇市のごみ問題を整理する。

【ごみ問題】

・ごみの量 ・ごみの分別 ・ポイ捨て

自分たちが住む市には様々な問題があり、ごみ問題ゼロに向けて、まずは市の取組を調べていこう。



2 単元の課題に基づき、個人・グループ等での課題を設定し、追究する。

①課題の設定

◇ごみ問題が解決した姿を考え、取り組むべき課題についてグループで話し合う。

【課題】(グループ例)

自分たちの地域が抱える「ごみの量」の問題の現状を知ろう。

ごみの量の現状を知るために、自分たちの地域や他の地域の現状や取組を調べたいな。インタビューや現地調査ができるな。



②情報の収集

◇現地調査や家庭でのインタビューを行い、市の取組を調べる。

◇尾瀬に行き、環境を守るための取組について調査する。

ごみ収集や処理などについて学習したけれども、自分たちができることも調べたいな。



③整理・分析

◇市や他の地域の現状や取組について調べたことを比較し、よりよい取組を話し合う。



自分たちの地域と他の地域とを比べるとごみの量を減らすために大切なことが分かってきたな。

④まとめ・表現

◇ごみ問題を解決するための取組をまとめ、発表をする。

◇単元の課題が達成できたかを自己評価する。

実際に自分たちや地域の人々が取り組まなければごみ問題ゼロにはならないと思うな。



【目標】

地域の環境についての現状や取組を調べ、地域の環境を守る人々の思いを知り、環境をよくする取組を考え、実践することを通して、地域への愛着と地域の一員として貢献する態度を養う。

追究する②【生かす・広げる】過程 (12時間)

3 新たな課題を見だし、継続して追究する。

①課題の設定

◇これまでの学習を基にごみ問題ゼロを実現させるために、地域の方へ発信する方法を話し合う。

【課題】(グループ例)

「ごみ問題ゼロを広めようプロジェクト」を実現するために、何をどのように発信したらよいのだろう。



自分たちの調べたことや考えた取組などをもっと多くの人に知ってもらいたいな。

②情報の収集

◇自分たちの取組を広めるために調査をしたりインタビューをしたりする。

市の方もごみの出し方などいろいろな方法でみんなに分かりやすく伝えているな。参考にしたいから聞いてみよう。



③整理・分析

◇自分たちの取組のよさ・効果や実現可能性を話し合う。



自分たちが考えた取組は、ポスターやチラシにしてみんなに伝えるようにしたいな。

④まとめ・表現

◇「ごみ問題ゼロを広めようプロジェクト」における自分たちの取組を実践したり発信したりする。

地域の人たちにたくさん実践してもらえてうれしいな。



まとめる過程 (1時間)

4 単元全体の学習を振り返る。

◇これまでの学習を、ファイルや掲示物等から振り返り、頑張ったことや成果を話し合う。

ごみ問題について調べただけではなく、地域の人たちに回覧板で伝えられたのがよかったね。



◇「つかむ」過程で自分たちが考えていたことと現在を比べ、考えが変わったことや成長したことをワークシートにまとめる。

「つかむ」過程における子供の意識



ごみの量は意外に多かった。何でだろう。



私たちの地域のごみ問題ゼロを達成しよう。

「まとめる」過程における子供の意識



ごみの量を減らすことは、自分たちの身近な環境をよくすることにつながるな。



思っていたよりごみ問題ゼロを達成するのは難しいことが分かった。でも、地域の人たちと協力してできて楽しかった。前より、〇〇市が好きになった。

総合的な学習の時間

中学校 単元の例 (第2学年)

単元「地域のためにできること～これからの自分と地域に必要なこと～」(全45時間計画)

つかむ過程
(4時間)

追究する①過程
(23時間)

1 探究課題と出会い、単元の課題を把握する

①探究課題と出会う。

◇地域の偉人である高山長五郎の生き方を知る。

長五郎はお金のためでなく、地域のために働いたのはなぜだろう。



◇「高山社」に行き、話を聞く。

地域のためにたくさんの研究をしたんだな。



②単元の課題を把握する。

◇地域と人を大切にされた高山長五郎の生き方を基に、自分たちの地域の問題点について話し合う。



長五郎のように地域貢献できる人になりたいな。

【単元の課題】

自分たちの地域の問題点を捉え、地域のためにできることをしよう。

③追究の見通しをもつ。

◇地域の問題点を解決するために必要なことを考える。

【地域の問題】

・高齢化 ・少子化 ・労働力
・経済 など

地域の問題を整理すると分かりやすくなるな。



2 単元の課題に基づき、個人・グループ等での課題を設定し、追究する。

①課題の設定

◇予想される地域の問題点を基に、個人の課題を考える。

【課題】(個人例)

高齢化に向けて地域の飲食店できている対策を伝えるには、どうしたらよいだろう。

地域には高齢化という問題があるな。どうすれば高齢化に対応できるかを考えていきたいな。



②情報の収集

◇職業体験の中で、働いている人に地域の問題点について質問する。



飲食店では、メニューを見やすくしたり段差をなくしたりして、高齢化の対策をしているのだな。

③整理・分析

◇職業体験での調査で得た情報を基に、地域の問題点の解決策について話し合う。

自分が行っていない事業所でも、高齢化の対策をしているな。



④まとめ・表現

◇地域に関わる問題点について提言書としてまとめ、提出する。

◇市役所の方から提言書の評価とポイントを聞き、さらにより提言書について考える。

アドバイスを聞き、提言書では足りないところが多いので、もう一度考えなければいけないな。



【目標】

地域の現状や問題点を捉え、それを解決するための具体策を考えることを通して、将来に向けてこれからの自分の生き方や地域について見つめ直すことができるようにする。

追究する②【生かす・広げる】過程 (16時間)

3 新たな課題を見だし、継続して追究する。

①課題の設定

◇提言書に必要なことを話し合い、新たな課題を明らかにする。

【課題】(個人例)

地域が高齢者と若者の集える場所になるには、どのような提言書にすればよいただろう。

中学生として、実現可能な提案を考えていきたいな。



②情報の収集

◇関係機関などの方から意見を聞いたり、事業所に再度インタビューをしたりする。



リハビリ施設の職員にお年寄りか過ごしやすい場所についてのアンケートを採るとよいな。

③整理・分析

◇前回の提言書と比較したり、地域の方からのポイントに照らしたりして提言書を見直す。

様々な施設にはボランティアの方がいるので、中学生ボランティアの活用について提案していきたいな。



④まとめ・表現

◇新提言書を作成し、市役所の方から評価をもらう。
◇地域に自分たちの提言を発信する。

自分たちの視点から提言書ができたな。この中で自分たちでもできることを今後も続けていきたいな。



まとめる過程 (2時間)

4 単元全体の学習を振り返る。

◇今までの活動をグループごとに振り返り、それぞれの取組を基に地域への思いなどをまとめる。

体験した職場では、ただ仕事をするだけでなく、地域や未来のことも考えていることが分かった。



◇「つかむ」過程で自分たちが考えていたことと現在を比べ、考えが変わったことや成長したことを作文や図にまとめる。

「つかむ」過程における子供の意識



自分たちにできる地域貢献ってなんだろう。



地域には様々な問題がある。将来が心配だな。

「まとめる」過程における子供の意識



地域には、地域のために様々な取組をしている人がいると知った。自分も〇〇さんのように地域のために働ける人になりたい。



地域の問題を解決するのは簡単ではなく、時間がかかることが分かった。これからも地域のためになる取組を考え続けていきたい。

総合的な学習の時間

※「2 単位時間について」「3 教科書の活用について」の項は総合的な学習の時間の中では示していません。

4 学習活動を行う際に生じる困難さに応じた指導の工夫【例】

困難さ	指導の工夫
調べたり、まとめたりすることが難しい場合	・調べ方やまとめ方の例を具体的に示し、それらを選択したり、参考にしたりできるようにする。
学習に対する関心を広げることが難しい場合	・児童生徒の関心あることを中心に置き、学習内容との関連を示すようにする。
集めた情報を自らの考えにしたがって扱うことが難しい場合	・様々な情報を選ぶ視点を具体的に示したり、情報を可視化し操作化できるように示したりする。
自らの学習を振り返ることが難しい場合	・学習記録（ノート、ワークシートなど）を整理させ、それを活用して、学習前、学習中、学習後の自分を比較しながら振り返らせる。
落ち着いて人前で話すことが難しい場合	・人前で話すことへの不安を軽減させるために、発表内容を紙面に整理させ、紙面を見ながら発表できるようにする。

「困難さを補う」視点と併せて、「得意なことを生かす」という視点をもって指導の工夫をしましょう。



子供の困り感に寄り添い、学習への安心感を与えられる指導を心掛けましょう。



5 情報活用能力の育成

総合的な学習の時間における情報とは…
探究課題の解決に必要な教科等の枠組みを超えた幅広い知識

基本的な操作〈例〉

- 情報の収集・記録
⇒インターネットなど、多様な手段による情報収集
⇒デジタルカメラなどを活用した記録
- 情報の整理
⇒必要な情報を整理（数値情報をグラフ化など）
⇒プレゼンテーションソフトウェアによる資料作成
- 情報の発信
⇒インターネット等を活用した発信

情報の収集

- ・直接体験（見学やインタビュー）や図書などから必要な情報を得る。
- ・手書きの記録と併せて、情報を記録する機器を用いて情報収集する。

情報モラル・セキュリティ

- ・情報を扱う際に、自分や他者の権利を考えさせる場面を設定する。
- ・情報が社会に与える影響を考え、責任を持って情報を発信できるようにさせる。など

問題解決における情報活用

情報の整理・比較

- ・入手した情報の重要性や信頼性を吟味し比較・分類する。
- ・複数の情報を関連付けたり組み合わせたりして新しい情報をつくる。

情報の発信・伝達

- ・探究的な学習の目的に応じて、身近な人に発表したり、広く発信したりさせる。
- ・発信する情報の受け手の状況を推察して、発信する情報を確認する。

プログラミング

（小学校における取扱い）

プログラミングを体験しながらそのよさや課題に気づき、現在や将来の自分の生活や生き方とつなげて考えられるように、探究的な学習の過程に適切に位置付ける。

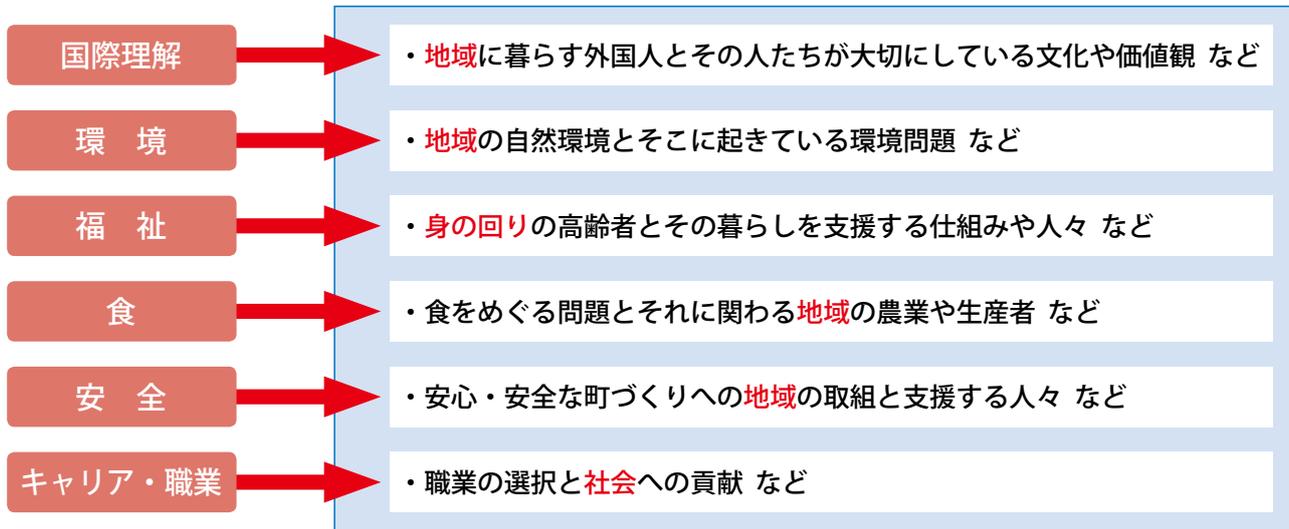


6 地域の人材や物的資源の活用

総合的な学習の時間では、教科等の枠を超えて、学校や地域のよさや特色に応じた探究課題を設定して、自己の生き方と関わらせながら、よりよい解決に向けて学習活動を展開することが重要です。積極的に地域の人材や物的資源を活用しましょう。

<現代的な課題の例>

<地域の人材や物的資源を有効活用する探究課題の例>



<地域の資源を有効に活用するための連携・協力>

日常的な関わり

担当者や組織の設置

適切な打合せの実施

学習成果の発信

【参考】本県の総合的な学習の時間に活用できる教育資源のリスト

◎多様で幅広い学習活動の実現のために、地域の資源を積極的に活用するとともに、必要な協力を求めましょう。
(活用可能な本県の事業リストは、こちらのURLからダウンロードしてください。↓)

http://www.nc.gunma-boe.gsn.ed.jp/?action=common_download_main&upload_id=1830

「はばたく群馬の指導プランⅡ」 地域の人材や物的資源を活用しよう 【県の事業一覧】

平成29年3月に改訂された学習指導要領では、学校における教育の質的向上を図るため、カリキュラム・マネジメントの一環として地域の人材や物的資源を積極的に活用することの重要性が述べられています。以下は、各教科・領域の授業で活用できそうな県の事業一覧です。自校の教育活動を進めるに当たり役立てることができそうなものがありましたら、積極的に活用してください。なお、詳細については、各課へ直接お問い合わせください。

事業名	概要	対象	担当課・係等	TEL/Eメール
1 出前なんでも講座	県職員が地域の団体や学校等に出向き、県政等についての説明や情報提供を行います。講座のメニューは、各学校へ冊子を配布しているほか、県ホームページにも掲載しています。	講座により異なりますので、メニュー表(冊子)をご確認いただくか、担当課までお問い合わせください。	広報課 広聴・インターネット係	027-226-2176 kouhouka@pref.gunma.lg.jp
2 選挙出前授業	将来の有権者である小・中学生の選挙や政治に関する理解を深め、政治的判断能力の向上を図ることを目的とした授業を実施します。対象となる児童や生徒に応じて授業内容が選択できるよう、複数の授業モデルを提供しています。	小・中学生、 高校生、大学生	県選挙管理委員会	027-226-2218 senkan@pref.gunma.lg.jp
3 国際理解講座	県国際交流員(CIR)が外国の生活・文化などについて、小・中学生及び高校生等に広く紹介することにより、国際理解の促進を図ることを目的に実施。	小学生～高校生	外国人活躍推進課	027-226-3396 gaikokuka@pref.gunma.lg.jp

群馬県には、世界遺産「富岡製糸場と絹産業遺産群」があり絹産業や絹文化

総合的な学習の時間

【参考】考えるための技法

以下のような様々なツールを活用することで、子供たちの思考が可視化され、協働的な学習がしやすくなるとともに、思考力、判断力、表現力等を育てることが期待されます。目的に応じて効果的に活用しましょう。

関連付ける：ウェビング

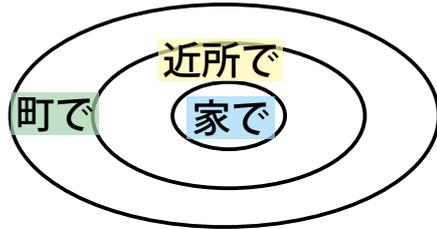
自分の町の特徴を見つけよう



1つのテーマを基にして、イメージを広げていくことで、テーマを多面的にとらえていくことができる。

広がりをとらえる：同心円チャート

〇〇についてできること



中心から外に向かって、地域の広がりや時間の流れを記入することで、広がりや変化をとらえることができる。

分類する：Yチャート

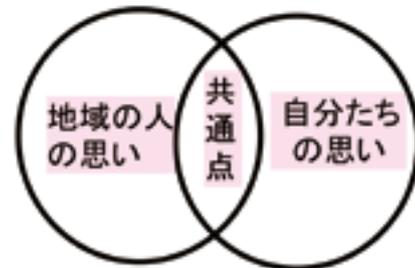
〇〇市の様子



多くの考えや情報を明確な視点で分類していくことができる。

比較する：ベン図

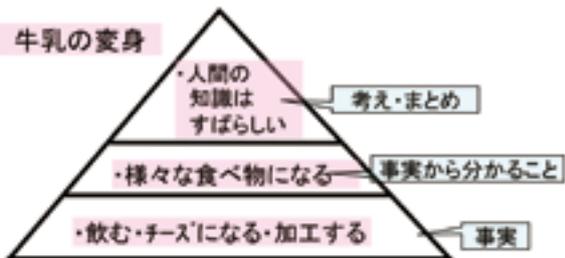
〇〇町の〇〇通りについて



異なる立場からの意見や情報を整理して、共通点や相違点を見付けることができる。

構造化する：ピラミッドチャート

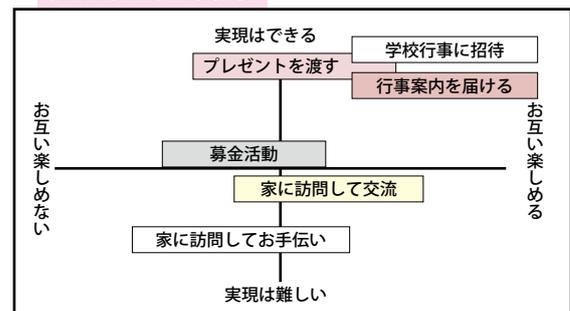
牛乳の変身



事実を基にして、段階的に自分の考え方をまとめていくことで、主張をかためていくことができる。

分類する：座標軸シート

お年寄りとの交流



さまざまな事柄を相互の関係性に気を付けながら整理、分類することができる。

学級活動

Class Activity

学級活動は、学級生活の充実と向上に向け、他者と協働したり、個人として努力したりしながら、よりよい学級や学校生活をつくる活動です。教師の適切な指導の下、自主的、実践的な活動を積み重ねることで、児童生徒の自治的能力や自己指導能力、自己実現の力を高めます。

そのためには、学級や学校生活における集団や個人の課題の解決に向け、集団で「合意形成」を図り協力して実践したり、一人一人が自己の課題の解決方法について「意思決定」して実践したりする活動を重視することが大切です。

【学級活動のページで使用されている用語解説】

学級活動の3つの内容	(1) 学級や学校における生活づくりへの参画 (2) 日常の生活や学習への適応と自己の成長及び健康安全 (3) 一人一人のキャリア形成と自己実現 (1) は全員で協力して楽しく豊かな学級・学校生活にするために、みんなで取り組みたいこと、つくってみたいこと、解決したいことなどの課題を取り上げる。(2) は現在の生活上の課題、(3) は現在及び将来を見通した生活や学習に関する課題を取り上げる。
合意形成	意見の違いや多様性を認め合いながら、折り合いを付け、集団としての考えをまとめたり決めたりすること。 内容 (1)
意思決定	話し合いで見付けた解決方法を参考にし、自分に合った具体的な解決方法を定めること。 内容 (2)(3)
計画委員会	話し合い活動を進めるための計画を立てたり、進行したり、準備をしたりする組織。一般的には、司会・記録(黒板・ノート)・提案者・教師で組織され、輪番制により、学級全員が経験できるようにする。
議題	学級活動(1)において、児童生徒が問題を発見し、学級の「共同の問題」として設定する課題。解決方法等について話し合い、折り合いを付けて、集団としての「合意形成」を図る。
題材	学級活動(2)(3)において、教師が個々の児童生徒の「共通の問題」として設定する課題。教師の指導に従って、解決方法等について話し合い、自己の課題に対する解決方法や努力目標を一人一人が「意思決定」する。

学級活動

学級活動には単元がないため、「1」では「事前の活動」→「本時の活動」→「事後の活動」の学習過程を示しています。

1 「(1) 学級や学校における生活づくりへの参画」の学習過程の作り方【例】

学級活動(1)の授業では、児童生徒が自分たちの学級や学校の生活をよりよくするために、問題を発見し、議題を設定し、話し合い、合意形成したことを協働して取り組むとともに、一連の活動を振り返り、次の課題の解決につなげることを通して自治的能力を育てます。

主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善のポイント

○児童生徒がよりよい学級や学校生活づくりに関わる必要感や切実感のある諸問題を見いだせるよう、以下のような視点を示す。
①やる活動(みんなですてみたいこと)
②つくる活動(みんなで作ってみたいもの)
③解決する活動(みんなで解決したいこと、生活を更によくすること)等

○計画委員が主体的に学級会を運営できるよう、教師の適切な指導の下、学級会の進め方の計画を立てさせる。

<活動計画の内容>

「学級会の役割分担」「提案理由」「話し合うこと」「話し合いのめあて」「決まっていること(日時や場所、内容)」等

<提案理由に入れる内容の例>

- ①現状の問題点(今、こうなっている)
- ②考えられる解決の方法(こうすることで)
- ③解決後のイメージ(こうしたい、こうなりたい)

※進行台本や板書計画等を事前に作成しておく。等

○一人一人が自分なりの意見や意思をもって、話し合いに臨めるよう、朝の会や帰りの会などの時間を活用して、学級会ノート等に議題に関する意見を書かせておく。

○合意形成できるよう、多様な意見を認め合い、互いのよさを生かしながら考え、伝え合う場を設定する。

○自分のよさを発揮したり、互いのよさや頑張り気付いたりできるよう、学級の一員として仲間と協力して準備したり、仲良く実践したりする場を設定する。

○振り返りの視点

<例>

- ・活動中に起こっていたこと(行動・態度・発言)や自身や仲間の感情 ※仲間へのフィードバックも含む。
- ・自分や学級の目標を達成できたかどうか。
- ・活動や実践によって自分たちは何が変わった(成長した)のか。
- ・自身や学級の次の目標の確認。等

話し合いの進行を円滑にするために～計画委員の充実～

計画委員を輪番制にすることで、話し合いの進め方を学級全員が経験し、司会以外の児童生徒が進行についてアドバイスするなど、進行がより円滑になります。

過程と基本的な学習活動

1 問題を発見・確認する。

◇問題を発見する。(計画委員会)

◇議題を選定する。(計画委員会)

事前の活動 ◇議題を決定する。(学級全員)

【議題】

◇活動計画を作成する。(計画委員会・提案者)

※計画委員会は、昼休みや放課後等に時間を見つけて行う。

◇問題意識を高める。

2 解決方法等を話し合う。

◇議題や話し合いの進め方を理解する。

◇解決方法等を話し合う。

P168 参照

3 解決方法を決定する。

◇集団として合意形成する。

本時の活動

4 決めたことを実践する。

◇合意形成したことを実践する。

5 振り返る。

◇一連の実践の成果や課題を振り返る。

一連の活動の振り返り

事後の活動

次の課題解決へ

小学校 第5学年

(1) 学級や学校における生活づくりへの参画
「議題 一番の思い出になる、最高の運動会にしよう」

<事前の活動>

1 問題を発見・確認する。

- ◇問題を発見する。(計画委員会)
みんなで解決したい議題を募集する。
- ◇議題を選定する。(計画委員会)
計画委員と教師が相談し、集まった議題の中で今の学級の現状を踏まえて議題を選定する。
- ◇議題を決定する。(学級全員)
解決すべきことかどうか、「議題ポイント」を基に考える。

議題ポイント (例)

- ・全員が関係しているか。
- ・学級や生活がよくなるか。
- ・自分たちで解決することができるか。

【議題】 一番の思い出になる、最高の運動会にしよう。

- ◇活動計画を作成する。

活動計画表を作成し、本時の進め方を決める。進行台本を作成したり、板書計画を立てたりする。

<活動計画表の項目例>

○ 議題	
○ 提案理由	
○ 司会グループ役割	
○ 話し合いのめあて	
○ 決まっていること	
	話し合いの順序
	気を付けること
1 はじめの言葉	
2 計画委員の紹介	
3 議題の確認	
4 提案理由の確認	
5 決まっていることの確認	
6 話し合いのめあての確認	
7 話し合い	
①意見の発表	
②整理、比べ合い	
③合意形成	
8 決まったことの発表	
9 振り返り	
10 先生の話	
11 終わりの言葉	

- ◇問題意識を高める。

議題についての意見を学活ノートに書く。教室の「学級活動コーナー」に議題や学級活動の日時等を掲示する。

<本時の活動>

- 2 解決方法等を話し合う。
- 3 解決方法を決定する。

P169 参照

<事後の活動>

4 決めたことを実践する。

- ◇目標の実現を目指し全員で協力して練習に取り組む。



5 振り返る。

- ◇一連の活動を振り返り、評価をする。
練習から運動会当日までを振り返って作文を書き、学級で共有する。

【運動会後の作文】(一部省略)

運動会が近くなっても練習がしっかりとできていなくて心配だったけど、みんなで話し合った結果、休み時間に練習することができ、当日もうまくできたと思います。「最高で一番の思い出に残る運動会」にすることができました。

中学校 第1学年

(1) 学級や学校における生活づくりへの参画
「議題 合唱コンクールの学級のスローガンを決めよう」

<事前の活動>

1 問題を発見・確認する。

- ◇問題を発見する。(計画委員会)
事前アンケートや議題ポストから、学級の問題を発見する。
- ◇議題を選定する。(計画委員会)
計画委員と教師が相談し、集まった議題の中で今の学級の現状を踏まえて議題を選定する。
- ◇議題を決定する(学級全員)
合唱コンクールに向けて学級全体で協力して取り組むには、学級のスローガンが必要であることを確認する。



【議題】 合唱コンクールの学級のスローガンを決めよう。

- ◇活動計画を作成する。(計画委員会・提案者)
朝の時間・昼休みなどの時間を有効に活用し、活動計画表を作成し、本時の進め方を決める。

<提案理由の例>

- ①現状の問題点(今こうなっている)
議題ポストに「合唱コンクールでどうしても学級が一つにまとまるか。」という意見が入っていた。事前アンケートで合唱コンクールの学級全体の課題として、「みんなの気持ちがそろっていない。」という意見があった。
- ②考えられる解決の方法(こうすることで)
学級で話し合っ、合唱コンクールの学級スローガンを決める。
- ③解決後のイメージ(こうしたい、こうなりたい)
学級が力を合わせて、合唱コンクールに臨めるようにしたい。

- ◇問題意識を高める。

教室の「学級活動コーナー」に議題や学級活動の日時等を掲示する。

<本時の活動>

- 2 解決方法等を話し合う。
- 3 解決方法を決定する。

P169 参照

<事後の活動>

4 決めたことを実践する。

- ◇スローガンの達成に向けて、学級で協働して、合唱コンクールに向けた実践(日々の練習・話し合い・他学年との練習)を行う。

5 振り返る。

- ◇一連の活動を振り返り、評価をする。
実践の過程でスローガンが意識できたかどうか、ワークシートを用いて自己評価する。練習から合唱コンクール当日までを振り返って作文を書き、学級で共有する。

【合唱コンクール後の作文】(一部省略)

このスローガンを決めて合唱コンクールを迎えられてよかったです。クラスがまだまだ一つになっていない時にスローガンを決めました。スローガンが決まってから、それに向けて気持ちが高まり、クラスが一つになった声を響かせられてよかったです。

1 「(2) 日常の生活や学習への適応と自己の成長及び健康安全」及び「(3) 一人一人のキャリア形成と自己実現」の学習過程のつくり方【例】

学級活動(2)、(3)では、児童生徒は学級での話し合いを通して、共通する課題を見だし、多様な視点から解決方法を見付け、自己の具体的な実践課題を決めて、粘り強く努力します。本時において、児童生徒一人一人が自分に合った具体的な実践目標を意思決定できるようにするとともに、自ら決めたことを実践して振り返り、自ら改善するための事後指導が重要です。

主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善のポイント

- 年間指導計画により、個々の児童生徒が共通に解決すべき問題として「題材」を設定する。
※児童生徒が直面している課題を取り上げる場合もある。
- 題材について学級の問題等を確認する。学級の実態把握に加え、養護教諭や栄養教諭、地域で働く人などの協力を得て事前調査し、専門的な知識や考えを生かす。
- 問題意識の共有化が図れるよう、題材と自分自身とのつながり（関係性）を理解させたり、将来を見据えた目的意識をもたせたりする。
- 本時の指導計画や資料を作成する。発達段階に応じ、計画委員等の自主的な活動を取り入れる。
- 問題意識を高められるよう、題材に関する自分の現状を考えたり、学級の現状を調べさせたりする。

- 自分に合った具体的な実践方法やめあてが決められるよう、仲間の意見や教師が提示した新しい解決方法に着目させる。

- 児童生徒が「自分もやればできる」「頑張ったよかった」などの自己効力感や自己肯定感をもてるよう、目標実現に取り組む姿を認め、励ます。
- 実践意欲の継続化を図れるよう、定期的に振り返りの時間を設け、自分が意思決定したことを確実に実践しているかどうか、自己評価カードに記入させたり、実践状況を話し合わせたりする。
- 児童生徒が活動を記録し、蓄積できる教材等（ポートフォリオ的な教材）の活用を図る。

過程と基本的な学習活動

事前の活動	1 問題を発見・確認する。 ◇題材を設定する。(教師) ◇問題を確認する。 ◇共通の課題を設定する。 <div style="text-align: center; background-color: #ffffcc; padding: 5px;">【共通の課題】</div> ◇活動計画を作成する。 ◇問題意識を高める。

本時の活動	2 解決方法等を話し合う。 ◇課題を把握する。 ◇原因を追求する。 ◇解決方法を見付ける。 P170 参照 3 解決方法を決定する。 ◇個人での意思決定をする。

事後の活動	4 決めたことを実践する。 ◇意思決定したことを実践する。 5 振り返る。 ◇実践を定期的に振り返る。 <div style="text-align: center; background-color: #ffffcc; padding: 5px;">一連の活動の振り返り</div>

次の課題解決へ

小学校 第5学年

(2) 日常生活や学習への適応と自己の成長及び健康安全

「題材名 給食の残量を減らすために自分たちにできることを考えよう」

<事前の活動>

1 問題を発見・確認する。

- ◇題材を設定する。
日によって給食を残す児童が多いことがある。そこで、給食は自分たちの健康のためにつくられているということに気づき、少しでも、苦手なものが食べられるようにするための工夫を考える。
- ◇問題を確認する。
給食の残量が多い日と少ない日があることから、好きな献立と、苦手な献立があることについて、実態把握をするためのアンケートを実施する。
- ◇共通の課題を設定する。
アンケート結果を基に、「苦手な献立の際に、給食を残してしまう人が多い。」という、共通の課題を設定する。

【課題】 給食を残さないように食べる工夫を考えよう。

- ◇活動計画書を作成する。
計画委員と教師が話し合い、活動計画書を作成する。
- ◇問題意識を高める。
学級活動コーナーに、家庭科の時間や保健体育の時間に学習した、「食物の栄養素やバランスのよい食べ方」についての資料を掲示しておく。
※給食の片付けの時の写真を撮っておき、本時に生かせるようにする。
※保護者にも協力を得て、家庭の献立で気を付けていることを聞いておく。



<本時の活動>

- 2 解決方法等を話し合う。
- 3 解決方法を決定する。

P171 参照

<事後の活動>

4 決めたことを実践する。 がんばりカード (例)

- ◇意思決定したことを実践する。
本時に決めた自己の目標を教室に掲示し、意識を高め、実現に向け、実践を行う。

5 振り返る。

- ◇実践を定期的に振り返る。
意思決定し、1週間実践したことの結果を自己評価したり、友達と認め合ったりする。

【振り返りの例】

みんなも、好き嫌いがあることも分かったし、苦手なものでも、食べた方が体にいいことも分かりました。苦手なものが一口でも食べられるように、みんなの食べ方の工夫を参考に挑戦していきたいです。

バランスよく食べよう

1 私の目標

給食の時、苦手なメニューでも一口でもいいから食べるようにする。

2 行動をふりかえろう。

1日	2日	3日	4日	5日
○	◎	○	△	○

中学校 第1学年

(3) 一人一人のキャリア形成と自己実現

「題材名 学校図書館を積極的に活用しよう」

<事前の活動>

1 問題を発見・確認する。

- ◇題材を設定する。
学校の図書室を読書や自主的な学習に活用している生徒が少ない。図書室のもつ機能(読書センター、情報センター、学習センター)に気づき、有効に活用していくためにどうすればよいかを考える。
- ◇問題を確認する。
図書室の利用に関する事前アンケートを行い、問題を確認する。

<アンケート項目の一部>

- ・図書室を週に何回くらい利用しているか。
- ・図書室をどのように活用しているか。
ア 好きな本を読んだり、借りたりしている。
イ 学習に必要なことや自分で知りたいことについて、図書や新聞等を使って調べたり情報を得たりしている。
ウ 図書室で情報や資料を得て、自分の考えを深めたり、調べたことをまとめたりしている。

◇共通の課題を設定する。

アンケートを集約し、「図書室を利用して読書している人が少ない」「図書室を利用して、情報を得たり、自主的な学習に生かしたりしている人が少ない」という学級全体が抱える共通の課題を設定する。

【課題】 図書室を積極的に活用して、読書に親しんだり、自分の学習を深めたりしよう。

◇活動計画書を作成する。

朝の時間・昼休みを活用して、計画委員と本時の進め方の相談をする。その際、活動計画書を作成する。

◇問題意識を高める。

学級活動コーナーに話し合いの題材や活動計画表を掲示する。

<本時の活動> 図書館司書とのチームティーチング

- 2 解決方法等を話し合う。
- 3 解決方法を決定する。

P171 参照

<事後の活動>

4 決めたことを実践する。

- ◇目標の実現に向け、粘り強く実践する。
自分が意思決定した目標の実現に向け、図書室を活用していく。

5 振り返る。

- ◇定期的に振り返る。
本時で使用したワークシートを用いて振り返りをする。

【振り返りの例】

以前は、月に1回程しか図書室に行かなかったけど、今は週に1、2回は図書室に行って本を借りるようになりました。これからは、図書室で授業で習ったことや興味をもったことなどについて調べたりまとめたりしてみたいと思います。

2 単位時間の作り方「(1) 学級や学校における生活づくりへの参画」【例】

学級会では、児童生徒から出された提案理由を基に、課題解決のための方法を話し合い、解決方法の決定を行います。基本的な話し合いの流れとしては、「つかむ」→「出し合う」→「比べ合う」→「まとめる（決める）」が考えられます。このような流れの中で学級として折り合いを付けて意見をまとめたり、合意形成を図ったりします。

【指導のポイント】

【つかむ場面について】

- 「話し合いのめあて」には、内容や方法に関わるものがある。
＜例＞
- ◆男女ともに楽しめる遊びとなるようにルールを工夫しよう。（話し合いの内容のめあて）
- ◆友達の意見のよさを生かして話し合おう。（話し合い方のめあて） 等

【多様な意見を引き出すための工夫】

- 提案理由に沿って、一人一人が付箋紙に自分の考えを書き、グループで分類・整理したり、小グループで意見交換したりさせる。
- 一人一人が事前に学級会ノートなどに書いた考えを短冊等に記入し、事前に掲示しておく。

【比べ合う場面について】

- 質問を通して、意見の内容やそこに込められている思いを理解させる。
＜例＞
- ◆「○○さんの意見は、△△ということではいいですか」 等

【まとめる（決める）場面について】

- 「自分もよくてみんなもよい」という合意形成ができるように、折り合いを付けさせる。

【折り合いを付けるために】

【折り合いを付けるための条件】

- 提案理由が合意形成をする際の根拠になっている。（何のためにするのか、何のために話し合うのか）
- まとめるための条件が明らかになっている。（いつ、どこで、何を、どのようにするか）

【合意形成のためのプロセスの例】

- ・新しい考えをつくる。（AとBの意見のよいところを合わせ、Cの意見をつくる）
- ・二つ以上の意見を合わせる。
- ・優先順位や時間を決め、順番に行う。
- ・多数決を行う。

【多数決について】

- ・意見が出し尽くされた状態で、多数決を行うことを全員が承認した場合に限り行う。多数決で決めたことは、必ず協力して行うことをはじめに確認させる。

基本的な流れ

1 つかむ

- 議題、提案理由、「話し合いのめあて」などを学級全体で確認させる。

＜進め方の例＞

- ①はじめの言葉 ②計画委員の紹介 ③議題の確認
- ④提案理由や「話し合いのめあて」の確認

「話し合いのめあて」

2 出し合う

- 一人一人の意見を発表し合う場を設定する。
- 発言の苦手な児童生徒が参加しやすい雰囲気をつくる。
- 理由を明確にして発表させる。その際、提案理由や話し合いのめあてに沿って言えるようにする。

3 比べ合う

- 出された意見の内容を共有させる。
- それぞれの意見を分類したり、整理したりして、互いの考えの違いや共通点を確認させる。

4 まとめる（決める）

- 最終的に折り合いを付けるなどして、集団としての「合意形成」を図り、全員の総意としてまとめさせる。
- 話し合いで決定したことを確認させる。
- 話し合いの振り返りをさせる。（学級会ノートや、振り返りカードの活用）

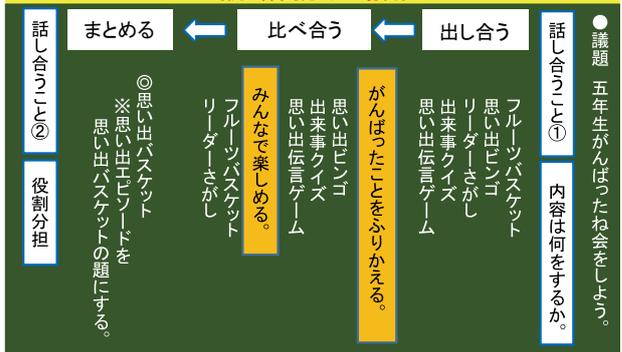
【振り返り】

【先生の話】

- 発達の段階や学級の実態を踏まえながら、学級会でよかったことや次回への課題などを具体的に伝える。
- 司会グループへの賞賛、学級全体へ実践意欲を高める声かけをする。

意見の分類の方法(思考の可視化・操作化・構造化)

【例 仲間分けの場合】



小学校 第5学年

(1) 学級や学校における生活づくりへの参画
「議題名 一番の思い出になる、最高の運動会にするために」

【ねらい】

運動会に向けての話合い活動を通して、児童自ら「思い出に残る運動会にしよう」とする気持ちを高める。

1 つかむ (議題や話合いの進め方を理解する)

【めあて】

全員が納得のいく結果になるように、折り合いを付けて話し合おう。

- 計画委員に議題や提案理由を伝えさせる。



議題ポストに「運動会に向けて話し合いたい。」「全員での練習が足りない。」という意見が入っていました。

計画委員

クラスの目標と具体的な練習内容を決めることで、運動会に向けてみんなの気持ちを一つにしていきましょう。



計画委員

2 出し合う

- 学活ノートに書いてきた意見を発表させる。



児童

組み立て体操は、たくさん練習したので、遊競技の練習をした方がいいと思います。



児童

組み立て体操で自分の場所を覚えていない人がいるようです。もっと、練習をした方がいいと思います。

- 他にも案がないか近くの人と話し合いをさせる。

3 比べ合う

- 黒板書記を中心に短冊を使って意見を整理させる。



児童

組み立て体操は、場所が分かれば大丈夫だから、場所の確認だけでもいいかな。

遊競技は、1回しか練習してないから不安だよね。



児童

4 まとめる (決める)

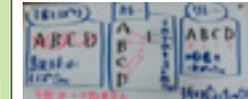
- 折り合いチェック表を基に全員で合意形成させる。



児童

組み立て体操は、場所だけ確認して、後は休み時間も活用して遊競技の練習をした方がいいと思います。

【折り合いチェック表】



- ①意見を一つに絞る。
- ②それぞれの良い点をまとめる。
- ③順番を決める。



計画委員

みんなが不安を抱えたまま、運動会を迎えるより、時間を有効に使って、表現や遊競技の練習ができるように休み時間に練習しましょう。

(決定したこと)

クラス対抗の遊競技を休み時間に練習する。

★コツを見つける! ★声をかけ合う!

【振り返り】

自分たちで練習計画が立てられたので、やる気が出てきました。頑張ります。出てきた意見をまとめたたら、今のクラスに必要な練習がはっきりしました。自分達で決めたのだから、頑張ります。

中学校 第1学年

(1) 学級や学校における生活づくりへの参画
「議題名 合唱コンクールの学級のスローガンを決めよう」
【ねらい】

合唱コンクールに向けての学級のスローガンを話し合っ
て決めることを通して、学級の生徒が力を合わせて集団活
動に取り組むことができるようにする。

1 つかむ (議題や話合いの進め方を理解する)

【めあて】

学級が力を合わせられるように、合唱コンクールに向
けての学級のスローガンを決めよう。

- 計画委員に議題や提案理由を伝えさせる。



計画委員

議題ポストに、「合唱コンクールでどうすればクラスが一つにまとまるか。」という議題が寄せられました。クラスが力を合わせて行くには、スローガンが必要と考えました。

2 出し合う

- 個人の意見を付箋紙に書かせ、班で発表し合うよう促す。

「仲間」という言葉が入った方がいいと思います。



「協力」という言葉もいいと思います。



- 各班で出し合った意見をホワイトボードで黒板に掲示させる。

3 比べ合う

- 学級全体の場で、班で考えた意見を発表し合うよう促すとともに、その意見を比べ合わせる。



計画委員

ホワイトボードに書かれている言葉をもとに、よりよいものにしていきましょう。意見のある人、発表してください。



生徒

2班の「響かせろ 絆深まる1A魂」がよいと思います。理由はクラスの団結力を表しているからです。

4 まとめる (決める)

- 各グループの案をもとに、意見の合意形成を図らせ、一つのスローガンとしてまとめさせる。



生徒

「絆が深まる」という言葉や、学級旗にある「1A魂」が複数の班から出ているので、まとめるのはどうでしょうか。



生徒

響くという言葉も複数の班から出ているので、それを生かしたらどうでしょうか。



計画委員

いい言葉をまとめて、クラスのスローガンにすることでいいですか。

(決定した学級スローガン)

『びびけ歌声 みんなで1つ 絆深まる1A魂』

【振り返り】

スローガンを意識して練習に取り組み、クラスが一つにまとまるよう、頑張りたいと思います。

2 「(2) 日常生活や学習への適応と自己の成長及び健康安全」及び「(3) 一人一人のキャリア形成と自己実現」【例】

(2)(3)では、「つかむ」→「さぐる」→「見付ける」→「決める」の四つの段階の学習過程を重視し、自己の問題の解決方法等や、今、努力することについて意思決定することができるようにしましょう。

【指導のポイント】

【つかむ場面について】

- アンケートやインタビュー、映像や写真などを活用して、課題を自分ごととして捉えさせる。
 - 課題を児童生徒の言葉に置き換え、「本時のめあて」として提示し、話合いの方向性を意識させる。
- <例>
- ◆友達と接するとき大切なことを考え、自分が気を付けることを決めよう。(2)
 - ◆充実した楽しい中学校生活にするために、今から小学校卒業までに努力することを決めよう。(3) 等

【さぐる場面について】

- 付箋紙やホワイトボード等を活用して、原因を分類・整理しながらグループ等で話し合うなど、書いたり話したりする活動を位置付ける。
- 学級活動ノート、頑張っている様子の写真や映像などを活用することで、自分の成長を実感させる。

【見付ける場面について】

- 話合いのグループを意図的に編成するなどして、多様な視点で考え、視野を広げさせる。
- 小グループや学級全体での話合いを通して、考えを広げる。その際、互いのよさを認め合いながら励まし合ったり、友達にアドバイスしたりすることで、実践意欲を高めさせる。

例 多様な視点で考えさせる工夫

◇情報交換の際のグループ編成

- ・指定されたグループ
- ・解決方法が同じ人同士
- ・解決方法が違う人同士

私は〇〇と考えるのですが、〇〇さんはどうですか？

◇適切な資料提供

- ・児童生徒に足りない視点を与える。

◇専門家の活用

- ・養護教諭や栄養教諭などと連携を図り、専門家の知見を話してもらう。

【決める場面について】

- 自己の課題に沿って実現可能で自己評価できる内容にする。(何を、いつまで、どれくらい、どのように)
- 自分に合わない目標や実現性の低い目標を決めている児童生徒には、「見付ける」段階でみんなで出した考えを参考に、自分にできそうなことを選ぶように助言する。
- 授業の流れを振り返りながら自分に合った目標を意思決定させる。その際、なりたい自分に向けたより具体的な目標を決めるよう、がんばりカード等を活用する。

基本的な流れ

1 つかむ (課題の把握)

- アンケート結果を提示し、課題を把握させる。
- 本時のめあてをつかませる。

「話合いのめあて」

2 さぐる (原因の追求、可能性への気付き)

- 問題の原因を明らかにして、解決に向けての方向性をはっきりさせる。(2)
- これまでの自分を振り返るよう促し、「なりたい自分」について自分の願いをもたせたり、よさや可能性を探らせたりする。(3)

3 見付ける (解決方法等の話合い)

- みんなでよりよい解決方法や努力事項などについて話し合ってみ付けてさせる。(2)
- みんなで「なりたい自分」を追求するためにできることなどを出し合ってみ付けてさせる。(3)

4 決める (個人目標の意思決定)

- 自己の課題を解決するために努力すべき具体的な個人目標 (内容や方法) を各自で意思決定させる。(2)
- なりたい自分になるために、自分に合った具体的な個人目標 (内容や方法) を各自で意思決定させる。(3)
- 互いに自分が実践していくことや努力していくことを発表し合うよう促す。

【振り返り】

振り返りの充実 (学級会ノートと振り返りカード等)

- 児童生徒が、各自の個人目標を常に意識して行動し、振り返ることができるように「自己評価表」を用意する。その際、日々の努力する様子が分かるように、活用の仕方を工夫し、実践意欲の継続化を図らせる。

学級会ノートに記入する視点 学級会ノートの例

- ・自分や友達のがよかったところや頑張ったところは何か。
- ・めあてや提案理由を踏まえて話し合い、折り合いを付けて合意形成することができたか。
- ・前回の学級会と比べてよかった点や、次回に向けての改善点は何か。等

振り返りカードに記入する視点 振り返りカードの例

- ・学級活動ノートに貼り付け、年間を通して生活や人間関係づくりに関する意識の変容を捉えられるようにする。
- ・「友達からのメッセージ」欄を設け、相互評価を通して自分のよさに自信をもたせる方法も考えられる。

小学校 第5学年

(2) 学級や学校における生活づくりへの参画
「題材名 給食の残量を減らすために自分たちができることを考えよう」

【ねらい】

苦手なものでも、みんなが少しでも食べることにより、給食の残量を減らせることから、食べ方の工夫を考える。

1 つかむ (課題の把握)

- 本時の課題をつかむために、事前アンケート結果を提示する。



計画委員

先日行ったアンケートで、みんなの好きな献立や、苦手な献立があることが分かりました。このところ、給食の残量が多いことが気になっています。どうしたら、残量を減らすことができるでしょうか。



担任

今日は、みんなで給食の残量を減らすための、食べ方の工夫について考えていきたいと思います。

【めあて】

給食を残さないように食べる工夫について考えよう。

2 さぐる (原因の追求)

- アンケート結果について気付いたことを発表するよう促す。



児童

自分以外にも、苦手なものは食べない子が多いのだな。

苦手なものがない子もいるんだな。どうしたら何でも食べられるようになるのかな。



児童

- 保健体育や家庭科の授業で扱った、食べ物の栄養と健康生活について学んだことを想起させ、気付いたことを発表させる。



児童

給食の献立は、栄養士さん達が私たちの健康のことを考えてくれているんだな。

食べた方がいいことは分かるけど、苦手なものは食べられない気がするな。



児童

3 見付ける (解決方法等の話し合い)

- 健康のために、みんなが少しでも食べることが大切であることから、少しでも食べられるような工夫はないか問いかける。



児童

好きなものと一緒に食べるといいと思います。

一口ずつ食べて、だんだん増やしていくのもいいと思います。



児童

- 苦手なものを食べられるようになった子に発表させる。



児童

最初は苦手だったけど、少しずつ食べていくうちに、食べられるようになったよ。

4 決める (個人目標の意思決定)

- 個人の行動目標を作成させる。

みなさんの意見を基に、自分で取り組むことを決めて、ワークシートに記入しましょう。



計画委員

【振り返り】

健康のためにも、少しでも食べた方がいいので、一口は必ず食べるようにしていきたいです。

中学校 第1学年

(3) 一人一人のキャリア形成と自己実現

「題材名 学校図書館を利用しよう」

【ねらい】

積極的な学校図書館(図書室)の利用に向けた自己の目標を考えることを通して、主体的な学習態度を形成できるようにする。

1 つかむ (課題の把握)

- 事前アンケートの集計から、学校図書館の利用状況を把握させる。



計画委員

アンケート結果から、約6割の人が図書室を利用していないことが分かりました。今日は、図書室の利用について考えていきたいと思います。



担任

今日は、図書室をもっと利用してもらえよう、いろいろな意見を出してくれることを期待しています。



司書教諭

図書室を積極的に利用できる話合いになるといいですね。

【めあて】

積極的に学校図書館(図書室)が利用できるように、自分の目標を考えよう。

2 さぐる (可能性への気付き)

- ホワイトボードを用いてグループで話し合い、あまり図書室に行かない理由を出し合う。

本にあまり興味が無いし、図書室にどんな本があるか知らないな。



生徒

- グループで意見を交換し、積極的に図書室を利用するための方法を「おすすめ図書室利用法」として、ホワイトボードにまとめさせる。



計画委員

図書室を積極的に活用するためのアイデアをグループで考えてください。

3 見付ける (解決方法等の話し合い)

- グループで話し合ったことを踏まえ、学級全体で「おすすめ図書室利用法」を発表させる。発表を聞くことで、積極的に図書室を利用できる方法を見付けさせる。



生徒

友達におすすめの本を紹介してもらおうのがいいと思います。

各自で図書室に行く日を定期的に決めるのがいいと思います。



生徒

4 決める (個人目標の意思決定)

- 積極的な図書室利用に向けた、個人目標を決め、ワークシートに記入する。



計画委員

これまでにでてきた意見を参考に、これから積極的に図書室を活用するために、どんなことをするか、ワークシートに記入してください。

- 図書室に関する話をする。

(具体的に本の内容を紹介し) 図書室にはこんな本もあります。ぜひ利用してみてください。



担任

図書室を有効に利用できるようになると、様々な知識が身に付き、みなさんの成長につながります。今日決めた目標に向かって実践していきましょう。



司書教諭

【振り返り】

今日の学級活動で決めた目標を基に、これからは積極的に図書室を活用していきたいと思っています。

学級活動

※学級活動には、教科書がないため「3 学習過程と教科書との関連」は記載していません。

4 学習活動を行う場合に生じる困難さに応じた指導の工夫【例】

困難さ	指導の工夫
相手の気持ちを察したり理解したりすることが苦手な場合	他者の心情等を理解しやすいように、役割を交代して相手の気持ちを考えたり、相手の意図を理解しやすい場面に置き換えたりすることや、イラスト等を活用して視覚的に表す指導を取り入れるなどの配慮をする。
話を最後まで聞いて答えることが苦手な場合	発言するタイミングが理解できるように、事前に発言や質問をする際のタイミングなどについて具体的に伝えるなど、コミュニケーションの図り方についての指導をする。

見通しをもつために、話し合いの時間の目安を示すことで時間を意識して話し合うことができるようにする。

賛成、反対のマークを色を変えて貼ることで、話し合いの状況や経過を分かるようにする。

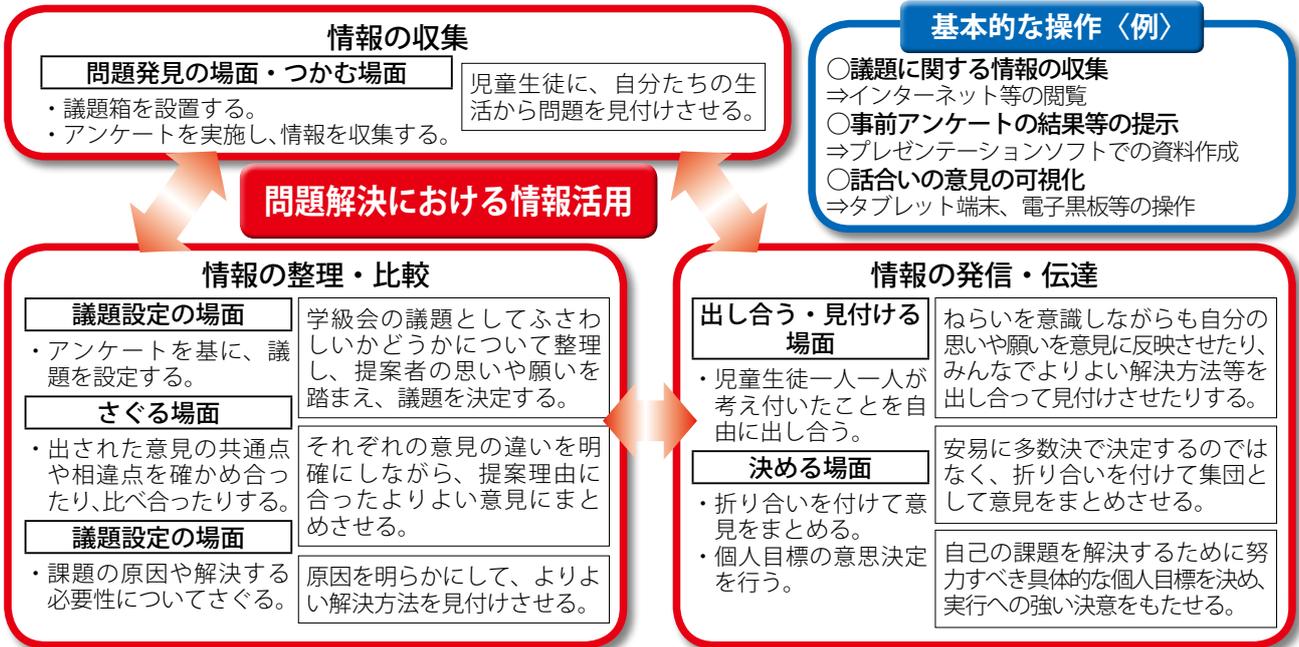


「提案理由」や「めあて」を提示することで、大事なことを授業中に確認できるようにする。

意見を書いたカードを操作しながら、意見を分類・整理して、意見を比べやすくする。

5 情報活用能力の育成

学級活動における情報とは・・・問題の発見・解決の学習過程の中で必要となる、事前調査の結果、提案理由等の話し合いにおける前提条件、話し合いの中で出された児童生徒の意見等のこと。



6 地域の人材や物的資源の活用

学級活動では、保健や安全、社会や職業との関連など、地域の人々との連携が必要な内容が数多くあります。以下の例を参考に、指導する内容によって、積極的に地域の人材を活用し、専門的な立場から話を聞くなどの工夫をしましょう。

活動内容 ※表紙の「3つの学習内容」参照	専門家、講師等
(1) ウ ・地域との交流	・地域のお年寄り 等
(2) イ ・男女の協力、互いのよさの発見 等 ウ ・病気の予防、交通安全 等 エ ・楽しい食事 等	・スクールカウンセラー ・学校相談員 ・医師、看護師 ・交通指導員 ・栄養士 ・給食調理員 ・調理師 等
(3) イ ・清掃活動等の当番、ボランティア活動 等 ウ ・図書館利用の仕方 等	・地域のボランティア ・職場体験先の方 ・司書教諭 ・公立図書館司書 等

「はばたく群馬の指導プランⅡ」

地域の人材や物的資源を活用しよう

【県の事業一覧】

平成29年3月に改訂された学習指導要領では、学校における教育の質的向上を図るため、カリキュラム・マネジメントの一環として地域の人材や物的資源を積極的に活用することの重要性が述べられています。以下は、各教科・領域の授業で活用できそうな県の事業一覧です。自校の教育活動を進めるに当たり役立てることができそうなものがありましたら、積極的に活用してください。なお、詳細については、各課へ直接お問い合わせください。

事業名	概要	対象	担当課・係等	TEL/Eメール
1 出前なんでも講座	県職員が地域の団体や学校等に出向き、県政等についての説明や情報提供を行います。講座のメニューは、各学校へ冊子を配布しているほか、県ホームページにも掲載しています。	講座により異なりますので、メニュー表(冊子)をご確認いただくか、担当課までお問い合わせください。	広報課 広聴・インターネット係	027-226-2176 kouhouka@pref.gunma.lg.jp
2 選挙出前授業	将来の有権者である小・中学生の選挙や政治に関する理解を深め、政治的判断能力の向上を図ることを目的とした授業を実施します。対象となる児童や生徒に応じて授業内容が選択できるよう、複数の授業モデルを提供しています。	小・中学生、 高校生、大学生	県選挙管理委員会	027-226-2218 senkan@pref.gunma.lg.jp
3 国際理解講座	県国際交流員(CIR)が外国の生活・文化などについて、小・中学生及び高校生等に広く紹介することにより、国際理解の促進を図ることを目的に実施。	小学生～高校生	外国人活躍推進課	027-226-3396 gaikokuka@pref.gunma.lg.jp
4 校旗を作ろうプロジェクト	群馬県には、世界遺産「富岡製糸場と絹産業遺産群」があり絹産業や絹文化が受け継がれているが、現在、子どもたちがそれらに触れる機会が少なくなっている。そのため、郷土の文化や産業に関心を深め、世界遺産への理解を高めてもらうことを目的に、子どもたちが育てたカイコの繭から生糸をつくり校旗に仕上げるプロジェクトを実施。完成後に、県総合教育センターで校旗の展示・学習発表会を実施する予定。	県内の小学校、 特別支援学校など 50校程度	世界遺産課 活用推進係	027-226-2326 sekaisan@pref.gunma.lg.jp
5 学校キャラバン	子どもたちが世界遺産「富岡製糸場と絹産業遺産群」について楽しく学び、世界遺産への理解をより高めるとともに、郷土の歴史や産業・文化に対する関心を深めることを目的に、世界遺産伝道師が学校に出向いて世界遺産に関する講義や上州座繰り体験を行う。	県内の小・中学校など 50校程度	世界遺産課 活用推進係	027-226-2326 sekaisan@pref.gunma.lg.jp
6 金銭・金融教育推進	子どもの健全な金銭感覚や、金融経済の基礎知識を醸成するため、学校等に金融広報アドバイザーを派遣し、出前講座を実施します。	小・中学生	消費生活課 企画指導係	027-226-2274 shouhika@pref.gunma.lg.jp
7 若年層消費者被害防止出前講座	若者を狙った悪質商法は後を絶たず、その手口は年々巧妙化しています。消費生活センター相談員や職員が各学校にお伺いし、消費者被害防止のための講座を実施します。	小・中学生	消費生活課 消費者支援係	027-226-2281 shouhousudan@pref.gunma.lg.jp
8 子ども向け防犯出前講座	県職員及び警察職員が犯罪に巻き込まれないためにはどうすればいいのかを紙芝居、実演等を交えながら説明し、子ども自身の危険回避能力を高めます。 低学年向け：誘拐・連れ去り防止 中学年向け：防犯ブザー訓練	小学校低・中学年	消費生活課 県民防犯係	027-226-2356 shouhika@pref.gunma.lg.jp
9 地域安全マップづくり	県職員及びボランティアが講師となり、「入りやすい」「見えにくい」をキーワードに、実際に地域を歩いたり、地域住民へのインタビューにより、地域の中で犯罪の起こりそうな場所や安全な場所を発見し、地図にまとめることで子どもの危険予測能力を高めます。(1日～2日が目安)	小学校中・高学年	消費生活課 県民防犯係	027-226-2356 shouhika@pref.gunma.lg.jp
10 はじめての文化体験事業	優れた文化芸術活動を行っている県内のアマチュア文化団体を小学校等に派遣し、子供向けの公演、講話、実技披露、ワークショップを行います。派遣する文化団体は、県文化振興課のホームページにも掲載されます。	小学生以下	文化振興課 文化づくり係	027-226-2593 bunshinka@pref.gunma.lg.jp
11 上毛かるた副読本『上毛かるた』で見つける群馬のすがた』の配布	上毛かるたに詠まれたふるさと群馬の自然や温泉、歴史上の人物や地域の産業等を学ぶことで、郷土への理解と愛着を深めてもらうため、各校4年生を対象に副読本を配布します。	小学校4年生	文化振興課 文化づくり係	027-226-2592 bunshinka@pref.gunma.lg.jp
12 東国文化ハカセ出張授業	東国文化の中心地として栄えた古代群馬の学習を小・中学校の歴史教育に浸透させていくため、学識経験者を「東国文化ハカセ」として登録し、無料で出張授業を行います。	小・中学生	文化振興課 東国文化推進室 東国文化係	027-226-2525 sakai-remi@pref.gunma.lg.jp
13 「東国文化副読本」の配布	古代の群馬が果たした役割を知り、郷土の歴史や文化に興味を持ってもらうため、全ての中学1年生を対象に副読本を配布します。	中学1年生	文化振興課 東国文化推進室 東国文化係	027-226-2525 sakai-remi@pref.gunma.lg.jp
14 デートDV防止啓発講座	男女間の交際が始まる若年期に、交際相手等からの暴力(デートDV)の問題について考える機会を提供し、正しい知識と理解を深めるため、デートDV防止に関する講師を派遣(講座を開催)します。	中学生	県民生活課 人権男女共同参画室 男女共同参画係	027-226-2902 kenminsei@pref.gunma.lg.jp
15 たてび☆スクールプログラム	目的や人数、滞在時間に合わせて、クイズやゲームをしながら楽しく作品を鑑賞する「見学プログラム」や、美術館スタッフが学校を訪問し、アートカードを活用して授業を行う「訪問鑑賞授業」を実施します。	小・中学生	群馬県立館林美術館 教育普及係	0276-72-8188 tatebi@pref.gunma.lg.jp
16 展示学習プログラムの提供	本物の資料と向き合いながら職員と児童生徒が資料について対話することで、異なる見方や考え方に触れ、自らの考えを深めていくことができます。	小学校3年生～中学生	歴史博物館 教育普及係	027-346-5577
17 埋蔵文化財調査センター発掘情報館「子供向け体験学習」「施設見学」等	本物の土器や石器を間近に見るほか、火おこしや土器・勾玉づくり等の体験をとおして、昔の人々の生活をより具体的に感じることができます。調べ学習に適した児童・生徒向けの書籍も取りそろえています。また、学校への出前授業や、体験学習用の用具、実物資料の貸出し等にも対応しています。	小・中学生	(公財)群馬県埋蔵文化財調査事業団普及課	0279-52-2513
18 短歌教室	当館オリジナル教材(副読本)の提供や当館ホームページを活用して授業での指導が可能。(出張授業も可能)	小学生～高校生 特別支援学校の児童生徒	土屋文明記念文学館 教育普及係	027-373-7721 tsuchiyan@pref.gunma.lg.jp
19 歌人が学校に！～選歌と講評から学ぶ～	全国的に活躍する著名な歌人を招いての授業(児童生徒の詠んだ歌を実際に全て事前に目を通し、講評)を実施。	小学生～高校生 特別支援学校の児童生徒	土屋文明記念文学館 教育普及係	027-373-7721 tsuchiyan@pref.gunma.lg.jp
20 学校等での団体利用	当館オリジナル教材での指導や常設展示を活用して短歌の世界を学ぶことができます。(学校の要望に対応します。)企画展観覧解説も可能です。テレビ等にも多く取り上げられている八幡塚古墳が隣接し、かみつけの里博物館(高崎市)と併せて様々な学習が可能。	小学生～高校生 特別支援学校の児童生徒	土屋文明記念文学館 教育普及係	027-373-7721 tsuchiyan@pref.gunma.lg.jp

	事業名	概要	対象	担当課・係等	TEL/Eメール
21	認知症サポーター養成講座	認知症の人が安心して暮らせる街づくりを目指して、認知症についてや認知症の人への接し方等について、正しく理解し「認知症の人の応援者（＝認知症サポーター）」になるための講座を実施します。（実施主体は市町村です。県にご相談いただいた場合、市町村の担当者にお繋ぎさせていただきます）	小・中学生、保護者及び教員（県民全般）	健康福祉部 地域包括ケア推進室 認知症・地域支援係	027-897-2733 houkatsukea@pref.gunma.lg.jp
22	児童・生徒向け介護の仕事PRパンフレットの配布	群馬の将来を担う小・中・高校生（特別支援学校高等部を含む。）に、介護サービスの仕事が今後の少子高齢社会を支える働きがいのある仕事であることを積極的に周知し、介護に関する理解を深めるため、毎年、小学5年、中学1年、高校1年生全員を対象にパンフレットを配布する。（例年10月頃配布）	小・中学生	介護高齢課 介護人材確保対策室 人材確保係	027-226-2565 kaigo-kakuho@pref.gunma.lg.jp
23	出前何でも講座「介護人材確保対策について」	県内の高齢化や介護人材の現状、介護の仕事の役割や必要性などについて説明します。	小・中学生	介護高齢課 介護人材確保対策室 人材確保係	027-226-2565 kaigo-kakuho@pref.gunma.lg.jp
24	動物ふれあい推進事業	県から委託をうけた群馬県獣医師会の獣医師が小学校等を訪問し、飼育している動物の衛生管理指導や動物ふれあい教室を実施する。	小学生	食品・生活衛生課 食品衛生係	027-226-2442 shokuhin@pref.gunma.lg.jp
25	食の現場公開事業	農場から加工・流通・販売までの食に関する施設を訪問・見学し、事業者と顔を合わせ交流することで、食の安全・安心への取り組み等について知識や理解を深めることができます。	小・中学生	食品・生活衛生課 農林水産物安全係	027-226-2431 shokuseika@pref.gunma.lg.jp
26	動く環境教室 移動環境学習車「エコムーブ号」運営	講師及び実験機材等を学校からの依頼により派遣し、体験的な環境学習プログラムを提供する。	小学校3年生～中学生	環境政策課 環境推進係	027-226-2827 tosaka-hitoshi@pref.gunma.lg.jp
27	こどもエコクラブ活動支援	地域で環境活動に取り組む「こどもエコクラブ」（こどもと大人各1名以上で構成）（公財）日本環境協会の事業）の群馬県事務局として、学習会や講習会を実施するなど、その活動を支援する。	3歳～中学生（高校生まで）	環境政策課 環境推進係	027-226-2827 ecosusumu@pref.gunma.lg.jp
28	環境サポートセンター運営	県民からの環境教育・環境学習の問い合わせや相談の総合窓口として、環境政策課内に設置。環境学習資料等の提供や県、環境保全団体等の活動に関する情報提供を行う。	小・中学生（県民全般）	環境政策課 環境推進係	027-226-2827 ecosusumu@pref.gunma.lg.jp
29	水生生物調査	身近な河川の水質や環境問題に興味を持ってもらうために、水生生物調査への参加を募集している。	小・中学生	環境保全課 水質保全係	027-897-2841 kanhozen@pref.gunma.lg.jp
30	芳ヶ平湿地群環境学習	芳ヶ平湿地群のすばらしい自然を体験することにより、子どもたちの豊かな感性や自然保護への意識、ふるさとを愛する心を育むことを目的とした事業です。尾瀬学校と同様の制度により、学校設置者にガイド料、バス借上料を補助します。	小・中学生	自然環境課 自然環境係	027-226-2872 kanshizen@pref.gunma.lg.jp
31	尾瀬学校	群馬の子どもたちが小中学校在学中に一度は尾瀬を訪れて質の高い自然体験をすることにより、自然保護の意識を醸成するとともに郷土を愛する心を育むため、尾瀬で少人数のグループでガイドを伴った環境学習を実施する場合、学校設置者にガイド料、バス借上料の補助を行います。	小・中学生	自然環境課 尾瀬保全推進室 企画推進係	027-226-2881 kanshizen@pref.gunma.lg.jp
32	移動尾瀬自然教室	講師が直接学校に出向き、スライドやぬいぐるみを使い、尾瀬の自然や環境保全について説明します。	小・中学生	自然環境課 尾瀬保全推進室 企画推進係	027-226-2881 kanshizen@pref.gunma.lg.jp
33	尾瀬子どもサミット	尾瀬を通して、子ども達の自然観の育成や交流を図るため、群馬県・福島県・新潟県の小中学生を対象に、自然観察や保護活動を通じた環境学習を行います。	小学校5年生～中学生	自然環境課 尾瀬保全推進室 企画推進係	027-226-2881 kanshizen@pref.gunma.lg.jp
34	小・中学生のためのフォレストリースクール	森林や環境に関する講話、学校周辺の自然を活用したフィールドワーク、学校が行う自然教室等の事業計画等に対し講師派遣や企画・アドバイスをを行い、環境・森林問題等の総合学習、教員の研修などを支援します。	小・中学生	緑化推進課 緑化推進係	027-226-3272 ryokukaka@pref.gunma.lg.jp
35	緑の少年団育成	(1) 緑の少年団運営費補助 （公社）群馬県緑化推進委員会が行う緑の少年団育成事業（助成制度）に対し補助します。助成制度（対象：緑の少年団） (2) 緑の少年団活動費補助 （公社）群馬県緑化推進委員会が行うがんばれ！緑の少年団事業（助成制度）に対し補助します。助成制度（対象：緑の少年団） (3) 緑の少年団活動紹介 緑の少年団の日頃の活動を広く紹介し、少年団活動への理解・協力と活性化を図るため、活動紹介パネル等を作成し、各種緑化イベントなど様々な機会を通じて、その活動を発信します。	小学生	緑化推進課 緑化推進係	027-226-3272 ryokukaka@pref.gunma.lg.jp
36	体験乗馬教室	小学3年生～高校生を対象に、子どもの日、夏、冬、春の休み期間等の日に、馬とのふれあい体験乗馬をすることで、子ども同士の交流が深まります。（有料）1泊2日コース（年3回）6,000円、半日コース（年2回）3,000円	小学校3年生～高校生	（公財） 群馬県馬事公苑 総務課	027-288-7002 saito-h@gunma-bajikouen.jp
37	史跡観音山古墳見学	古代群馬を代表する、6世紀後半の前方後円墳です。県内最大級の石室に入ることができ、地域の文化財を体験できます。年間を通して公開・解説を行っており、いつでも見学できます（年末年始は休止）。	小・中学生	文化財保護課 文化財活用係	027-226-4684 kibunkaho@pref.gunma.lg.jp
38	史跡上野国分寺跡見学	歴史の教科書にも載っている国分寺の建物跡や瓦などを実際に触れて、地域の文化財を体験できます。年間を通して公開・解説を行っており、いつでも見学できます。（年末年始は休館）	小・中学生	文化財保護課 文化財活用係	027-226-4684 kibunkaho@pref.gunma.lg.jp
39	古墳学習プログラム	群馬県を代表する文化財である古墳を活用した、校外学習用の指導マニュアル。小学校6年生の社会科に、古墳現地での調査や体験活動を取り入れることで学習効果を高め、歴史への興味・関心や郷土への誇りを醸成しようとする内容となっています。	小学生	文化財保護課 埋蔵文化財係	027-226-4696 kibunkaho@pref.gunma.lg.jp
40	授業で使える「群馬県の歴史資料」の活用	社会科や総合的な学習の時間の歴史学習・地域調学習における、歴史資料の活用についての相談・史料提供を行っています。また、児童生徒の施設見学や史料解説も行っていきます。	小・中学校、高校及び教員	教育委員会総務課 文書館	027-221-2346 monjyo@pref.gunma.lg.jp
41	ぐんま天文台学校利用	夜間の天体観望や星空観察はもちろん、昼間も各学校・各学年のニーズに合わせた体験学習を提供しています。	小・中学生 高校生、大学生	ぐんま天文台・天文係	0279-70-5300 http://www.astron.pref.gunma.jp/
42	プラネタリウム運営	プラネタリウムでは、ご希望の学習プログラムで、職員が天文分野の解説をします。また、天文コーナーでは、3D投影により、太陽系や宇宙の姿を職員が解説します。事前申込みにより、学校利用ができます。	小・中学校	生涯学習センター 少年科学係	027-220-1876 http://www.manabi.pref.gunma.jp/syonen
43	科学実験室運営	科学実験室で、液体窒素を用いた低温実験や放射線観察等の実験を行います。事前申込みにより、学校利用ができます。	小・中学校	生涯学習センター 少年科学係	027-220-1876 http://www.manabi.pref.gunma.jp/syonen
44	科学展示室運営	科学展示室には、見て、触れて、動かす体験型の展示物が揃っています。事前申込みにより、対象学年の理科の学習内容に応じて、職員が解説します。自由見学もできます。	小・中学校	生涯学習センター 少年科学係	027-220-1876 http://www.manabi.pref.gunma.jp/syonen
45	自然体験活動	子どもたちの「社会を生き抜く力」を育むため、宿泊及び日帰り様々な自然体験活動の機会を提供します。	小・中学生	東毛青少年自然の家	0277-78-5666 kitoumo@pref.gunma.lg.jp

【平成30年度「確かな学力」育成プロジェクト会議 委員】

益田 裕充	群馬大学教育学部教授（附属中学校長）
吉田 秀文	群馬大学教育学部教授（附属小学校長）
飯野 眞幸	高崎市教育長（群馬県都市教育長協議会代表）
阿佐見 純	榛東村教育長（群馬県町村教育長会代表）
山口 和良	前橋市立桃井小学校長（群馬県小学校長会会長）
宮崎 徹	前橋市立第五中学校長（群馬県中学校長会会長）
野村 晃男	総合教育センター所長
上原 永次	県教育委員会学校人事課長
上原 篤彦	県教育委員会特別支援教育課長
小林 信二	県教育委員会健康体育課長
藤塚 博幸	中部教育事務所長（教育事務所長会代表）
鈴木 佳子	県教育委員会義務教育課長

【「はばたく群馬の指導プランⅡ」作成協力校長】

谷田 久	前橋市立芳賀小学校長	庭山まゆみ	前橋市立広瀬中学校長
飯島 雅年	高崎市立箕輪小学校長	板倉 金作	渋川市立金島中学校長
角田 忠雄	みなかみ町立古馬牧小学校長	井上 貴夫	伊勢崎市立第三中学校長
小野 勝久	高崎市立六郷小学校長	中野 智弘	前橋市立荒砥中学校長
反町 恭子	前橋市立宮城小学校長	高木 威	前橋市立箱田中学校長
吉崎 匠	玉村町立玉村小学校長	山野 直樹	太田市立北中学校長
三好 玲子	前橋市立若宮小学校長	渡根木好文	高崎市立高松中学校長
北爪喜久雄	前橋市立大胡小学校長	吉原 秀人	前橋市立芳賀中学校長
中島 誓子	沼田市立沼田北小学校長	村田 康子	前橋市立鎌倉中学校長
田村 克美	みどり市立大間々北小学校長	渡邊 龍夫	前橋市立第六中学校長
馬場 英行	みなかみ町立桃野小学校長	須永 一弘	前橋市立第七中学校長
小池 政一	高崎市立倉渕小学校長	石坂 満次	高山村立高山中学校長

【「はばたく群馬の指導プランⅡ」共同研究者】

以下は、平成30年総合教育センター特別研修員

黒岩佐登美	嬭恋村立東部小学校教諭	下田 勝己	沼田市立沼田中学校教諭
橋 友代	板倉町立東小学校教諭	小林 淳子	富岡市立一ノ宮小学校教諭
橋本 朋彦	榛東村立榛東中学校教諭	柴崎 淳志	桐生市立境野中学校教諭
見城 朋子	沼田市立沼田東中学校教諭	蓼沼佐弥香	館林市立第一中学校教諭
樋口 晃	藤岡市立藤岡第一小学校教諭	三原田智恵美	桐生市立北小学校教諭
吉山健太郎	太田市立強戸小学校教諭	塚本 牧子	桐生市立神明小学校教諭
木村 友彦	太田市立葦川西小学校教諭	菅沼 伸也	渋川市立北橋中学校教諭
山本 誠	伊勢崎市立境北中学校教諭	古塩 篤志	長野原町立応桑小学校教諭
富田健太郎	安中市立秋間小学校教諭	石井千恵美	沼田市立沼田東小学校教諭
横川 千春	南牧村立南牧小学校教諭	三戸 真紀	館林市立美園小学校教諭
佐藤 矩行	邑楽町立高島小学校教諭	関口亜紀子	みどり市立笠懸東小学校教諭
橋本 亮	富岡市立南中学校教諭	前原 聡	伊勢崎市立あずま中学校教諭
大澤 誠	沼田市立沼田西中学校教諭	木幡 勇太	太田市立旭中学校教諭
加藤 亮	太田市立生品小学校教諭	青梅麻里子	渋川市立渋川南小学校教諭
石井 智	千代田町立西小学校教諭	瀧本 考志	藤岡市立西中学校教諭
高橋 洋一	藤岡市立北中学校教諭	森下 千秋	大泉町立西小学校教諭
黒谷 英里	藤岡市立藤岡第二小学校教諭	細谷 昌弘	太田市立毛里田中学校教諭
養田 智絵	伊勢崎市立赤堀小学校教諭	以下は、公立小・中学校協力者	
中林真紀子	みどり市立笠懸中学校教諭	春田 美穂	中之条町立中之条中学校教諭
伊田 悠一	安中市立原市小学校教諭	設楽貴美子	館林市立第五小学校教諭
井上 秀樹	大泉町立南小学校教諭	森尻 智子	館林市立第五小学校教諭

（職名は平成30年4月1日現在）

【平成29～30年度 「はばたく群馬の指導プランⅡ」 作成委員】

県教育委員会では、次の者が作成に当たった。(職名は平成30年4月1日現在)

鈴木 佳子	義務教育課長
酒井 暁彦	〃 生徒指導係長
春田 晋	〃 補佐(教科指導係長)
石関 和夫	〃 補佐(人権教育推進係長)
周藤 健司	〃 指導主事
山本 義光	〃 指導主事
武川 光	〃 指導主事
原田 知典	〃 指導主事
大竹 康史	〃 指導主事
佐野 美幸	〃 指導主事
柳幸 真	〃 指導主事
宮前 嘉則	〃 指導主事
帖佐 一	〃 指導主事
高橋 学	〃 指導主事
綿貫 充	〃 指導主事
田村 強	〃 指導主事
星野 浩章	〃 指導主事
福島こず恵	〃 指導主事
上原 伸吾	〃 指導主事
長谷部秀樹	〃 指導主事
内田 誠	特別支援教育課指導主事
松村 秀人	〃 指導主事
白石 大介	〃 指導主事
町田 直紀	〃 指導主事
宮村奈々江	〃 指導主事
藤生 雅代	〃 指導主事
狩野 等	〃 指導主事
長谷川剛広	〃 指導主事
橋 憲市	健康体育課補佐(学校体育係長)
勅使河原誠	健康体育課指導主事
山藤 一也	〃 指導主事
永田伊知郎	総合教育センター補佐(義務教育研究係長)
内田 敬久	〃 指導主事
天田 直木	〃 指導主事
関 喜史	〃 指導主事
足達 哲也	〃 指導主事
町田龍太郎	〃 指導主事
永井 直樹	〃 指導主事
尾形 一美	〃 指導主事
土屋 真美	〃 指導主事
福島 純子	〃 指導主事
林 和弘	〃 指導主事
鶴見 純也	〃 指導主事
若林 拓也	〃 指導主事
清水 幸治	〃 指導主事
鈴木 貴子	〃 主任指導主事
佐藤 和彦	中部教育事務所主任指導主事
村井 正典	〃 指導主事
田川 正武	〃 指導主事
廣瀬 亮子	〃 指導主事
荒木 剛	〃 指導主事
水沼 直子	〃 指導主事
織田 見幸	〃 指導主事
日暮 利明	〃 指導主事
岩崎 聡	西部教育事務所主任指導主事
中野 隆之	〃 指導主事
町田 浩一	〃 指導主事
高橋 智美	〃 指導主事
新井 敦子	〃 指導主事
中澤 伸一	〃 指導主事
阿部 充寿	〃 指導主事
大河原隆徳	〃 指導主事
小林 克典	吾妻教育事務所主任指導主事
朝比奈幾哉	〃 指導主事
市村 武文	〃 指導主事
村田 政人	〃 指導主事

中島 潔	利根教育事務所主任指導主事
佐々木 孝	〃 指導主事
吉野 康弘	〃 指導主事
野原 亮	〃 指導主事
眞下 理江	〃 指導主事
吉野こず恵	〃 指導主事
石川 雅規	東部教育事務所主任指導主事
山本 裕美	〃 指導主事
重田容一郎	〃 指導主事
高柳 朋英	〃 指導主事
小川 和子	〃 指導主事
柴崎 厚志	〃 指導主事

以下は、平成29年度参加者(職名は平成29年4月1日現在)

細矢 瑞左	義務教育課指導主事
佐藤三枝子	〃 指導主事
植木 文貴	〃 指導主事
池田 克弘	特別支援教育課指導主事
井草 昌之	〃 指導主事
長沼 祐子	総合教育センター主任指導主事
小熊 良一	〃 指導主事
長屋 竜太	中部教育事務所主任指導主事
小池 英雄	〃 指導主事
大竹 正隆	〃 指導主事
丸山 尚子	西部教育事務所主任指導主事
唐澤 光貴	吾妻教育事務所指導主事
角田 巧	利根教育事務所主任指導主事
内藤 麗子	〃 指導主事
永島 芳信	〃 指導主事

群馬大学教育学部附属学校では、次の者が作成協力に当たった。
(職名は平成30年4月1日現在)

中原 靖友	附属小学校主幹教諭
野村 充	〃 教務主任
豊岡 大画	〃 教諭
中里 真一	〃 教諭
近藤 智	〃 教諭
櫻澤 直明	〃 教諭
佐藤 真樹	〃 教諭
桐生 直也	〃 教諭
谷田部喜博	〃 教諭
小暮 忠史	〃 教諭
針谷 尚志	〃 教諭
下田 崇之	〃 教諭
芹澤 嘉彦	〃 教諭
天田 有美	〃 教諭
高橋 洋介	〃 教諭
小杉 健	〃 教諭
吉田 恵一	附属小学校主幹教諭(平成29年度参加)
関川 暢洋	附属中学校主幹教諭
後閑 芳孝	〃 教務主任
小倉 久代	〃 教諭
高山 美紀	〃 教諭
大井 衛	〃 教諭
今井奈なえ	〃 教諭
小川勇之助	〃 教諭
下平 明德	〃 教諭
弥城 淳	〃 教諭
加瀬 健	〃 教諭
柳川 祥恵	〃 教諭
木村謙太郎	〃 教諭
柏木 純	〃 教諭
関根 直哉	〃 教諭
茂木 悟	〃 教諭
林 尚子	〃 教諭
下田 俊彦	〃 教諭
星野 勇希	〃 教諭

たくましく生きる力をはぐくむ

はばたく群馬の指導プランⅡ



令和元年 8 月

編集・発行 群馬県教育委員会義務教育課
〒371-8570 群馬県前橋市大手町 1 丁目 1 番 1 号
TEL 027(226)4615
FAX 027(243)7759

印刷 朝日印刷工業株式会社

